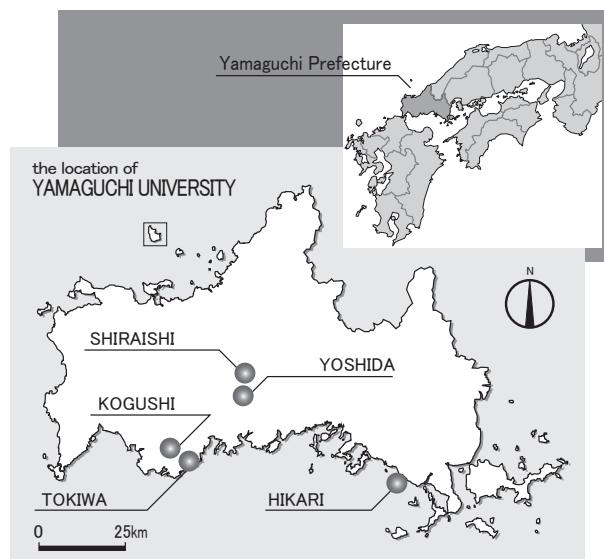


山口大学構内遺跡調査研究年報XIII

2021

山口大学埋蔵文化財資料館

山口大学構内遺跡調査研究年報XVII



2021

山口大学埋蔵文化財資料館

序 文

この年報には、山口大学埋蔵文化財資料館が実施した平成 10 年度の発掘調査成果を収録しています。当館では、平成 15 年度以降の発掘調査成果については『山口大学埋蔵文化財資料館年報』として刊行していますが、現在、未報告となっている平成 7・11・14 年度分の発掘調査報告については、今後引き続き整理作業を進めて、『山口大学構内遺跡調査研究年報』として刊行する予定です。

本書の刊行にあたって、宇部市教育委員会、宇部市都市開発部、埋蔵文化財資料館運営委員会、施設部をはじめとする関連部局、関係機関・関係各位のご高配に厚く御礼申し上げるとともに、今後ともご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

山口大学埋蔵文化財資料館
館長 根ヶ山 徹

例　　言

1. 本書は、山口大学埋蔵文化財資料館が、埋蔵文化財資料館運営委員会の指示を受けて、平成 10 年度に山口大学構内で実施した調査と宇部市域遺跡発掘調査団が山口大学医学部構内遺跡で実施した宇部市土地区画整理事業関係の調査報告書である。
2. 現地における調査・研究は、資料館員 村田裕一（～平成 15 年 3 月 31 日 現人文学部准教授）・田畠直彦・金子大輔（平成 10 年 4 月 1 日～平成 13 年 3 月 30 日）が担当し、同館員 中村仁美（平成 11 年 4 月 1 日～平成 14 年 3 月 30 日）が補佐した。出土遺物の整理と報告書の作成は平成 10 ～ 15 年度及び平成 29 ～令和 2 年度に行い、品川直江（～平成 11 年 3 月 30 日）、中村、神田真理子（平成 13 年 4 月 1 日～平成 16 年 3 月 30 日）・菊本裕美（平成 14 年 4 月 1 日～平成 16 年 3 月 30 日）・乃美友香（平成 19 年 4 月 1 日～）が携わった。整理と報告書作成の統括は田畠が行った。
3. 本調査・研究における平成 10 年度の事務一般は、事務局庶務課研究協力係が統括し、実施面においては、各関係部局の事務部があたった。
4. 現地における遺構の実測などは、村田・田畠・金子・中村と後掲の調査補助員が行った。
5. 遺物実測は田畠・菊本、製図は田畠が行った。
6. 現地の写真撮影は、村田・田畠・金子が行い、第 4 章の空撮写真の撮影及び写真測量は写測エンジニアリング株式会社に委託した。遺物写真の撮影は田畠が行った。鉄製品・鉄滓の X 線撮影は株式会社吉田生物研究所に委託した。
7. 須恵器の一部については元防府市教育委員会 大林達夫氏、近世陶磁器については、元北九州市芸術文化振興財團埋蔵文化財調査室 佐藤浩司氏、萩焼については、山口県埋蔵文化財センター 岩崎仁志氏、墨書き土器については山口大学経済学部教授木部和昭氏、石器の器種同定については村田裕一氏・防府市教育委員会 杉原和恵氏、

石器の石質鑑定については、山口大学大学院理工学研究科名誉教授 加納隆氏に助言を仰ぎ、懇切なご教示を得た。

8. 鉄器類については、山口大学所蔵学術資産継承事業委員会による予算配分を受け、株式会社吉田生物研究所に委託し、保存処理を行った。

9. 英文の校正については、エヌ・ティー・シー株式会社に委託した。

10. 本書の執筆・編集は館員の補佐を得て田畠が行った。

11. 吉田構内、白石構内、光構内の調査担当は次のとおりである。

平成 10 年度

調査主体	埋蔵文化財資料館	館長	中村 友博
	館員	村田 裕一	
	同	田畠 直彦	
	同	金子 大輔	(事務局庶務部教務補佐員)
	同	品川 直江	(事務局庶務部事務補佐員)
事務局		事務局長	高石 道明
事務局庶務部		部長	橘 仁至
庶務課		課長	久保田俊三
		課長補佐	有吉 明
		同	野澤 章三
研究協力係		係長	石田 仁樹
			高藤 裕行

令和 2 年度

調査主体	埋蔵文化財資料館	館長	根ヶ山 徹
		副館長	藤間 充
	館員	田畠 直彦	
	同	横山 成己	
	同	水久保祥子	

同 乃美 友香（学術基盤部学術推進課技術補佐員）
事務局 学術基盤部 部長 田中 俊二（学術基盤部学術基盤推進課長併任）
学術基盤推進課 副課長 田村 広明
総務係 係長 大島 洋子
今秋 玲子
浅野 貴子
福原由希子
三浦 恵子

12. 吉田構内、白石構内、小串構内、光構内の調査研究にあたって下記の方々の多大なご協力と援助を受けた。

平成 10 年度

事務局庶務部 人事課長 宮田久義、同課長補佐 岩佐豈典、同専門員 金子孝志
任用係長 宮田満茂、同係 後藤安倫、多賀谷勇治、瀧野康幸、岡田育恵
経理部 部長 小林和久、主計課長 及川洋輝、同課長補佐 中村文穂、経理課長 結城昌伯、同課長補佐 梅村 馨、総務係長 山本直行、予算係長 中川憲治、監査係長 伊藤篤紀、管財係長 篠原敏夫、管財係長 篠原敏夫、管理係長 久保賢治
施設部 部長 梅村征男、企画課長 蒲池祥昭、同専門員（企画係長併任）小川賀津夫、建築課長 澄川 昇、同課長補佐 窪田秀正、設備課長才木敏雄、総務係長 中光博輝、建築第一係長 河田徹也、同係新里英明、末廣康之（～平成 11 年 1 月 31 日）、建築第二係長 中谷幸一、同係 澤谷弘美、電気係長 松田清司、同係 岡野友資、前田康孝、機械係長 岡田吉彦、同係 板垣健一、藤林聖司、中村兵衛
学生部 部長 井上 武、学生課長 兵地正彬、同課長補佐 田村博幸、総務係長 佐村研治、厚生係長 山根賀浩

人文学部・理学部 事務長 森本茂雄、事務長補佐 中本常美、石津 伸、会計係長
谷本信之

教育学部 事務長 野村宗成、会計係長 高崎明祈、附属山口小学校長 田中
義人、同副校長 河名凌哲、附属養護学校長 堂野佐俊、同副校長
山本雅一、山口附属学校係長 端野輝昭、附属光小学校長 河合洋
祐、同副校長 山根郁夫、光附属学校係長 林章司

医学部 事務部長 脇坂重秋、同次長 粒見和義、総務課長 山西昭一、同
課長補佐 中島岩弘、管理課長 新垣隆二、同課長補佐 田中善人、
中島一雄、総務係長 前田 崇、施設管理係長 萬代英夫、同係
永富まり子、山本真司、建築係長 川西智幸、設備係長 山本安雄

農学部 事務長 松本正史、事務長補佐 末永勝己、会計係長 平川和孝

人文学部考古学研究室

山口大学考古学サークル

吉田構内の調査補助員
池田直樹（経済学部学生）、河原剛（人文学部考古学研究室学生）、小崎晋（人文学
部考古学研究室学生）、丹羽崇史（人文学部学生）、林充彦（人文学部考古学研究室
学生）、本多和典（人文学部考古学研究室学生）

吉田構内の発掘調査作業員
安達世津子、石津京子、岡イツ子、岡野美智恵、長田幸子、金子芳子、河村伸子、
栗林さつき、杉山久枝、篠原澄江、津野田志津子、中村 節、中村康子、原千寿恵、
原百合子、宮内和子、山崎シズエ、山本京子

13. 小串土地区画整理事業関係の調査は下記の体制で行った。

平成 10 年度

調査主体 宇部市域遺跡発掘調査団

団長 西村太一（宇部市教育長）

副団長 重富 孝（宇部市教育次長）

調査指導 豆谷和之（奈良県田原本町教育委員会文化財保護課）

調査員 村田裕一（山口大学人文学部助手 埋蔵文化財資料館）

田畠直彦（山口大学人文学部助手 埋蔵文化財資料館）

金子大輔（山口大学事務局庶務部 教務補佐員）
事務局 西村幹治（宇部市教育委員会社会教育課課長）
坂野卓史（宇部市教育委員会社会教育課課長補佐）
林 英樹（宇部市教育委員会社会教育課課長補佐）
唐沢陽司（宇部市教育委員会社会教育課文化係長）
渡辺英明（宇部市教育委員会社会教育課事務職員）
石川 健（宇部市教育委員会社会教育課事務職員）
作業員 宇部市シルバー人材センター
令和2年度
事務局 能美信子（宇部市教育委員会学びの森くすのき・地域文化交流課課長）
石川 健（宇部市教育委員会学びの森くすのき・地域文化交流課係長）
鈴賀智幸（宇部市教育委員会学びの森くすのき・地域文化交流課職員）

凡 例

- 吉田構内における調査区および層位・遺構の位置は、日本測地系に基づいた国土座標を基準として北から南へ1～24、西から東へA～Zの番号を付して50m方眼に区画した、構内地区割の A-24区南西隅を起点（構内座標 x=0, y=0）とする構内座標値で表示している。なお、平面直角座標系第Ⅲ系における座標値 (X, Y) と構内座標値 (x, y) とは下記の計算式で変換される。

$$x = X + 206,000$$

$$y = Y + 64,750$$

- 各遺構は下記の記号で表記することがある。

土坑……SK, 溝……SD, 柱穴・ピット……Pit, 落ち込み・不明遺構……SX

- 方位の標記がない図は上が真北を示す。

- 標高数値は海拔標高を示す。

- 本文中の遺物番号は、挿図・図版・出土遺物観察表の番号と一致させた。

- 土層および土器の色調記号は、農林省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』(1976) に準拠した。

- 土器・陶磁器の実測図は、下記のように器種分類した。

断面黒塗り……須恵器、陶磁器

断面白抜き……縄文土器、弥生土器、土師器、土師質土器、瓦質土器

本 文 目 次

第1章 平成10年度山口大学構内遺跡調査の概要	(田畠) 1
第2章 宇都市土地区画整理事業（柳ヶ瀬丸河内線）に伴う発掘調査	
1 調査の経過	5
2 層序・遺構	6
3 遺物	12
4 小結	15
第3章 宇都市土地区画整理事業（柳ヶ瀬丸河内線・医学部敷地西側特殊道路）に伴う発掘調査	(田畠) ... 17
1 調査の経過	17
2 層序・遺構	17
3 遺物	25
4 小結	34
第4章 吉田構内第2学生食堂の増築及び改修工事に伴う発掘調査	
	(田畠) ... 39
第1節 事前調査	39
1 調査の経過	39
2 基本層序	41
3 遺構	51
3 遺物	70
4 小結	91
第2節 立会調査	106
第5章 平成10年度山口大学構内の試掘調査	... (田畠)	107
第1節 吉田構内の試掘調査		

1 教育学部附属養護学校給食室改修工事に伴う試掘調査	107
第2節 白石構内の試掘調査	
1 教育学部附属山口小学校給食室改修工事に伴う試掘・立会調査	110
第6章 平成10年度山口大学構内の立会調査 (田畠) 111	
第1節 吉田構内の立会調査	
1 九田川河川局部改良工事に伴う立会調査	111
2 基幹環境整備工事（バリカ一新設）に伴う立会調査	112
3 農学部動物用焼却炉改修工事に伴う立会調査	113
4 基幹環境整備工事（外灯新設）に伴う立会調査	113
5 理学部スロープ新設工事に伴う立会調査	114
6 ステンレス回転モニュメント新設工事に伴う立会調査	114
第2節 光構内の立会調査	
1 教育学部附属光学校給食室改修工事に伴う立会調査	115

付 篇

吉田遺跡第I地区E区の未報告図面及び写真について (田畠)	116
-------------------------------	-----

山口大学構内遺跡調査要項

山口大学埋蔵文化財資料館規則	123
山口大学埋蔵文化財資料館運営員会規則	124
山口大学構内の主な調査	126
Summary	141

図 版 目 次

<宇部市土地区画整理事業（柳ヶ瀬丸河内線）に伴う発掘調査>

- PL. 1 小串構内全景（南から）
- PL. 2 (1) Aトレンチ調査前全景（南から）

- (2) A トレンチ北西壁土層断面（南から）
- PL. 3 (1) A トレンチ南西壁土層断面（北から）
 - (2) A トレンチ小溝 1 検出状況（南東から）
 - (3) A トレンチ土器集中部（北東から）
- PL. 4 (1) B・C トレンチ調査前全景（西から）
 - (2) B トレンチ北西壁土層断面（南から）
- PL. 5 (1) B トレンチ北部北西壁土層断面（東から）
 - (2) B トレンチ南部（南東から）
- PL. 6 (1) B トレンチ遺構検出状況（南西から）
 - (2) B トレンチ遺構完掘状況（南西から）
 - (3) B トレンチ用水路（西から）
 - (4) B トレンチ用水路断割（南西から）
- PL. 7 (1) C トレンチ南西部（北東から）
 - (2) C トレンチ北西壁土層断面（東から）
 - (3) C トレンチ北部北西壁土層断面（東から）
 - (4) C トレンチ土坑（南西から）
- PL. 8 出土遺物①（土器）
- PL. 9 (1) 出土遺物②（土器）
 - (2) 出土遺物③（石器）

＜宇都市土地区画整理事業（柳ヶ瀬丸河内線・医学部敷地西側特殊道路）に伴う発掘
調査＞

- PL. 10 (1) D トレンチ全景（南西から）
 - (2) D トレンチ南東壁土層断面（南から）
- PL. 11 (1) E トレンチ全景（北東から）
 - (2) E トレンチ北西壁土層断面（南東から）
- PL. 12 (1) E トレンチ北東壁土層断面（南西から）
 - (2) E トレンチ縄文土器出土状況（西から）
- PL. 13 (1) F トレンチ小溝 5 検出状況（北西から）
 - (2) F トレンチ小溝 5 完掘状況（北西から）
- PL. 14 (1) F トレンチ遺物出土状況（北西から）

- (2) F トレンチ東部遺物出土状況（南西から）
- PL. 15 (1) F トレンチ西部遺物出土状況（南から）
 - (2) F トレンチ西部土器出土状況（俯瞰）
- PL. 16 出土遺物①（土器）
- PL. 17 出土遺物②（土器）
- PL. 18 出土遺物③（土器）
- PL. 19 出土遺物④（土器）
- PL. 20 出土遺物⑤（土器）
- PL. 21 出土遺物⑥（石器・銭貨）

＜吉田構内第2学生食堂の増築及び改修工事に伴う発掘調査＞

- PL. 22 吉田構内全景（南から）
- PL. 23 (1) 調査前の状況1（東から）
 - (2) 調査前の状況2（南から）
- PL. 24 事前調査区全景（南から）
- PL. 25 (1) 調査区西部（北から）
 - (2) SB1及び周辺遺構（北から）
- PL. 26 (1) 調査区東部（西から）
 - (2) 調査区南東隅（西から）
- PL. 27 (1) F 地点周辺土層断面（北東から）
 - (2) M 地点土層断面（水田暗渠 東から）
- PL. 28 (1) J 地点周辺土層断面（西から）
 - (2) 調査区南東隅東壁土層断面（西から）
- PL. 29 (1) SB1・SD2検出状況（北から）
 - (2) SB1-Pit232柱痕断面（南から）
 - (3) SB1-Pit233柱痕断面（南から）
 - (4) SB1-Pit234柱痕断面（南から）
 - (5) SB1-Pit236柱痕断面（南から）
- PL. 30 (1) SB2完掘状況（北から）
 - (2) SB2-Pit369柱痕検出状況（南から）
 - (3) SB2-Pit370土層断面（南西から）

- (4) SB2-Pit371土層断面（北東から）
 - (5) SB2-Pit373柱痕検出状況（東から）
- PL. 31 (1) SD1検出状況（北から）
(2) SD1 1区床面遺物出土状況（北から）
- PL. 32 (1) SD1 C-D間土層断面・3区床面遺物出土状況（南西から）
(2) SD1 3区床面遺物出土状況（南東から）
- PL. 33 (1) SD1 3区ピット群半裁状況（南東から）
(2) SD1 E-F間土層断面・4区床面遺物出土状況（南東から）
- PL. 34 (1) Pit15土器出土状況（東から）
(2) Pit273検出状況（南から）
(3) Pit284土層断面（南から）
(4) Pit365土層断面（南から）
(5) SK1土層断面（南から）
(6) SK12土層断面（北西から）
- PL. 35 (1) SK13土層断面（南東から）
(2) SK13完掘状況（南西から）
(3) SX1検出状況（北西から）
(4) SX1遺物出土状況（南から）
- PL. 36 (1) SX1ピット検出状況（南から）
(2) SX1-Pit1半裁状況（南から）
(3) SX1-Pit2半裁状況（南から）
(4) SX2西部・SK9検出状況（北西から）
- PL. 37 (1) SX2西部・SK9土層断面（北西から）
(2) SX2東部検出状況（北西から）
(3) SD9～11検出状況（北から）
(4) SD9～11完掘状況（北から）
- PL. 38 (1) SX3検出状況（南から）
(2) Pit379完掘状況・SX4土層断面（南から）
(3) SX4焼土検出状況（東から）
(4) SX4焼土断割（南西から）

- PL. 39 (1) SB3 (東から)
(2) SB3-Pit189土層断面 (南から)
(3) SB4 (北西から)
(4) SB4-Pit193柱痕・土器検出状況 (北から)
- PL. 40 (1) 調査区西部遺物包含層検出状況 1 (北から)
(2) 調査区西部遺物包含層検出状況 2 (北東から)
- PL. 41 (1) 調査区西部第VI層上面遺構検出状況 (東から)
(2) SB5 ~7 (北から)
- PL. 42 (1) SB5 (北から)
(2) SB5-Pit145土層断面 (南から)
(3) Pit62土層断面 (南から)
(4) SK2・3・遺物包含層検出状況 (東から)
- PL. 43 (1) SK2・3土層断面 (東から)
(2) SK7・8土層断面 (南東から)
(3) Pit18遺物出土状況 (東から)
(4) Pit18完掘状況 (東から)
- PL. 44 出土遺物① (土器)
- PL. 45 出土遺物② (土器)
- PL. 46 出土遺物③ (土器)
- PL. 47 出土遺物④ (土器)
- PL. 48 出土遺物⑤ (土器)
- PL. 49 出土遺物⑥ (土器)
- PL. 50 出土遺物⑦ (土器)
- PL. 51 出土遺物⑧ (土器)
- PL. 52 出土遺物⑨ (土器)
- PL. 53 出土遺物⑩ (土器)
- PL. 54 出土遺物⑪ (土器)
- PL. 55 出土遺物⑫ (土器)
- PL. 56 出土遺物⑬ (土器)
- PL. 57 出土遺物⑭ (土器)

PL. 58 出土遺物⑯（土器）

PL. 59 出土遺物⑰（土器）

PL. 60 出土遺物⑱（石器）

PL. 61 出土遺物⑲（石器）

PL. 62 出土遺物⑳（石器）

PL. 63 (1) 出土遺物㉑（石器）

(2) 出土遺物㉒（鉄製品・鉄滓・同X線写真）

(3) 立会調査出土遺物

＜吉田構内教育学部附属養護学校給食室改修工事に伴う試掘調査＞

PL. 64 (1) 調査前全景（北西から）

(2) 調査区全景（北西から）

(3) 調査区北西隅南西壁土層断面（北東から）

PL. 65 (1) ピット検出状況（北西から）

(2) SK1（西から）

＜付篇 吉田遺跡第I地区E区の未報告図面及び写真について＞

PL. 66 (1) 調査前全景（南西から）

(2) 試掘調査gトレンチ（西から）

(3) 試掘調査aトレンチ（西から）

PL. 67 (1) 本調査区（西から）

(2) 第2・3号竪穴住居跡（北西から）

PL. 68 (1) 第1号竪穴住居跡（南西から）

(2) 第6号竪穴住居跡（東から）

(3) 第4号竪穴住居跡炭化材出土状況（南から）

(4) 第4号竪穴住居跡（南から）

(5) 溝状遺構（南東から）

(6) 溝状遺構（北西から）

(7) 溝状遺構北端部土層断面（南東から）

挿 図 目 次

<平成10年度山口大学構内遺跡調査の概要>

Fig. 1 山口大学吉田・白石構内位置図	2
Fig. 2 山口大学小串・常盤構内位置図	3
Fig. 3 山口大学光構内位置図	4

<宇部市土地区画整理事業（柳ヶ瀬丸河内線）に伴う発掘調査>

Fig. 4 調査区位置図	5
Fig. 5 調査区設定位置図	6
Fig. 6 A トレンチ平面図	7
Fig. 7 A トレンチ土層断面図	8
Fig. 8 B トレンチ平面図	9
Fig. 9 B トレンチ土層断面図	10
Fig. 10 B トレンチ用水路平面図・断面図	11
Fig. 11 C トレンチ平面図	12
Fig. 12 C トレンチ土層断面図	13
Fig. 13 出土遺物実測図①（土器）	14
Fig. 14 出土遺物実測図②（石器）	15

<宇部市土地区画整理事業（柳ヶ瀬丸河内線・医学部敷地西側特殊道路）に伴う発掘調査>

Fig. 15 調査区位置図①	17
Fig. 16 調査区位置図②	17
Fig. 17 D トレンチ平面図・断面図	18
Fig. 18 E トレンチ設定位置図	19
Fig. 19 E トレンチ平面図	20
Fig. 20 E トレンチ土層断面図1	21
Fig. 21 E トレンチ土層断面図2	22
Fig. 22 E トレンチ土器出土状況平面図	22
Fig. 23 F トレンチ平面図	23
Fig. 24 F トレンチ土層断面図	24

Fig. 25	出土遺物実測図①（土器）	26
Fig. 26	出土遺物実測図②（土器）	28
Fig. 27	出土遺物実測図③（土器）	29
Fig. 28	出土遺物実測図④（土器）	30
Fig. 29	出土遺物実測図⑤（土器）	32
Fig. 30	出土遺物実測図⑥（土器）	33
Fig. 31	出土遺物実測図⑦（石器・錢貨）	34
<吉田構内第2学生食堂の増築及び改修工事に伴う発掘調査>		
Fig. 32	調査区位置図	39
Fig. 33	調査区設定図	40
Fig. 34	調査区土層断面図①	42
Fig. 35	調査区土層断面図②	43
Fig. 36	調査区土層断面図③	44
Fig. 37	調査区平面図（完掘）	45・46
Fig. 38	調査区平面図（古代以前）	47・48
Fig. 39	調査区平面図（中世以降）	49・50
Fig. 40	SB1 平面図・断面図	51
Fig. 41	SB2 平面図・断面図	52
Fig. 42	SD1 平面図	53
Fig. 43	SD1 断面図	54
Fig. 44	Pit365・SK1 平面図・断面図	57
Fig. 45	SK11～13 平面図・断面図	58
Fig. 46	SX1 平面図・断面図	59
Fig. 47	SX2・SD9～11・SK9 平面図・断面図	60
Fig. 48	Pit379・SX3・4 平面図・断面図	61
Fig. 49	SB3 平面図・断面図	62
Fig. 50	SB4 平面図・断面図	63
Fig. 51	SB5 平面図・断面図	64
Fig. 52	SB6 平面図・断面図	65
Fig. 53	SB7 平面図・断面図	66

Fig. 54	SD2・SK7・8 平面図・断面図	67
Fig. 55	Pit18・SK2～4 平面図・断面図	69
Fig. 56	出土遺物実測図①（土器）	71
Fig. 57	出土遺物実測図②（土器）	73
Fig. 58	出土遺物実測図③（土器・土製品）	74
Fig. 59	出土遺物実測図④（土器）	76
Fig. 60	出土遺物実測図⑤（土器）	78
Fig. 61	出土遺物実測図⑥（土器）	80
Fig. 62	出土遺物実測図⑦（土器）	81
Fig. 63	出土遺物実測図⑧（土器）	83
Fig. 64	出土遺物実測図⑨（石器）	85
Fig. 65	出土遺物実測図⑩（石器）	86
Fig. 66	出土遺物実測図⑪（石器）	87
Fig. 67	出土遺物実測図⑫（石器）	89
Fig. 68	出土遺物実測図⑬（鉄器・鉄滓）	90
Fig. 69	調査区位置図	106
Fig. 70	出土遺物実測図（土器）	106
<吉田構内教育学部附属養護学校給食室改修工事に伴う試掘調査>		
Fig. 71	調査区位置図	107
Fig. 72	調査区設定図	107
Fig. 73	調査区平面図・断面図	108
Fig. 74	SK1 断面図	108
<白石構内教育学部附属山口小学校給食室改修工事に伴う試掘・立会調査>		
Fig. 75	調査区位置図	110
Fig. 76	調査区設定図	110
<吉田構内の立会調査>		
Fig. 77	調査区位置図	111
Fig. 78	調査区位置図 1	112
Fig. 79	調査区位置図 2	112
Fig. 80	調査区位置図	113

Fig. 81 調査区位置図	113
Fig. 82 調査区位置図	114
Fig. 83 調査区位置図	114
<光構内の立会調査>	
Fig. 84 調査区位置図	115
<付篇 吉田遺跡第 I 地区 E 区の未報告図面及び写真について>	
Fig. 85 第 I 地区 E 区平面図	118
Fig. 86 第 I 地区 E 区・第 2 学生食堂発掘調査区平面図 1	119
Fig. 87 第 I 地区 E 区・第 2 学生食堂発掘調査区平面図 2	120
<山口大学構内の調査区位置図>	
Fig. 88 吉田構内地区割及び主な調査区位置図（昭和 41 年度～平成 14 年度）	143・144
Fig. 89 小串構内調査区位置図（昭和 58 年度～平成 14 年度）	145
Fig. 90 常盤構内調査区位置図（昭和 58 年度～平成 14 年度）	146
Fig. 91 白石構内（小学校）調査区位置図（昭和 58 年度～平成 14 年度）	147
Fig. 92 白石構内（中学校）調査区位置図（昭和 60 年度～平成 14 年度）	148
Fig. 93 光構内調査区位置図（昭和 58 年度～平成 12 年度）	149

表 目 次

<平成 10 年度山口大学構内遺跡調査の概要>	
Tab. 1 平成 10 年度山口大学構内遺跡調査一覧表	1
<宇部市土地区画整理事業（柳ヶ瀬丸河内線）に伴う発掘調査>	
Tab. 2 出土遺物観察表（土器）	16
Tab. 3 出土遺物観察表（石器）	16
<宇部市土地区画整理事業（柳ヶ瀬丸河内線・医学部敷地西側特殊道路）に伴う発掘調査>	
Tab. 4 出土遺物観察表（土器）	37
Tab. 5 出土遺物観察表（石器・錢貨）	38
<吉田構内第 2 学生食堂の増築及び改修工事に伴う発掘調査>	

Tab. 6	掘立柱建物跡観察表	95
Tab. 7	溝・土坑・不明遺構観察表	95
Tab. 8	出土遺物観察表（土器）	96
Tab. 9	出土遺物観察表（土製品）	103
Tab. 10	出土遺物観察表（石器・石製品）	104
Tab. 11	出土遺物観察表（鉄製品・鉄滓）	105
Tab. 12	出土遺物観察表（土器）	106
Tab. 13	山口大学埋蔵文化財資料館運営委員会委員	125
Tab. 14	山口大学構内の主な調査一覧表	126

第1章 平成10年度山口大学構内遺跡調査の概要

山口大学の関連諸施設は、山口市（吉田・白石構内）、宇部市（小串・常盤構内）、光市（光構内）の県内各市に分散している。各構内には、縄文時代後・晩期から江戸時代にかけての複合集落遺跡として著名な吉田構内をはじめとして、旧石器時代の遺物が出土する小串構内など、周知の遺跡が埋存している。山口大学埋蔵文化財資料館は学内共同利用施設として、これら各構内において現状変更を伴う諸工事に対し、埋蔵文化財保護の立場から調査・研究を行っている。埋蔵文化財の調査を必要とする場合は、工事地域周辺での既往の調査結果や工事の内容、埋蔵文化財に対する影響の度合いなどを勘案し、埋蔵文化財資料館運営委員会の議を経て、事前・試掘・立会の三種の方法によって調査を実施している。

平成10年度は事前調査3件、試掘調査2件、立会調査9件の計15件の調査を実施した。第2学生食堂の増築及び改修工事に伴う立会調査については、同事前調査、教育学部附属山口小学校給食室改修工事に伴う立会調査については同試掘調査と合わせて報告する。

Tab.1 平成10年度山口大学構内遺跡調査一覧表

調査区分	調査名	構内地区	構内地区割	面積(m ²)	調査期間	調査担当	挿図番号
事前	宇部市土地区画整理事業（柳ヶ瀬丸河内線）	小串		253.1	4月23日～7月7日	村田・金子	Fig.89 No.31
	宇部市土地区画整理事業（柳ヶ瀬丸河内線・医学部敷地西側特殊道路）	小串		381.2	3月1日～5月25日	村田・金子	Fig.89 No.32
	第2学生食堂の増築及び改修工事	吉田	N・O-15	716.3	1月18日～28日、 2月9日～5月20日	田畠	Fig.88 No.210
試掘	教育学部附属養護学校給食室改修工事	吉田	C-21	12.3	7月8～15日	田畠	Fig.88 No.211
	教育学部附属山口小学校給食室改修工事	白石		5.9	7月1～7日	田畠	Fig.91 No.17
立会	九田川河川局部改良工事	吉田	E・F-14, F-13	180	10月6・15日	村田	Fig.88 No.212
	基幹環境整備工事（バリカー新設）	吉田	H-15, I・J-20, O-16・18, L-22	3.4	11月20・24日、 3月15日	村田	Fig.88 No.213
	農学部動物用焼却炉改修工事	吉田	Q-18	53	1月18日	村田	Fig.88 No.214
	基幹環境整備工事（外灯新設）	吉田	L-17～19, M・N-18	4	2月26日	村田	Fig.88 No.215
	理学部スロープ新設工事	吉田	M-18	16	3月2日	田畠	Fig.88 No.216
	ステンレス回転モニュメント新設	吉田	M-13・14	27.6	平成11年 4月6・12日	田畠	Fig.88 No.217
	第2学生食堂の増築及び改修工事	吉田	N・O-15	250.9	平成11年 5月6・11日	田畠	Fig.88 No.210
	教育学部附属山口小学校給食室改修工事	白石		9.9	7月28日	田畠	Fig.91 No.17
	教育学部附属光学校給食室改修工事	光		5.2	7月31日	田畠	Fig.93 No.18

吉田構内の調査（本部、人文・教育・経済・理・農の各学部：山口市大字吉田 1677-1、教育学部附属養護学校：

同吉田 3003 所在）

事前調査 1 件、試掘調査 1 件、立会調査 7 件を実施した。

第 2 学生食堂の増築及び改修工事に伴い、事前調査を実施した。調査の結果、掘立柱建物跡 7 棟、溝 12 条、土坑 16 基、不明遺構 4 基、ピット 383 基を検出した。出土遺物のない遺構もあるが、遺構の時期は埋土の色調から古代以前、中世、近世以降に大別される。縄



Fig.1 山口大学吉田・白石構内位置図

文土器、弥生土器、土師器、須恵器、陶器、磁器などの土器類をはじめ、石器（石鏃、石錐、砥石、敲石、台石、石鍬、石斧、石庖丁）、石核、剥片、用途不明石製品、鐵製品、鉄滓等が出土した。

今回の調査で注目されるのは、吉田遺跡で初めて古代・中世の掘立柱建物跡を検出したことである。また、統合移転時の調査区（第 I 地区 E 区）で検出された古代の溝状遺構の延長部を検出し、同溝の長さは約 49.2m であることが判明した。この溝は同溝の東側で検出された掘立柱建物等の施設を区画するための溝であったとみられ、何らかの官衙的施設の存在を示唆するものであろう。

教育学部附属養護学校給食室改修工事に伴う試掘調査では、土坑 2 基、ピット 20 基を検出した。このうち、土坑 2 基、ピット 2 基が弥生～古墳時代で、他は近世以降とみられる。弥生時代以降の遺構面形成層から縄文土器、土坑から弥生土器、土師器が出土した。

立会調査では、第 2 学生食堂敷地を除き頗著な遺構・遺物は検出できなかった。



Fig.2 山口大学小串・常盤構内位置図

白石構内の調査 (教育学部附属山口幼稚園: 山口市白石三丁目1-2、同小学校: 白石三丁目1-1、同山口中学校:

白石一丁目9-1所在)

試掘調査 1 件、立会調査 1 件を実施した。教育学部附属山口小学校給食室改修工事に伴う試掘調査・立会調査では顕著な遺構・遺物は検出できなかった。

小串構内の調査 (医学部、同附属病院、医療技術短期大学部: 宇部市南小串1丁目 1-1)

事前調査 2 件を宇部市教育委員会と埋蔵文化財資料館が合同で実施した。

宇部市土地区画整理事業（柳ヶ瀬丸河内線）に伴う事前調査では、A～C のトレーニング坑を設定して調査を行い、近世～近代の水田関連の遺構を検出した。また、A トレーニング坑では現地表下約 1.3m で検出した第 14 層（暗灰黄青色粘砂）で土器集中部が確認され、少數の縄文土器と多数の弥生時代終末期～古墳時代前期の土器が出土した。このほか調査区からは瓦質土器、土師質土器、陶器、磁器、石核、剥片等が出土した。

宇部市土地区画整理事業（柳ヶ瀬丸河内線・医学部敷地西側特殊道路）では、D～F のトレーニング坑を設定して調査を行った。E トレーニング坑では、現地表下約 1.3m の青灰色粘砂で全形がうかがえる鐘崎式土器深鉢が 1 個体分出土した。上記 A トレーニング坑と重複する F トレーニング坑では、近世～近代の水田に関連する溝を 1 条検出したほか、現地表下約 1.3m 以下で検出した第 6 層（青灰色粘砂）、第 7 層（暗灰黄青色粘砂）から少數の縄文土器、須恵器、瓦質土器と多数の弥生時代終末期～古墳時代前期の土器が出土した。これらは、河川等の流れ込みによる二次堆積とみられる。弥生時代終末期～古墳時代前期土器にはまとまりがあり、遺跡

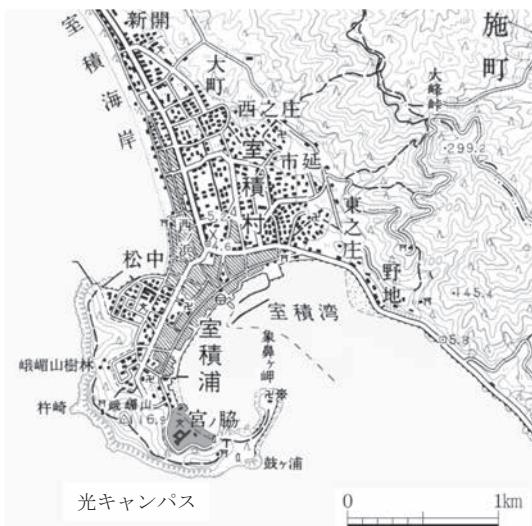


Fig.3 山口大学光構内位置図

北方の丘陵上に当該期の集落遺跡が存在した可能性が高まった。このほか調査区からは、須恵器、瓦質土器、陶器、磁器、碇石、楔形石器、剥片、鉄製品等が出土した。

常盤構内の調査 (工学部: 宇部市常盤台2丁目)

16-1、尾山宿舎: 同上野中所在)

当該地で掘削を伴う開発等工事は計画されなかった。

光構内の調査 (教育学部附属光小学校、同光中

学校: 光市大字室積浦 1-1 所在)

立会調査 1 件を実施した。教育学部附

属光学校給食室改修工事に伴う立会調査では、顕著な遺構・遺物は検出できなかった。

なお、平成 10 年度調査の報告にあたり、既刊の年報に記載した各構内調査区位置図、平面図、調査面積、出土遺物の時期等を訂正した。また、小串構内においては年報 XX、XX I に掲載した構内旧境界線、構内現境界線、調査区位置図の縮尺、光構内においては構内境界線、方位を訂正した。このほか、既刊の年報に記載した山口大学埋蔵文化財資料館規則の一部を訂正した。

第2章 宇部市土地区画整理事業（柳ヶ瀬丸河内線）に伴う発掘調査

1 調査の経過

宇部市は昭和34年3月に小串土地区画整理事業施行区域として約170ヘクタールを都市計画決定し、同年7月に事業認可を取得した。その後、昭和36年に合意形成の得られた地区から順次工区分けを行い、事業を実施してきた。医学部構内は第2・8工区内に位置する。土地区画整理事業では、第2・6・8工区において都市計画道路（柳ヶ瀬丸河内線）の建設が計画され、第8工区では医学部構内的一部も建設予定地となった。このため、平成10年3月20日開催の埋蔵文化財資料館運営委員会にて、その取り扱いが協議された。¹⁾埋蔵文化財資料館では、昭和58年度以降医学部構内遺跡の発掘調査を継続的に行って來たが、既往の発掘調査から、予定地内においても埋蔵文化財が存在する可能性が高く、発掘調査の必要があるとの判断が下された。ただし、今回の工事主体は宇部市であることから、調査組織として宇部市教育長を団長とする宇部市域遺跡発掘調査団が結成され、資料館員の村田・田畠・金子が調査員として加わり、宇部市教育委員会と山口大学埋蔵文化財資料館が合同で発掘調査を実施することになった。現地調査は村田・金子が担当した。

今回の発掘調査の対象は平成10～11年度施工予定箇所で、従前は職員・外来駐車場として利用されていた。発掘調査は平成10年4月23～7月7日にAトレンチ、Bトレンチ、Cトレンチを設定して実施した。調査面積はAトレンチ101m²、Bトレンチ94m²、Cトレンチ58.1m²、合計253.1m²である。なお、調査区位置図以外の方針は磁北を示す。

医学部構内の境界線は、土地区画整理事業実施後に3回変更されている。同線建設前の境界線が構内旧境界線①である。

構内南西部では平成11年3月に第2工区で換地が行われ、平成14年6月には今回調査区を含む第8工区で換地が行われた。この際、第8工区では、隣接地で交換対象面積を確保できなかつたため、現在の桃山グ

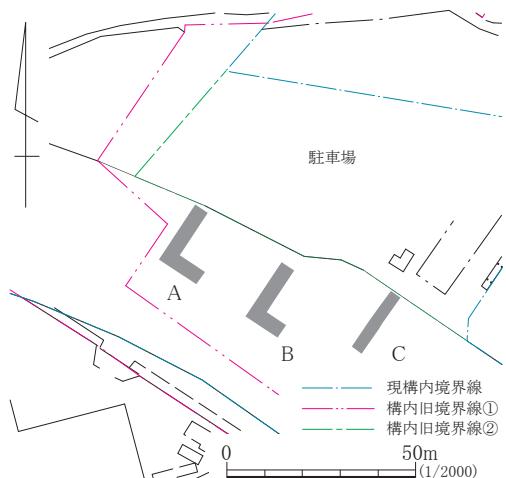


Fig.4 調査区位置図

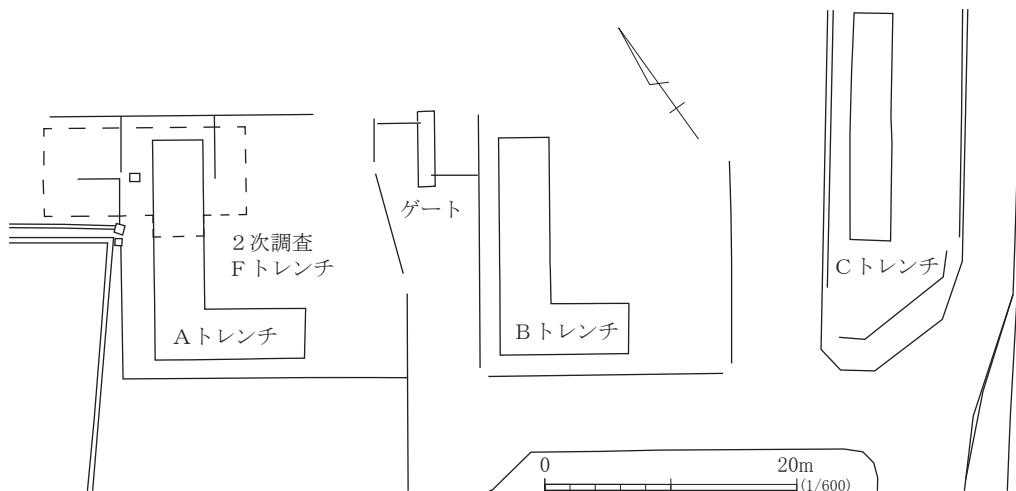


Fig.5 調査区設定位置図

ラウンドが交換地となった。以上の変更に伴う境界線は構内北部の構内旧境界線②と上記以外の現構内境界線が相当する。その後、構内旧境界線②は平成20年3月に変更され、以後の境界線が現構内境界線である。

2 層序・遺構

(1) Aトレンチ (Fig. 6・7, PL. 2~3)

Aトレンチは調査対象地西端に設定したL字状のトレンチである。なお、北部は2次調査Fトレンチと重複する。層序は、第1層：表土・造成土（層厚約100cm）、第2層：水田耕土（層厚10～22cm）、第3層：水田床土I（暗茶褐色土 層厚約2～6cm）、第4層：水田床土II（灰茶褐色土 層厚5～12cm）、第5層：不明（水田床土か 層厚3～12cm）、第6層：水田床土III（黄茶褐色土 層厚2～7cm）、第7～18層（層厚91cm以上）：粘土・砂による堆積層である。

今回調査地は造成前に水田として利用されており、水田床土は少なくとも3層に細分される。第7～18層は水田化以前の堆積層である。調査区北部の現地表下約1.3mで検出した第14層：暗灰黄青色粘砂（粗粘砂 層厚7～20cm）からは土器がまとまって出土し、さらに調査区北側に広がることが確実視された。詳細は次章を参照されたい。

遺構はいずれも造成前の水田耕作に伴うものである。以下、混乱を避けるため、遺構名は調査時のものを使用する。北西壁土層断面では、第4層上面を検出面とする畝溝を確認した。また、調査区の中央部では同層上面で小溝1を検出した。小溝1は最大幅95cm、最深部10cmを測り、南東－北西方向である。埋土からメノウの原石が1点出土した。

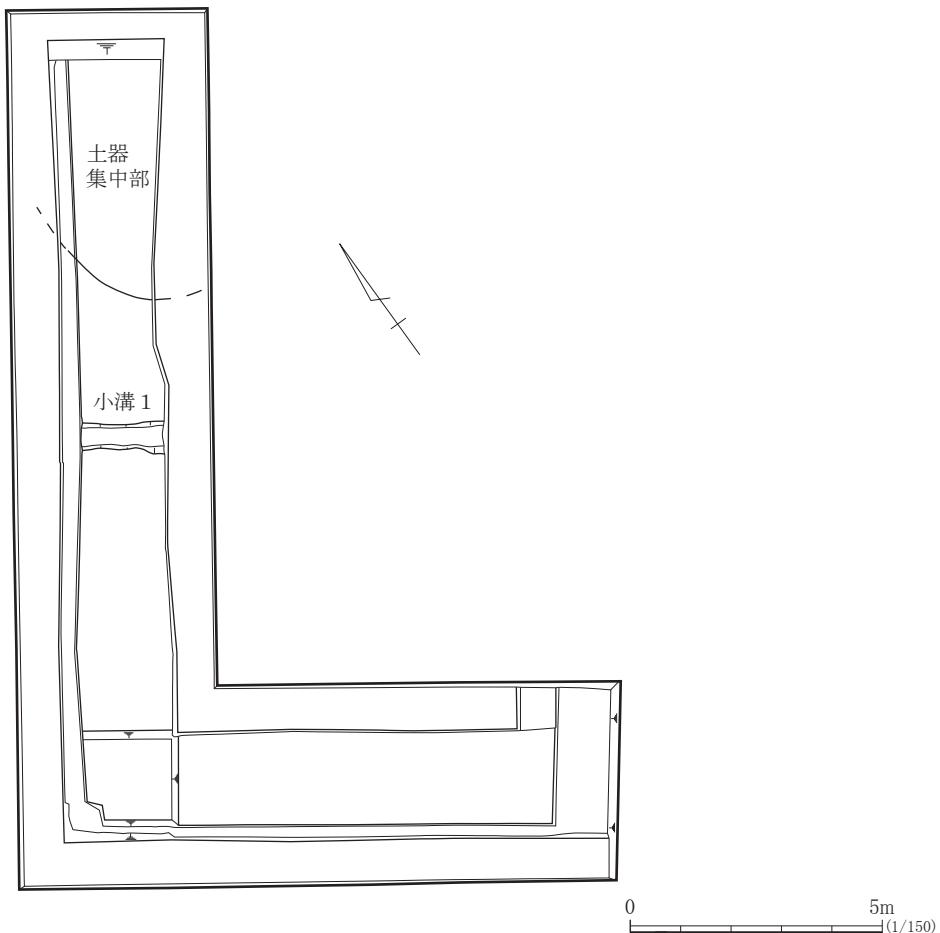


Fig.6 A トレンチ平面図

(2) Bトレンチ (Fig.8 ~10, PL.4 ~6)

調査対象地のほぼ中央に設定したL字状のトレンチである。層序は、第1層：表土・造成土（層厚100～120cm）、第2層：水田耕土（層厚8～20cm）、第3層：不明（水田床土か 層厚10cm）、第4層：水田床土I（土色・土質記載なし 層厚4～13cm）、第5層：水田床土（暗灰褐色土 床土変質土 層厚7cm）、第6層：水田床土II（暗黄茶褐色土 層厚3～11cm）、第7層：不明（水田床土か 層厚9cm）、第8層：水田床土III（暗茶灰褐色土 層厚4～16cm）、第9層：暗灰茶色土（層厚31cm）、第10～22層（層厚54cm以上）：粘土・砂による堆積層である。

遺構は第3・4・6層上面で、水田耕作に伴う用水路1、溝2条、畝溝群を検出した。

用水路 (Fig.8 ~10, PL.6 (3) (4))

調査区南東隅で検出した。南西—北東方向である。当初は幅約220cmの素掘であったが

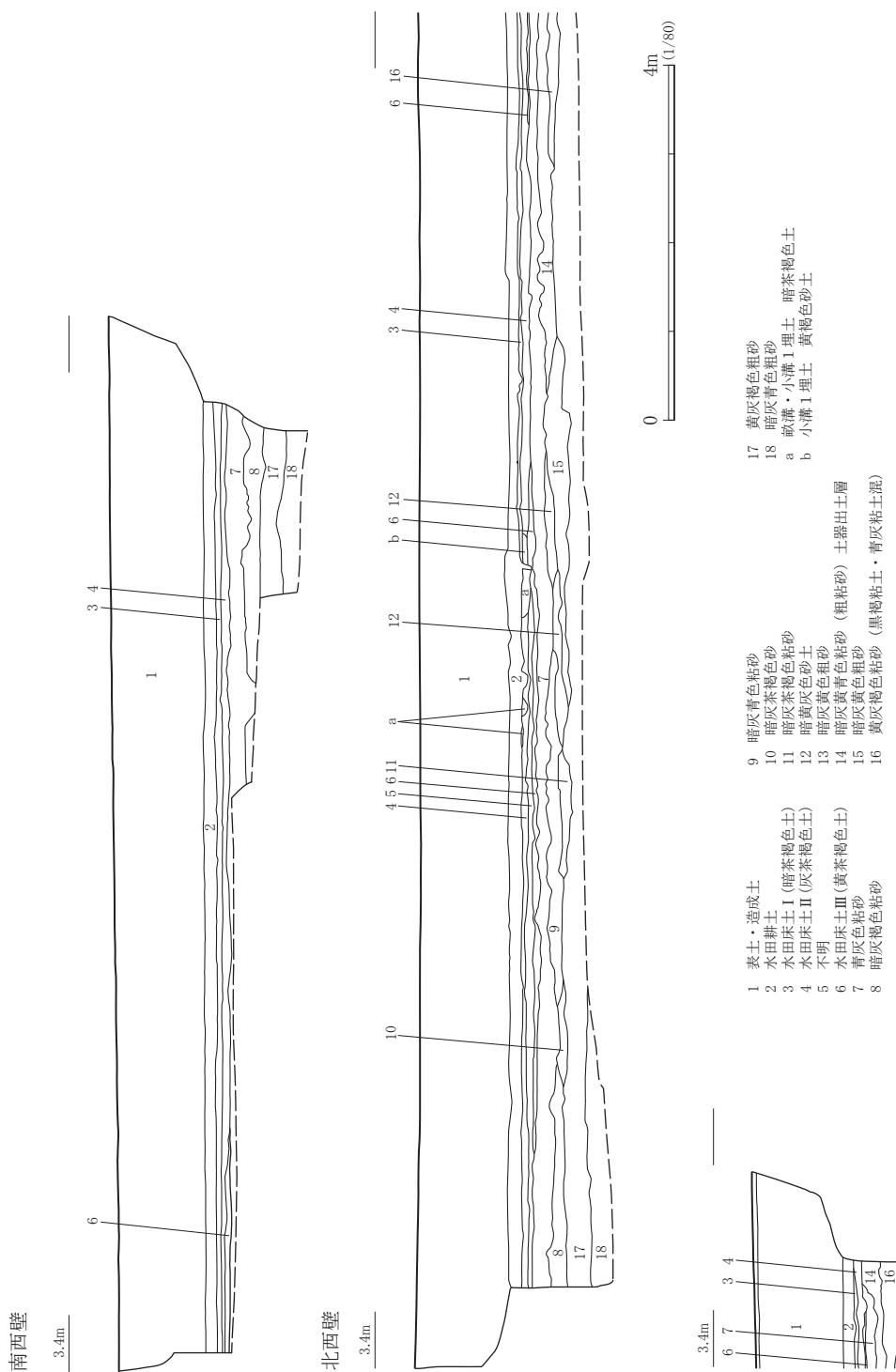


Fig.7 A-トレーンチ土層断面図

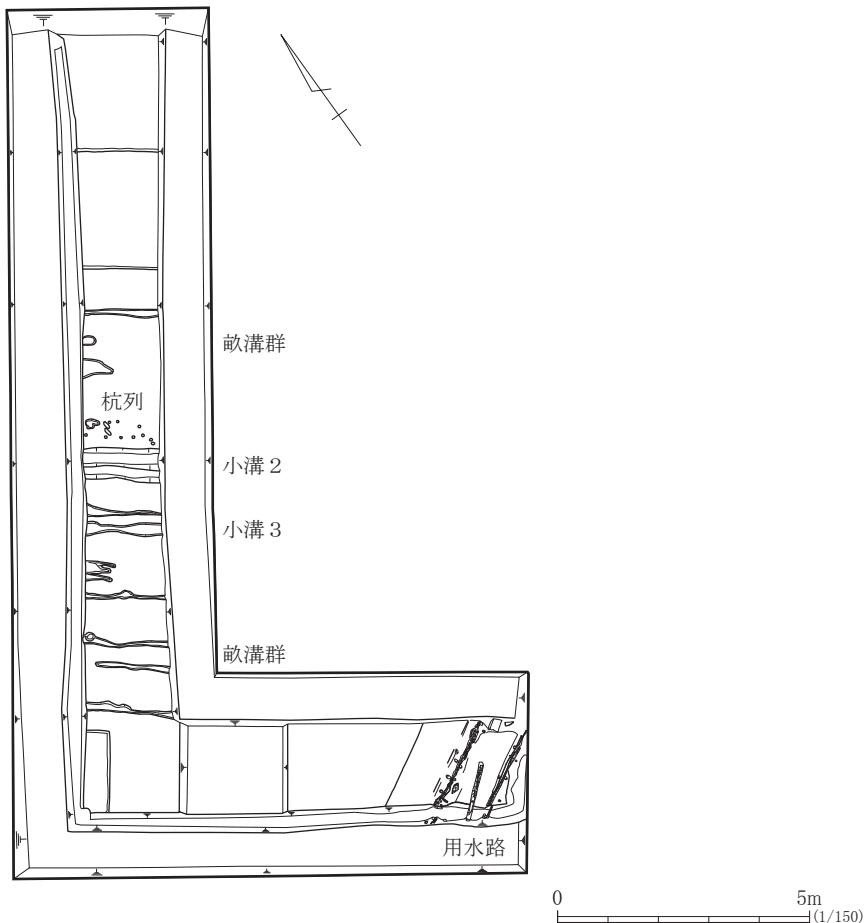


Fig.8 Bトレーンチ平面図

(Fig. 9 用水路 1)、これを改修して木組みで補強した(Fig. 9 用水路 2)。木組みはU字状の溝を掘り、杭で板を挟んで構築した後に埋め戻し、裏込土としていた。木組みの内法幅は約80cmで最深部が62cmである(Fig.10)。また、木組みの構築と裏込めには部分的に礫を使用して補強していた。その後、最終的には幅140cm、最深部38cmの素掘となり、造成土で埋め戻されていた。出土遺物には中世の瓦質土器、近世～近代の土師質土器、瓦質土器、陶器、磁器、剥片、鉄製品、ガラス片等がある。

小溝2・3・敵溝群 (Fig.8, PL.6 (1) (2))

いずれも南東一北西方向である。小溝2は幅約63cm、深さ約14cm、小溝3は幅約25cm、深さ約4cm。埋土から須恵器片、近世～近代の陶磁器片が出土した。

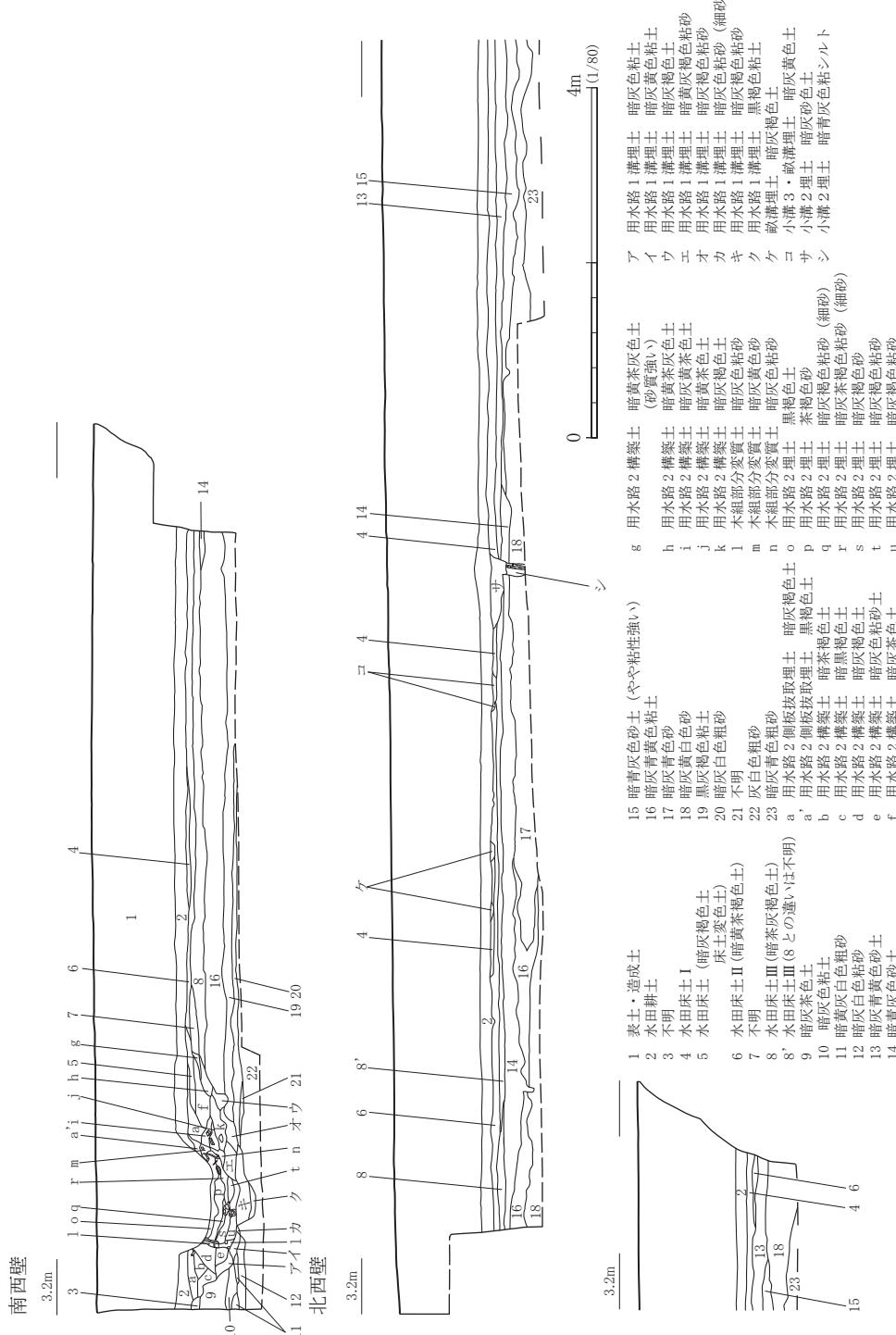


Fig.9 B Trench Soil Profile Cross-Section

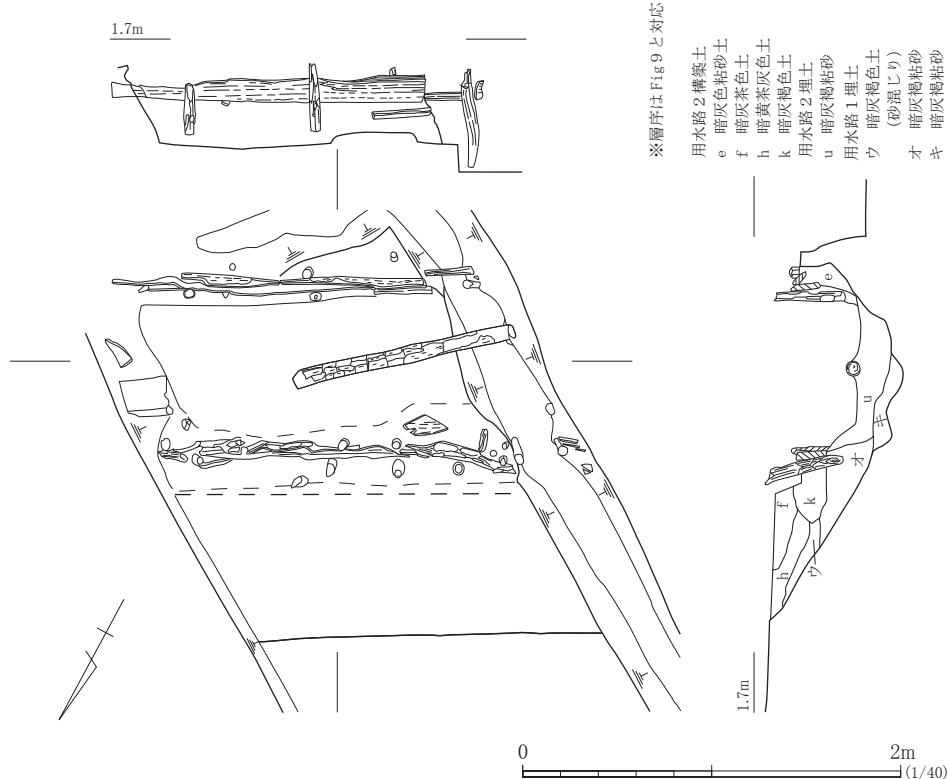


Fig.10 Bトレンチ用水路平面図・断面図

杭列 (Fig.8, PL.6 (1) (2))

小溝2の北側で検出され、同溝と平行する南東－北西方向の杭列である。小規模な柵もしくは垣根のような施設が想定される。

(3) Cトレンチ (Fig.11・12, PL. 7)

調査対象地の東部に設定したトレンチである。層序は、第1層：表土・造成土（層厚約102cm）、第2層：水田耕土（層厚8～16cm）、第3層：水田床土I（黄褐色土 層厚約2～10cm）、第4層：水田床土II（暗灰褐色土 層厚3～12cm）、第5層：水田床土III（暗黄灰褐色土 層厚2～13cm）、第6～9層（層厚78cm以上）：粘土・砂による堆積層である。

遺構は溝1条、土坑1基を検出した。いずれも造成前の水田耕作に伴うものである。

小溝4 (Fig.11, PL.7 (2))

調査区北部の第5層上面で検出した。幅40cm、深さ約18cmで、南東－北西方向である。出土遺物はない。

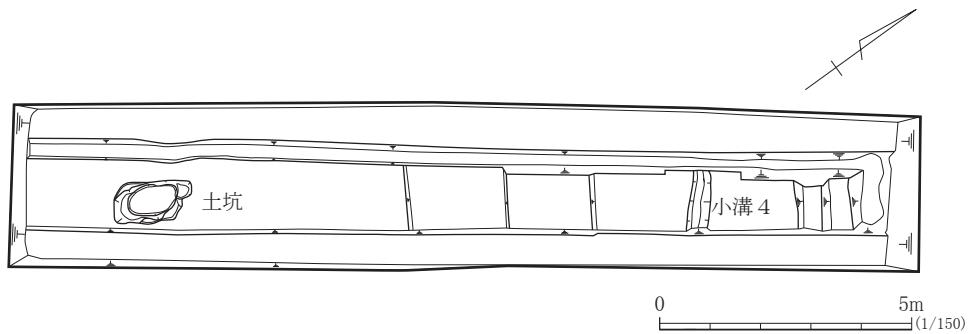


Fig.11 Cトレーニチ平面図

土坑 (Fig.11, PL.7 (4))

調査区南部の第6層上面で検出した。平面形は長径160cm、短径80cmの楕円形を呈する。ほぼ垂直に掘り込まれており、深さは約76cmである。底部面は砂層で調査時に大量の湧水があったことから井戸の可能性がある。埋土から近世～近代の瓦質土器、陶磁器片等が出土した。

3 遺物

以下で代表的な遺物を報告するが、水田耕土・床土、遺構から出土した近世以降の遺物については一部にとどめた。また、Aトレーニチ出土土器のうち、Fトレーニチ出土土器と接合する土器は次章で報告する。

(1) 土器 (Fig.13, PL.8～9 (1))

1～8はAトレーニチ出土土器。1～3は第14層出土の縄文土器浅鉢片で同一個体の可能性が高い。後期か。1・2は口唇部・外面、3は外面にRLの縄文を施す。4は第14層出土の弥生土器甕胴部。外面にタテハケ、内面にナデを施す。後期か。5は弥生時代終末～古墳時代前期の甕。外面にタタキ（1条/1～2.5mm 10.5～11.5mm/3条）、内面にナデを施す。6・7は第4～6層（床土下半部）出土で、6は足鍋口縁部、7は同脚部。8は肥前系染付碗（湯呑碗か）。19世紀前半。

9～15はBトレーニチ出土土器。9は用水路2下層（層名不明）出土の近世土師質土器の甕口縁部。佐野焼か。10は用水路2構築土出土の中世瓦質土器の擂鉢底部。11～13は用水路1出土。11は上野・高取系皿か。内外面に藁灰釉を施釉し、目跡が残る。18世紀後半以降。12は肥前の徳利（瓶）。18世紀。13は肥前の陶胎染付碗。18世紀前半。14は小溝（遺構名不明）の陶器瓶。肥前の陶器瓶で灰釉を施釉する。18世紀前半頃。15は肥前の染付湯呑碗。19世紀

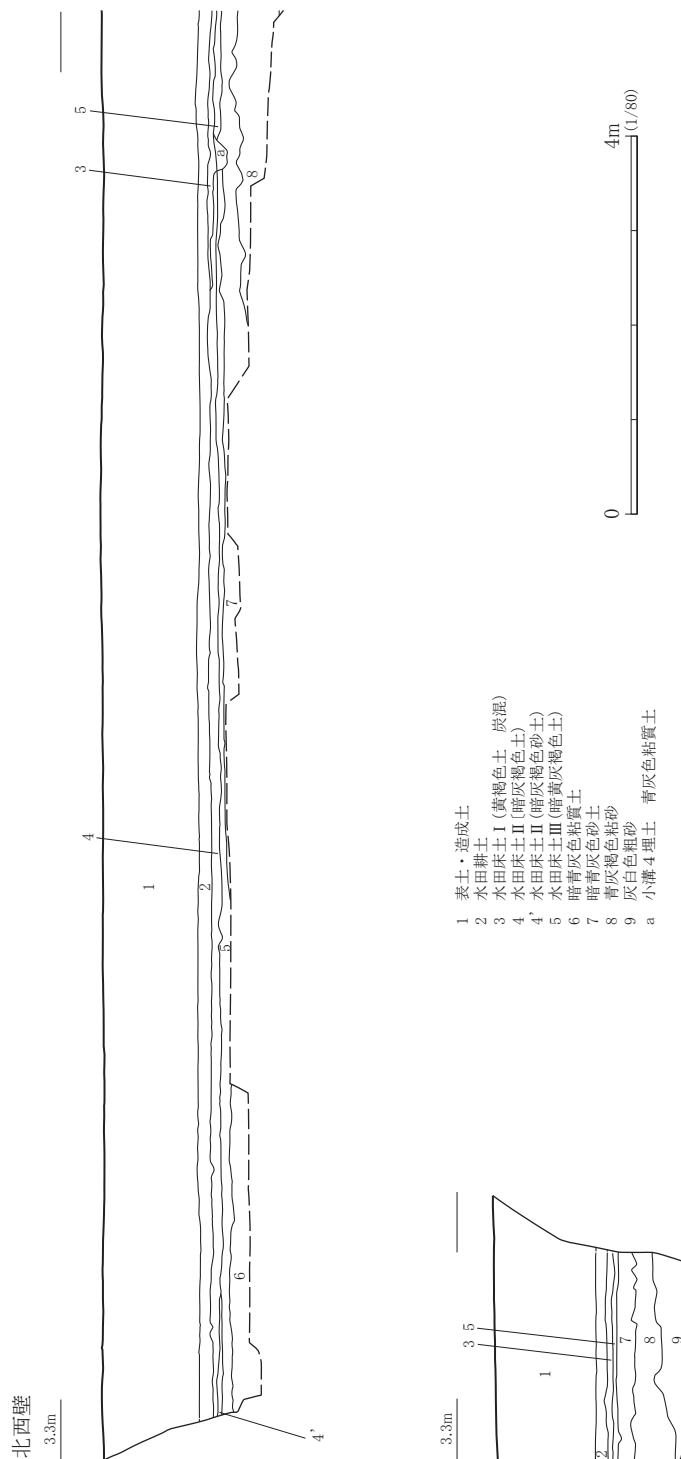


Fig.12 Cトレーンチ土層断面図

宇部市土地区画整理事業（柳ヶ瀬丸河内線）に伴う発掘調査

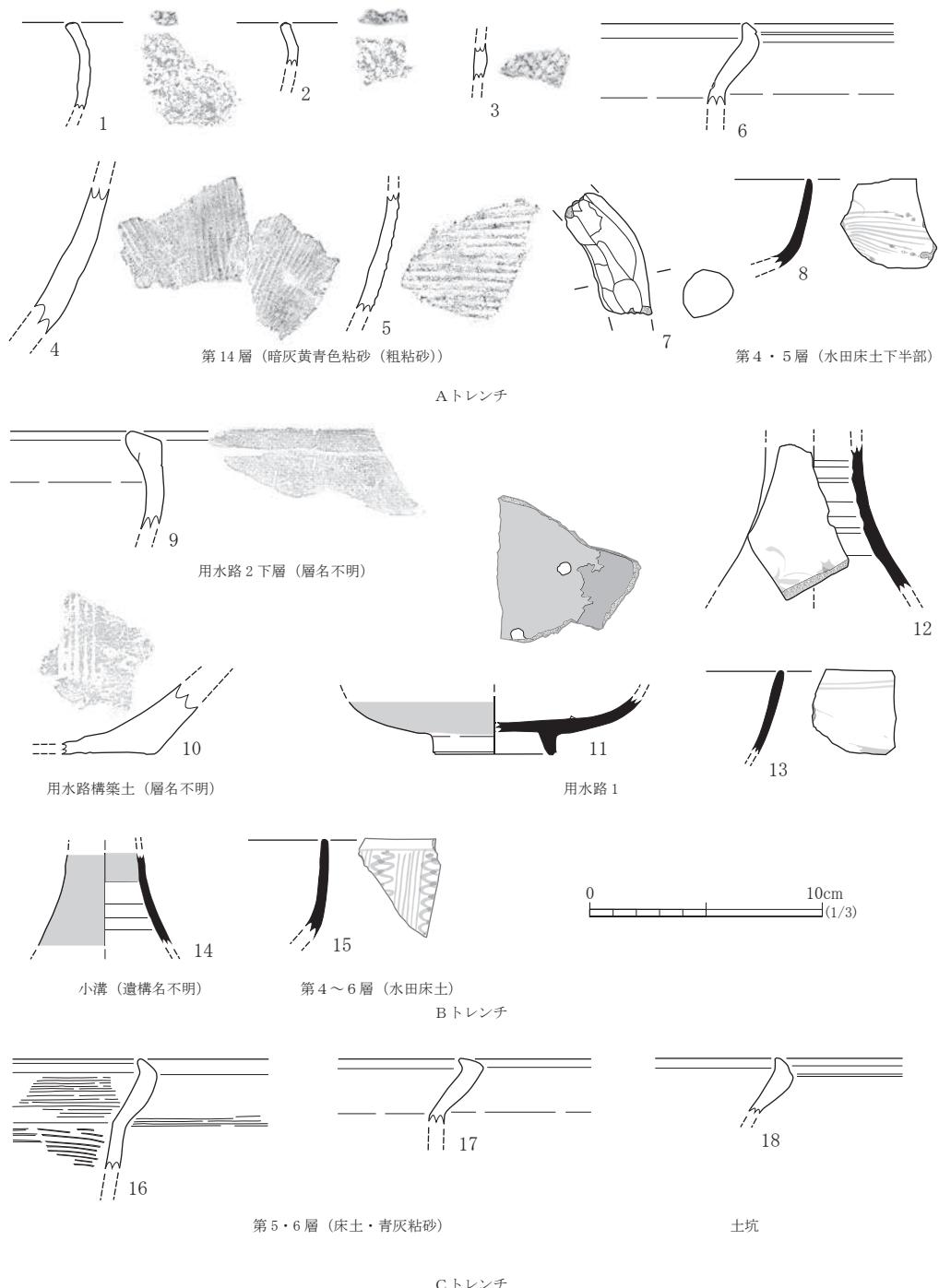


Fig.13 出土遺物実測図①(土器)

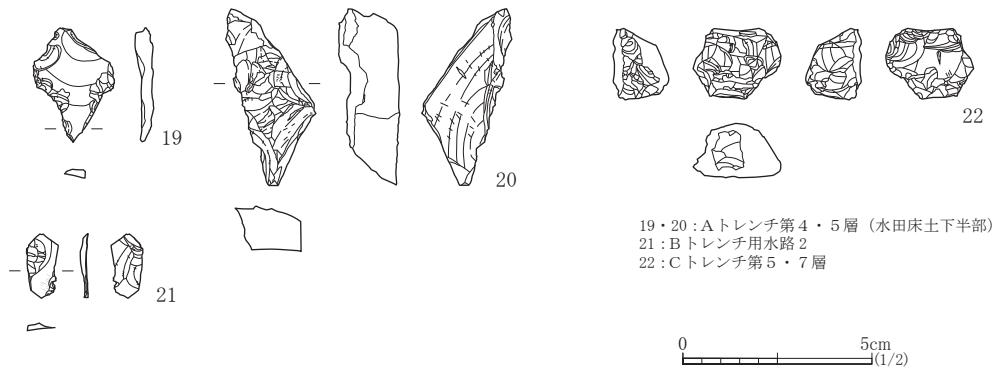


Fig.14 出土遺物実測図②(石器)

前半。16～18はCトレンチ出土土器。16・17は第5・6層出土の中世瓦質土器の足鍋口縁部。
18は土坑出土の中世瓦質土器の足鍋口縁部。

(2) 石器 (Fig.14, PL. 9 (2))

19はAトレンチ第4～6層（床土下半部）出土の石錐。20はAトレンチ第4～6層（床土下半部）出土の石核。21はBトレンチ用水路2出土の剥片。表面・裏面とも使用痕がある。22はCトレンチ第5・7層出土の石核。いずれも石質はメノウで時期は不明である。詳細はTab. 3を参照されたい。

4 小結

今回の調査で特筆されるのは、Aトレンチ第14層で弥生時代終末～古墳時代前期を中心とする土器集中部が確認されたことである。医学部構内遺跡において水田床土より下の堆積層から土器がまとまって出土することが初めて確認され、以後の調査の指針となつた。平成10年度に引き続き隣接地の調査を行つたため、層序・遺構・遺物の評価については、次章でまとめて行いたい。

[注]

- 1) 山口大学埋蔵文化財資料館「宇部（小串構内）医学部体育館新館に伴う試掘調査」（『山口大学構内遺跡調査研究年報III』、1985年）

宇部市土地区画整理事業（柳ヶ瀬丸河内線）に伴う発掘調査

Tab.2 出土遺物観察表(土器)

法量()は復元値

遺物番号	出土地区・遺構	層位	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	色調 ①外面②内面	胎土	備考
1	Aトレンチ	第14層	縄文土器 浅鉢	口縁部				①褐灰色 ②灰色	0.5~3mmの砂粒を多く含む	2・3と同一か
2	Aトレンチ	第14層	縄文土器 浅鉢	口縁部				①灰オリーブ色 ②灰黄色	0.5~1mmの砂粒を多く含む	1・3と同一か
3	Aトレンチ	第14層	縄文土器 浅鉢か	胴部				①黄灰色 ②灰黄色	0.5~5mmの砂粒を多く含む	1・2と同一か
4	Aトレンチ	第14層	弥生土器 甕	口縁部				①暗灰黄色 ②浅黄橙色	0.5~3mmの砂粒を多く含む	
5	Aトレンチ	第14層	弥生～土師器 甕	胴部				①灰黄色 ②浅黄色	0.5~2mmの砂粒を多く含む	
6	Aトレンチ	第4~6層 (床土下半部)	瓦質土器 足鍋	口縁部				①②灰色	0.5~2mmの砂粒を多く含む	
7	Aトレンチ	第4~6層 (床土下半部)	瓦質土器 足鍋	脚部				①②灰色	0.5~2mmの砂粒を多く含む	
8	Aトレンチ	第4~6層 (床土下半部)	磁器 碗	口縁部				素地:灰白色 釉:透明	精良	肥前 湯呑碗か
9	Bトレンチ	用水路2下層	土師質土器 甕	口縁部				①②浅黄橙色	0.5~4mmの砂粒を多く含む	層名不明 佐野焼か
10	Bトレンチ	用水路2構築土	瓦質土器 撥鉢	底部				①橙色 ②にぶい赤褐色	0.5~4mmの砂粒を多く含む	層名不明
11	Bトレンチ	用水路1	陶器 皿	底部		(5.3)		素地:灰色 釉:灰白・オリーブ黒色	精良	上野・高取系か
12	Bトレンチ	用水路1	磁器 徳利(瓶)	頸～胴部				素地:灰白色 釉:明オリーブ灰色	精良	肥前
13	Bトレンチ	用水路1	磁器 碗	口縁部				素地:灰色 釉:透明	精良	肥前 陶胎染付碗
14	Bトレンチ	小溝(遺構名不明)	陶器 瓶	頸部				素地:にぶい橙色 釉:暗褐色	精良	肥前
15	Bトレンチ	第4~6層 (床土)	磁器 碗	口縁部				素地:灰白色 釉:透明	精良	肥前 湯呑碗
16	Cトレンチ	第5~6層	瓦質土器 足鍋	口縁部				①②灰白色	0.5~2mmの砂粒を多く含む	
17	Cトレンチ	第5~6層	瓦質土器 足鍋	口縁部				①②灰色	0.5~1.5mmの砂粒を多く含む	
18	Cトレンチ	土坑	瓦質土器 足鍋	口縁部				①②灰色	0.5~2mmの砂粒を多く含む	

Tab.3 出土遺物観察表(石器)

遺物番号	出土地区・遺構	層位	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石質	備考
19	Aトレンチ	第4~6層 (床土下半部)	石錐	3.02	2.17	0.5	2.3	メノウ (玉髓)	
20	Aトレンチ	第4~6層 (床土下半部)	石核	4.7	2.4	1.62	3.77	メノウ (玉髓)	
21	Bトレンチ	用水路2	剥片	1.72	0.85	0.22	0.33	メノウ (玉髓)	
22	Cトレンチ	第5~7層	石核	1.89	2.33	1.49	9.65	メノウ (玉髓)	

第3章 宇部市土地区画整理事業（柳ヶ瀬丸河内線・医学部敷地西側特殊道路）に伴う発掘調査

1 調査の経過

宇部市土地区画整理事業に伴い、医学部構内に道路建設が計画されたことを受けて、前章に引き続き宇部市域遺跡発掘調査団を調査主体として、宇部市教育委員会と山口大学埋蔵文化財資料館が合同で発掘調査を行った。現地調査は村田・金子が担当した。

調査区名は前章からの連番とし、今回の調査では前章報告Aトレンチで検出された土器集中部の範囲を確認するために、Aトレンチ北部と重複したFトレンチを設定した。また、医学部敷地西側特殊道路計画に伴い、医学部構内北端の地点にDトレンチ、職員・外来駐車場の西辺にEトレンチを設定した。発掘調査は平成11年3月1日～5月25日に実施した。この間、4月27日に発掘調査の成果について

記者発表を行い、5月6日に現地で豆谷和之氏（奈良県田原本町教育委員会・元館員）による調査指導を受けた。調査面積はDトレンチ27.6m²、Eトレンチ234.9m²、Fトレンチ118.6m²（Aトレンチとの重複面積31m²）、合計381.1m²である。なお、調査区位置図以外の方針は磁北を示す。

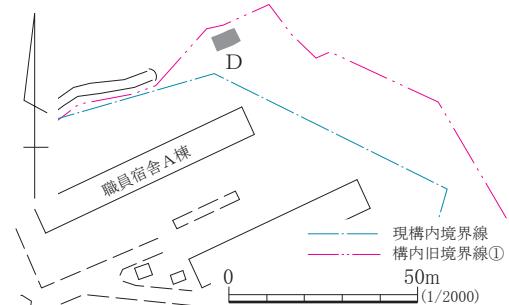


Fig.15 調査区位置図①

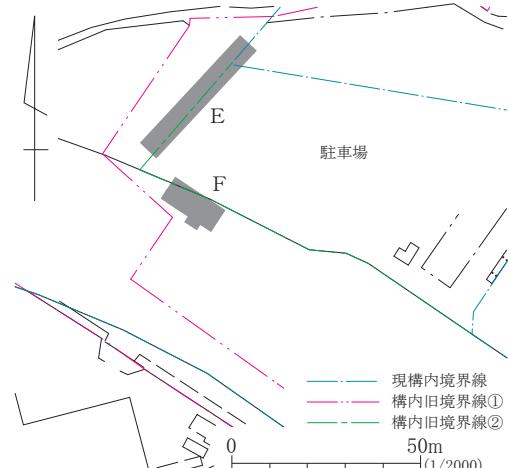


Fig.16 調査区位置図②

2 層序・遺構

(1) Dトレンチ (Fig.17, PL.10)

層序は、第1層：表土・造成土（層厚約66～114cm）、第2層：水田耕土（層厚9～52cm）、第3層：水田床土（灰茶褐色粘質土層厚19～30cm）、第4～7層（層厚80cm以上）：粘土・砂による堆積層である。他調査区と異なり、水田床土は1層であった。第5層：青灰色粘砂（層厚8～18cm）の検出標高は1.54mで、須恵器壺胴部片（Fig.25-

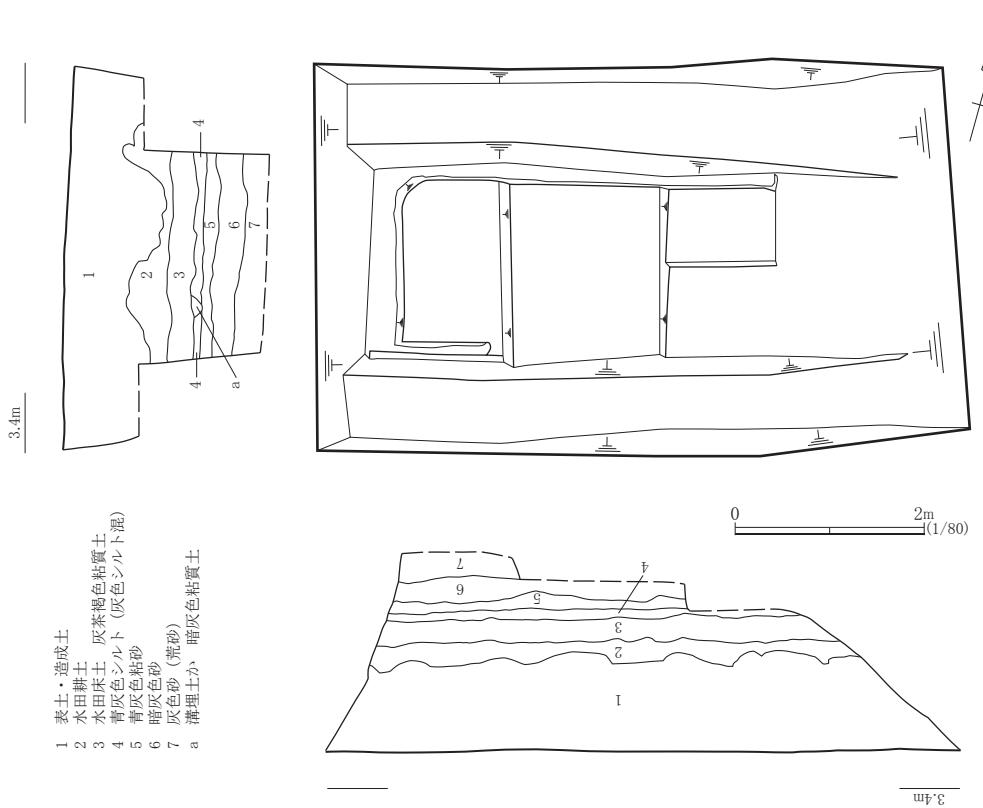


Fig.17 Dトレンチ平面図・断面図

1) が出土した。

遺構は、北西壁で第4層を検出面とする溝とみられる断面を確認したのみである。

(2) Eトレンチ (Fig.18～22, PL.11～12)

層序は、第1層：表土・造成土（層厚97～114cm）、第2層：水田耕土（層厚5～27cm）、第3層：水田床土I（暗茶褐色粘質土 層厚2～8cm）、第4層：水田床土II（灰茶褐色土 層厚3～11cm）、第5層（黃茶褐色粘砂 層厚2～4cm 整地土もしくは水田床土か）、第6～8層（層厚64cm以上）：粘土・砂による堆積層である。第5層は原図に記載がないが、堆積状況、土質・色調から水田耕作に伴う整地土もしくは床土と考えられる。第6層（青灰色粘砂 層厚16～28cm）は現地表下約1.3m、標高1.73mで検出し、縄文土器、弥生土器、土師器がややまとまって出土した。これらは小片主体であるが、摩滅が少ないとから調査区北側の丘陵部から流れ込み、比較的短期間での堆積が推測される。調査区北部では、縄文時代後期の鐘崎式土器深鉢1個体分（口径約32%残存）の破片が約100cm四方の範囲からまと

まって出土した(Fig22)。ただし、この深鉢の周辺からは弥生時代終末期から古墳時代前期の土器も出土していることから2次堆積と考えられる。また、第7層：黄灰褐色粘砂（黒褐色粘質土・青灰色粘土混）には部分的に腐植土層が含まれていた。遺構は検出されていない。

(3) Fトレーナ (Fig.23・24, PL.13～15)

前章報告Aトレーナの北部と重複する。層序は、第1層：表土・造成土（層厚100～116cm）、第2層：水田耕土（層厚7～18cm）、第3層：水田床土I（暗茶褐色粘質土 層厚2～6cm）、第4層：水田床土II（灰茶褐色土 層厚6～12cm）、第5層（黄茶褐色粘砂 層厚2～5cm 整地土もしくは水田床土か）、第6～8層（層厚42cm以上）：粘土・砂による堆積層である。第5層はEトレーナ第5層と同一層と考えられる。原図には記載がないが、Eトレーナと同様の状況から水田耕作に伴う整地土もしくは床土と考えられる。第6層は現地表下約1.3m、標高1.7mで検出した。Eトレーナ第6層と同一層とみられる。

調査区のほぼ全域において、第6層（青灰色粘砂 層厚3～22cm）、第7層（暗灰黄青色粘砂 層厚2～21cm）から土器片が出土した。多くは後者からの出土である。第6層は前章Aトレーナ7層、第7層は第14層に対応する。前章Aトレーナ調査時に、Fトレーナ第6層と第7層は色調の差はほとんどないが、第6層では粘性がやや強く粘土が混入するのに対して、第7層は砂質が強く、やや大きめの粗砂が混入することが確認されており、一連の堆積層と考えられる。第7層は調査区東部の第8層上に

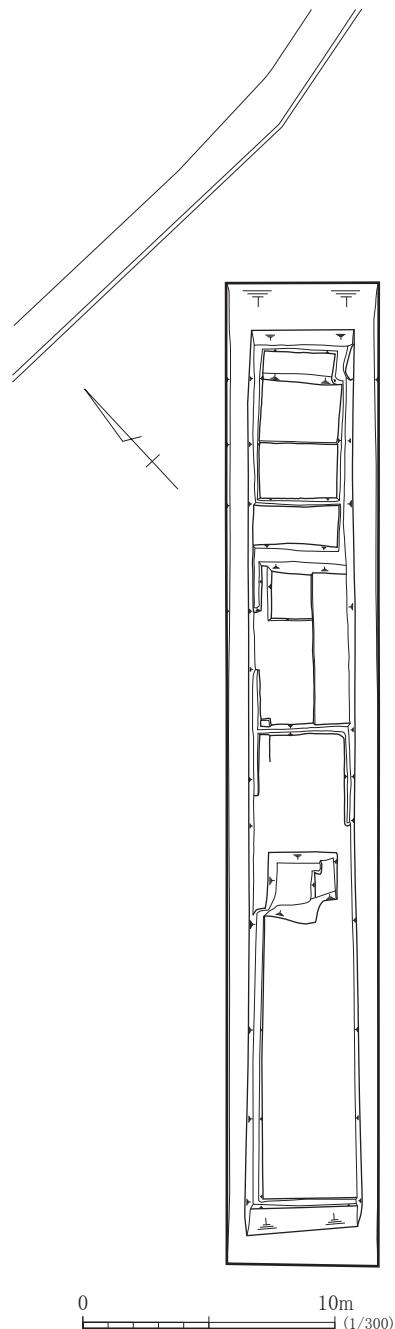


Fig.18 Eトレーナ設定位置図

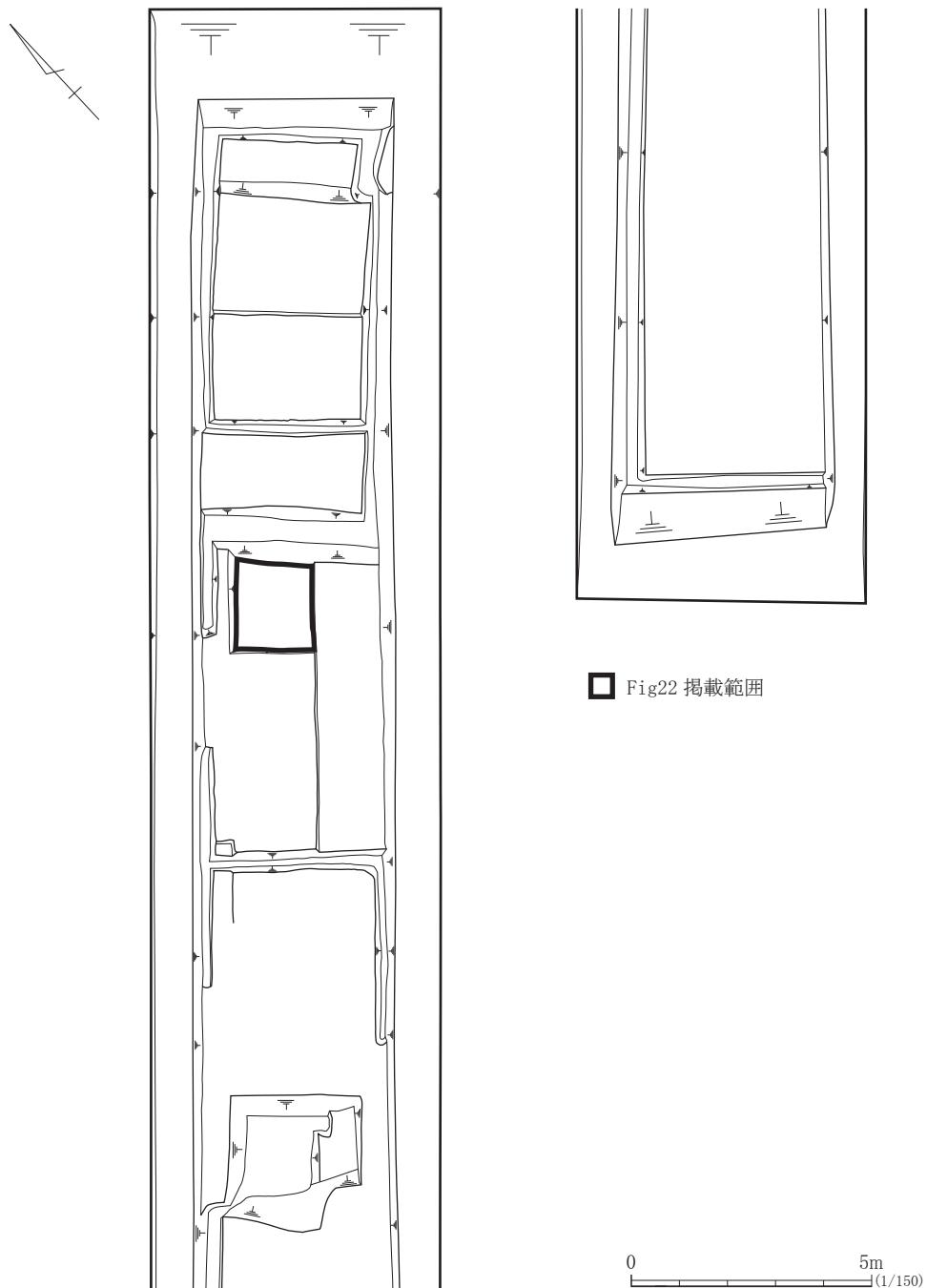


Fig.19 Eトレンチ平面図

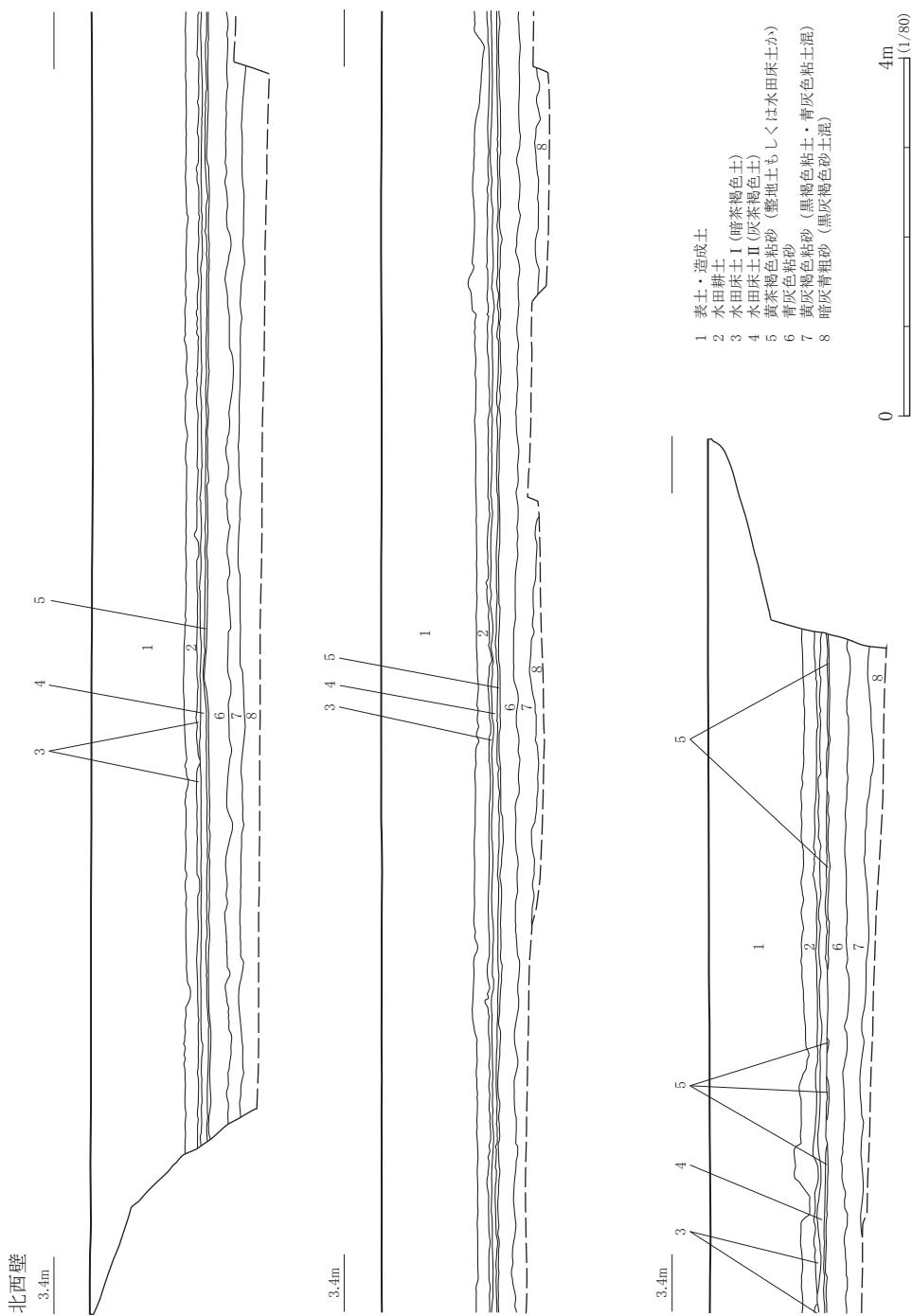


Fig.20 E トレンチ土層断面図

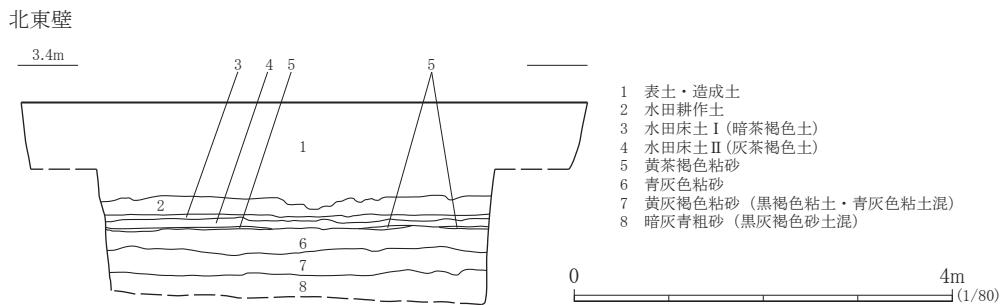


Fig.21 E トレンチ土層断面図 2

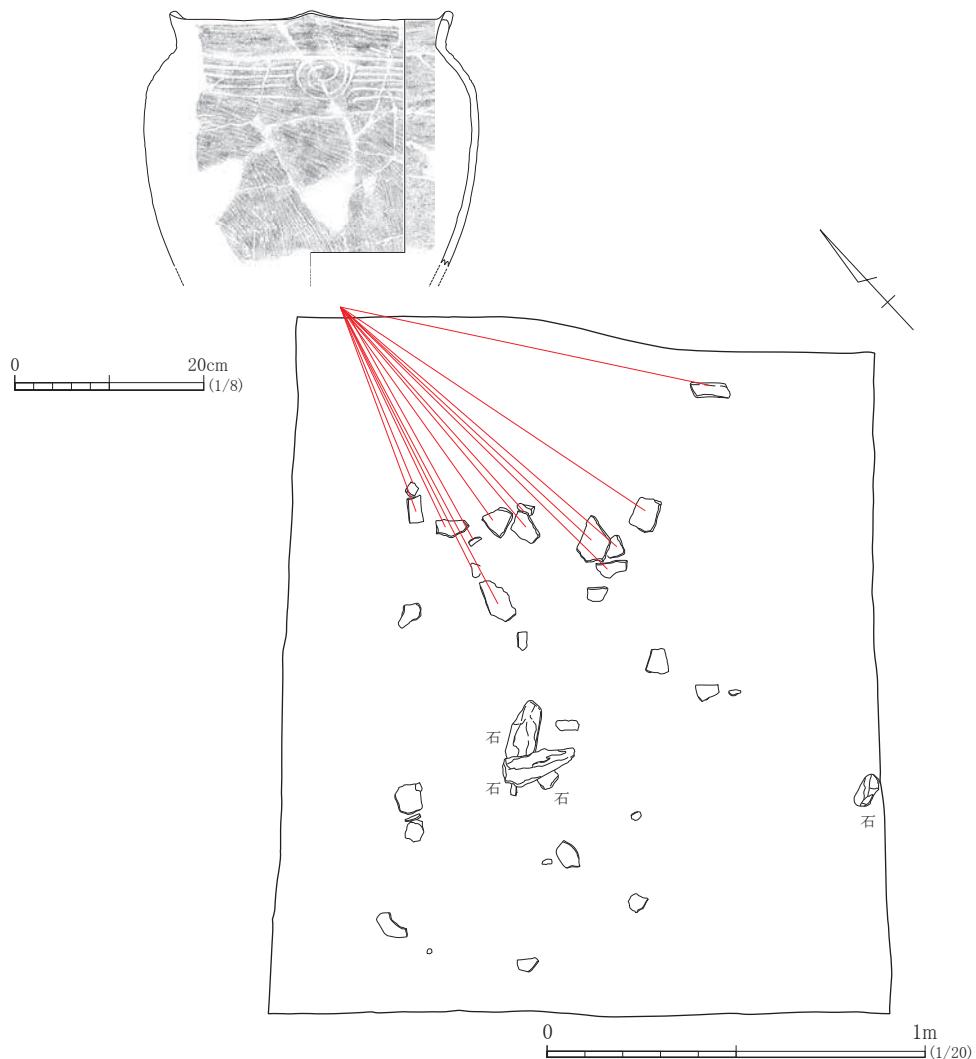


Fig.22 E トレンチ土器出土状況平面図

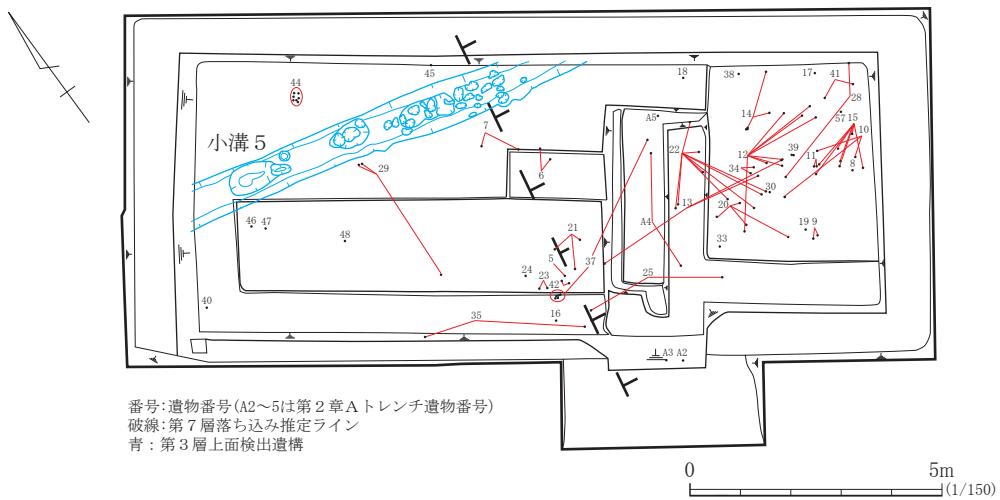


Fig.23 Fトレンチ平面図

西から東へ緩やかに傾斜して堆積している。北東壁では最深部までの距離が約350cmで、検出面の標高が1.57m、最深部の標高が1.34mで標高差は23cmである。また、調査区南西壁では検出面の標高が1.53m、最深部の標高が1.3mで、北東壁とは検出面において4cm、底面において4cmの標高差がある。以上から第7層は北東-南西方向に堆積したと考えられる。土器は調査区東部の第7層の落ち込み部分において分布密度がやや高く、相対的に大きい破片が多い傾向が認められた。第7層落ち込み推定ラインより西から出土した土器は概ね第6層、以東から出土した土器は概ね第7層からの出土である。第6・7層から出土した土器は弥生時代終末期から古墳時代前期が主体である。特に第7層落ち込み部分では若干の縄文土器(A2・3)以外は当該期のものである。一方、第7層落ち込み推定ラインより西からは須恵器(46)、中世の瓦質土器片(47・48)が少量出土した。摩滅する土器もあるが、全体的には摩滅が少ない傾向が認められることから調査区北側の丘陵部から流れ込んだ2次堆積層と考えられる。

遺構は水田耕作に伴うもので、第3層上面で溝1条を検出した。遺構名は前章からの連番である。

小溝5 (Fig.23, PL.13)

幅90cm、深さ31cm、南東-北西方向の溝である。北東壁断面では幅232cmで掘り直しが認められる。埋土から、弥生土器もしくは土師器片、中世瓦質土器の足鍋脚部、近世-近代の陶磁器片、剥片、用途不明木製品、用途不明鉄製品、釘が出土した。

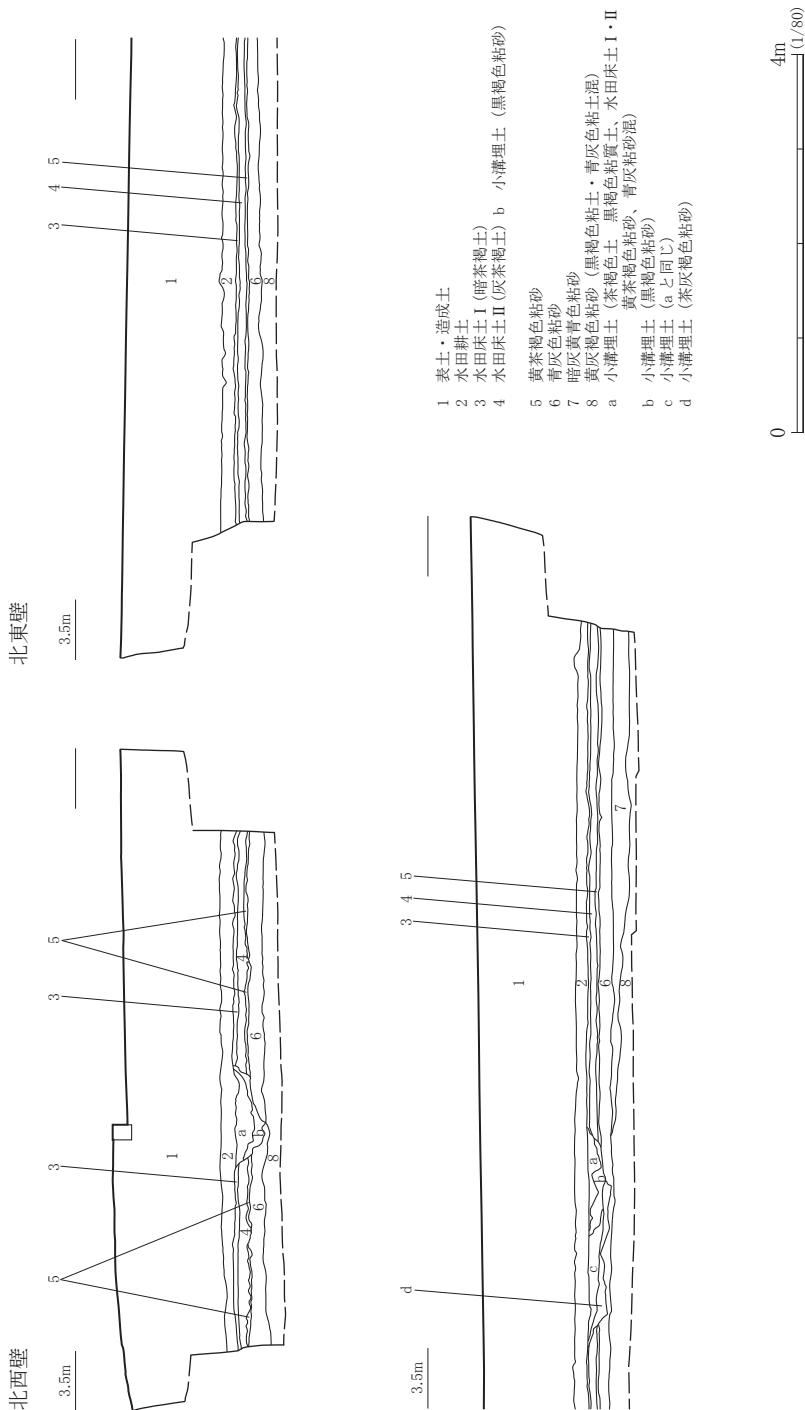


Fig.24 Fトレシチ土層断面図

3 遺物

以下で代表的な遺物を報告するが、水田耕土・床土、遺構から出土した近世以降の遺物については一部にとどめた。また、前章Aトレンチ出土土器のうち、Fトレンチ出土土器と接合する土器も報告する。

(1) 土器

Dトレンチ出土土器 (Fig.25-1, PL.16)

1は第5層(青灰色粘砂)出土の須恵器壺胴部。外面にロクロナデ、内面に回転ヘラケズリを施す。

Eトレンチ出土土器 (Fig.25-2・3, Fig.26-4, PL.16 ~ 18)

2~4は第6層(青灰色粘砂)出土。2は縄文時代後期の鐘崎式深鉢。復元口径は30cmで、現状で約32%残存する。口縁部は緩やかな波状口縁で口唇部に沈線を施す。口縁部から胴部上部には文様帯がある。主文様は渦巻文で、渦巻文の左側に5条、右側に6条の沈線を施す。口縁部外面は横方向の二枚貝腹縁による調整後、ヨコナデを施す。同内面は二枚貝腹縁による調整後、ヨコナデ・ヨコミガキを施す。胴部外面は左上がりの二枚貝腹縁による調整であるが、文様帯部分は丁寧にナデ消されている。同内面はやや摩滅するが、横方向の二枚貝腹縁による調整後、ヨコナデ・ヨコミガキを施す。3は縄文土器深鉢底部。底面は接合部で剥離する。外面は摩滅で調整不明。内面はナデ。4と同一個体か。4は縄文時代後~晚期の深鉢底部。外面はタテ・左上がり方向の巻貝による調整、内面は板状工具によるヨコ・左上がりのナデを施す。

Fトレンチ出土土器 (Fig.26-5 ~ Fig.30-53, PL.16・18 ~ 20)

4~48は第6層(青灰色粘砂)・7層(暗灰黄青色粘砂)出土土器。厳密な取り上げ層位が不明なため一括したが、前述のように第7層落ち込み部及びその近接部から出土した5~25・28・30・34・37~39・41・42は概ね第7層、それ以外の29・35・40・44~48は第6層からの出土である。

5は縄文時代後期の浅鉢口縁部。内傾して立ち上がる口縁部内外面に1条沈線を施す。

6~43は弥生時代終末期~古墳時代前期の土器。一部を除き厳密な時期区分が困難であるため、観察表では一括して「弥生~土師器」と表記する。当該期の土器は他にも多数出土しているが、大半は壺もしくは甕の胴部片である。比較的接合する破片もあるが、上下・傾き、器形の推定が困難なものは図化していない。

6・7は複合口縁壺口縁部。6は立ち上がり部が接合面で剥離する。外面には刻目が2

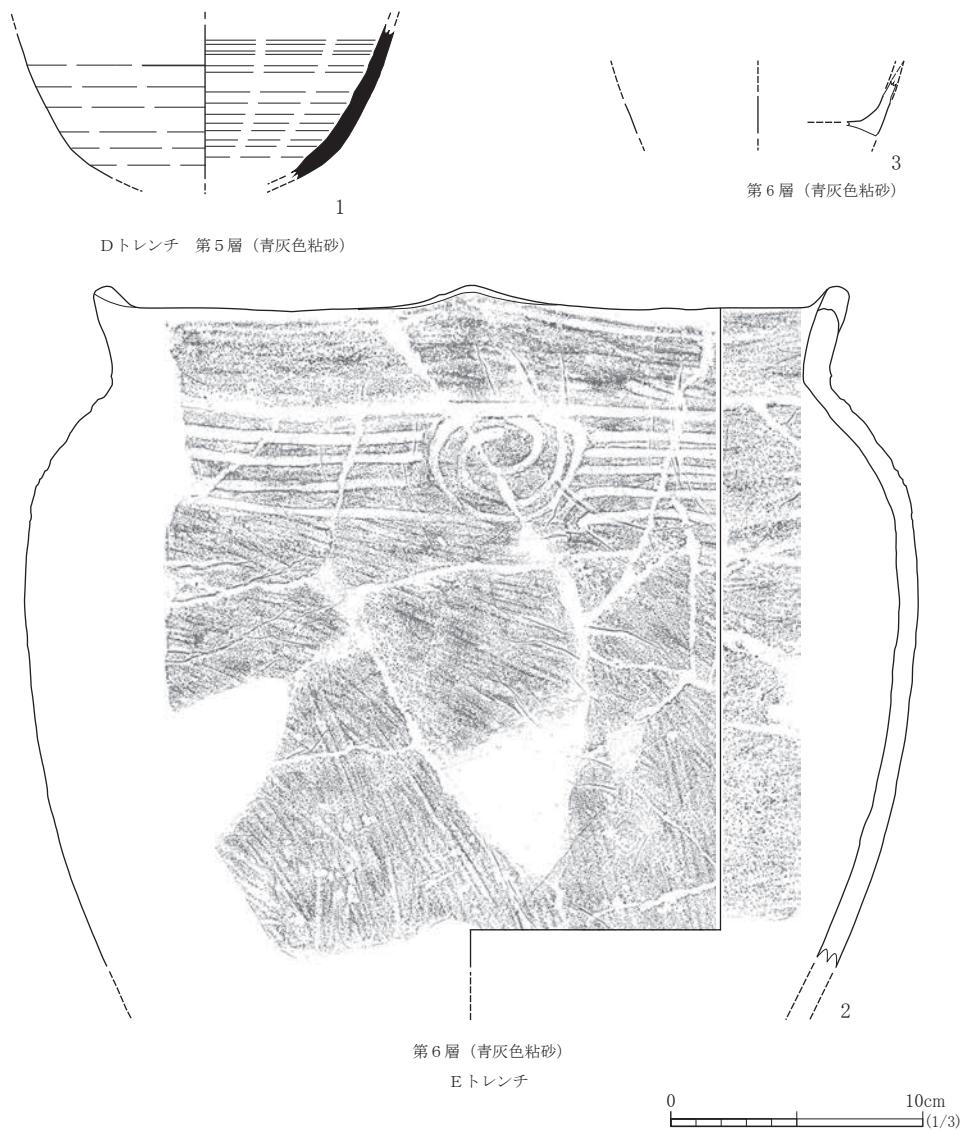


Fig.25 出土遺物実測図①(土器)

箇所残存する。7は口縁部先端をわずかに折り曲げ、口縁部内外面に左上がりのハケを施す。弥生時代終末期か。8・9は短頸壺。いずれも口縁部が短く立ち上がる。9は残存状況が良好で、口縁部外面にタテミガキ・胴部外面にヨコミガキ、口縁部・胴部内面にヨコミガキを施す。10は接合しないが9と同一個体か。11・12は丸底とみられる小型壺の胴部。11の上面は接合面で剥離する。外面は板状工具によるナデ、内面は左上がりのユビナデ。12は外面にヨコハケ、内面にタテハケ後、板状工具によるタテハケを施す。13は複合口

縁壺の胴部。外面に低い断面方形の突帯を貼り付け、板状工具による斜格子状の刻目を施す。外面・内面に左上がりのハケ・タテハケを施す。14は壺の胴部。玉形で上半外面は斜方向のハケ後ナデ、下半外面はタテハケ後ナデ、内面上半は左上がり・ヨコハケ、内面下半は左上がりのハケを施す。15は壺の底部。やや尖り気味の丸底である。弥生時代終末期か。外面は摩滅するが、一部で左上がりのハケが残存する。内面はヨコハケを施す。

16～19は甕の口縁部。16は口縁部がやや長く緩やかに外反する。在来系もしくはV様式系甕であろう。17・18は同一個体か。他にも同一個体とみられる破片がある。外面・内面に左上がりのハケ後にヨコナデを施す。接合関係はないが、20～32の伝統的V様式系甕の口縁部である可能性が高い。19は口縁部が内湾気味に立ち上がり、口唇部はナデにより凹んでいる。摩滅で調整は不明。布留式系であろう。

20～32は外面にタタキを施す甕の胴部。いずれも伝統的V様式系とみられる。20は長胴で、外面に右上がりのタタキ（1条 2.5～3mm 7mm / 2条）後、タテハケ、内面に右上がりのハケを施す。21は球胴で外面に平行・左上がりのタタキ（1条 1.5～2mm 3mm / 3条）後、左上がりのハケを施す。内面は左上がりのハケ後にナデを施す。外面全体が被熱しており、外面下半にはススが付着する。22は球胴で、外面は平行タタキ（1条 2mm 10mm / 3条）で、下半にはその後ナデを施す。内面はナデを施す。外面全体にススが付着する。23は外面に平行タタキ（1条 1.8mm 6.5mm / 3条）後左上がりハケ、内面に左上がりハケを施す。24は外面に平行タタキ（1条 1.8mm 8mm / 3条）後左上がりハケ、内面にヨコハケ後ナデを施す。25は外面に平行タタキ（1条 1.5mm 10mm / 3条）後左上がりハケ、内面にヨコハケ後ナデを施す。26は外面に平行タタキ（1条 1～2mm 10mm / 3条）、内面にナデを施す。27・28は同一個体か。27は外面に平行タタキ（1条 2～3.5mm 12～13mm / 3条）、内面に右上がりハケ後、下半にナデを施す。28は外面に平行・右上がりタタキ（1条 2～3.5mm 11～13mm / 3条）、内面に右上がりハケ後部分的にナデを施す。29は外面が摩滅している。平行タタキ（1条 2mm 9mm / 3条）後タテハケか。内面は右上がりハケを施す。30は外面に平行タタキ（1条 2mm 10mm / 3条）、内面にナデを施す。31は外面に平行タタキ（1条 2mm 9mm / 3条）、内面にナデを施す。32は外面に平行タタキ（1条 2～3mm 11mm / 3条）、内面にナデを施す。33～35は外面にタタキがない甕の口縁部下半～胴部。33は外面に左上がりハケ後、上半にはヨコナデ、内面にヨコハケを施す。34は口縁部外面下半・内面にヨコナデを施す。胴部外面の調整は不明（タテハケか）。胴部内面にはナデを施す。35は口縁部外面下半・内

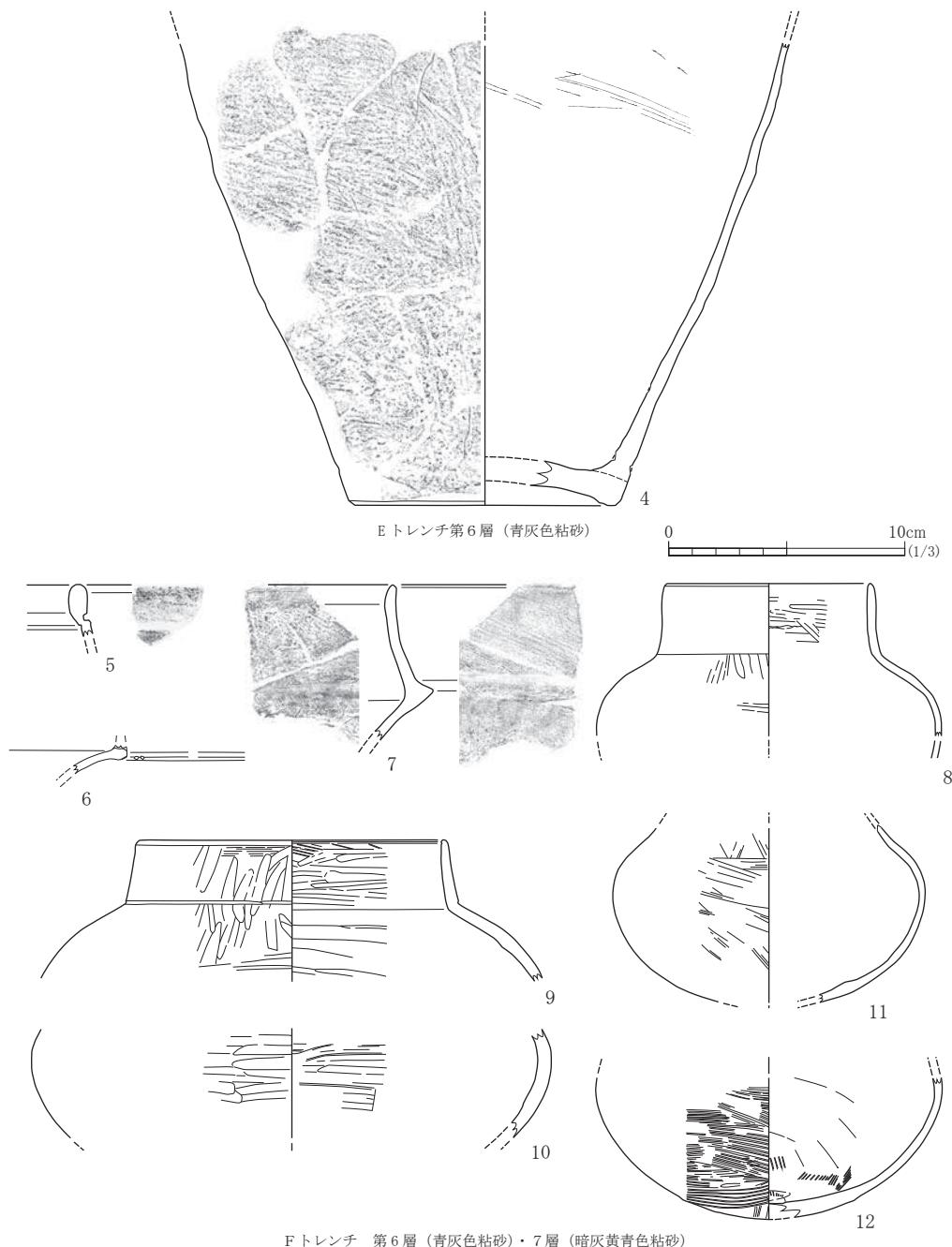
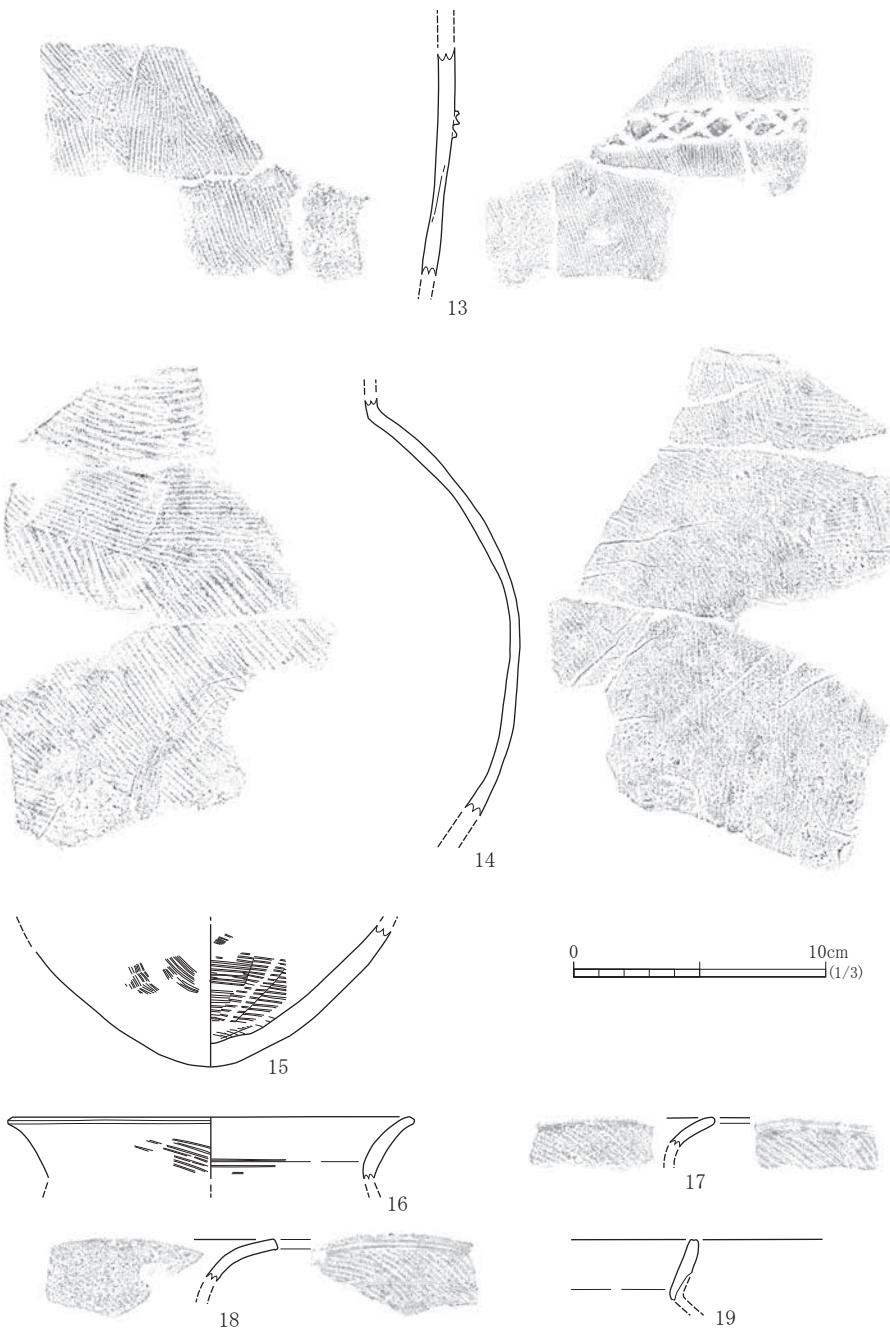


Fig.26 出土遺物実測図②(土器)

遺物



F トレンチ 第6層（青灰色粘砂）・7層（暗灰黄青色粘砂）

Fig.27 出土遺物実測図③(土器)

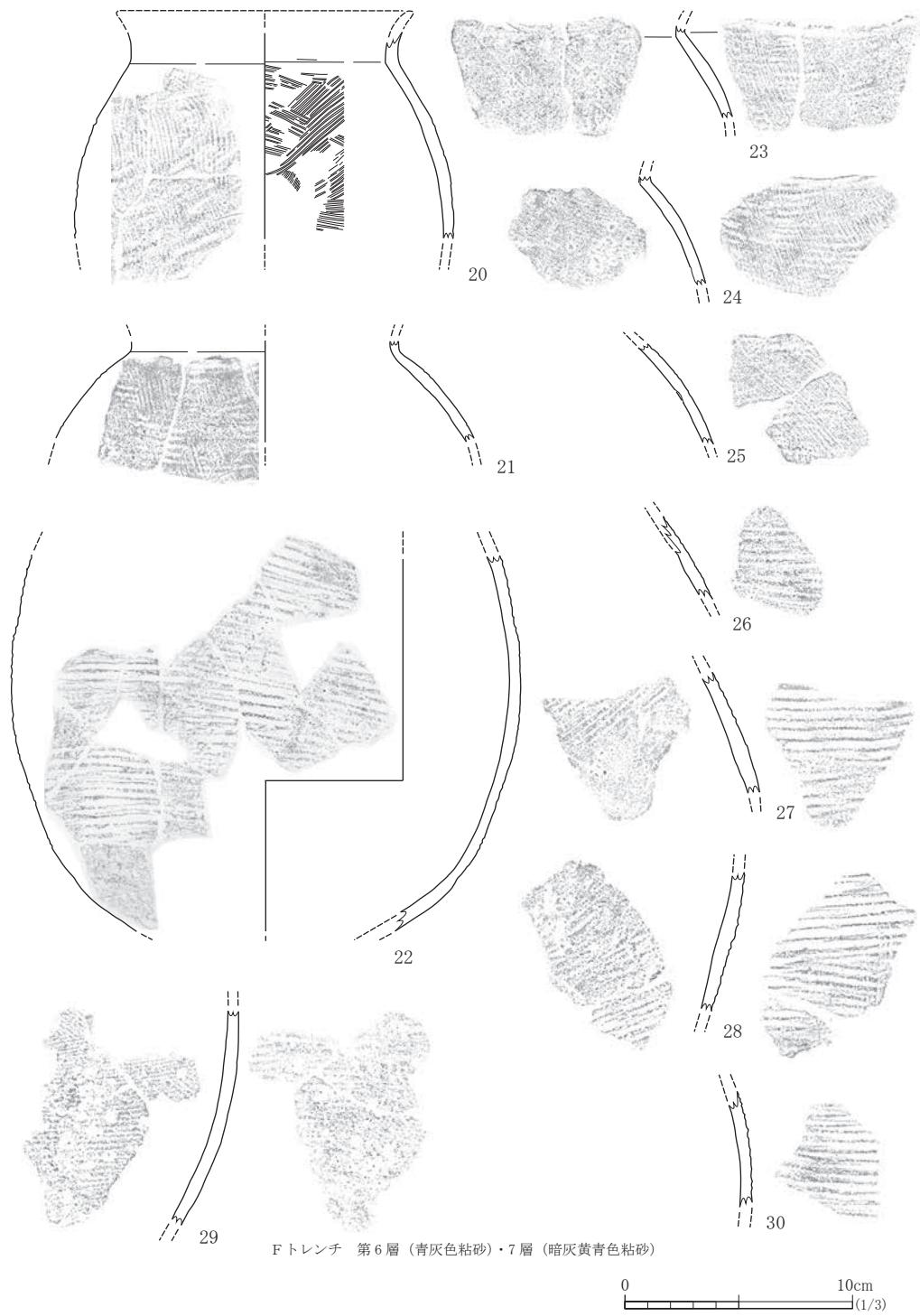


Fig.28 出土遺物実測図④(土器)

面にヨコナデを施す。胴部外面には板状工具によるナデ、胴部内面は左上がりハケ後、ナデを施す。

36・37 は甕の底部でいずれもやや尖り気味の丸底である。弥生時代終末期か。外面にナデ、内面にタテハケ後ナデを施す。37 の外面は下半に右上がりのタタキ（1条 / 2mm 9mm / 3条）、上半に平行タタキを施す。底面付近は被熱し、上半にはススが付着する。内面下半はヨコハケ後ナデ、上半にはケズリを施す。

38～40 は直口口縁の鉢。38 は丸底で外面はナデ、口縁部内面にヨコ・斜方向ミガキ、胴部内面に左上がりハケ後、ナデを施す。39 は口縁部外面・内面にヨコナデ、胴部外面に左上がりハケ、胴部内面にヨコ・左上がりハケを施す。

41 は鉢の胴部。口縁部下半の接合痕が観察できる。やや長い口縁部が想定できることから弥生時代終末期か。摩滅が顕著だが、外面の一部で左上がりのハケが観察できる。内面の調整はナデか。42 は壺もしくは鉢の底部。外面にタテミガキを施す。内面は摩滅するが、ケズリ後ナデか。

43～45 は高杯。43 は坏部。口縁部が長く緩やかに外反する形態から弥生時代終末期に位置づけられる。外面・内面とも左上がりハケ後、ヨコナデを施す。44～45 は形態的特徴から古墳時代中期に位置づけられる。同一個体か。44 は坏部。上部と下部は接合しないが同一個体として図上復元した。形態にやや歪みがあり、中位で屈曲し口縁部が直線的に外反する。また、先端はヨコナデによってわずかに折り曲げる。摩滅が著しく、外面の調整は不明。内面にはヨコハケ後ナデを施す。45 は脚部。裾は屈曲して開く。摩滅が著しく、外面の一部で左上がりのハケが観察できるほか、調整は不明。

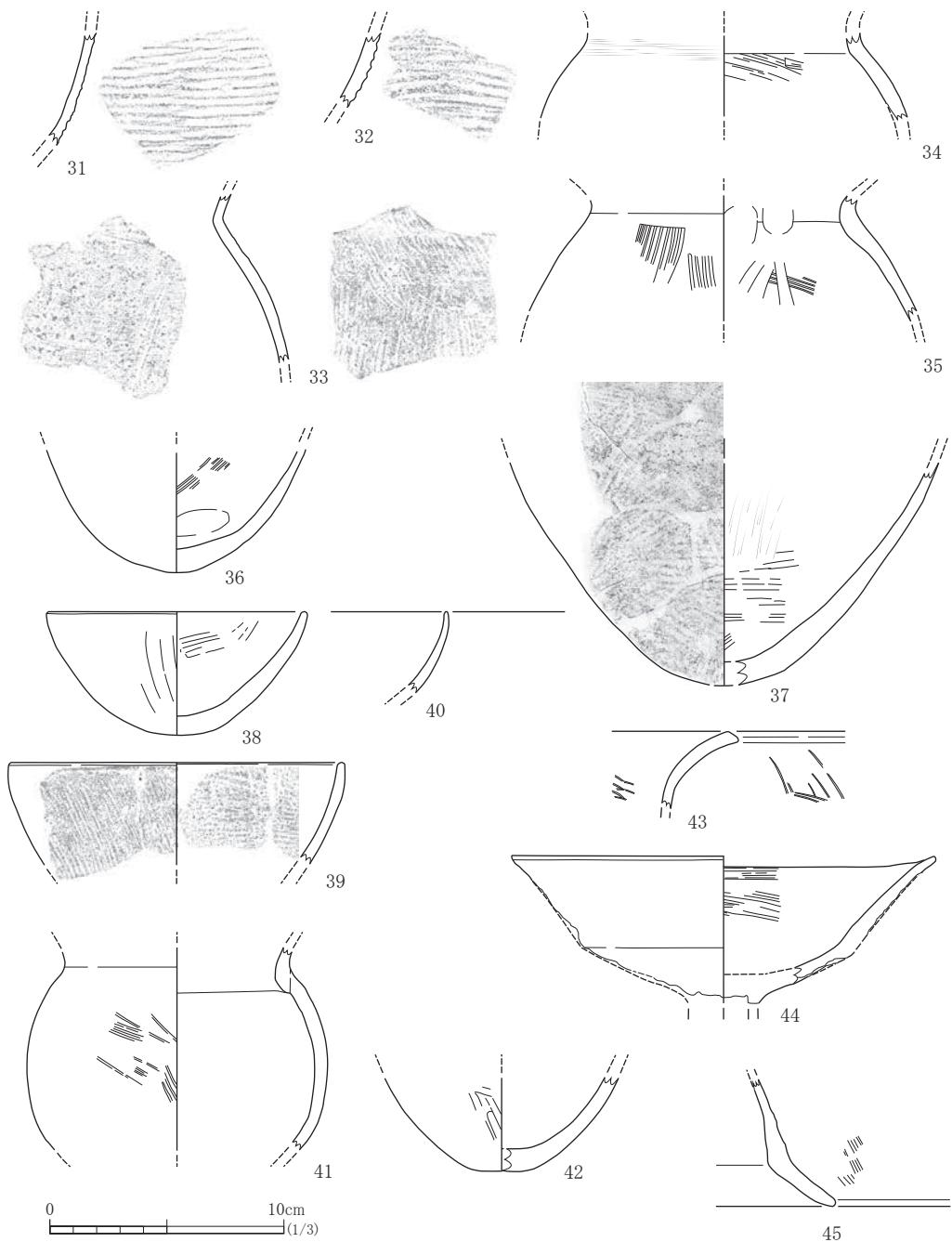
46 は須恵器甕胴部。外面に平行タタキ（1条 3mm 10.5mm / 3条）を施す。内面は輪状のあて具痕がある。

47 は瓦質土器足鍋の口縁部。摩滅が著しい。48 は中世瓦質土器の茶釜胴部。断面台形の锷を貼り付ける。外面にはススが付着する。

49 は第5層（黄茶褐色粘砂）、50 は第3・4層（床土）出土で、いずれも中世瓦質土器の足鍋口縁部。

51・52 は小溝5出土。51 は中世瓦質土器の足鍋脚部。52 は関西系陶器碗（端反碗）の口縁部。外面・内面に灰釉を施釉し、貫入がある。19世紀。

53 は第2層（水田耕土）出土の陶器底部。器種は壺や瓶などの可能性がある。底面に白い化粧土を塗り、墨書がある。墨書は上方が欠損しており判然としないが、最下部の字



F トレンチ 第6層（青灰色粘砂）・7層（暗灰黄青色粘砂）

Fig.29 出土遺物実測図⑤(土器)

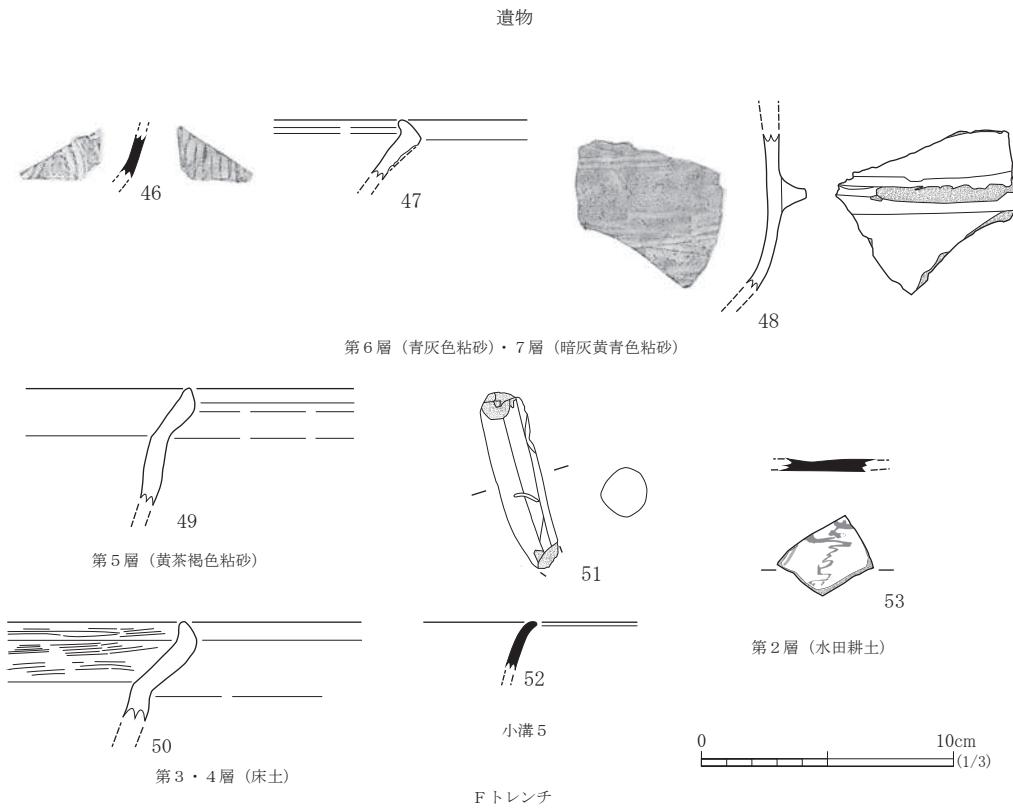


Fig.30 出土遺物実測図⑥(土器)

は「良」で、「■太良（郎）」「■一良（郎）」といった人名である可能性が高い。¹⁾

(2) 石器

Eトレンチ出土石器 (Fig.31-54 ~ 56, PL.21)

54・55は第3・4層(床土)出土。54は楔形石器、55は剥片で石質はいずれもメノウである。56は第6層出土の砥石で、正面・裏面・右側面・左側面を使用している。全体的にやや摩滅する。石質は石英斑岩。

Fトレンチ出土石器 (Fig.31-57, PL.21)

57は第6・7層出土の碇石。扁平な自然石を加工しており、中央部の上下端に溝(抉り)²⁾がある。形態は柱状不定形型に分類される。石質は黒雲母片岩で、最大長35.95cm、最大幅14.0cm、最大厚10.15cm、重量約7200gである。時期は不明。小型船に使用したものであろう。

(3) 錢貨 (Fig.31-58, PL.21)

58はEトレンチ第3・4層(水田床土)出土の寛永通宝で古寛永に相当する。内外面ともやや摩滅する。

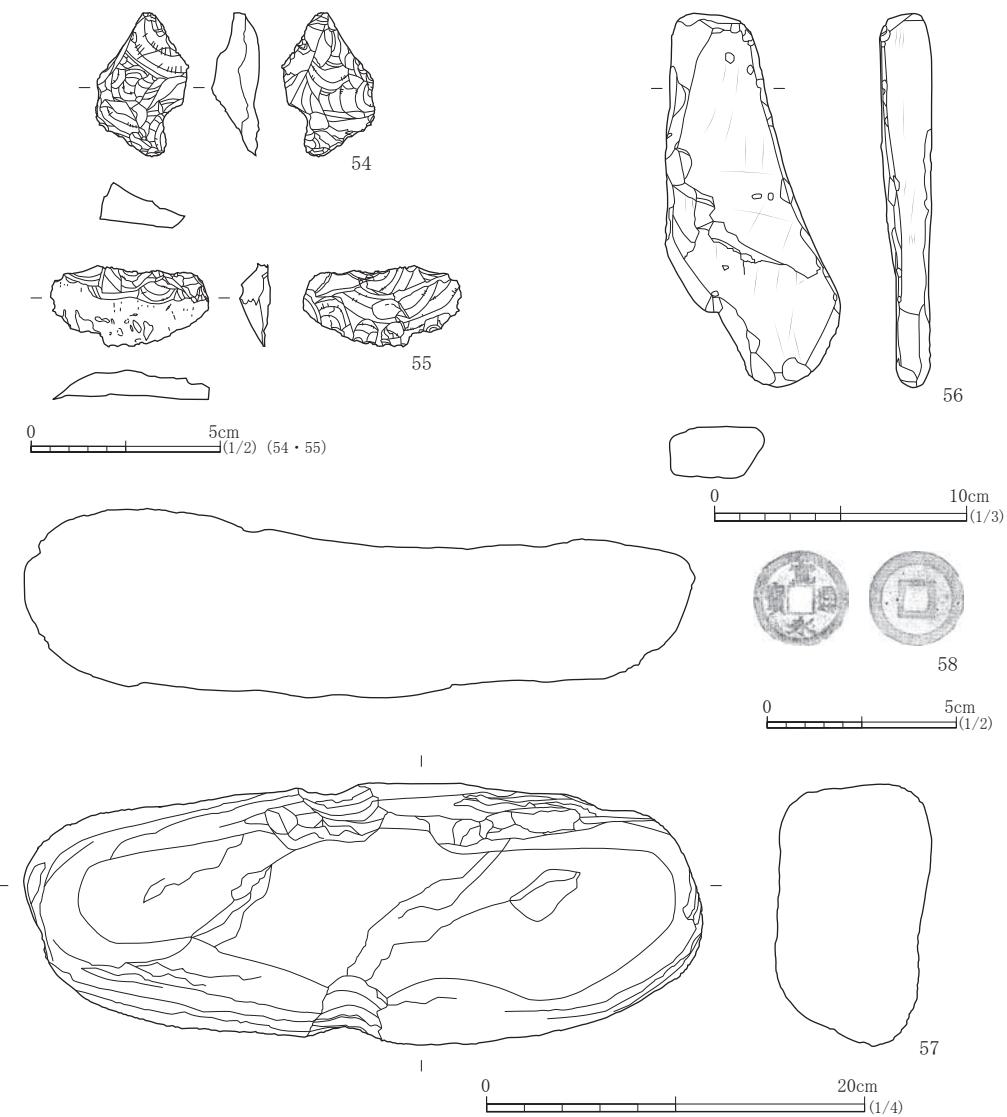


Fig.31 出土遺物実測図⑦(石器・銭貨)

4 小結

医学部構内は宇部市を南北に流れる真締川の右岸に面して位置する。近年の検討に基づき³⁾18世紀末以降の土地利用状況を簡潔にまとめる。近世文書「舟木宰判本控」所収の未ノ二月（寛政11年（1799）2月）の「御届申上候事」の記載から、真締川の河口部は土砂の流出により氾濫原の様相を呈していたが、同9年（1797）冬から同10年（1798）の

真締川河口付け替え工事により土地が安定し、同 11 年（1799）2 月に萩藩へ旧河口の耕地化の願い出があり、同年 4 月に萩藩によりこれが許可された。⁴⁾ 以後、海生砂層や土砂が堆積した脆弱な砂層の上に床土となる客土を盛ることによって耕地化された。その後、正確な年代は不明だが、A～C・E・F トレンチ周辺は山口県立医科大学学友会館建設以前の昭和 36 年（1961）頃、D トレンチ周辺では宿舎建設以前の昭和 43 年（1968）頃までは水田であったようである。既往の調査では水田床土から旧石器時代から近世に至る複数時期の遺物の出土が報告されている。また、検出される遺構は全て耕地化以降のものである。

次に耕地化以前の状況について述べる。水田床土より下の土層は砂・粘土による脆弱な堆積層である。これらの層では、地域医療教育研修センター敷地で縄文～奈良時代の土器が多数出土した事例があるが、多くの調査地において遺物の出土は散漫である。平成 10 年度調査では、A・F トレンチで少数の縄文土器、須恵器、瓦質土器と多数の弥生時代終末期～古墳時代前期の土器が出土した。その状況から、河川等の流れ込みによる二次堆積と考えられる。真締川関連の堆積作用は複雑であり、今後も古環境の変遷を踏まえた検討が必要である。

次に出土遺物について述べる。平成 10 年度の調査では縄文土器、弥生時代終末期～古墳時代前期の土器、近世～近代の陶磁器、時期不明の石器類、近世の錢貨、近世～近代の鉄製品等が出土した。このうち、メノウ製の石器については、旧石器時代のものが含まれると報告したが、今回の報告にあたり検討した結果、前章を含めて確実に旧石器時代に属するものは出土していないので訂正する。⁵⁾ E トレンチでは全形がうかがえる鐘崎式土器が 1 個体分出土した。鐘崎式土器は縄文時代後期中葉において東北部九州を中心に分布する土器である。宇部市では月崎遺跡でまとまって出土しており、月崎上層 I に相当する。月崎上層 I は鐘崎式系・瀬戸内系・南九州（綾式）系からなるが、潮見浩氏は後続の月崎上層 II にかけて、九州系土器の影響が著しいと指摘する。⁶⁾ また、幸泉文子氏によると医学部構内遺跡が位置する周防灘北岸地域では「鐘崎式系土器の存在は特殊ではなく、むしろ典型的な形のまま様式の一翼を担っていた」という基本的な評価は 60 年代から変わっていない」という。⁷⁾ 今回 E トレンチで出土した土器は縄文時代後期中葉における東北部九州との日常的な交流を裏付ける。

今回最も注目される遺物は弥生時代終末期～古墳時代前期の土器である。これまで宇部市では大須賀遺跡で当該期の石棺、土器棺が検出され、⁸⁾ 土器棺、供獻土器として使用された土器が出土しているほか、まとめた出土事例はなかった。今回の調査で出土した当該

期の土器は二次堆積ではあるが、集落遺跡由来のものとして注目される。伝統的V様式系の甕が多いのも周防地域をはじめ山口県内の他遺跡と共通する。以上から遺跡北方の丘陵上に当該期の集落遺跡が存在した可能性が高い。Fトレンチの北方約600mに位置する尾崎古墳¹²⁾（旧称：小串古墳群）では、箱式石棺が4基検出されたとされ、上記の遺跡は関連する集落遺跡であった可能性もある。

以上、平成10年度の調査では、これまでの医学部構内遺跡の評価を大きく変える多大な成果があった。

[注]

- 1) 墨書については山口大学経済学部 木部和昭教授にご教示いただいた。
- 2) 松岡史「碇石の研究」（『松浦党研究』2号、1981年）
- 3) 山口大学埋蔵文化財資料館「医学部基幹環境整備（地下オイルタンク他）工事に伴う試掘調査（『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成16年度－』、2006年）
- 4) 小川国治「近世村落の成立と発展」（『宇部市史』通史編上巻、1992年）
- 5) 山口大学埋蔵文化財資料館「医学部地域医療教育研修センター新営工事に伴う予備発掘調査」（『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成22年度－』）
- 6) 山口大学埋蔵文化財資料館「平成7・10～14年度山口大学構内遺跡調査の概要」（『山口大学構内遺跡調査研究年報XVI・XVII』、2004年）
- 7) 村田裕一氏のご教示による。
- 8) 潮見浩「宇部の縄文文化－月崎遺跡の縄文式土器について－」（『宇部の遺跡』、1968年）
- 9) 幸泉文子「中国地方における九州鐘崎式系縄文土器」（『地域・文化の考古学－下條信行先生退任記念論文集－』、2008年）
- 10) 藤田等「宇部の古墳文化」（『宇部の遺跡』、1968年）
- 11) 中野一人「本州西端地域の古式土師器資料（第一報）」（『山口県立山口博物館研究報告』第2号、1972年）
- 12) 山口県教育委員会『山口県文化財地図情報システム』、2008年
- 13) 注10) と同じ

出土遺物観察表

Tab.4 出土遺物観察表(土器)

法量()は復元値

遺物番号	出土地区・遺構	層位	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	色調 ①外面②内面	胎土	備考
1	Dトレンチ	第5層	須恵器 壺	胴部				①②灰色	0.5~2mmの砂粒を少量含む	
2	Eトレンチ	第6層	縄文土器 深鉢	口縁~胴部	(30.0)			①②灰オリーブ色	0.5~3.5mmの砂粒を多く含む	
3	Eトレンチ	第6層	縄文土器 深鉢	底部				①にぶい黄色 ②オリーブ黄色	0.5~3.5mmの砂粒を多く含む	4と同一か
4	Eトレンチ	第7層	縄文土器 深鉢	底部	(11.5)			①明赤褐色 ②にぶい黄橙色	0.5~6mmの砂粒を多く含む	3と同一か
5	Fトレンチ	第6・7層	縄文土器 浅鉢	口縁部				①にぶい黄橙色 ②浅黄色	0.5~3mmの砂粒を多く含む	
6	Fトレンチ	第6・7層	弥生~土師器 複合口縁壺	口縁部				①浅黄色 ②黄灰色	0.5~4mmの砂粒を多く含む	
7	Fトレンチ	第6・7層	弥生~土師器 複合口縁壺	口縁部				①暗灰色 ②灰白色	0.5~3mmの砂粒を多く含む	
8	Fトレンチ	第6・7層	弥生~土師器 壺	口縁~胴部	(8.6)			①②灰オリーブ色	0.5~5.5mmの砂粒を多く含む	
9	Fトレンチ	第6・7層	弥生~土師器 壺	口縁~胴部	(13.2)			①にぶい黄橙色 ②浅黄色	0.5~3mmの砂粒を多く含む	10と同一か
10	Fトレンチ	第6・7層	弥生~土師器 壺	胴部				①にぶい黄色 ②浅黄色	0.5~2mmの砂粒を多く含む	9と同一か
11	Fトレンチ	第6・7層	弥生~土師器 壺	胴部				①灰色 ②灰色・黒色	0.5~5mmの砂粒を多く含む	
12	Fトレンチ	第6・7層	弥生~土師器 壺	胴部				①浅黄色 ②灰黄色	0.5~4mmの砂粒を多く含む	
13	Fトレンチ	第6・7層	弥生~土師器 壺	胴部				①灰黄色 ②黄灰色	0.5~2mmの砂粒を多く含む	
14	Fトレンチ	第6・7層	弥生~土師器 壺	胴部				①浅黄色 ②灰白色	0.5~3mmの砂粒を多く含む	
15	Fトレンチ	第6・7層	弥生~土師器 壺	胴~底部				①オリーブ黄色 ②灰白色	0.5~5mmの砂粒を多く含む	
16	Fトレンチ	第6・7層	弥生~土師器 壺	口縁部	(15.8)			①②灰黄色	0.5~3mmの砂粒を多く含む	
17	Fトレンチ	第6・7層	弥生~土師器 壺	口縁部				①灰黄色 ②灰白色	0.5~2.5mmの砂粒を多く含む	18と同一か
18	Fトレンチ	第6・7層	弥生~土師器 壺	口縁部				①②にぶい黄橙色	0.5~3mmの砂粒を多く含む	17と同一か
19	Fトレンチ	第6・7層	土師器 壺	口縁部				①灰黄色 ②にぶい黄色	0.5~3mmの砂粒を多く含む	
20	Fトレンチ	第6・7層	弥生~土師器 壺	胴部				①にぶい黄橙色	0.5~6mmの砂粒を多く含む	
21	Fトレンチ	第6・7層	弥生~土師器 壺	胴部				①浅黄色 ②褐灰色	0.5~3mmの砂粒を多く含む	
22	Aトレンチ Fトレンチ	第6・7層	弥生~土師器 壺	胴部				①にぶい黄色 ②灰黄色	0.5~3mmの砂粒を多く含む	
23	Fトレンチ	第6・7層	弥生~土師器 壺	胴部				①②灰黄色	0.5~2mmの砂粒を多く含む	
24	Fトレンチ	第6・7層	弥生~土師器 壺	胴部				①灰黄色 ②灰白色	0.5~4mmの砂粒を多く含む	
25	Fトレンチ	第6・7層	弥生~土師器 壺	胴部				①暗灰色 ②灰黄色	0.5~5mmの砂粒を多く含む	
26	Fトレンチ	第6・7層	弥生~土師器 壺	胴部				①灰オリーブ色 ②オリーブ黄色	0.5~3mmの砂粒を多く含む	
27	Fトレンチ	第6・7層	弥生~土師器 壺	胴部				①浅黄色 ②浅黄橙色	0.5~4mmの砂粒を多く含む	28と同一か
28	Fトレンチ	第6・7層	弥生~土師器 壺	胴部				①②にぶい黄橙色	0.5~4mmの砂粒を多く含む	27と同一か
29	Fトレンチ	第6・7層	弥生~土師器 壺	胴部				①赤褐色 ②にぶい黄色	0.5~8mmの砂粒を多く含む	
30	Fトレンチ	第6・7層	弥生~土師器 壺	胴部				①②灰黄色	0.5~2mmの砂粒を多く含む	
31	Fトレンチ	第6・7層	弥生~土師器 壺	胴部				①褐色 ②にぶい黄色	0.5~5mmの砂粒を多く含む	
32	Fトレンチ	第6・7層	弥生~土師器 壺	胴部				①にぶい黄色 ②灰黄色	0.5~2mmの砂粒を多く含む	
33	Fトレンチ	第6・7層	弥生~土師器 壺	口縁部下半~胴部				①灰黄色 ②灰白色	0.5~3mmの砂粒を多く含む	

宇部市土地区画整理事業（柳ヶ瀬丸河内線・医学部敷地西側特殊道路）に伴う発掘調査

遺物番号	出土地区・遺構	層位	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	色調 ①外面②内面	胎土	備考
34	Fトレンチ	第6・7層	弥生～土師器	甕	口縁部下半～胴部			①黄灰色 ②灰黄色	0.5～4mmの砂粒を多く含む	
35	Fトレンチ	第6・7層	弥生～土師器	甕か	口縁部下半～胴部			②灰黄色	0.5～3mmの砂粒を多く含む	
36	Fトレンチ	第6・7層	弥生～土師器	甕	底部			①浅黄色 ②暗灰黄色	0.5～3mmの砂粒を多く含む	
37	Aトレンチ Fトレンチ	第6・7層	弥生～土師器	甕	胴～底部			①灰オリーブ色 ②暗灰黄色	0.5～5mmの砂粒を多く含む	
38	Fトレンチ	第6・7層	弥生～土師器	鉢	口縁～底部	(11.2)	3.1	5.3	①灰黄色 ②灰白色	0.5～5mmの砂粒を多く含む
39	Fトレンチ	第6・7層	弥生～土師器	鉢	口縁部	(14.4)		①褐灰色 ②灰黄色	0.5～2mmの砂粒を多く含む	
40	Fトレンチ	第6・7層	弥生～土師器	鉢	口縁部			①にぶい橙色 ②灰褐色	0.5～4mmの砂粒を多く含む	
41	Fトレンチ	第6・7層	弥生～土師器	鉢	胴～底部			①淡黄色 ②灰色	0.5～4mmの砂粒を多く含む	
42	Fトレンチ	第6・7層	弥生～土師器	壺もしくは鉢	底部		2.8		①②灰黄色・黒色	0.5～6mmの砂粒を多く含む
43	Fトレンチ	第6・7層	弥生土器	高杯	杯部			①にぶい黄橙色 ②浅黄橙色	0.5～3mmの砂粒を多く含む	
44	Fトレンチ	第6・7層	弥生～土師器	高杯	杯部	18.1		①淡黄色 ②灰オリーブ色	0.5～5mmの砂粒を多く含む	45と同一か
45	Fトレンチ	第6・7層	弥生～土師器	高杯	脚部			①橙色 ②灰黄色	0.5～4mmの砂粒を多く含む	44と同一か
46	Fトレンチ	第6・7層	須恵器	甕	胴部			①②灰色	0.5～5mmの砂粒を少量含む	
47	Fトレンチ	第6・7層	瓦質土器	足鍋	口縁部			①橙色 ②灰オリーブ色	0.5～2mmの砂粒を多く含む	
48	Fトレンチ	第6・7層	瓦質土器	茶釜	胴部			①灰黄色 ②灰色	0.5～7mmの砂粒を多く含む	
49	Fトレンチ	第5層	瓦質土器	足鍋	口縁部			①灰黄色 ②灰白色	0.5～3mmの砂粒を多く含む	
50	Fトレンチ	床土	瓦質土器	足鍋	口縁部			①灰白色 ②浅黄色	0.5～2mmの砂粒を多く含む	
51	Fトレンチ	小溝5	瓦質土器	足鍋	脚部			①②灰白色	0.5～2mmの砂粒を多く含む	
52	Fトレンチ	小溝5	陶器	碗	口縁部			素地：淡黄色 釉：灰色・透明	精良	関西系
53	Fトレンチ	水田耕土	陶器	不明	底部			素地：にぶい橙色 釉：灰白色	精良	墨書きあり

Tab.5 出土遺物観察表(石器・錢貨)

遺物番号	出土地区・遺構	層位	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石質	備考
54	Eトレンチ	第3・4層 (水田床土)	楔形石器	3.82	2.49	1.29	7.45	メノウ (玉髓)	
55	Eトレンチ	第3・4層 (水田床土)	剥片	2.2	4.2	0.82	6.8	メノウ (玉髓)	
56	Eトレンチ	第6層	砥石	14.9	7.0	2.1	236.52	石英斑岩	
57	Fトレンチ	第6・7層	碇石	35.95	14.0	10.15	約7200	黒雲母片岩	
58	Eトレンチ	第3・4層 (水田床土)	銅錢 「寛永通宝」	直径2.53	孔辺0.6	2.4		青銅	

第4章 吉田構内第2学生食堂の増築及び改修工事に伴う発掘調査

第1節 事前調査

1 調査の経過

平成6年度に吉田構内の第2学生食堂の増築及び改修工事が計画され、埋蔵文化財資料館運営委員会が審議した結果、試掘調査が必要との判断が下された。上記を受け、埋蔵文化財資料館が平成7年7月24～8月17日に試掘調査を実施した。試掘調査は食堂の東側にAトレーナー、南側にBトレーナーを設定して行った(Fig. 33)。調査の結果、Aトレーナーでは遺物包含層はなく、現地表下約60cmで遺構面を検出した。また、顕著な遺構は認められず、土師器や須恵器などの遺物が少量出土するにとどまった。Bトレーナーでも遺物包含層はなかったが、トレーナー北部では現地表下約60cmの遺構面上で柱穴を2基検出した。また、柱穴埋土から須恵器・石鏃も出土した。一方トレーナー南部では旧地形を斜方向に削平していることが確認されたため、周辺では遺構が残存する可能性が低いと推測された。ただし、Bトレーナー北部で検出された2基の柱穴は堅穴住居跡もしくは掘立柱建物跡の柱穴とみられ、調査区外に未検出の柱穴が存在する可能性が高いと推測された。上記の調査結果について埋蔵文化財資料館運営委員会が審議した結果、Bトレーナーで検出された柱穴に伴う遺構の平面プランと関連する遺構の分布を確認するため、事前調査が必要であるとの判断が下された。

その後、平成10年度補正予算で予算措置され、計画が具体化したことから事前調査を実施することになった。調査期間は平成11年1月18～28日、2月9～5月20日で、調査面積は716.3m²である。調査前の食堂には建物南側にテラス・植樹があり、空閑地は南側へ傾斜していた(PL. 23)。試掘調査の結果から、遺構が希薄であることが推測されたため、テラス・植樹を避け、A～Dトレーナーを設定した。Fig. 32・33



Fig.32 調査区位置図

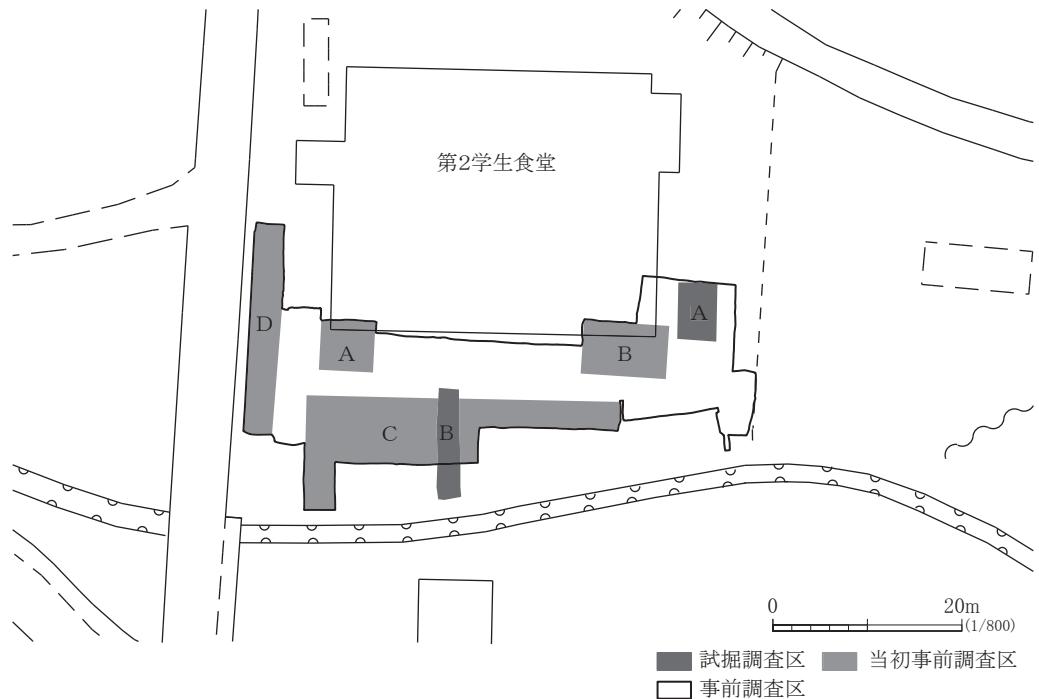


Fig.33 調査区設定図

では建物と調査区が一部で重複するが、上記は調査区が建物基礎に近接するのに対して、Fig. 32・33 では建物が庇を含めて平面的に図化されているためである。1月18日より調査を開始した結果、A・B・Dトレーニチでは遺構が希薄であったが、Cトレーニチ西部では遺物包含層、溝（SD1）を確認し、調査区外にも広がっていることが確実視された。このため、工事計画の変更・保存の可能性について担当部局と協議を行った。しかし、本工事は建物増築という性格上、工事計画の変更は困難であるため、記録保存を目的とした全面調査に切り替えることになった。上記を受け、作業員を増員して2月9日から全面調査を実施した。調査時は食堂が営業中で各種配管を残す必要があったため、テラス・植樹の撤去やその後の遺構掘削に多大な支障が生じたが、調査区西部から調査を進めて4月14・15日に空撮・写真測量を行った。調査区の大半は4月27日までに埋め戻し、4月28日に埋蔵文化財資料館運営委員会で調査結果が諮られ、承認された。また、調査区南東隅では敷地内でさらに遺構が広がる状況が確認されたため、工事と並行して5月20日まで追加調査¹⁾を行った。調査期間の大半は前章報告の小串構内の調査と重複したこともあり、5月中旬は館員全員が発掘調査に従事する事態となった。調査終了後、6月1日に埋蔵文化財資料館運営委員会に調査報告を行い、同日記者発表も行った。

2 基本層序 (Fig.34 ~ 36, PL.27・28)

第2学生食堂敷地は姫山の北から南へ延びる支脈である通称「もり山」の南端部の緩傾斜面で、統合移転前は棚田であった。第2学生食堂付近は吉田遺跡調査団によって第1地区E区²⁾とされ、発掘調査を経て造成工事が行われた。今回調査区は調査前まで食堂南側のテラス・植樹帯・空閑地であった。

基本層序は第I層：表土、第II層：造成土、第III層：水田耕土、第IV層：水田床土、第V層：遺物包含層、第VI層：弥生時代以降の遺構面形成層である。調査区は北から南へ傾斜する地形である。第I・II層の層厚は5~120cmで、遺構検出面である第VI層上面の標高は約23.25~22.25mである。第VI層の層厚と断面図記載以外の第VI層の記載は省略する。

調査区西端（当初調査Dトレンチ A-B断面、C-D断面）では、構内道路造成に伴う削平により、東から西側へ傾斜する。第II層以下は一部で第III-1層が残存していたが、主に第VI-1層（黄褐色粘質土）、第VI-2層（明赤褐色（5YR5/8）土）、第VI-3層（黄橙色（10YR8/8）粘質土）が検出された。

既設建物南西側（当初調査Cトレンチ北西部～SD1間）の第III層以下の層序は、第III-1層（緑灰色（5G6/1）土 層厚3~9cm）、第V-1層（褐灰色（10YR6/1）土 層厚6~13cm）、第VI-2層（明赤褐色（5YR5/8）土）である。第V-1層は部分的にSD1の上面にも堆積しており、層中より須恵器、土師器塊、青磁、白磁片等が出土した。また、同層を検出面として土坑を2基検出した。第VI-2層上面は鉄・マンガンの沈着が顕著で遺構検出に困難をきたしたが、多数の遺構を検出した。また、SD1上層上面でも中・近世の柱穴・土坑を検出した。一方南半は削平が著しく、第II層直下が第VI-3層（黄橙色（10YR8/8）土）で、同層上面でピットを少数検出するにとどまった。

既設建物南側隣接部（当初調査A～Bトレンチ間）の第III層以下の層序は第III-2層（緑灰色（5G5/1）粘質土 層厚12~37cm）・III-3層（にぶい黄色（2.5Y6/4）シルト 層厚49~60cm）、第VI-4層（黄色（2.5Y8/8）粘質土）である。第V層はなく第III-3・4層直下では部分的に第IV-1層（浅黄色（5Y7/4）粘質土 層厚3~9cm）が検出された。また、当初Cトレンチ東部では第II層の直下が第VI層であった。

既設建物東側隣接部（試掘調査Aトレンチ周辺）の第III層以下の層序は、第III-4層（緑灰色（7.5GY6/1）粘質土 層厚10~24cm）、第VI-5層（黄橙色（7.5YR7/8）粘質土）・第VI-6層（にぶい黄橙色（10YR7/4）粘質土）である。既設建物南側・東側隣接部で検出された遺構は近世以降の水田関連遺構が目立ち、中世以前の遺構の分布は希薄であった。

第2学生食堂の増築及び改修工事に伴う発掘調査

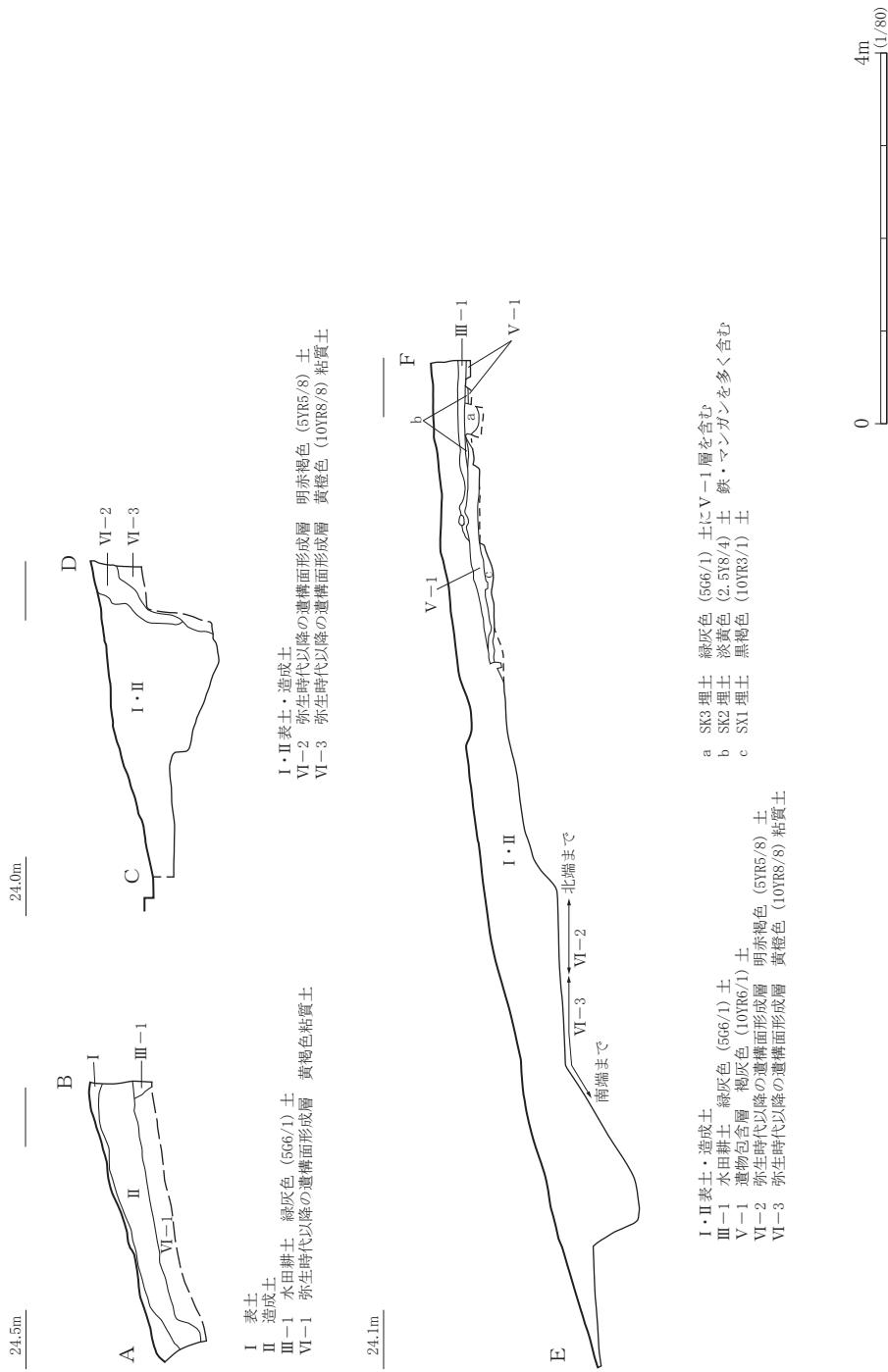


Fig.34 調査区土層断面図①

基本層序

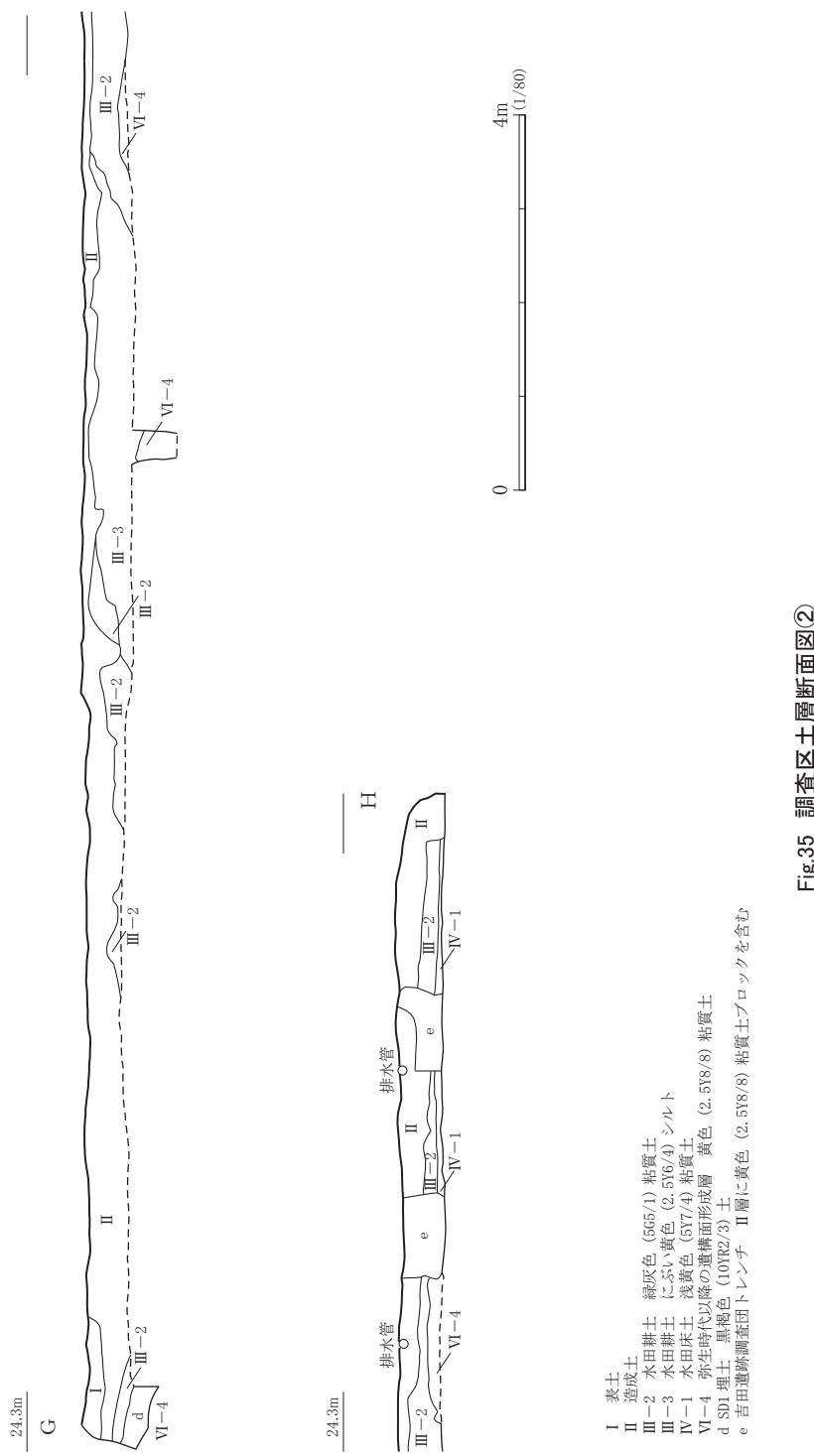


Fig.35 調査区土層断面図(2)

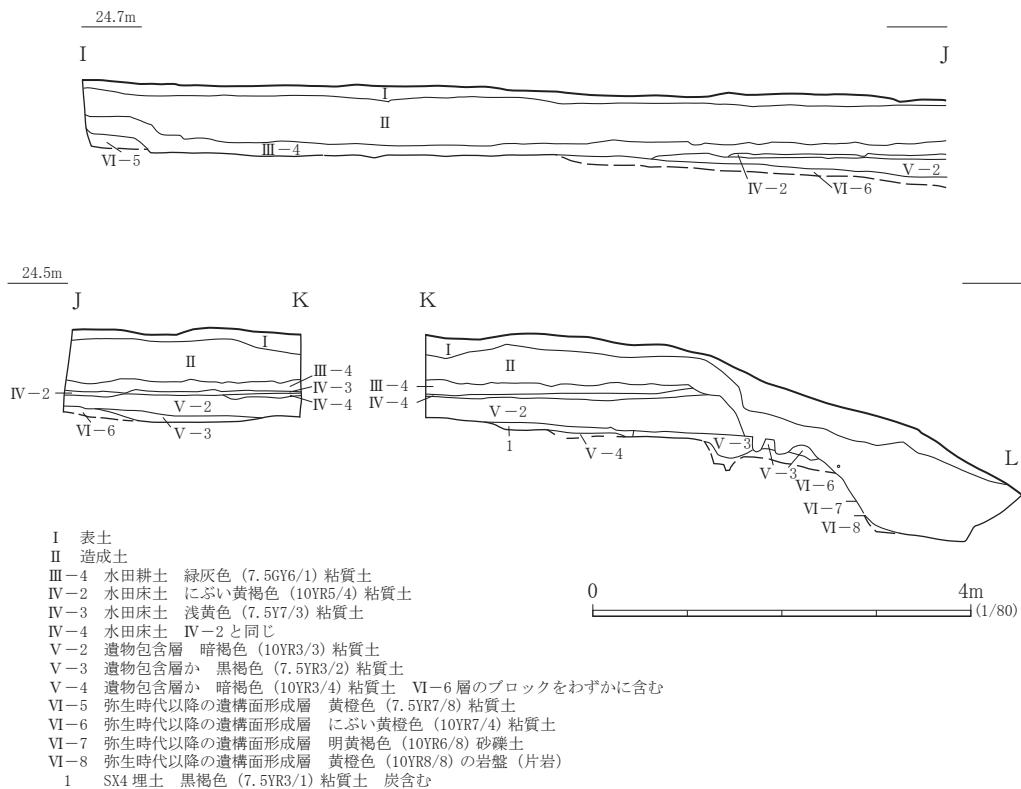


Fig.36 調査区土層断面図③

恐らく、水田造成時に削平を受けたと考えられる。

調査区南東部（I - J 断面）の第III層以下の層序は第III-4層（緑灰色 (7.5GY6/1 層厚4～14 cm) 粘質土、第IV-2層（にぶい黄褐色 (10YR5/4) 粘質土 層厚2～6 cm）、第IV-3層（浅黄色 (7.5Y7/3) 粘質土 層厚3～5 cm）、第IV-4層にぶい黄褐色 (10YR5/4) 粘質土 層厚3～6 cm）、第V-2層（暗褐色 (10YR3/3) 粘質土 層厚4～41 cm）、第V-3層（黒褐色 (7.5YR3/2) 粘質土 層厚3～25 cm）、第V-4層（暗褐色 (10YR3/4) 土 VI-6層のブロックをわずかに含む 層厚6 cm以上）、第VI-6層（にぶい黄橙色 (10YR7/4) 粘質土）、第VI-7層（明黄褐色 (10YR6/8) 砂礫土、第VI-8層（黄橙色 (10YR8/8) 岩盤）である。第V-2層は北から南へ厚く堆積し、主に古代以前の遺物を含む。SX2・SK14付近では第III・IV層が削平されており、第II層の直下で第V-2層を検出した。第V-3・4層はSB-2からSX4付近に分布しており、谷か落ち込みの埋土である可能性がある。調査区内で遺物は出土していないが、色調・土質から遺物包含層に含めた。また、V-3層上の遺構検出が困難であったため、上記の遺構はやや掘り下げた状態で検出した。

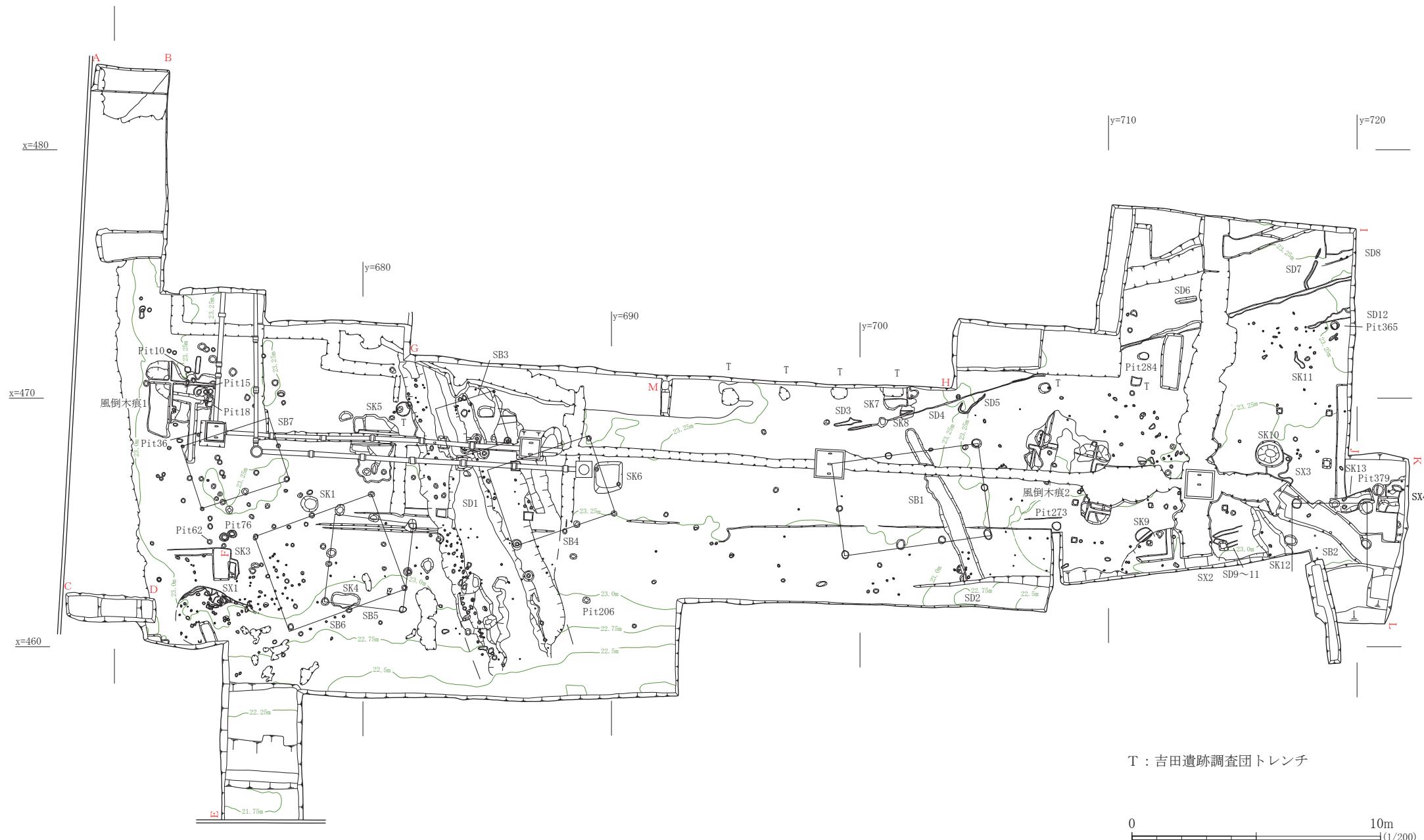


Fig.37 調査区平面図（完掘）



Fig.38 調査区平面図（古代以前）

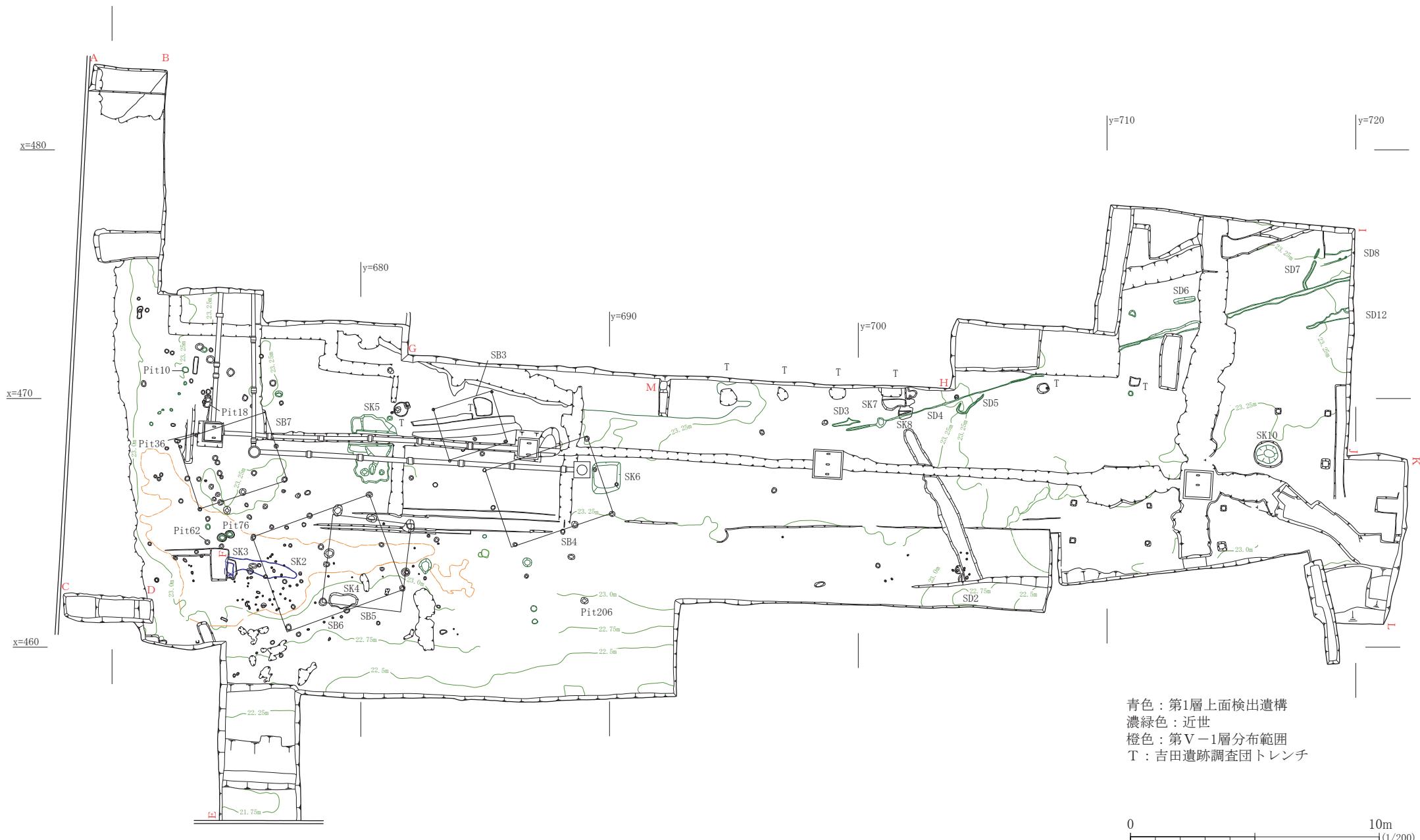


Fig.39 調査区平面図（中世以降）

3 遺構

今回の調査では、掘立柱建物跡 7 棟、溝 12 条、土坑 16 基、不明遺構 4 基、ピット 383 基（掘立柱建物跡のもの含む・その他遺構内のものを除く）を検出した。遺物が出土していない遺構もあるが、遺構の時期は埋土の色調から（1）古代以前（埋土色調：黒褐色系）、（2）中世³⁾（埋土色調：褐灰色系）、（3）近世以降（埋土色調：緑灰色系）に大別した。なお、Pit206 と SB4-Pit208 は試掘調査時に検出されたものである。

（1）古代以前

SB1 (Fig.40, PL.29)

調査区東部に位置する棟方向 N82° E の掘立柱建物跡で、柱穴は Pit226・227・229・

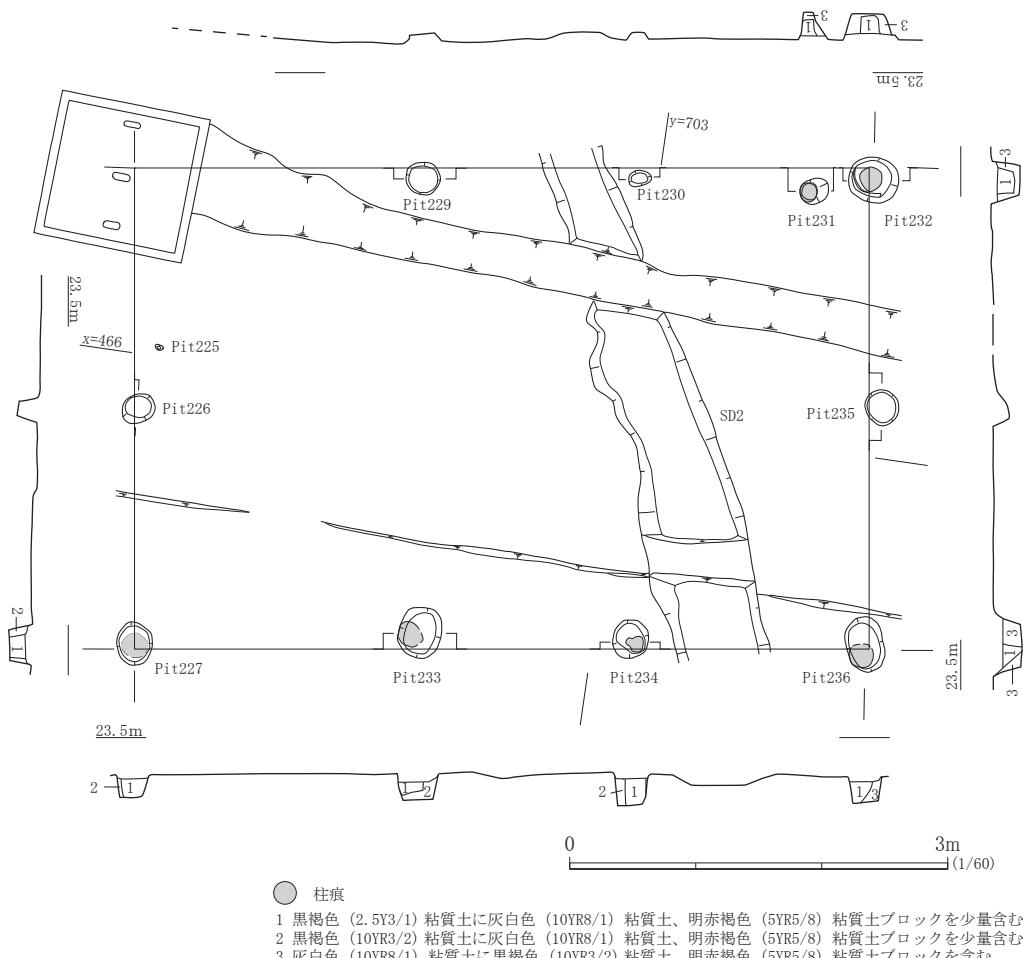


Fig.40 SB1 平面図・断面図

230・232～236 であるが、Pit231 もその可能性がある。SD2・排水升・排水管によって破壊されているが、桁行 3 間 (5.83 m)、梁行 2 間 (3.81 m)、床面積約 22.2 m²と考えられる。識別がやや困難であったが、Pit227、231、232、233、234、236 には柱痕が残存していた。Fig. 40 の柱痕の破線は断面によって平面形を補正したことを示す。柱穴の深度は 6 (Pit230) ～ 26 cm (Pit234) である。検出時に遺物包含層が残存していなかったことからも一定の削平を受けていることが明らかである。Pit227 から須恵器坏底部片 (Fig. 56-1)、Pit232・234 から須恵器坏口縁部片 (Fig. 56-2・3) が出土し、他にピットから土師器細片・剥片が出土した。

SB2 (Fig.41, PL.30)

調査区南東隅に位置する。棟方向 N2° E の掘立柱建物跡で、柱穴は Pit369～373 である。SK15 を切っている。上記柱穴周辺は遺物包含層（第V－2層）が残存していたため、近世以降の水田造成に伴う削平は受けていない。北西－南東方向の搅乱によって破壊されていたが、搅乱の底面で Pit369・373 を検出することができた。なお、Pit371 は土層確

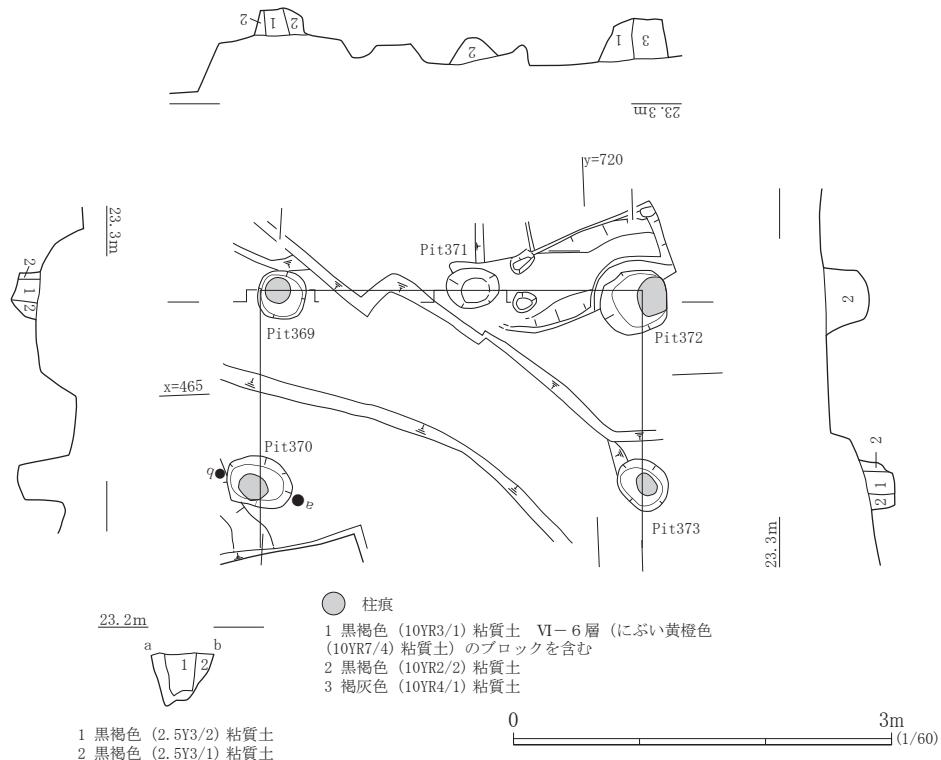


Fig.41 SB2 平面図・断面図

認のためのサブトレンチにより、検出前に一部掘削している。Pit370・373以南は敷地造成時に削平されているが、桁行2間(2.0m)以上、梁行2間(3.81m)と考えられる。Pit369・370・372・373には柱痕が残存していた。柱穴の深度は20cm(Pit371)～81cm(Pit370)である。搅乱による破壊と周辺の標高を考慮すると、本来はPit369の深度が約66cm、Pit373が約52cmであったと推測される。Pit370から須恵器壺口縁部片(Fig.56-4)、砥石(Fig.64-257)、Pit371から須恵器壺蓋片(Fig.56-5)、Pit373から須恵器壺口縁部片(Fig.56-6)が出土し、他にピットから土師器片、須恵器片、弥生土器片、土器細片、焼土塊、剥片が出土した。

SD1 (Fig.42・43, PL.31～33)

調査区西部に位置する溝である。検出当初はその規模から谷もしくは落ち込みと認識していたが、吉田遺跡調査団の調査区との位置関係を検討し、掘削を進めた結果、同調査団による調査時に検出された「溝状遺構」⁵⁾の延長部であることが判明した。今回調査区内における検出長は13.76m、幅3.17～5.07m、深度0.31～0.62mで、南端部は造成時の削平により失われている。吉田遺跡調査団による調査分を含めた長さは約49.2mである。流路方向はN17°Wで、SB1の梁行方向N8°Wと近似する。

南西部の一部を除いて上面に第V-1層は残存しておらず、大半が水田造成時及び食堂造成時に削平・破壊を受けており、特に東岸で顕著であった。調査時は食堂が営業中で排水管を残す必要があったほか、埋土上面で検出された掘立柱建物跡の配置を検討する必要性等から埋土上面で検出された遺構を残して掘削・記録作業を行うことにした。このため、区画と土層断面の観察を兼ねた畔を設定できる場所が限られたことから、やや変則的ではあるが北から1区、2区、3区、4区を設定し、土層断面の記録と掘削・遺物の取り上げを行った。

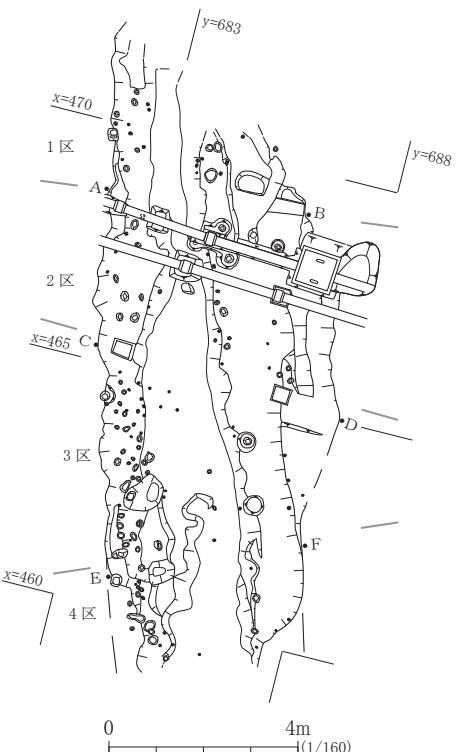


Fig.42 SD1 平面図

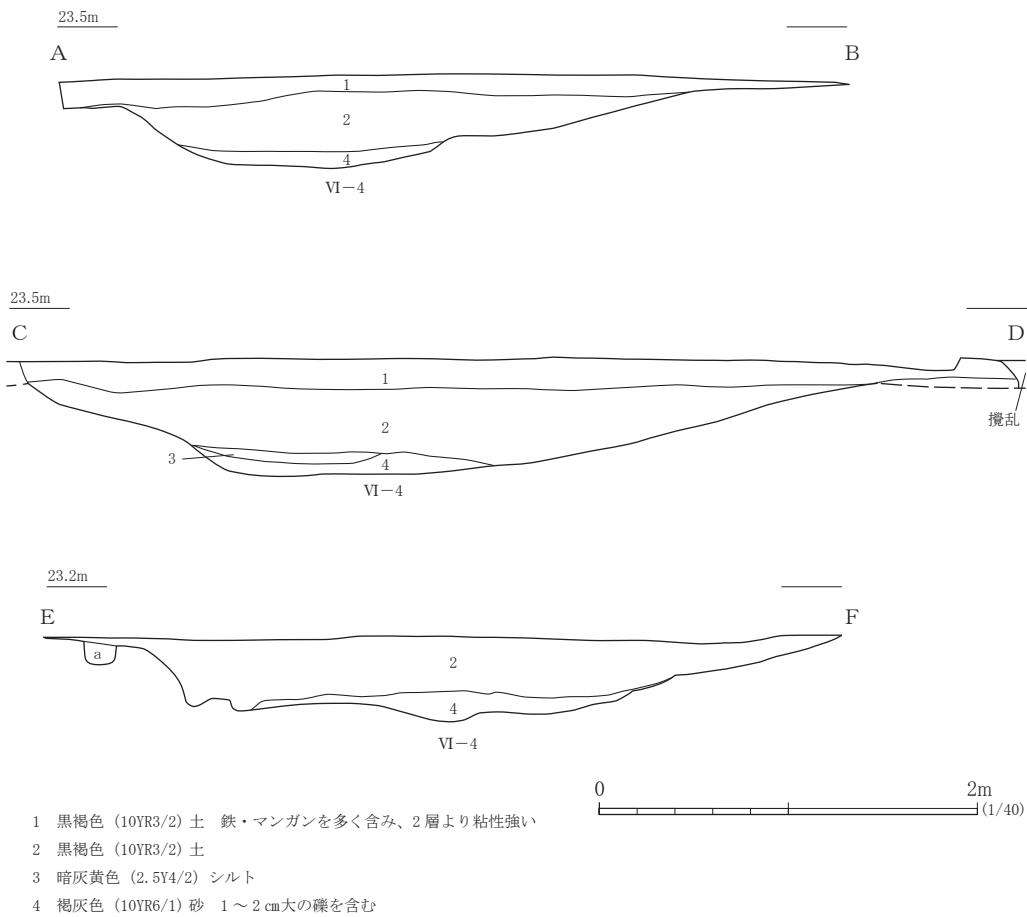


Fig.43 SD1 断面図

断面形を見ると、底面付近は傾斜が急で、部分的に段状を呈するが、上部の傾斜はなだらかである。埋土は第1層：黒褐色（10YR3/2）土（鉄・マンガンを多く含み2層より粘性強い）、第2層：黒褐色（10YR3/2）土、第3層：暗灰黄色（2.5Y4/2）土、第4層：褐灰色（10YR6/1）砂（1～2cm大の礫を含む）に分けられる。第1層と第2層は土色・土質は近似しており、本来同一層とみられるが、第1層は鉄・マンガンを多く含み、乾燥しやすく硬化が顕著であったので、区別した。また、削平のため3区南半～4区では存在しなかった。第1層上面には溝埋没後に中世以降の遺構が掘り込まれていた。近世以降の遺構は遺構埋土の色調が緑灰色系であったため検出は容易であったが、中世の遺構は埋土の色調が第1層と酷似していた。加えて第1層は硬化が顕著であったこともあり、遺構検出

は第1層全体を若干掘り下げて水を散布した後に行った。しかし、上記の事情により第1層に掘り込まれた遺構は全てを検出できなかつた可能性が高い。第2層は1～4区、第3層は2・3区の一部に部分的に堆積していた。第4層は砂層で底面では礫を多数含んでおり、1～4区に堆積していた。底面では西側を中心にピットが多数検出された。第I地区E区の「溝状遺構」では、底面から2種類の柱穴群、①「直径20～30cm、深さ20cm内外のもの」、②「溝底にあった柵か垣の跡とみられ4～6cm、深さ8cmばかりの先の尖った穴の跡」⁶⁾が検出され、橋脚や護岸の機能が考えられている。しかし、今回検出したピットには、直径が①、②に相当するものはあるが、配列に規則性がなく、大半が深さ5cm以内であったため、浅い凹みや樹痕等であった可能性がある。また、①に相当するピットには、溝埋没後に掘り込まれたものが含まれていると考えられる。

出土遺物は上層（第1層）、中層（第2・3）層、下層（第4層）に分けて取り上げた。下層～上層から弥生土器、土師器、須恵器、土錐、石鏸、敲石、台石、石庖丁、砥石、石鉄鍬、剥片、釘、鉄斧、鉄滓が出土した。遺物は細片化したものが多い。中層・上層出土遺物には、土師器皿底部（Fig. 57-47）、土師器塊底部（Fig. 58-67・68）、土師器壺もしくは皿（Fig. 58-69）、など10世紀以降の土器が少量含まれる。しかし、上記のようにこれらは埋没後に掘り込まれた遺構に伴う遺物である可能性が高い。これらを除いた遺物は弥生土器と古代の土師器、須恵器である。弥生土器は、第I地区E区の「溝状遺構」でも出土しており、混入した遺物であろう。土器はいずれも弥生時代前期～中期初頭とみられ、弥生時代前期の土器が出土したSX2との関連が考えられる。土師器については時期比定が困難であるが、須恵器については概ね9世紀後半が主体である。須恵器の接合状況をみると、隣接区を越えて接合するものは少ない。一方で少数だが、下層・中層で接合するものがある。以上からSD1は9世紀代に掘削、埋没したこと、SB1・2と併存した可能性を考えたい。

Pit15 (Fig.37・38, PL.34 (1))

調査区西部に位置する直径約22cm、深さ14cmのピットである。埋土から古墳時代中期の高杯脚部片（Fig. 59-81）が出土した。Pit15から約20m北西には、第I地区E区で検出された古墳時代中期の竪穴住居跡6棟が存在することから、関連する竪穴住居跡もしくは掘立柱建物跡の柱穴であった可能性がある。

Pit273 (Fig.37・38, PL.34 (2))

SB1-Pit236の2.7m東に位置する直径36cm、深さ16cmのピットで、空撮後に検出した。埋土は、にぶい黄橙色（10YR7/4）粘質土に黒褐色（2.5Y3/1）粘質土を含んでいた。長径

26 cm、短径 16 cm の柱痕が遺存していた。埋土から須恵器壺蓋片 (Fig. 59-82)、土器細片が出土しており、古代の掘立柱建物跡の柱穴であった可能性が高い。

Pit284 (Fig.37・38, PL.34 (3))

調査区東部に位置する長径 46 cm、短径 30 cm、深さ 8 cm のピットである。埋土はにぶい黄橙色 (10YR7/4) 粘質土に黒褐色 (2.5Y3/1) 粘質土を含んでいた。また、直径 16 cm の柱痕が遺存していた。遺物は出土していないが、ピットの規模、埋土から古代に属する可能性が高い。

Pit365 (Fig.44, PL.34 (4))

調査区東部に位置する直径 34 cm、深さ 55 cm のピットである。埋土は黒褐色 (2.5Y3/1) 粘質土に、にぶい黄橙色 (10YR7/4) 粘質土ブロックを少量含んでおり、直径 14 cm の柱痕が遺存していた。土器細片が出土したのみであるが、ピットの規模、埋土の色調から古代に属する可能性が高い。

Pit379 (Fig.48, PL.38 (2))

調査区東部、SB2-Pit372 の北東側に位置する。直径 24 cm、深さ 31 cm のピットで、埋土は黒褐色 (10YR2/2) 粘質土である。弥生土器もしくは土師器片、剥片が出土した。SB2 のピットと規模・埋土が近似する。

その他のピット (Fig.37・38, PL.26)

上記のほか、主に調査区東部で古代以前とみられるピットを検出したが、これらは直径・深さとも 20 cm 未満のものが大半である。遺物の出土もきわめて少ない。

SK1 (Fig.44, PL.34 (5))

調査区西部に位置する。平面形は橢円形を呈し、長軸 69 cm、短軸 63 cm で、深さは 49 cm である。埋土は上層が黒褐色 (2.5Y3/1) 土、下層が暗灰黄色 (2.5Y4/2) 土で、いずれも VI-2 層のブロックを含んでいた。両層から弥生土器もしくは土師器とみられる土器細片、炭が少量出土した。埋土の色調から古代以前の遺構と考えられる。

SK11 (Fig.45, PL.26)

調査区東部に位置する。平面形は不整形で、長軸は 75 cm、幅 9 ~ 20 cm、深さは 6 cm である。埋土は黒褐色 (2.5Y3/1) 粘質土ににぶい黄橙色 (10YR7/4) 粘質土ブロックを含んでいた。出土遺物はないが、埋土の色調から古代以前の遺構と考えられる。

SK12 (Fig.45, PL.34 (6))

調査区東部、SB2 の西側に位置する。北端を搅乱で破壊されており、南側は調査区外に

遺構

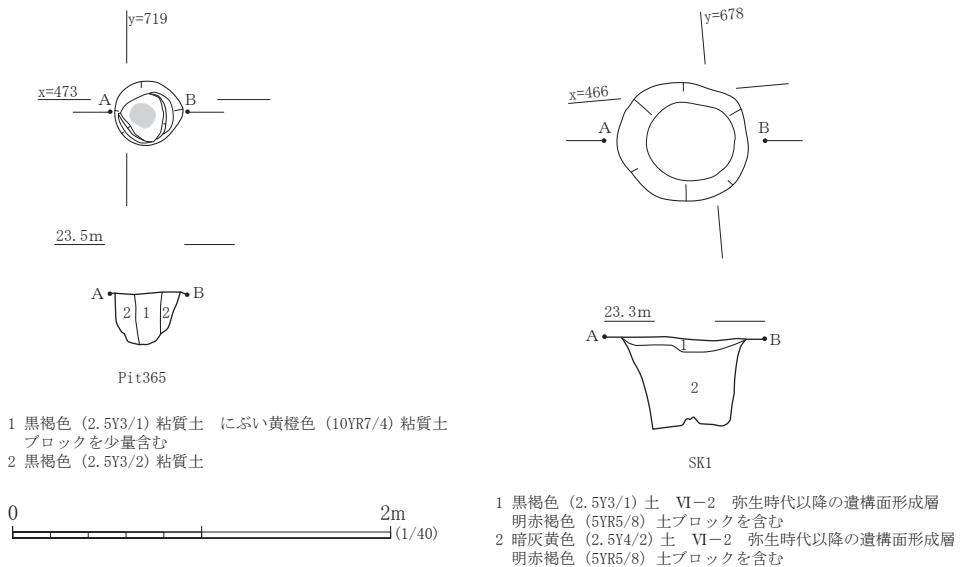


Fig.44 Pit365・SK1 平面図・断面図

広がる。SB2-Pit370 に切られる。平面形は溝状で長軸は 245 cm、短軸は 94 cm、深さ 27 cm である。埋土は黒褐色 (10YR3/2) 粘質土で、弥生土器もしく土師器と考えられる土器片、須恵器片が出土した。また、底面でピットを 3 基検出した。

SK13 (Fig.45, PL.35 (1) (2))

調査区東部、SB2 の北東部に位置する。SB2-Pit371、372 に切られる。土層確認のためのサブトレーナにより、検出前に一部掘削している。また、埋土が近似しているため、SB2-Pit371 との切り合い関係は、一部掘削後に確認した。平面形は長方形とみられ、長さ 166 cm、幅 63 cm で深さは 8 ~ 15 cm である。埋土は黒褐色 (10YR3/2) 粘質土で、弥生土器甕口縁部 (Fig. 59-83)、土師器片、石錐 (Fig. 66-291)、砥石、剥片が出土した。土師器片は Pit371 に伴う可能性が高く、弥生時代前～中期の遺構と推測する。

SX1 (Fig.46, PL.35 (3) (4), PL.36 (1) ~ (3))

調査区西部に位置する。平面形は南半が削平されているため定かではないが、この遺構に伴うとみられる柱穴の分布から、西半は円形で東部に張り出していたと推測する。一部推定を含め、長軸は約 320 cm、短軸は約 240 cm である。土層観察アゼ (Fig. 34 E - F 断面) と重複している。第 V - 1 層検出時に一部を検出し、当初は遺物包含層である可能性を考えたが、第 V - 1 層掘削後に精査した結果、遺構であることが判明した。埋土は黒褐色 (10YR3/1) 土である。平面形から円形と方形の遺構が切り合っている可能性が高い

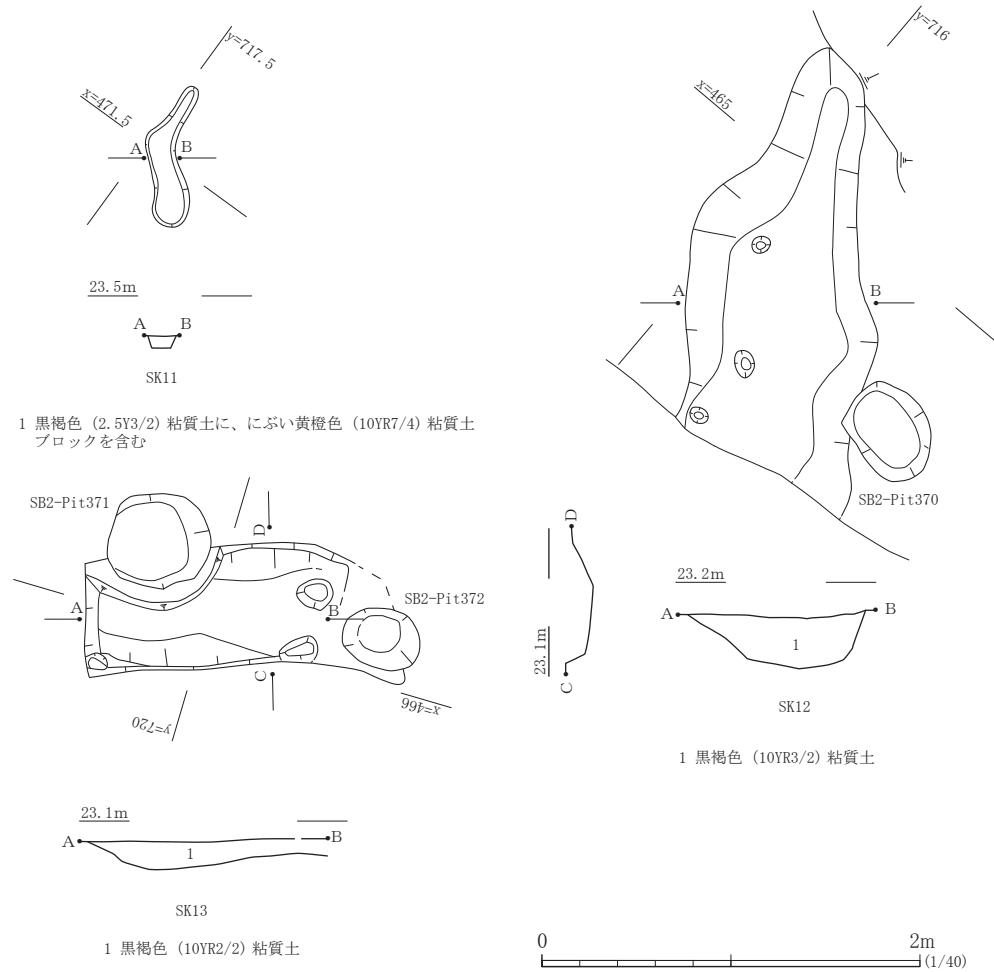


Fig.45 SK11～13 平面図・断面図

が、埋土で識別できなかった。埋土の掘削を進めたところ、北部から弥生時代前期の土器 (Fig. 59-84～94, Fig. 60-95～98) が床面からやや浮いた状態で多数出土した。このほか、埋土からは土師器、須恵器、砥石 (Fig. 66-292)、焼土塊も出土した。土師器、須恵器は上面に堆積した第V-1層に伴う混入であろう。埋土を掘削後、床面上で溝状・土坑状の掘り込み、ピットを検出した。これらのうち、最も深く掘り込まれていたのが、SX1-Pit1・2である。SX1-Pit1は直径34cm、深さ40cm、SX1-Pit2は直径30cm、深さ40cmである。他は深さ1～20cm以内であった。SX1-Pit1からは壺もしくは鉢の底部 (Fig. 60-99) が出土したが、他のピット等からは土器片が若干出土したのみである。前述のように、

遺構

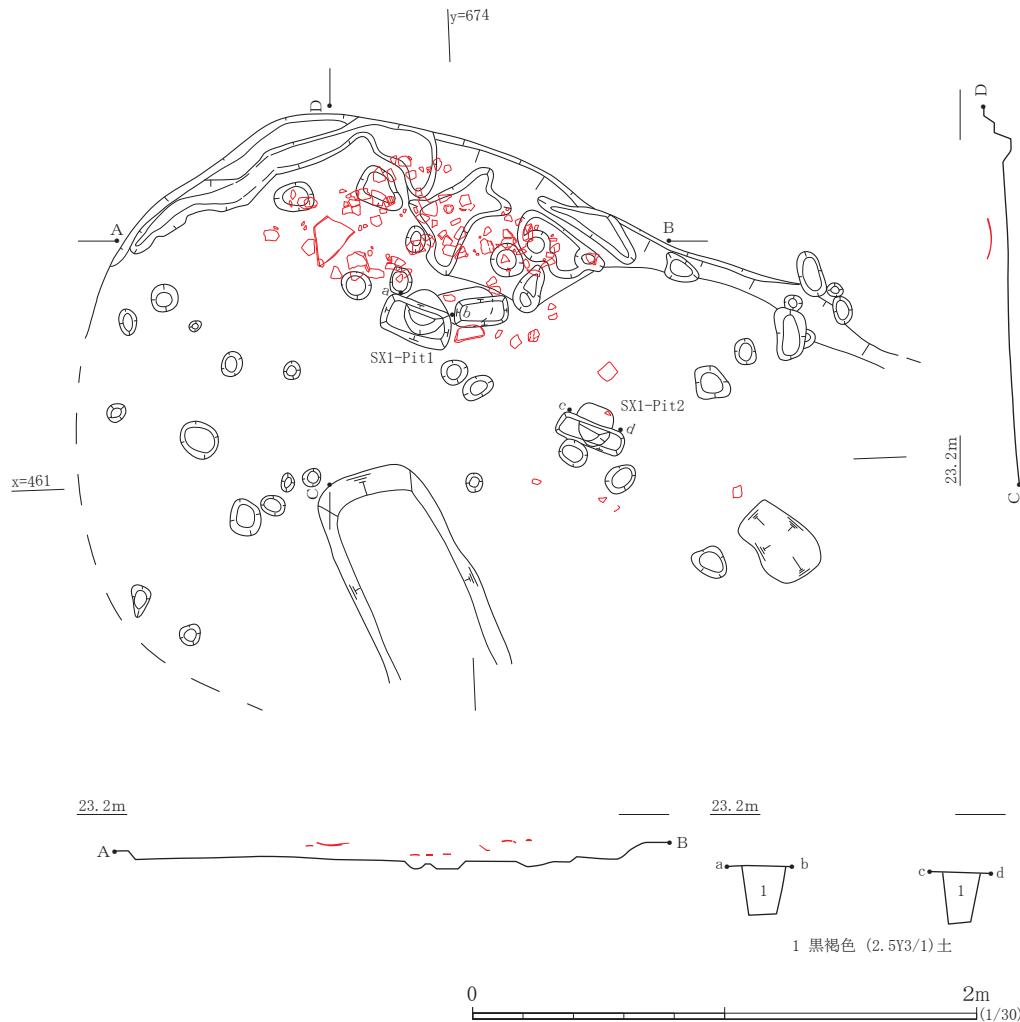


Fig.46 SX1 平面図・断面図

SX1 は円形と方形の遺構が切り合っていたと仮定すると、円形の遺構は竪穴住居跡である可能性も考えられる。しかし、復元直径は 2 m 弱にすぎない。また、検出されたピットは浅いものが多く、配置も不明瞭である。このため、本報告では作業小屋のような機能を持つ簡易的な建物であった可能性を提示するにとどめたい。

SK9 (Fig.47, PL.36 (4) · PL.37 (1))

調査区東部に位置する。SX2 に切られる。平面形は楕円形で長軸 69 cm、短軸 49 cm、深さ 4 cm である。埋土は暗褐色 (10YR3/3) 粘質土に黒褐色 (10YR3/2) 粘質土ブロックを多く含んでいた。出土遺物はない。

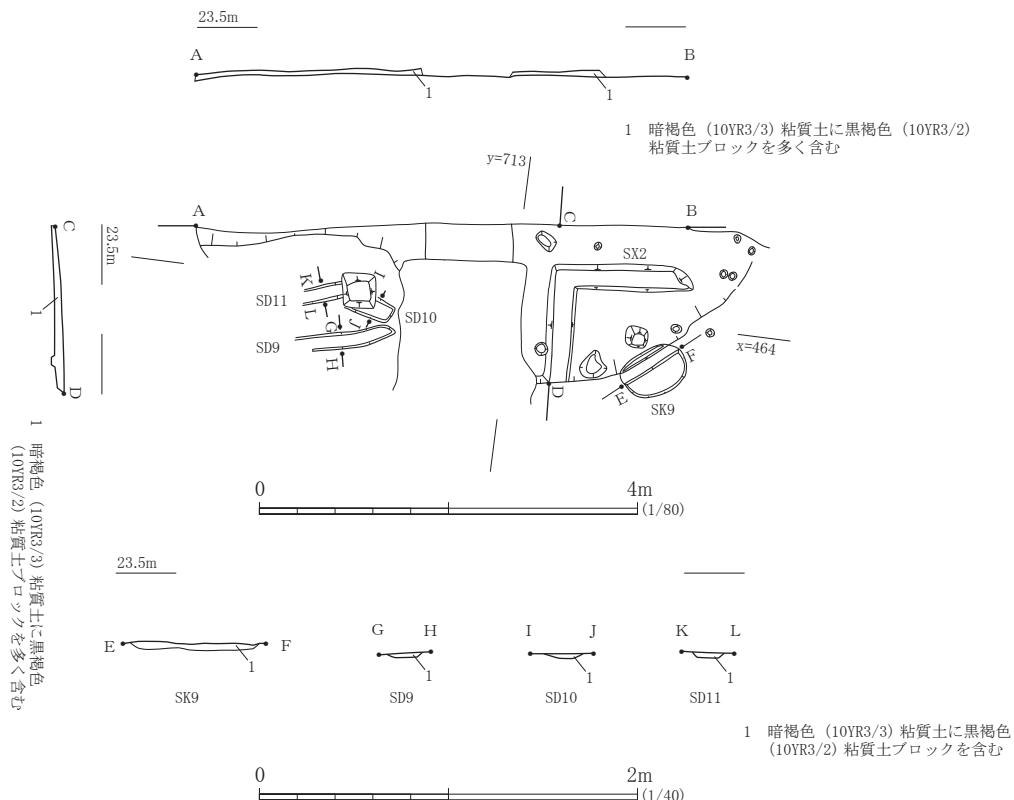


Fig.47 SX2・SD9～11・SK9 平面図・断面図

SX2 (Fig.47, PL.37 (1) (2))

調査区東部に位置する。上面には第V-2層が堆積していた。構内造成時による搅乱、排水管埋設により破壊されている。また、SK9を切り、SK12に切られる。このため、全形は不明であるが、平面形は不整形を呈し、長軸は238cm、短軸は178cm、深さは4～10cmで南側へ緩やかに傾斜する。本報告では落ち込みと位置づけておきたい。埋土はSK9と近似するが、SK9よりもやや暗い色調であった。弥生土器もしくは土師器とみられる土器片、須恵器片、石鏃 (Fig. 67-293)、剥片が出土した。

SD9～11 (Fig.47, PL.37 (3) (4))

調査区東部、SX2の北側に位置する。SD10はSD11に切られる。部分的に検出した幅11～14cm、深さ2～3cmの浅い溝である。埋土はいずれも暗褐色 (10YR2/3) 粘質土に黒褐色 (10YR3/2) 粘質土ブロックを含んでいた。SD9から弥生土器もしくは土師器とみられる土器片、SD11から土師器片が出土した。

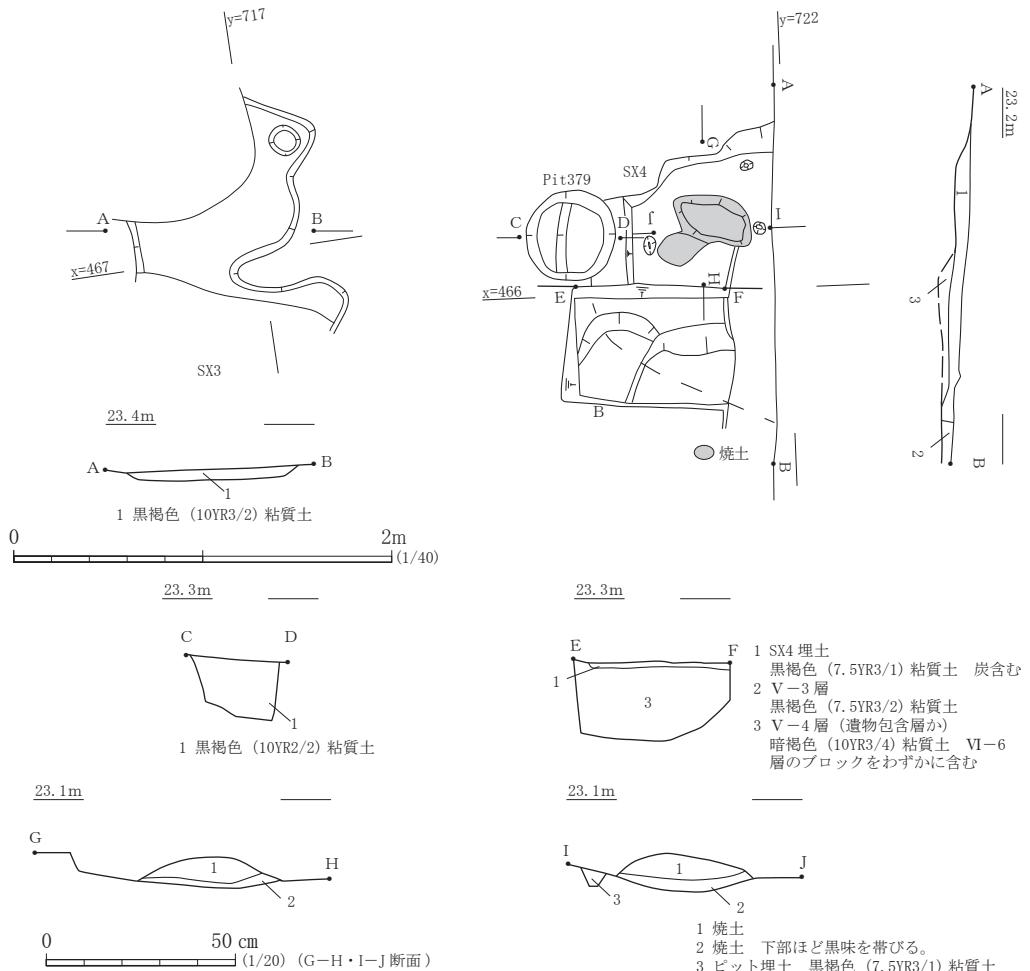


Fig.48 Pit379・SX3・4 平面図・断面図

SX3 (Fig.48, PL.38 (1))

調査区東部に位置する。北側を SK12、南側を排水管埋設によって破壊されているため、全形は不明であるが、不整形を呈し、長軸 134 cm、短軸 92 cm、深さ 6 cm である。埋土は黒褐色 (10YR3/2) 粘質土であった。出土遺物はない。

SX4 (Fig.48, PL.38 (2) ~ (4))

調査区南東部に位置する。Pit379 に西側を切られる。また、調査区東側に広がるため全形は不明であるが、平面形は楕円形と推測され、長軸 134 cm、短軸 92 cm、深さ 6 cm である。南半は埋土と近似する第V-3層から掘り込まれており、両者の識別が困難であったため、一部を断ち割って確認したところ (Fig. 48 E-F 断面)、床面以下で谷か落ち

込み埋土の可能性がある第V－4層（暗褐色（10YR3/4）粘質土）が検出された。また、北部床面で焼土とピット3基を検出した。焼土は平面形が不整形で、層厚は最大で10cm、2層に細分され、上部から被熱したとみられる。しかし、埋土からは少量の炭と弥生土器もしくは土師器とみられる土器片が出土したのみで、詳細な時期、性格とも不明である。

風倒木痕 (Fig. 37・38, PL. 24・25)

調査区西部で1箇所（風倒木痕1）、西部で1箇所（風倒木痕2）を検出した。平面形が不明確・不整形で、埋土は第VI層に酷似した粘質土と黒褐色（10YR3/1）粘質土である。縁辺部を中心に縞・斑状にみられる黒褐色シルトが、第VI層に酷似した粘質土の下に潜り込む状況を確認した。時期不明であるが、風倒木痕1・2から土器細片、須恵器片が出土していることから、古代以前に位置づけておきたい。

(2) 中世

SB3 (Fig.49, PL.39 (1) (2))

調査区西部で、SD1とほぼ重複する。調査区南東隅に位置する。棟方向N72°Eの掘立柱建物跡で、柱穴はPit185・186・190・381である。柱穴の深度は8cm (Pit190) ~ 24cm (Pit186) である。Pit186以外はSD1上層で検出した。なお、Pit190は排水管の下で

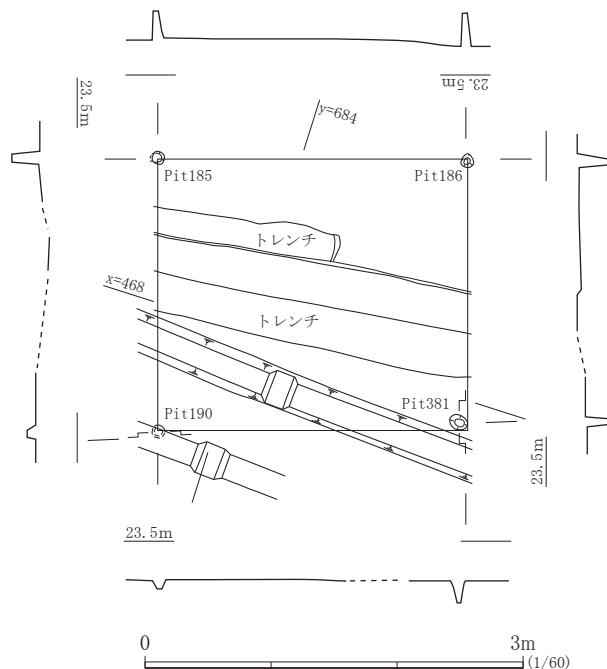


Fig.49 SB3 平面図・断面図

検出した。桁行1間(2.5m)、梁行1間(2.2m)、床面積5.5m²としたが、周辺の搅乱が著しいため、規模はさらに大きかった可能性がある。遺物はPit381から須恵器片が出土したにすぎないが、SD1埋没後に建てられていること、SB4、SB6・7と棟方向が近似することから、時期は中世と考えられる。

SB4 (Fig.50, PL.39 (3) (4))

調査区東部に位置する。西半分がSD1と重複し、北側の一部が排水管によって破壊されていた。棟方向N71°Eの掘立柱建物跡で、やや歪みがあるが柱穴はPit192・193・196・201・202・204・208（試掘トレンチ柱穴1）で、Pit203もその可能性がある。Pit192・193・196はSD1上層で検出し、埋土の色調はいずれも黒褐色系であった。柱穴のうち、Pit193・203には柱痕を確認した。また、Pit193には柱痕西側に土師器皿が廃棄されてい

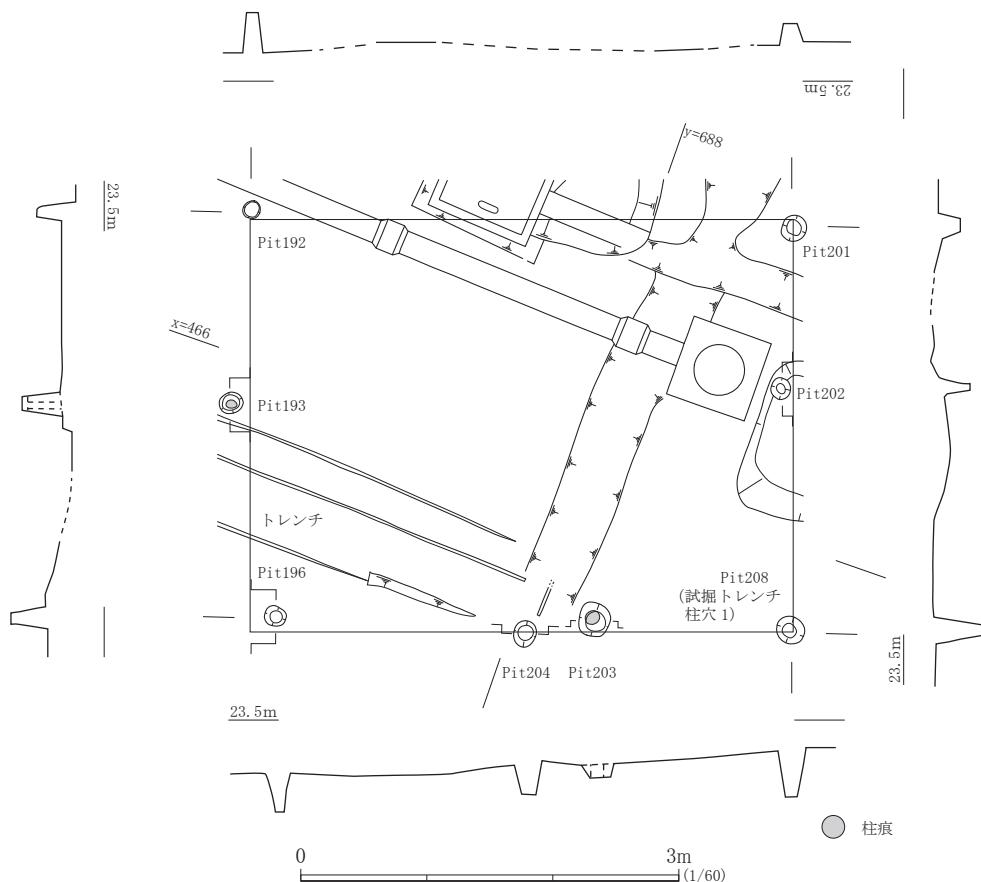


Fig.50 SB4 平面図・断面図

たほか (PL. 39 (4))、根石を確認した。柱穴の深度は 14 cm (Pit201) ~ 40 cm (Pit208) である。一部破壊されているが、桁行 2 間 (4.3 m)、梁行 2 間 (3.3 m) と考えられる。Pit192 から須恵器坏底部 (Fig. 60-100)、Pit193 から土師器皿 (Fig. 60-101) が出土したほか Pit196 から土器細片と板石、Pit201 から土器細片が出土した。

SB5 (Fig.51, PL.41 (2) • PL.42 (1))

調査区西部、SD1 西側に位置する。棟方向 N7° E の掘立柱建物跡で、SB6 と重複するが、前後関係は不明である。やや歪みがあるが柱穴は Pit144・146・153・159・162・164・382 で、Pit145、SB6 と重複する Pit163 もその可能性がある。また、Pit145・146 は第V-1層除

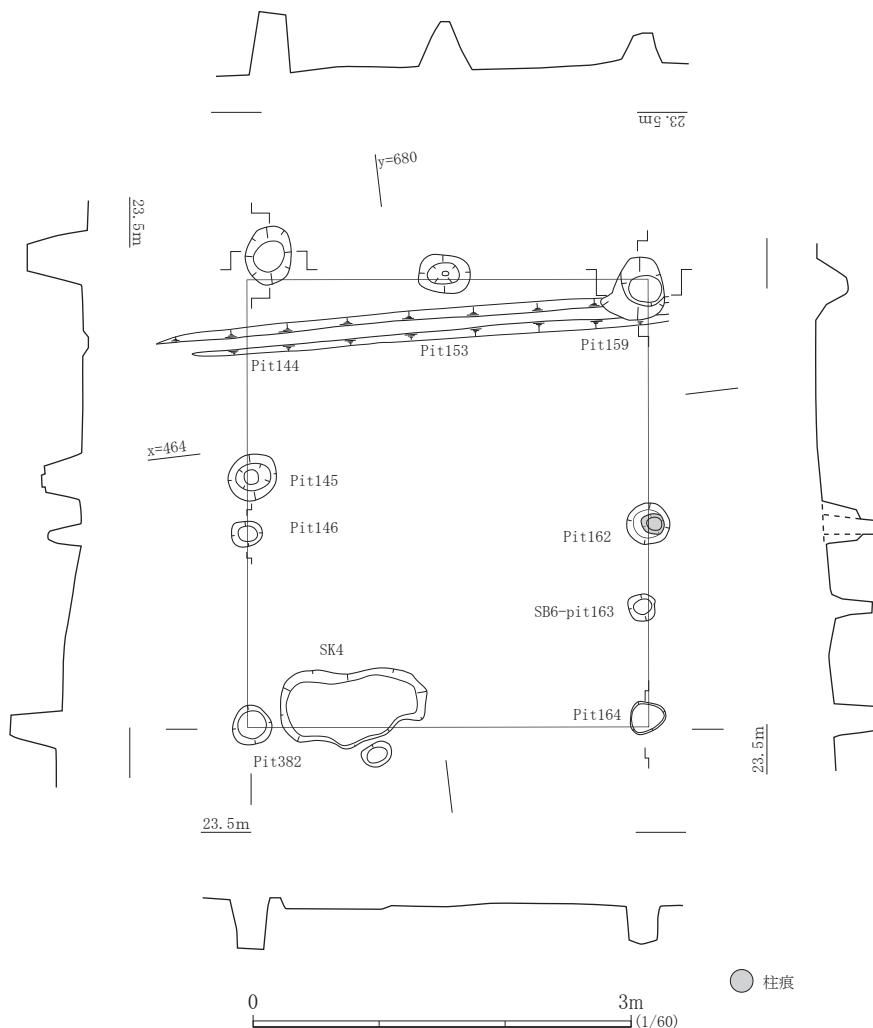


Fig.51 SB5 平面図・断面図

去後に検出した。柱穴の深度は 24 cm (Pit159) ~ 54 cm (Pit144) で、桁行 2 間 (3.6 m)、梁行 2 間 (3.2 m)、床面積 11.5 m²である。Pit144 から須恵器壺底部、土師器片、青磁片、Pit145 から土師器片、Pit146 から土師器片、剥片、Pit159 から須恵器壺底部、土師器皿底部 (Fig. 60~102)、Pit153 から土師器片が出土した。

SB6 (Fig.52, PL.41 (2))

調査区西部に位置する。棟方向 N7° E の掘立柱建物跡で、SB5 と重複する。やや歪みが

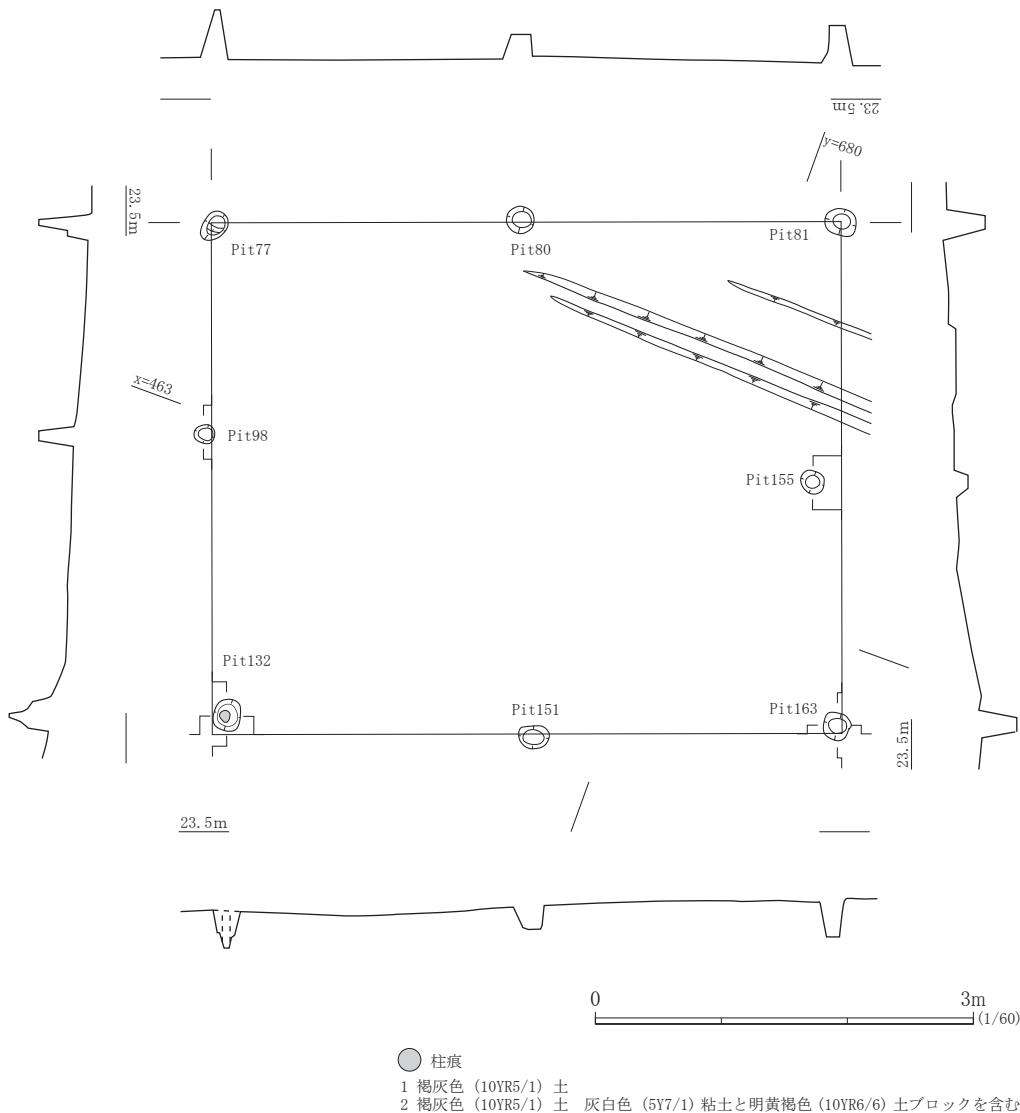


Fig.52 SB6 平面図・断面図

あるが、柱穴は Pit77・80・81・98・132・151・155・163 で、Pit77・98・155 は第 V - 1 層除去後に検出した。Pit132 のほか、Pit151・163 に直径 10 ~ 12 cm の柱痕が残存していた。柱穴の深度は 9 cm (Pit155) ~ 42 cm (Pit77) で、桁行 2 間 (5.0 m)、梁行 2 間 (4.1 m)、床面積 20.5 m² である。Pit77 から土師器片、Pit81 から土器細片が出土した。

SB7 (Fig.53, PL.41 (2))

調査区西部に位置する。北～東側の一部が排水管によって破壊されていた。棟方向 N72° E の掘立柱建物跡で、やや歪みがあるが柱穴は Pit34・38・41・49・54・55 で、Pit35、36・52 もその可能性がある。Pit49 は第 V - 1 層除去後に検出した。柱穴の深さは 9 cm (Pit49) ~ 20 cm (Pit55) で、桁行 2 間 (3.7 m)、梁行 2 間 (2.6 m) と考えられる。なお北部が破壊されているため、西面は Pit35 までが梁行になる可能性もある。Pit54 から須恵器片が出土した。

SD2 (Fig.54, PL.29 (1))

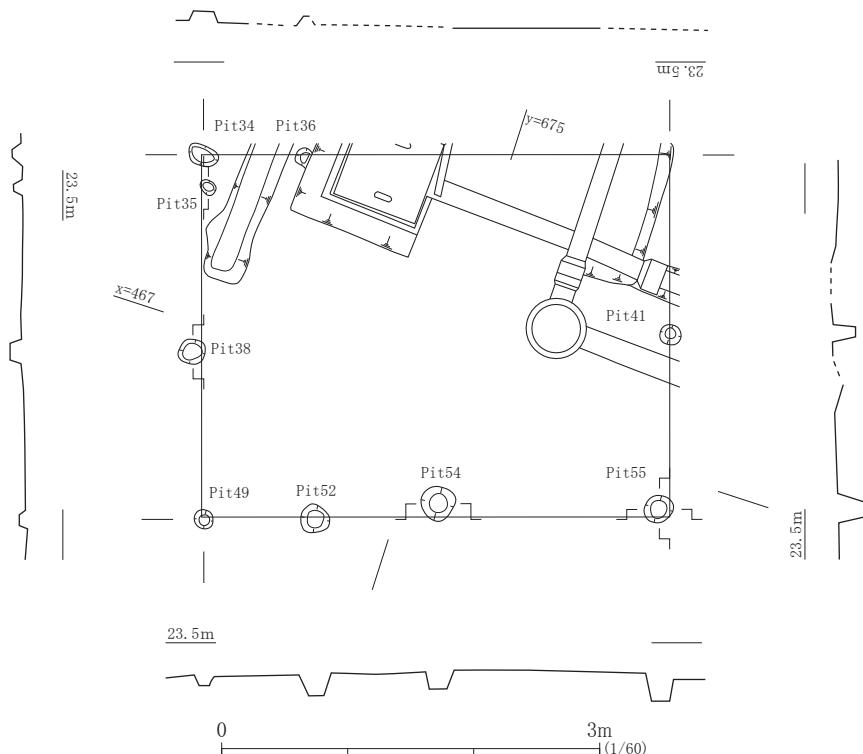


Fig.53 SB7 平面図・断面図

調査区東部に位置する。調査区内における検出長は6.69m、幅0.46～0.82m、深さ3～6cmで、南端部は造成時の削平により失われている。埋土は黄褐色(2.5Y5/4)土であった。上部の削平が考えられることから、北側に位置するSK7・8と一連であった可能性がある。流路方向はN25°Wで、西側に位置するSB3・4・6・7の梁行方向と近似する。埋土から土師器片、土師器皿底部片、須恵器片、青磁片、剥片が出土した。

SK7・8 (Fig.54, PL.43 (2))

調査区東部、SD2の北側に位置する。SK8はSK7・SD4に切られ、SK7は吉田遺跡調査団によるトレーナーで破壊されており、北部は調査区外に延びる。SK7・8の埋土は灰色(5Y5/1)

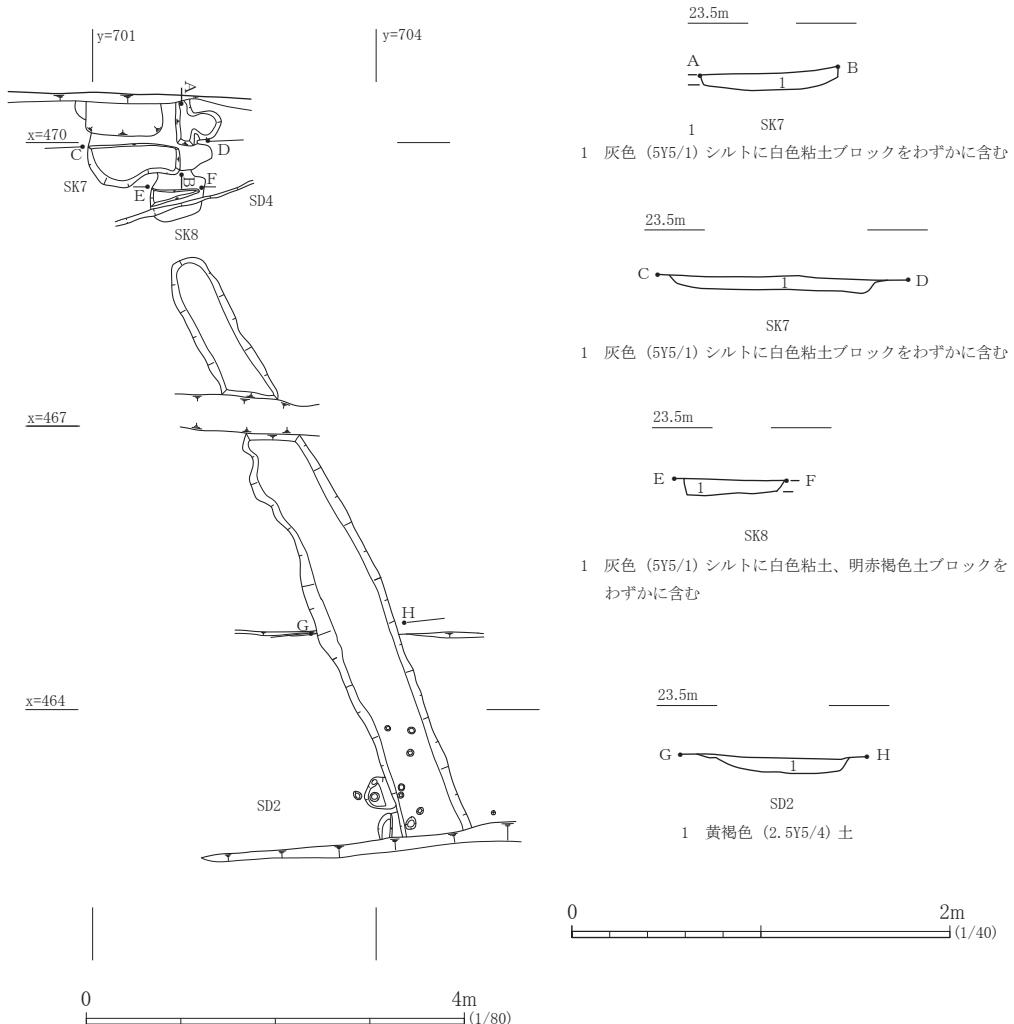


Fig.54 SD2・SK7・8 平面図・断面図

シルトで、SK7は第VI層である白色粘土ブロック、SK8は白色粘土・明赤褐色土ブロックをわずかに含んでいた。SK7はSK8と比較して灰色シルトをやや多く含んでいたが、埋土は近似しており、両者は一連の遺構であった可能性もある。SK7の平面形は不整形で長軸133cm、短軸75cm、深さ5~9cmである。埋土から土師器片、須恵器片、砥石が出土した。SK8は平面形が不整形で長軸60cm、短軸53cm、深さ8cmである。埋土から土師器片が出土した。

Pit18 (Fig.55, PL.43 (3))

調査区西部に位置する。平面形は楕円形で東側を排水管の埋設によって破壊されていた。長軸50cm、短軸38cm（推定）、深さ36cmである。北側が一段低く落ち込んでおり、この部分に柱が存在したとみられる。埋土から、土師器塊片（Fig. 60-103・104）、土師器皿底部片（Fig. 60-105）、土師器鍋片（Fig. 60-106）、板石が出土した。土器は完形に復元できるものはない。これらは柱抜き取り後の祭祀に伴う遺物であろう。

その他のピット (Fig.37・39, PL.40・41)

調査区西部を中心に中世のピットを多数検出した。一部のピットからは土師器片、須恵器片、土師器皿片、瓦質土器片、板石等が出土した。

SK2・3 (Fig.55, PL.43 (1))

調査区西部に位置する。第V-1層上面で検出した。SK2はSK3に切られる。SK2は西端が土層観察アゼと重複し、この部分が乾燥・崩落したため明確な輪郭を把握することができなかつたが、平面形は溝状で長軸282cm（推定）、短軸25~63cm、深さ5cmである。埋土は淡黄色（2.5Y8/4）土で、弥生土器もしくは土師器片、須恵器片、剥片が出土した。SK3は平面形が不整形で長軸62cm、短軸30cm、深さ15cmである。埋土は緑灰色（5G6/1）土に第V-1層を含んでいた。出土遺物はない。

SK4 (Fig.55, PL.41 (2)・PL.42 (1))

調査区西部に位置し、SB5・6と重複するが、前後関係は不明である。平面形は楕円形で長軸118cm、短軸60cm（推定）、深さ9cmである。埋土は褐灰色（10YR5/1）土に緑灰色（5G6/1）土をやや多く含んでいた。出土遺物はない。

（3）近世以降

近世以降、統合移転直前まで存在した水田関連の遺構で、SD3~8・12は水田暗渠、SK5・6・10は土坑である。詳細は観察表を参照されたい。このほかに、吉田遺跡調査団によるトレンチ跡を8箇所検出した。トレンチ跡の埋土は第III~V層・遺構埋土を含んでおり、近世

遺構

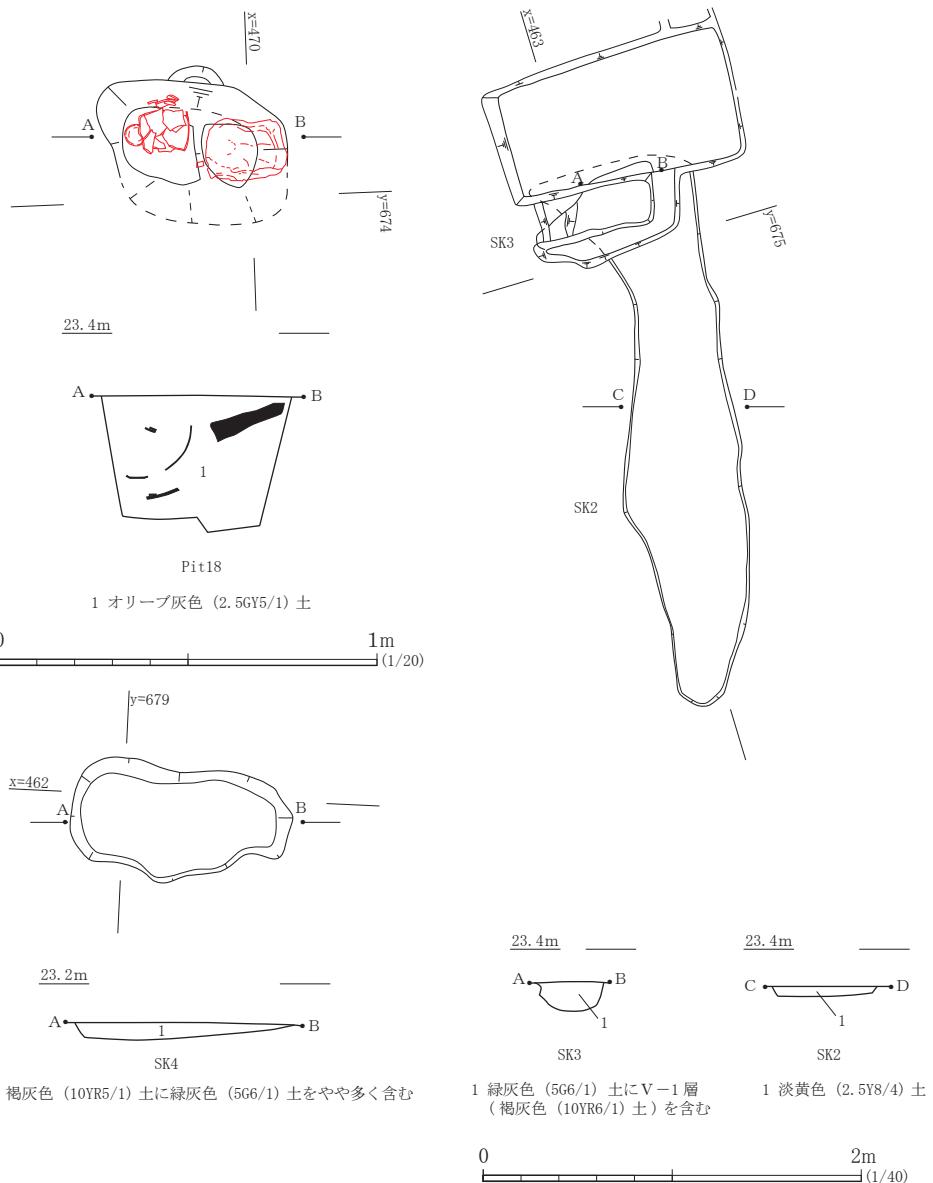


Fig.55 Pit18・SK2～4 平面図・断面図

以降の遺構との識別が困難であった。このため、同調査団の図面に掲載されていないが、平面形・規模がトレンチ跡と近似するSK6・10も同調査団のトレンチ跡である可能性がある。

4 遺物

(1) 土器

SB1 出土土器 (Fig.56-1 ~ 3, PL.44)

1はPit227出土の須恵器無高台坏の底部。摩滅するが底面に回転ヘラ切り痕を残す。2はPit232、3はPit234出土の須恵器坏口縁部。

SB2 出土土器 (Fig.56-4 ~ 6, PL.44)

4はPit373出土の土師器坏口縁部。5はPit371出土の須恵器坏蓋口縁部。口縁部は屈曲し、端部が下垂する。6はPit370出土の須恵器杯口縁部。

SD1 下層出土土器 (Fig.56-7 ~ 33・Fig.57-34 ~ 37, PL.44・45・48)

7は弥生時代前期の壺胴部。タマキガイ科の貝殻腹縁で無軸羽状文と直線文2条を施文する。8~10は弥生土器甕底部。いずれも風化が激しい。形態と砂粒を多く含む胎土の特徴から前期~中期初頭と考えられる。

11~12は須恵器坏蓋つまみ部。いずれも扁平なボタン状で中央部がやや凹む。13~23・26~30は須恵器高台付坏底部。底部一胴部の境界かそれよりやや内側に低い高台を付ける。「溝状遺構」出土遺物の報告で指摘されているように、高台の形態は大別すると、①高台内端が下方に突出し、接地面となるもの (Fig. 56-13~21・26~29)、②高台が内端・外端とも接地、あるいは外端だけが接地するもの (Fig. 56-22・23・30) がある。14は完形復元可能な坏で、底面から胴部が直線的に立ち上がる。24・25・31は須恵器無高台坏底部。32・33は須恵器坏口縁部。34~36は須恵器壺胴~底部。34は底部一胴部の境界に外方へ張る高い高台を付け、底面にヘラ切り痕を残す。35は平底で胴部が直線的に張り出す。36は断面方形の高台を付ける。37は須恵器甕口縁部。口唇部を拡大して面取りをしている。

SD1 中・下層出土土器 (Fig.57-38 ~ 41, PL.48)

38~41は須恵器高台付坏で。38・41は胴~底部。38は高台内端が下方に突出し、接地面となるもので、39~41は高台が内端・外端とも接地、あるいは外端だけが接地する。39・40は口縁部~底部が残存し、完形復元可能。39は口径にやや歪みがあり、内外面に回転ナデによる凹みを顕著に残す。底部一胴部の境界に外方に張り出す高台を付ける。内底面には重ね焼きの際に付着した別個体の坏高台部が残る。40は口縁部がわずかに残存するのみで歪みがある。底部一胴部の境界よりやや内側に高台を付け、底面から胴部が直線的に立ち上がる。

遺物

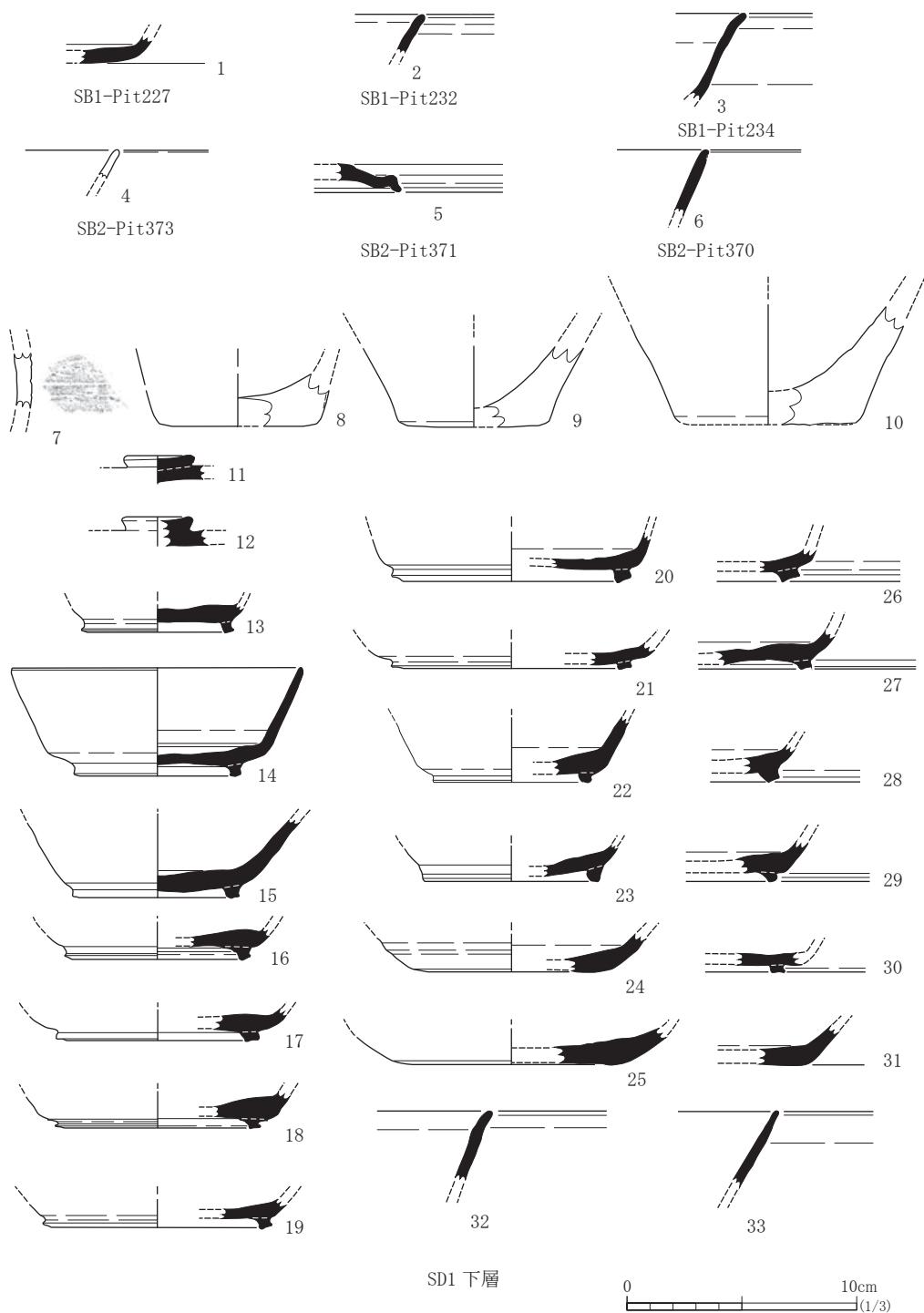


Fig.56 出土遺物実測図①(土器)

SD1 中層出土土器・土製品 (Fig.57-42 ~ 60・Fig.58-61 ~ 64, PL.45 ~ 48)

42は弥生土器甕底部。43は土師器高台付坏。44~46は土師器坏底部。47は土師器皿底部で底面に糸切痕が残る。前項で述べたように本来は溝埋土上面から掘り込まれた中世のピット埋土に含まれていた可能性が高い。48・49は土師器甕で両者は同一個体の可能性がある。48は口縁部で内外面にヨコナデを施す。49は胴部で摩滅が激しいが外面の一部に斜方向のナデが観察できる。

50は須恵器坏蓋つまみ部。51~56は須恵器高台付坏。51~54は高台内端が下方に突出し、接地面となるもので、55・56は高台が内端・外端とも接地する。56は外底面にヘラ記号の一部が残る。57・58は須恵器無高台坏底部。59・60は須恵器坏口縁部。60・61は須恵器壺。61は胴部中位が屈曲する長頸壺の胴部。62は平底の底部。63は須恵器甕口縁部。口唇部を拡張して面を取る。

64は土錘。胎土は0.5~2.5mmの砂粒を少量含むが比較的精良である。最大長6.2cm、最大幅2.15cm、孔径0.6cm、重量は21.59gである。土錘は「溝状遺構」でも2点出土しており、⁹⁾64が3点目となるが、本例が最大である。

SD1 上層出土土器 (Fig.58-65 ~ 80, PL.47・49)

65は弥生土器壺もしくは鉢の底部。内外面とも摩滅が激しいが、内面の一部でミガキが観察できる。接合痕で剥離する。66は弥生土器甕底部。上底を呈する。内外面とも摩滅が激しい。65・66とも砂粒を多く含むこと、器形から前期~中期初頭とみられる。

67は土師器坏。高台端部を欠損する。68は土師器塊。内外面にミガキを施す。69は土師器坏か。底面に糸切り痕を残す。70は土師器塊口縁部。口縁部先端をわずかに外反させる。71は土師器甕。口縁部内外面にヨコナデを施す。胴部の調整は摩滅で不明。

72~74は須恵器坏蓋。72はつまみ部が扁平なボタン状で中央部がやや凹む。外面全体に自然釉が掛かる。73~76は低い天井部から口縁部が屈曲し、端部が下垂する。77・78は須恵器高台付坏底部。いずれも高台内端が下方に突出し、接地面となる。79は須恵器皿。底面には回転ヘラ切り痕があり、底部~胴部の境界に低い高台を付ける。胴部は緩やかに外湾する。口縁部内面にはわずかに凹む強いナデを施しており、緑釉陶器もしくは灰釉陶器の段皿を模倣した可能性がある。¹⁰⁾80は須恵器甕頸部か。2条の沈線を挟んだ上下に櫛描波状文を施す。下段の波状文は8条単位である。

Pit15 出土土器 (Fig.59-81, PL.47)

81は土師器高杯脚部。裾部は屈曲しやや肥厚させている。裾部より上の内面はヘラ削

遺物

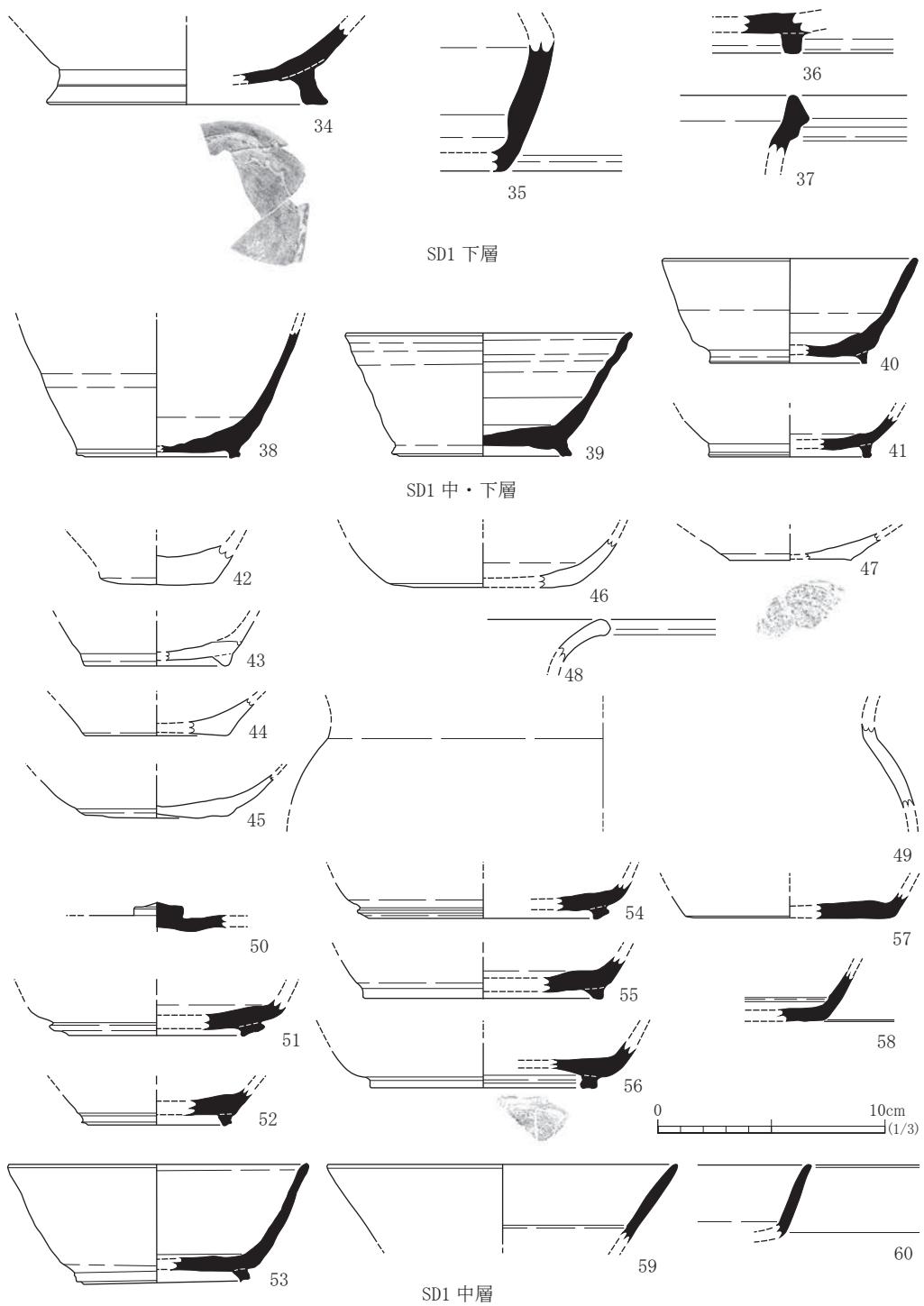


Fig.57 出土遺物実測図②(土器)

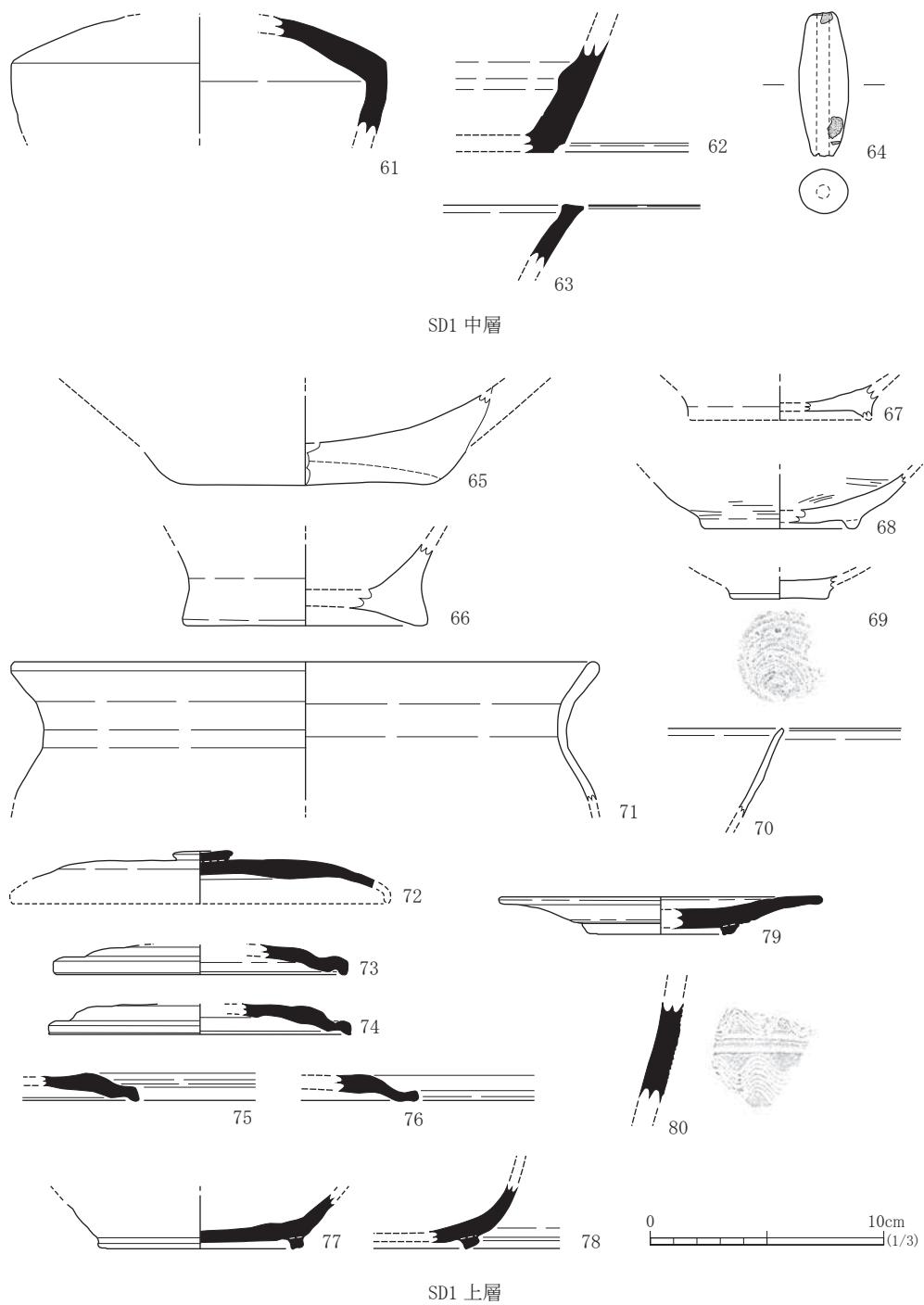


Fig.58 出土遺物実測図③(土器・土製品)

りの後、ミガキを施す。他の箇所はミガキを施す。形態的特徴から古墳時代中期と考えられる。

Pit273 出土土器 (Fig.59-82, PL.47)

82 は須恵器壺蓋口縁部。天井部から内湾して口縁部が下垂する。

SK13 出土土器 (Fig.59-83, PL.47)

83 は弥生土器甕口縁部。摩滅が激しく、端部の刻目の有無は不明。前～中期と考えられる。

SX1 出土土器 (Fig.59-84-94・Fig.60-95～99, PL.49・50)

SX1 からは弥生時代前期の土器がまとまって出土した。84～87 は壺口縁部。85 は頸部に 2 条の沈線を施し、最下段に沈線もしくは段の一部が残存する。86 は口縁部が内湾ぎみに立ち上がる。頸部に段があり、その上に 2 条の沈線を施す。口縁部内面には、2 条単位の文様の一部が残存する。88 は壺頸～胴部。段があり、その直下に 3 条以上の沈線を施す。89 は壺胴部。89 は低い断面台形状の削出突带上に 2 条の沈線を施す。90 は壺頸～胴部。浅い段があるが、全体的に摩滅が激しく文様の有無は不明。91・92 は同一個体とみられる壺胴部。91 の頸胴部界の区分文様は 1 条の沈線を施す削出突帶の下部である。その下にはヘラ描斜軸木葉文の一部が残る。92 はヘラ描斜軸木葉文の下部である。93・94 は壺胴部。93 は無軸羽状文を施し、下端に区分文様の沈線が 1 条残る。摩滅が激しいため施文具は不明。94 は無軸羽状文の下に区分文様の沈線 3 条を施す。取り上げ時に表面が剥離したため調整は不明であるが、文様は全てタマキガイ科の貝殻腹縁が使用されている。95～97 は同一個体とみられる甕。95 は口縁部。風化が激しく端部の刻目の有無は不明。96 は胴部。断面図は接合しない 3 点のうち、左端の破片を図化した。4 条の沈線を施し、上から 1～2 条間、2～3 条間に刺突文を施す。97 は底部。やや厚底を呈する。風化が激しいが、外面の一部でタテハケが残る。95・96 は口径・胴径とも復元しえないが、97 から大型であることがうかがえる。98 は蓋口縁部。1 箇所で紐孔とみられる上半部の穿孔痕がある。99 は Pit1 出土の壺もしくは鉢底部。摩滅・剥離が著しく、外底面が残存するにすぎない。

SB4 出土土器 (Fig.60-100・101, PL.51)

100 は Pit192 出土の須恵器壺底部。底部～胴部の境界よりやや内側に低い高台を付ける。Pit192 は SD1 埋土を掘り込んでいることから、本来は SD1 埋土に含まれていたと考えられる。101 は Pit193 出土の土師器皿。ほぼ完形で底面には糸切痕が残る。内面の一部に

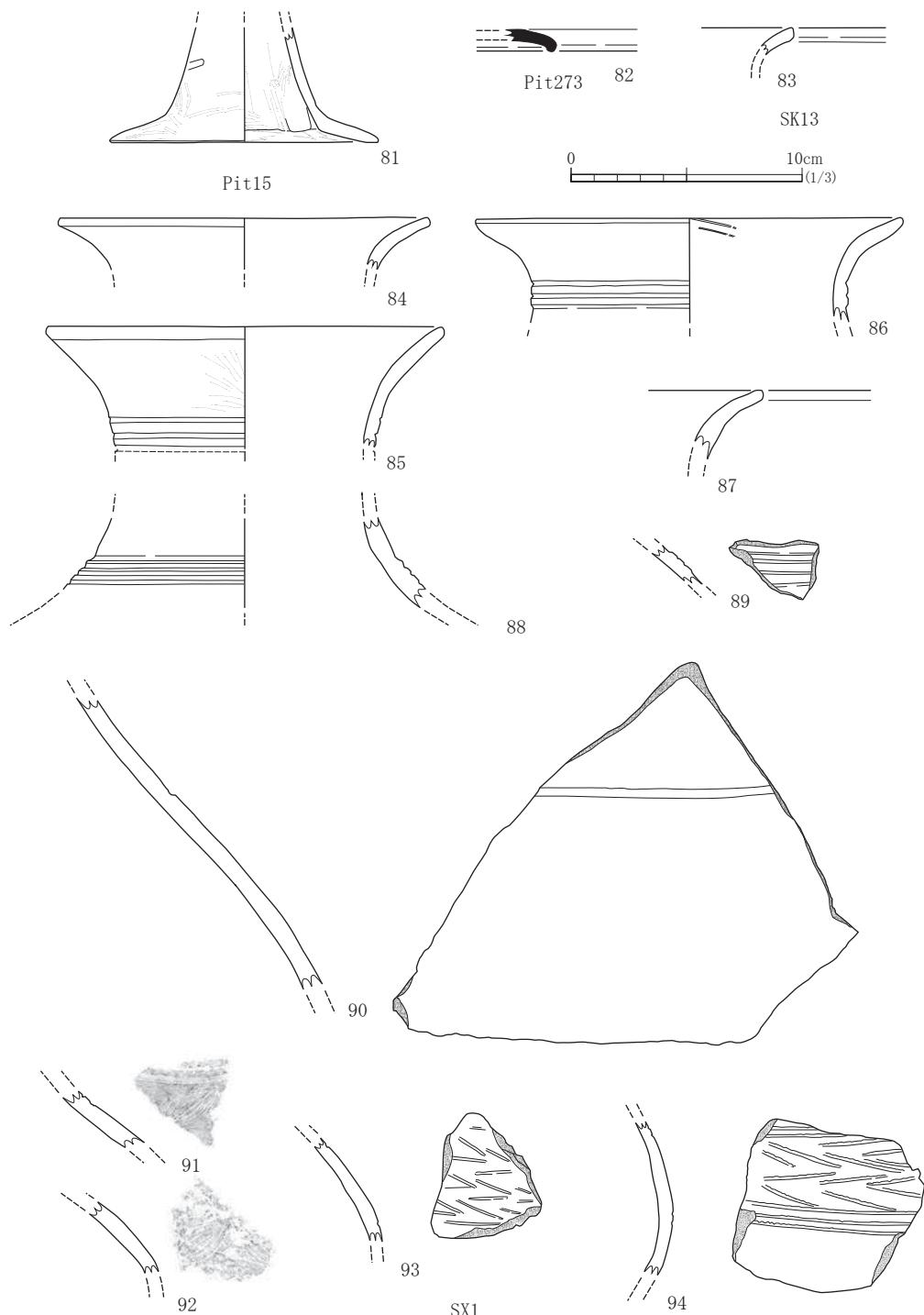


Fig.59 出土遺物実測図④(土器)

はススが付着する。

SB5 出土土器 (Fig.60-102, PL.51)

102 は Pit159 出土の土師器皿底部で、底面に糸切痕を残す。

Pit18 出土土器 (Fig.60-103 ~ 106, PL.51)

103・104 は土師器塊。いずれも高台の一部を除き、底部の大半を欠損する。口縁部が内湾ぎみに立ち上がり、内外面に回転ナデによる凹みが残る。外面・内面上半にヨコミガキ、内面下半にタテミガキを施す。104 は口縁部が内湾ぎみに立ち上がる。風化が激しいが、内外面の一部にヨコミガキが残る。105 は土師器皿底部。風化が激しいが底面に糸切痕を残す。106 は土師器鍋。口縁部を L 字状に強く折り曲げ、その際の指頭痕が残る。胴部外面にはスス・内面にはコゲが付着する。

Pit36 出土土器 (Fig.60-107, PL.51)

107 は土師器皿口縁部～胴部。口縁部は内湾ぎみに立ち上がる。回転ナデの後、内外面にヨコミガキを施す。

Pit62 出土土器 (Fig.60-108, PL.51)

108 土師器塊もしくは土師器皿の底部。底部が外方へ張り出す。摩滅により調整は不明。

Pit10 出土土器 (Fig.60-109, PL.51)

109 は土師器塊口縁部～胴部。摩滅するが、内外面に回転ナデによる凹みが顕著に残る。

Pit76 出土土器 (Fig.60-110, PL.51)

110 は萩焼開口碗の底部。外面は露胎で、内面に灰釉を施釉する。18 世紀後半～19 世紀初頭。

西部第 V-1 層出土土器 (Fig.61-111 ~ 120, PL.51・52)

111・112 は土師器塊底部。いずれも底部～胴部の境界に低い断面三角形の高台を付ける。

113 は土師器塊口縁部。内外面にミガキを施す。

114 は須恵器坏蓋つまみ部で、やや突出したにぶい宝珠形を呈する。115 は須恵器高台付坏底部。高台内端が下方に突出し、接地面となるタイプだが、端部先端は欠損する。

116～119 は龍泉窯系青磁碗で、116、117 が口縁部。118・119 が胴部。118 は鎬蓮弁文、119 は蓮華文を施す。118 が 13 世紀中頃。その他は 12 世紀後半～13 世紀前半。120 は白磁碗¹¹⁾ VII 類の底部。見込みに蛇の目釉剥ぎがある。12 世紀後半。

東部第 V-2 層下部出土土器 (Fig.61-121 ~ 134, PL.52・53)

121 は土師器坏。摩滅が激しく調整は不明。須恵器の焼成不良品である可能性もある。

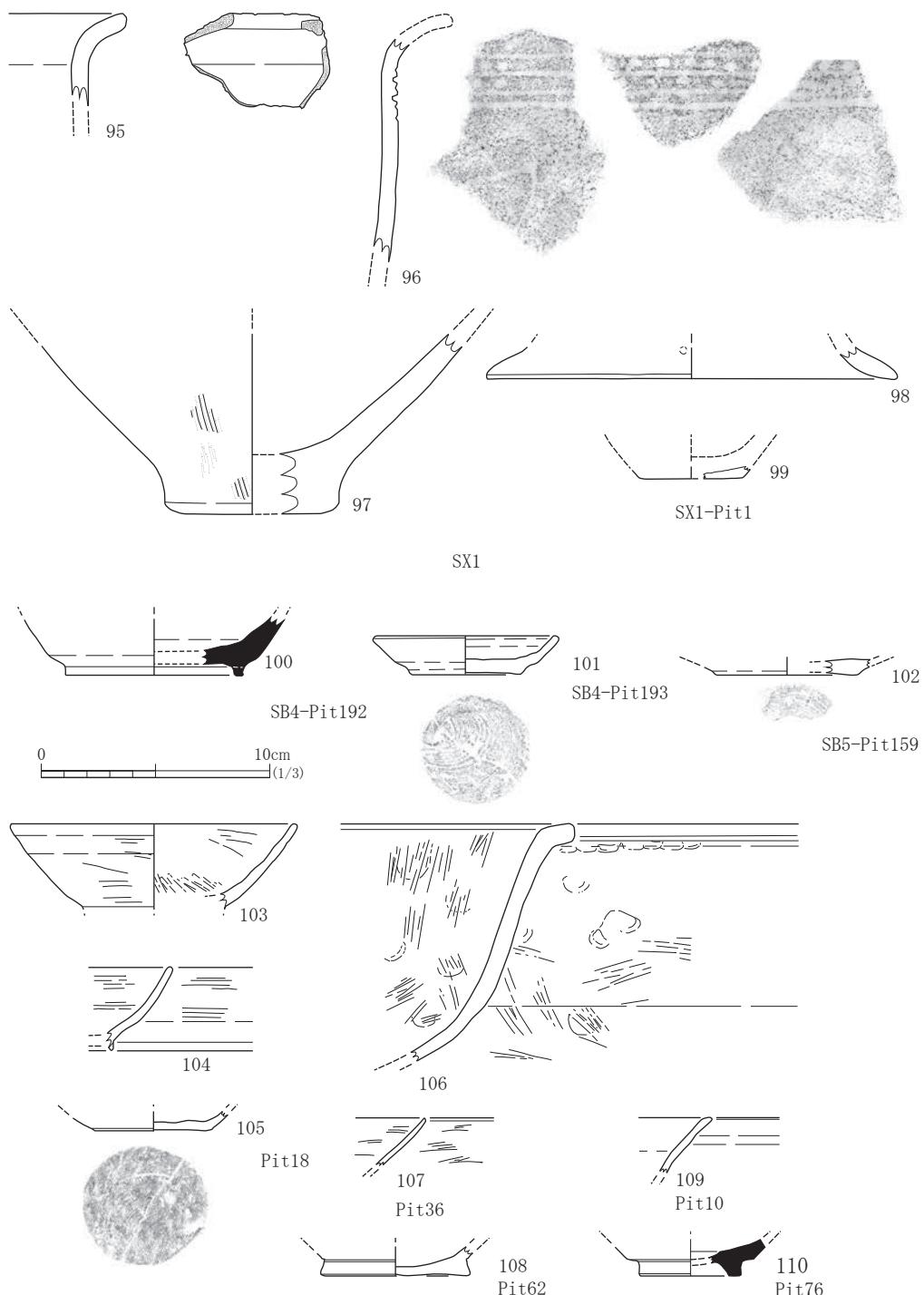


Fig.60 出土遺物実測図⑤(土器)

122～124は須恵器壺蓋。122・123は低い天井部から口縁部が屈曲し、端部が下垂する。124は端部を内側に折り曲げている。125～126は須恵器高台付壺の底部。125は焼成不良で底部一胴部の境界、126はそれよりやや内側に低い高台を付ける。125は内端・外端とも接地し、126は高台内端が下方に突出し、接地面となる。127～130は須恵器壺口縁部。131は須恵器皿口縁部か。小片のため検討の余地がある。132は須恵器長頸壺の口縁部。口縁部に段を持つ。133は須恵器高杯脚部。裾に向けて大きく広がり、端部が下垂する。134は須恵器高杯杯部。口縁端部を外側に折り曲げる。

東部第V-2層上部出土土器 (Fig.61-135～209, Fig.62 PL.53～56)

135は土師器壺もしくは塊の底部。底部一胴部の境界に低い高台を付けたとみられるが、摩滅により詳細は不明。

136・137は須恵器壺蓋つまみ部。いずれも扁平なボタン状で中央部がやや凹む。138～165は須恵器壺蓋。138は同天井部。139～165は天井部～口縁部。139は天井部から内湾して口縁部が下垂する。140・141・143～156は口縁部がわずかに屈曲するか、屈曲せずに端部が下垂するもので、形態は多様である。142は口縁部内にかえりを持つ。157～164は口縁部が屈曲して端部が下垂する。165も口縁部が屈曲するとみられるが、端部を内側に折り曲げている。166～184は須恵器高台付壺の底部。いずれも底部一胴部の境界かやや内側に低い高台を付ける。166～170・178～181は高台内端が下方に突出し、接地面となるもので、171～177・183・184は高台が内端・外端とも接地、あるいは外端だけが接地する。185は須恵器無高台壺の底部。186～199は須恵器壺口縁部。197は焼成不良。200は須恵器皿の底部。底面に回転ヘラ切り痕が残る。201は躰か。口縁部下に1条の突帯を貼り付け、その直下に櫛描波状文を2段施文する。202は須恵器で器種不明の脚部。外面中位に段があり、内端が突出する。203・204は須恵器壺の胴部。いずれも胴部中位で屈曲する長頸壺か。204は屈曲部に部分的に2条の沈線が観察できる。205は須恵器甕頸部か。外面に9条の櫛描波状文を施し、最下段に段を持つ。206は須恵器高杯脚部。207は須恵器高杯杯部。208も形態から須恵器高杯杯部か。

209は中国陶器（12世紀）の壺口縁部か。口縁部は玉縁で内外面に鉄釉を施釉する。上層からの混入である可能性が高い。

東部第V-2層出土土器 (Fig.63-210～243, PL.57～59)

210は縄文土器深鉢。刻目突帯文土器で、突帯上の刻目は摩滅により判然としない。胴部の突帯下には二枚貝条痕が観察できる。

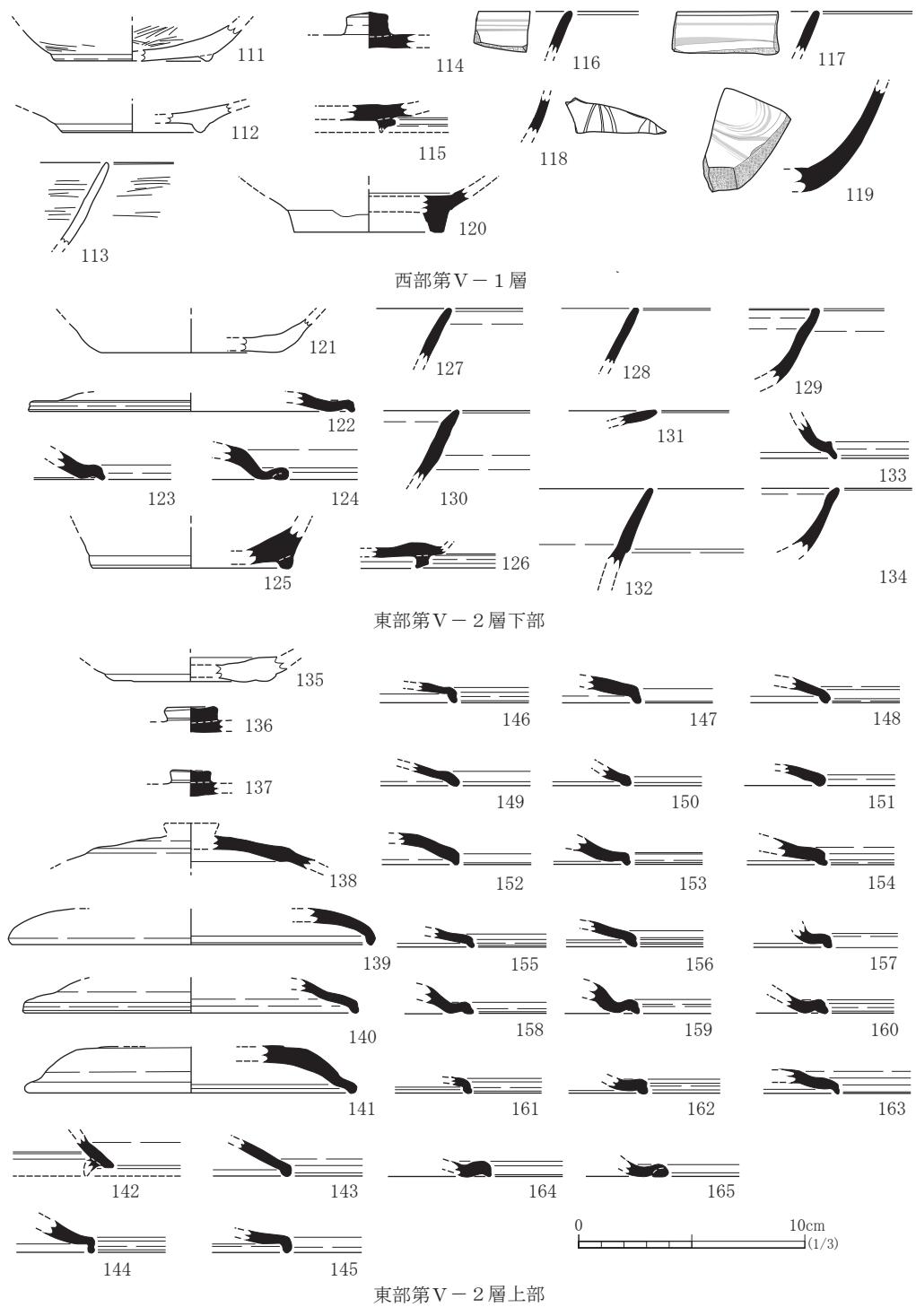
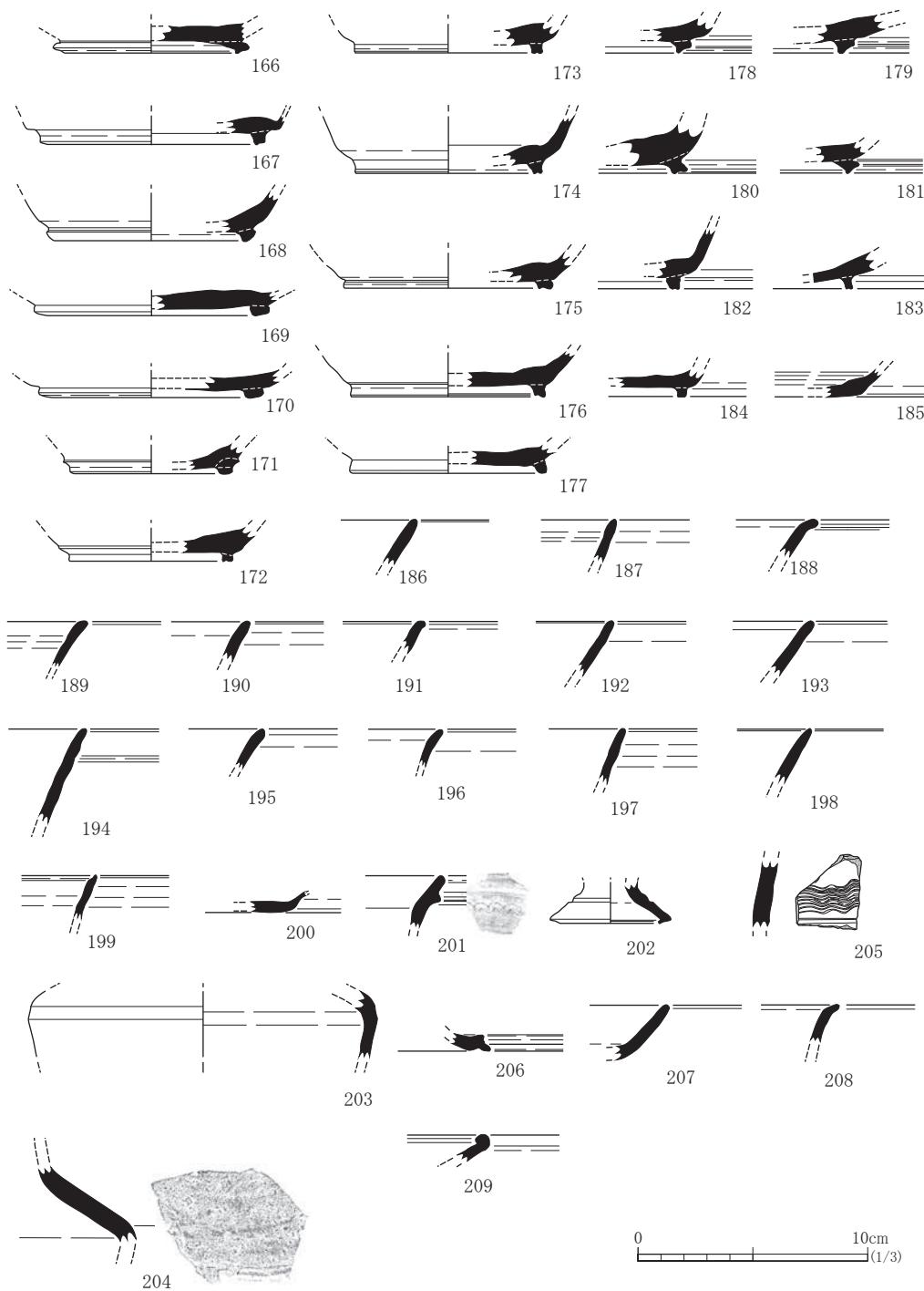


Fig.61 出土遺物実測図⑥(土器)

遺物



東部第V-2層上部

Fig.62 出土遺物実測図⑦(土器)

211は土師器壺もしくは塊の底部。212・213は土師器塊底部。212は摩滅が激しい。色調が灰白色で微細な雲母を含んでおり、他地域からの搬入品とみられる。213は底部一胴部の境界よりやや内側に低い高台を付ける。外面にヨコミガキ、内面に不定方向のミガキを施す。214は土師器甕口縁部。

215は須恵器壺蓋つまみ部。扁平なボタン状で中央部がやや凹む。216～221は須恵器壺蓋の天井部～口縁部。216・219～221は口縁部が屈曲して端部が下垂する。217は口縁部内部にかえりを持つ。218は屈曲せずに端部が下垂する。222・223・229～234は須恵器高台付壺底部。いずれも底部一胴部の境界かやや内側に低い高台を付ける。231は焼成不良。222・229～233は高台内端が下方に突出し、接地面となるもので、223・234は高台が内端・外端とも接地する。224～228・235～237は須恵器無高台壺の底部。224は摩滅のため外面の調整は不明で内面には回転ナデを施す。焼成不良。器壁が厚く、他器種である可能性がある。225・226・228は焼成不良。238・239は須恵器壺口縁部。240は須恵器壺の底部か。底面から胴部が直線的に立ち上がる。241は須恵器甕の口縁部。242・243は須恵器高杯の口縁部。

東部第V-2層掘削後清掃時出土土器 (Fig.63-244, PL.59)

244は須恵器壺蓋の天井部～口縁部。口縁部が屈曲して端部が下垂する。

南東部床面清掃時出土土器 (Fig.63-245～247, PL.59)

245・246は須恵器壺蓋のつまみ部で扁平なボタン状を呈する。247は須恵器壺蓋口縁部。

南東部造成土出土土器 (Fig.63-248・249, PL.59)

248は須恵器高台付壺の底部。底部一胴部の境界に断面方形の低い高台を付ける。249は須恵器壺口縁部。

北東部造成土出土土器 (Fig.63-250, PL.59)

250は須恵器壺蓋の天井部。つまみ部は扁平なボタン状を呈する。

南東部攪乱埋土出土土器 (Fig.63-251, PL.59)

251は須恵器高台付壺の底部。底部一胴部の境界に断面方形の低い高台を付ける。

機械掘削時出土土器 (Fig.63-252～254, PL.59)

本来は、攪乱埋土もしくは造成土からの出土と考えられる。252は須恵器高台付壺の底部。253は須恵器壺の口縁部。254は肥前系広東塊の口縁部～胴部。18世紀末～19世紀初頭。

東部第V-2層表採土器 (Fig.63-255, PL.59)

255は須恵器高杯の口縁部。口縁部が緩やかに屈曲し、内外面に回転ナデを施す。

遺物

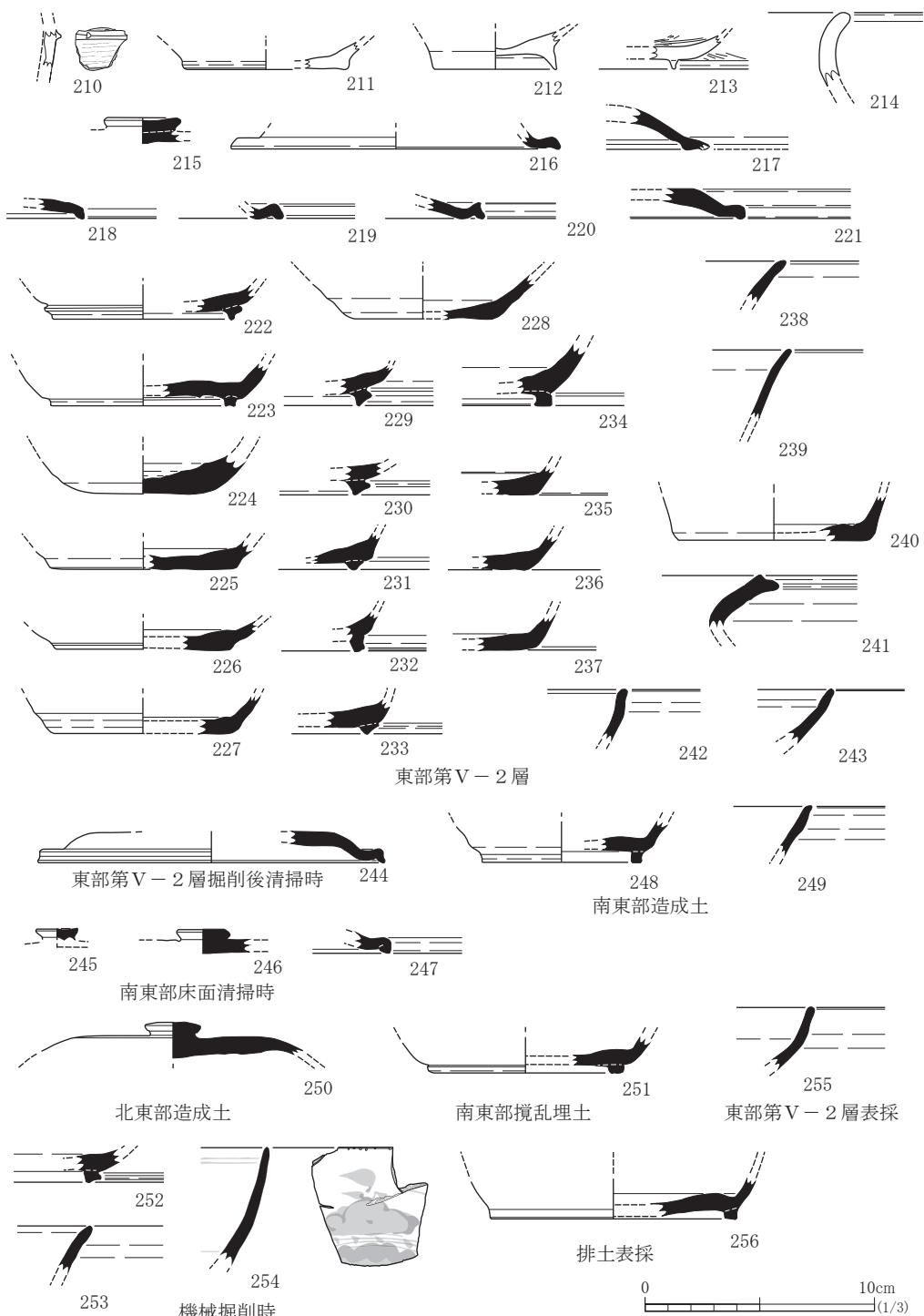


Fig.63 出土遺物実測図⑧(土器)

排土表採土器 (Fig.63-256, PL.59)

256は須恵器高台付壺の底部。底部一胴部の境界に断面方形の低い高台を付ける。

(2) 石器・石製品

SB2-Pit370 出土石器 (Fig.64-257, PL.60)

257は砥石で、石質は花崗斑岩。全体的に被熱しており、上面から右側面は欠損する。

正面・裏面・左測面・下面を使用している。

SD1 下層出土石器 (Fig.64-258 ~ 270・Fig.65-271 ~ 273, PL.60・61)

258～265は石鏸。石質は258～260・262～265が流紋岩。261が安山岩。形態は258～263が凹基式、264が平基式。265は基部を欠損する。266・267は石鏸もしくは石錐で、石質は安山岩。267は周縁部のみ調整し、主要剥離面を残す。268は石錐。石質は流紋岩で上部を欠損する。269・270は敲石。269の石質は石英斑岩で上下端に敲打痕がある。270の石質は流紋岩で正面を中心に全面を使用している。271・272は砥石。271の石質は石英斑岩。全体的に被熱しており、使用が認められる正面・裏面以外を欠損する。272の石質は珪長岩。上面・正面・裏面を使用し、使用痕が顕著に残る。273は打製石鍬で、石質は緑色片岩。裏面に自然面を残す。

SD1 中層出土石器 (Fig.65-274 ~ 281・Fig.66-282・283, PL.61)

274～279は石鏸。石質は274が安山岩、275～277が流紋岩。278は流紋岩か。279は黒曜石¹²⁾(姫島産)。形態は274～276が凹基式。277は欠損するが凹基式か。278は平基式。279は欠損するが平基式か。280は石鏸未製品で、石質は流紋岩。281は敲石で、石質は石英斑岩。上面、正面を中心に敲打痕がある。下半は欠損する。282は台石で石質は石英斑岩。正面・右側面以外は欠損し、正面に敲打痕がある。283は石庖丁で、石質は緑色片岩。正面・裏面の刃部に使用痕が残る。刃部以外は剥離・欠損する。

SD1 上層出土石器 (Fig.66-284 ~ 289, PL.61・62)

284～287は石鏸。石質はいずれも流紋岩。形態は284～286が凹基式で287が平基式。288は打製石鍬で、石質は雲母片岩。刃部を中心に使用による変形が認められる。289は石庖丁。石質は輝緑岩か。端部以外は欠損しているほか、表面のほとんどが剥離している。両側から穿孔した紐孔が1箇所残存する。

SD1 南側清掃時出土石器 (Fig.66-290, PL.61)

290は石鏸で、石質は流紋岩。形態は平基式。

SK13 出土石器 (Fig.66-291, PL.61)

遺物

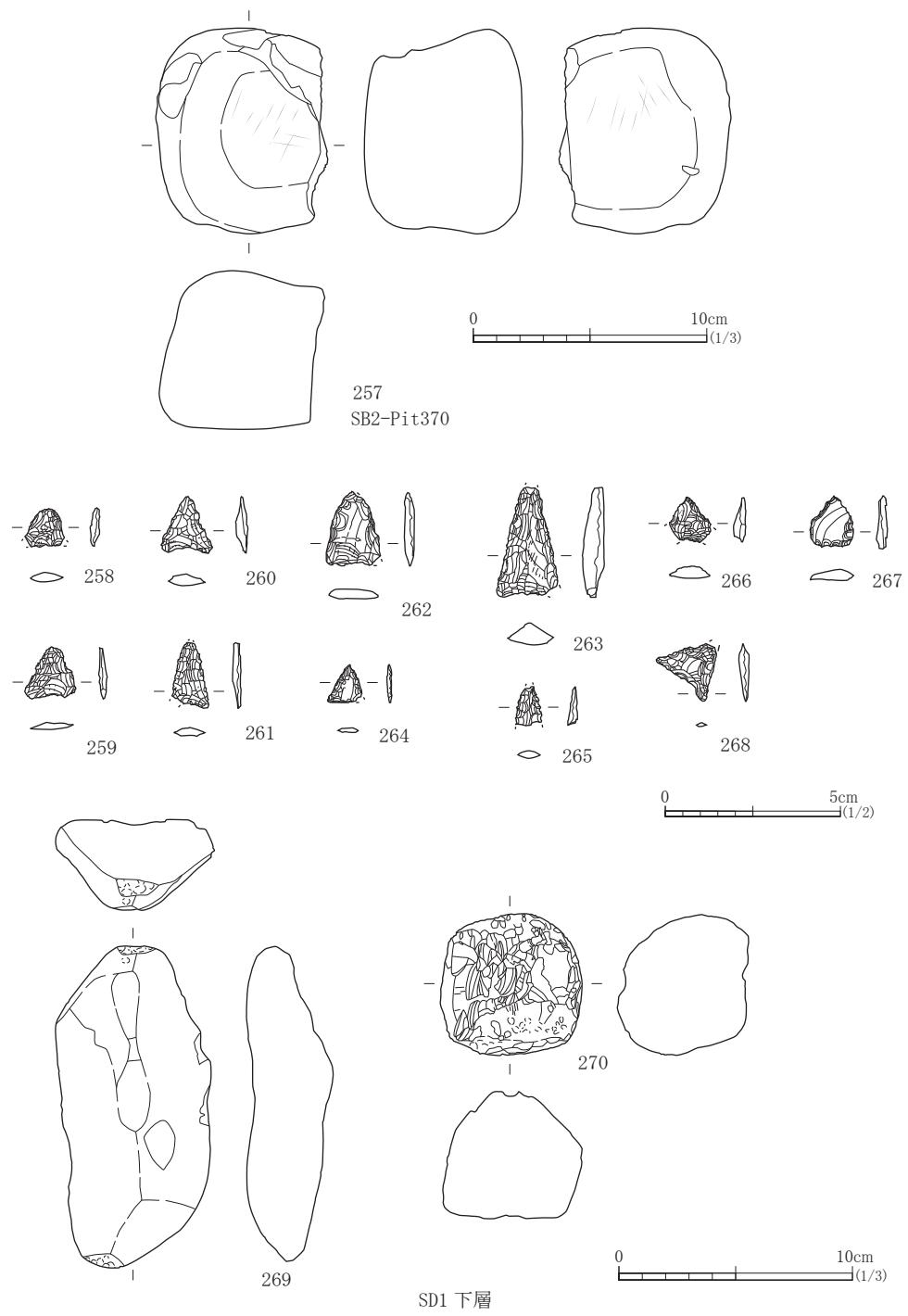


Fig.64 出土遺物実測図⑨(石器)

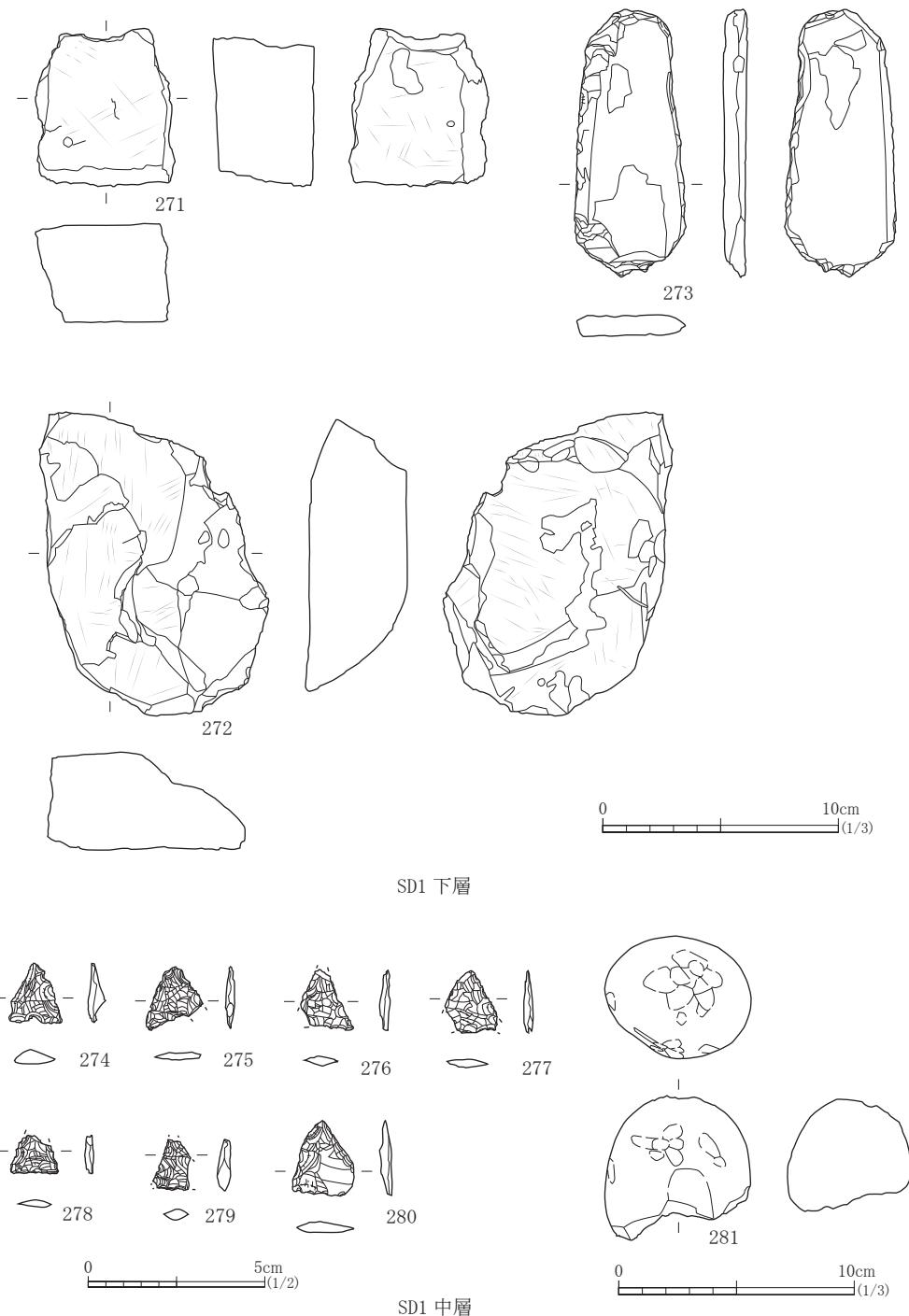


Fig.65 出土遺物実測図⑩(石器)

遺物

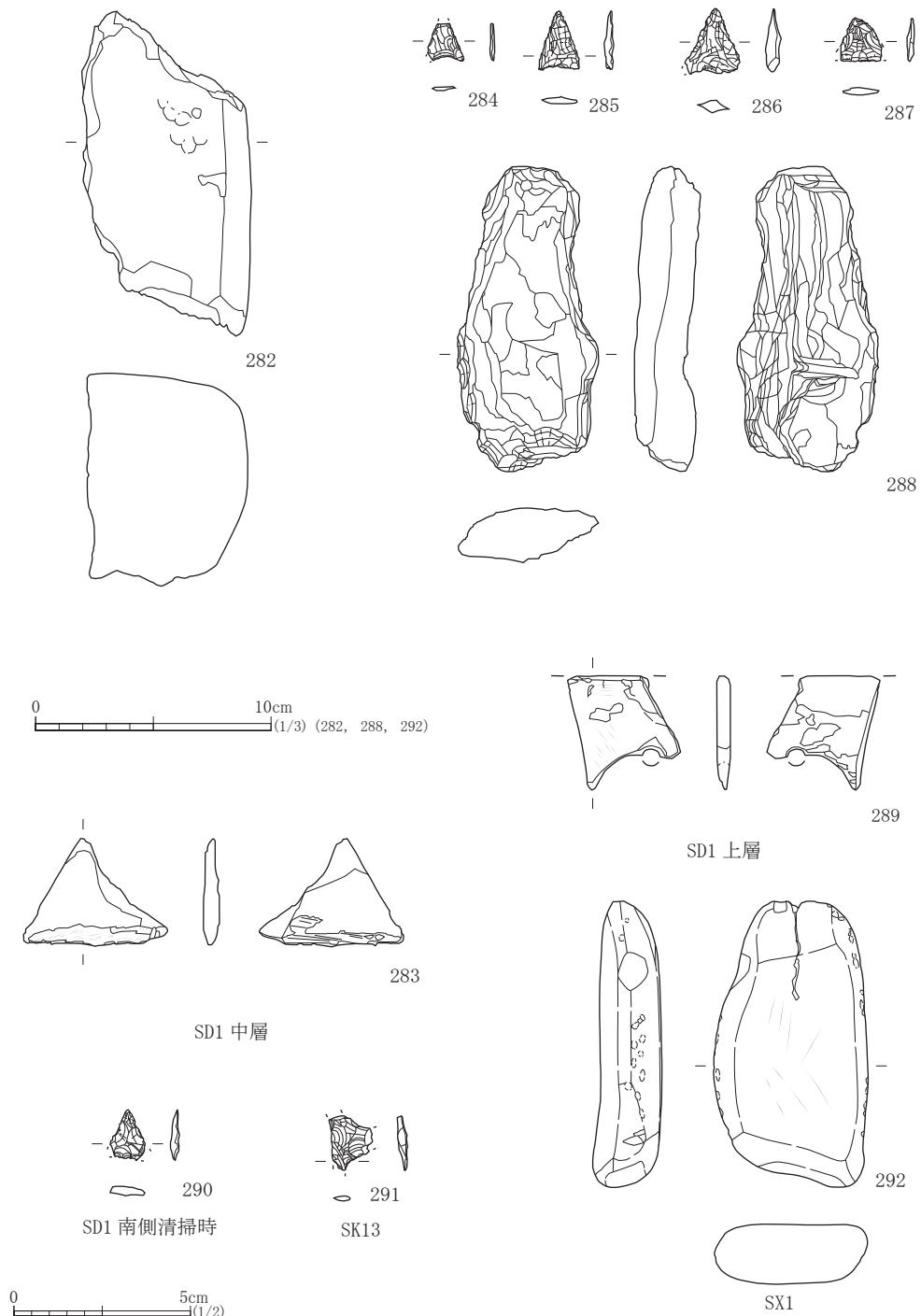


Fig.66 出土遺物実測図⑪(石器)

291は石錐で、石質は流紋岩。欠損のため、頭部・錐部の位置は不明。

SX1 出土石器 (Fig.66-292, PL.62)

292は砥石で、石質は玢岩。正面に使用痕が残る。また、両側面には敲打痕がある。

SX2 出土石器 (Fig.67-293, PL.62)

293は石鏸で、石質は流紋岩。形態は平基式。

SK12 出土石器 (Fig.67-294・295, PL.62)

294は石鏸で、石質は流紋岩。一部を欠損するが形態は平基式であろう。295は石錐で、石質は安山岩。錐部が弧状に湾曲する。SK12は近世以降の土坑であることから、294・295は第V-2層もしくは遺構埋土に含まれていたと考えられる。

西部第V-1層出土石器 (Fig.67-296, PL.62)

296は石鏸で、石質は流紋岩。形態は凹基式で先端を欠損する。

東部第V-2層下部出土石器 (Fig.67-297・298, PL.62)

297・298は石鏸。石質は297が流紋岩で、298が黒曜石(姫島産)。形態はいずれも凹基式。

東部第V-2層上部出土石器 (Fig.67-297～305, PL.62)

299～303は石鏸。石質は299が安山岩、300・302・303が流紋岩、301が黒曜石(姫島産)。形態は299～302が凹基式。303が平基式。304は石鏸未製品。石質は流紋岩。305は石核で、石質は黒曜石(姫島産)。円礫を使用しており、右側面・裏面に自然面を多く残す。

東部第V-2層出土石器 (Fig.67-306～308, PL.62・63)

306は石鏸。石質は流紋岩。形態は凹基式で基端部を欠損する。307は砥石もしくは石座で石質は黒雲母花崗岩。全体的に被熱しており、上部の一部が欠損する。正面は使用により周縁より内側がやや凹む。左測面・裏面も使用している。308は磨製石斧で、石質は砂岩・泥岩の互層。欠損が著しく、基部・刃部とも残存しないが、正面・裏面の一部に使用痕が残る。

西部遺構検出時出土石器 (Fig.67-309, PL.62)

309は石鏸で、石質は安山岩。形態は凹基式で、先端部・基部の一部が欠損する。

東部床面清掃時出土石器 (Fig.67-310, PL.62)

310は石鏸で、石質は流紋岩。形態は平基式。

南東部遺構検出時出土石器 (Fig.67-311, PL.62)

311は石鏸で、石質は安山岩。基端が欠損するが、形態は凹基式とみられる。

西部床面清掃時出土石器 (Fig.67-312, PL.62)

遺物

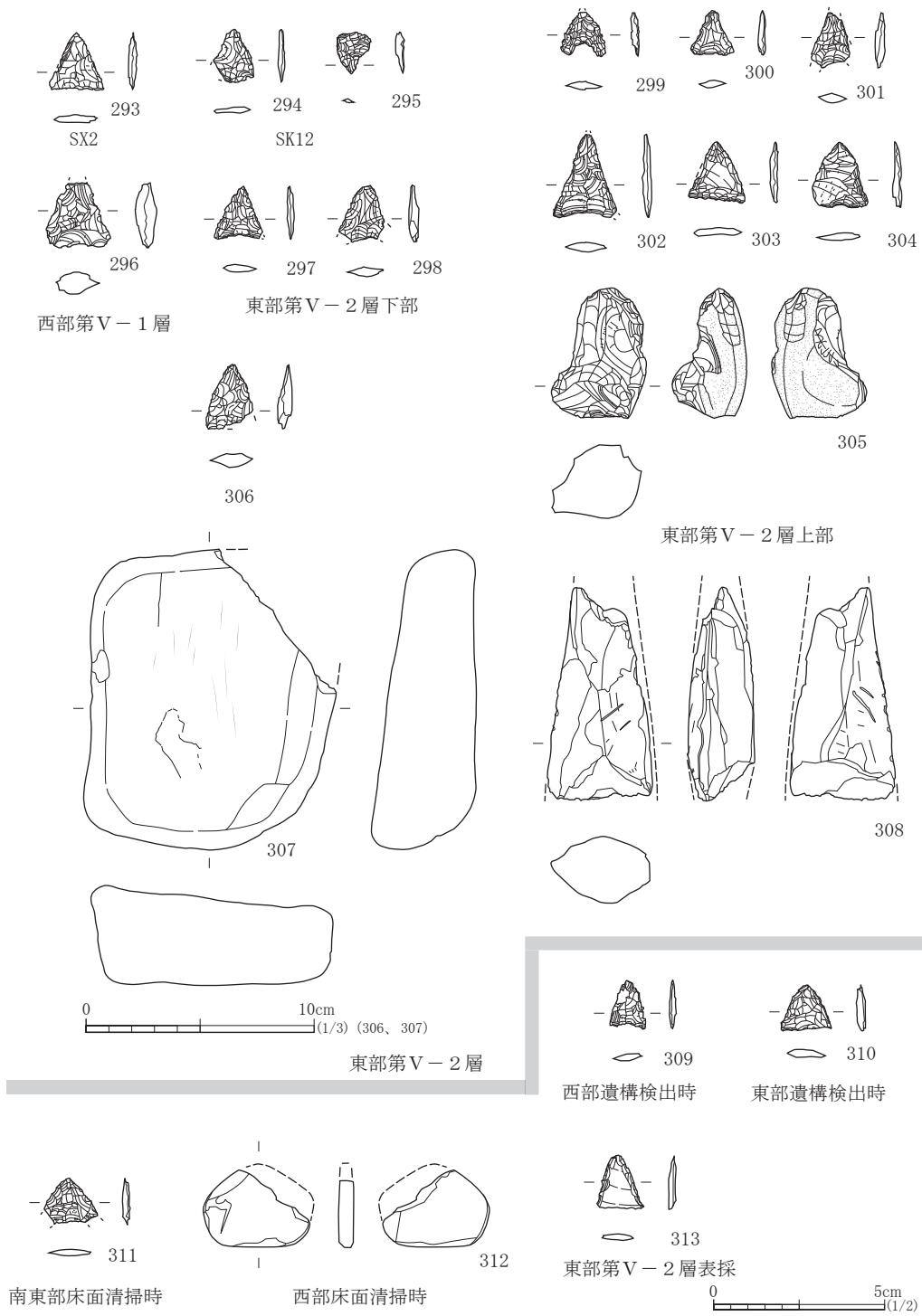


Fig.67 出土遺物実測図⑫(石器)

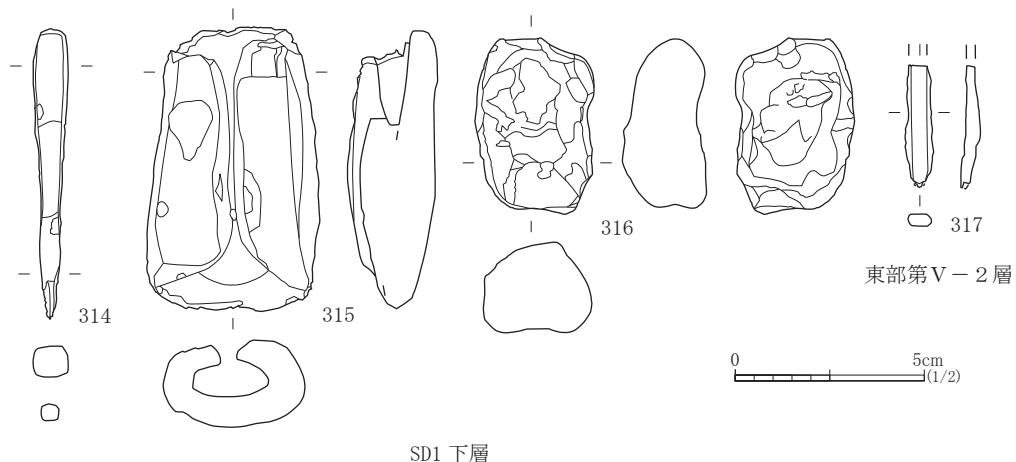


Fig.68 出土遺物実測図⑬(鉄器・鉄滓)

312は用途不明石製品で、石質は砂岩。縦幅2.25cm、横幅3.15cm、厚さ0.49cmで、重量は3.29gである。端面も含めて全面を研磨する。形態は丸鞘と近似するが、丸鞘と比較すると薄く小さいこと、形態が宝珠形を呈する可能性もあることから、用途不明石製品としておく。

東部第V-2層表採石器 (Fig.67-313, PL.62)

313は石鎌で、石質は流紋岩。形態は平基式で、周縁部のみ調整し、主要剥離面を残す。

(3) 鉄製品・鉄滓

以下の鉄製品・鉄滓の図化・写真撮影は保存処理後に行った。

SD1下層出土鉄製品・鉄滓 (Fig.68-314～316, PL.63 (2))

314は鉄釘。出土時は2点に折損しており、保存処理時に接合した。最大長7.7cm、最大幅0.92cm、最大厚0.8cm、重量は6.96gである。315は袋状鉄斧。出土時は鏽の付着が顕著で種類の判別ができなかったが、保存処理後に袋状鉄斧であることが判明した。袋部の残存状況は良好だが、基部・刃部の残存状況は不良である。316は鉄滓。出土時は鏽の付着が顕著で、何らかの鉄製品と認識していたが、保存処理後に鉄滓であることが判明した。最大長4.53cm、最大幅3.07cm、最大厚2.34cm、重量47.34gである。

東部第V-2層出土鉄製品 (Fig.68-317, PL.63 (2))

317は用途不明鉄製品。下端部が欠損し、上半部でやや屈曲する。最大長3.25cm、最大幅0.78cm、最大厚0.34cm。重量1.99gである。

5 小結

今回の調査の成果について、時期別にまとめておきたい。

(1) 縄文～弥生時代

縄文時代では、刻目突帶文土器の深鉢胴部片が1点出土したのみである。弥生時代では調査区西部で弥生時代前期に位置づけられるSX1を検出した。このほか、SK13も¹⁴⁾弥生時代の遺構と考えられる。SX1は、周辺調査区を含めると、大学会館環境整備に伴う試掘調査で貯蔵穴（第3号土壙）が検出されたのに続く、2例目の弥生時代前期の遺構となった。また、大学会館敷地・本部2号館敷地・図書館敷地等で遺構は検出されていないものの、弥生時代前期～中期初頭の土器が出土しているため、居住域が存在したことは確実であろう。また、古代以降の遺構や包含層中からも弥生土器が出土した。時期の判別できるものはいずれも前期～中期初頭とみられる。以上から、弥生時代の遺構は古墳時代以降の遺構により破壊を受けたとみられる。一方、古代以降の遺構や包含層中からは石鏸・石庖丁、砥石、敲石、打製石鋤、打製石斧、剥片等も出土した。これらは縄文時代晚期～弥生時代中期に位置づけられるが、出土土器の状況から弥生時代前期～中期初頭が中心とみられる。このうち、石鏸については、石錐の可能性があるもの2点を含めて39点の石鏸を報告した。石鏸は上記以外にSD1中層から2点出土しているほか、SD1下層から石鏸の可能性がある石器が1点出土している。¹⁵⁾隣接する第I地区E区では14点の石鏸が報告されており、両者を合わせると50点以上の出土となる。今回出土した石鏸には未製品も含まれ、剥片も多数出土していることから、石器製作が行われていたと考えられる。

(2) 古墳時代

遺構は調査区西部で古墳時代中期のピット1基（Pit15）を検出したのみで、同ピットから高杯脚部が出土したほかに、遺物はほとんど出土していない。

(3) 古代

掘立柱建物跡2棟、溝1条、多数のピットを検出したほか、詳細な時期は不明だが古代以前の溝3条、土坑6基、不明遺構3基を検出した。遺物は土師器、須恵器があるが、SD1から出土した鉄製品・鉄滓・東部第V-2層から出土した不明鉄製品も当該期のものであろう。このほか、SD1から出土した砥石類も当該期のものが主体であろう。

吉田遺跡で古代の掘立柱建物跡が確認されたのは、今回の調査が初である。調査区東部ではこのほかにも古代とみられるピットを複数検出しており、本来はさらに掘立柱建物跡が存在した可能性が高い。SD1は第I地区E区で検出された「溝状遺構」の延長部である

ことが判明した。今回調査区内における検出長は 13.76 m、幅 3.17 ~ 5.07 m、深さ 0.31 ~ 0.62 m で、吉田遺跡調査団による調査分を含めた長さは約 49.2 m である。流路方向は N17° W で、SB1 の梁行方向 N8° W と近似する。当初は流水していたと考えられるが、掘り直しの痕跡がなく、下層と上層の遺物に顕著な時期差がないことから、掘削後、間もなく埋没が開始したようである。SD1 から出土した須恵器は小片が多いが、坏蓋の形態等から 9 世紀でも後半が主体とみられ、9 世紀代のうちにはほぼ埋没したと推測する。上層から出土した土師器塊の位置づけが問題になるが、前述のように埋没後に掘り込まれたピットに含まれていたか、窪地となった最終段階に廃棄された可能性がある。SB1・2 から出土した須恵器は小片だが、SB2-Pit371 から出土した須恵器坏蓋片 (Fig. 56-5) は近似したもののが SD1 からも出土している。また、今回調査区内で SD1 より西側には確実な古代の遺構がないが、東側には SB1・2 やピットといった遺構があり、8 世紀後半～9 世紀前半の須恵器を多量に含む第 V-2 層が存在する。

第2学生食堂東側に隣接する農学部実験畠では、第2学生食堂新営その他に伴う屋外電力線路施設整備工事（平成 11 年度調査）で古代の遺物包含層・ピットが検出され、農学部果樹園排水工事に伴う立会調査（平成 28 年度調査）で古代以前のピットや土壙群、堅穴式住居の可能性がある大型遺構が検出されている。¹⁶⁾さらに今回調査区東端から約 70 m 東に位置する農学部農業環境観測実験施設敷地でも、土坑 3 基（掘立柱建物跡の柱穴か）¹⁷⁾・溝 1 条が検出されていることから、第2学生食堂の東側一帯に古代の遺構・遺物が分布することは確実である。以上と、SD1 の直線的な形状から、SD1 は掘立柱建物等の施設を区画するための溝であったと位置づけたい。一方、今回調査区より西側においても、明確な遺構はないものの、土器類のほか、遺跡保存公園・大学会館敷地では「富」の墨書がある須恵器坏¹⁸⁾、石製丸鞆¹⁹⁾、図書館敷地では青銅製丸鞆²⁰⁾といった特殊な遺物も出土している。上記の遺物を踏まえれば、今回検出された SD1、SB1・2 は何らかの官衙関連施設の一部であると考えられる。近年、農学部動物医療センター周辺では 7 世紀後半～9 世紀代の遺構・遺物が確認されているが、今回調査で確認した遺構・遺物には 7 世紀後半～8 世紀前半の遺物はほとんどなく、官衙関連施設の変遷についても検討が必要である。

(4) 中世

掘立柱建物跡 5 棟、溝 1 条、多数のピットのほか、土坑 5 基を検出した。吉田遺跡で中世の掘立柱建物跡が確認されたのも今回が初である。掘立柱建物跡のうち、SB5 は他の掘立柱建物跡と棟方向が異なるほか、SB6 と重複する。

SB5～7は柱穴の一部を第V－1層除去後に検出している。第V－1層出土遺物には、高台が小さな三角形状を呈する土師器塊（Fig. 61-111・112）や、12世紀後半～13世紀中頃の輸入陶磁器片（Fig. 61-116～120）を含むが、14世紀～17世紀前半の防長型瓦質土器を含まない。以上から、SB5～7の年代は12～13世紀と推測する。棟方向が近似するSB3・SB4の年代も上記の範疇でとらえておきたい。

調査区東部で検出されたSD2は出土遺物が僅少なため詳細な時期については検討の余地があるが、流路方向はN25°Wで、西側に位置するSB3・4・6・7の梁行方向と近似することから、これらの掘立柱建物を区画していた溝である可能性が高い。

（5）近世以降

近世以降、統合移転直前まで存在した棚田に関連するとみられる溝7条、土坑3基、複数のピットを検出し、陶磁器類が若干出土した。このほか、吉田遺跡調査団のトレントを検出した。後者については付篇を参照されたい。

〔注〕

- 1) 時間的な都合により、調査区南東隅では等高線の測量を行っていない。
- 2) 豆谷和之「付篇 I 第1章 吉田遺跡第I地区E区の調査」（『山口大学構内遺跡調査研究年報X II』、1994年）・本書付篇。
- 3) ただし、調査区東部を中心に樹根など遺構ではないものが含まれる可能性がある。
- 4) SD1東岸付近で検出されたピットは黒褐色粘質土であるが、SD1は削平を考慮するとさらに東へ広がっていたと考えられるので、その埋土を含んでいた可能性が高い。また、Pit208のようにSD1埋没後の掘立柱建物跡を構成するものもあることから、これらのピットは中世に含めた。ただし、上記のピットからほとんど遺物が出土しなかったため、検討の余地がある。
- 5) 前掲注2文献
- 6) 前掲注2文献
- 7) 『山口大学構内遺跡調査研究年報X VI・X VII』Fig. 80の復元案を訂正する。
- 8) 前掲注2文献
- 9) 前掲注2文献
- 10) 平成14年頃、元防府市教育委員会 大林達夫氏よりご教示を得た。
- 11) 横田賢次郎・森田勉「太宰府出土の輸入中国陶磁器について」（『九州歴史資料館研究論集』4、1978年）
- 12) 今回の調査で石質が黒曜石と鑑定された石鏸・石核は乳白色を呈し、姫島産黒曜石と言われるもので

ある。遺物観察表の「姫島産」は田畠が付記した。

- 13) 防府市教育委員会 杉原和恵氏よりご教示を得た。
- 14) 山口大学埋蔵文化財資料館「吉田構内大学会館環境整備に伴う試掘調査」(『山口大学構内遺跡調査研究年報V』、1986年)
- 15) 前掲注2文献
- 16) 山口大学埋蔵文化財資料館「農学部果樹園排水工事に伴う立会調査」(『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成28年度－』、2021年)
- 17) 山口大学埋蔵文化財資料館「吉田構内農学部農業環境観測実験施設新営に伴う発掘調査」(『山口大学構内遺跡調査研究年報X』、1992年)
- 18) 杉原和恵「墨で文字を書きこんだうつわ－既刊の報告 補訂－」(『山口大学構内遺跡調査研究年報VII』、1988年)
- 19) 山口大学埋蔵文化財資料館「吉田構内大学会館新営に伴う発掘調査」(『山口大学構内遺跡調査研究年報III』、1985年)
- 20) 山口大学埋蔵文化財資料館「図書館改修工事及び環境整備(図書館周辺道路迂回)工事に伴う本発掘調査」(『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成24年度－』、2016年)
- 21) 山口大学埋蔵文化財資料館「農学部附属家畜病院Ⅰ期改修工事に伴う本発掘調査」(『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成18年度－』、2010年)ほか

掘立柱建物跡・溝・土壙・不明遺構観察表

Tab.6 掘立柱建物跡観察表

() は復元値

遺構番号	棟方向	規模 (m) (桁行×梁行)	面積 (m ²)	出土遺物	備考
SB1	N82° E	3間 (5.83) × 2間 (3.81)	(22.2)	土師器、須恵器、剥片	古代 一部破壊
SB2	N2° E	2間 (2.0) 以上 × 2間 (3.0)	6以上	弥生土器、土師器、須恵器、焼土塊、剥片	古代 一部破壊・調査区外
SB3	N72° E	1間 (2.5) × 1間 (2.2)	5.5	須恵器	中世
SB4	N71° E	2間 (4.3) × 2間 (3.3)	(14.2)	土師器、須恵器	中世 一部破壊
SB5	N7° E	2間 (3.6) × 2間 (3.2)	11.5	土師器、須恵器、青磁、剥片	中世
SB6	N70° E	2間 (5.0) × 2間 (4.1)	20.5	土師器	中世
SB7	N72° E	2間 (3.7) × 2間 (2.9)	(10.7)	土師器	中世 一部破壊

Tab.7 溝・土坑・不明遺構観察表

() は残存値

種類	遺構番号	平面形	規模			出土遺物	備考
			長さ / 長軸	幅 / 短軸	深さ		
			(cm)	(cm)	(cm)		
溝	SD1		(1376)	317～507	31～62	土師器、須恵器、土錐、石錐、石錐、敲石、砥石、石鋤、台石、石包丁、剥片、鉄釘、鉄斧	古代 深さは断面図最深部のデータ
溝	SD2		(669)	46～82	6～9	土師器、須恵器、青磁、剥片	中世
溝	SD3		112	12～28	6		近世～統合移転前の水田暗渠
溝	SD4		(2120)	3～39	3～5	須恵器	近世～統合移転前の水田暗渠・一部破壊
溝	SD5		170	6～10	3		近世～統合移転前の耕作溝
溝	SD6		86	18～22	8		近世～統合移転前の水田暗渠
溝	SD7		177	8～14	3～6		近世～統合移転前の水田暗渠
溝	SD8		(118)	29～45	1～4		近世～統合移転前の水田暗渠
溝	SD9		(127)	11	3	弥生土器もしくは土師器	古代以前
溝	SD10		(50)	14	2		古代以前 SD11に切られる
溝	SD11		(44)	11	3	土師器	古代以前 SD10を切る
溝	SD12		(183)	7～41	2～18		近世～統合移転前の水田暗渠
土坑	SK1	楕円形	69	63	49	弥生土器もしくは土師器	古代以前
土坑	SK2	溝状	(282)	25～63	5	弥生土器もしくは土師器、須恵器、剥片	中世
土坑	SK3	不整形	62	30	15		中世
土坑	SK4	不整形	118	60	9		中世
土坑	SK5	不整形	278	207	18	土師器、須恵器	近世～統合移転前
土坑	SK6	隅丸方形	100	90	13	弥生土器もしくは土師器、須恵器、剥片	近世～統合移転前
土坑	SK7	不整形	133	(75)	5～9	土師器、須恵器、砥石	中世 SK8を切る
土坑	SK8	不整形	60	(53)	8	土師器	中世 SK7・SD4に切られる
土坑	SK9	楕円形	69	49	4		古代以前

第2学生食堂の増築及び改修工事に伴う発掘調査

種類	遺構番号	平面形	規模			出土遺物	備考
			長さ/長軸	幅/短軸	深さ		
			(cm)	(cm)	(cm)		
土坑	SK10	楕円形	87	73	32	土師器、須恵器、磁器、石鎚、石錐、剥片	近世～統合移転前
土坑	SK11	不整形	75	9～20	6		古代以前
土坑	SK12	溝状	(245)	94	27	弥生土器もしくは土師器、須恵器、砥石、剥片	古代以前 SX2を切り、SB2に切られる
土坑	SK13	長方形	166	63	8～15	弥生土器、土師器、石錐、剥片	弥生 土師器は混入か
土坑	SK14	溝状	44	10	13		古代以前
不明遺構	SX1	不整形	(320)	(240)	1～10	弥生土器、土師器、須恵器、砥石、焼土塊	弥生前期 一部破壊 土師器・須恵器は混入か 長軸、短軸は推定
不明遺構	SX2	不整形	(238)	(178)	4～10	弥生土器もしくは土師器、須恵器、砥石、剥片	古代以前 一部破壊 長軸は断面A-B間、短軸はC-D間
不明遺構	SX3	不整形	(134)	(92)	6		古代以前 SK12に切られる 短軸はA-B間
不明遺構	SX4	不整形	158	(97)	2～8	弥生土器もしくは土師器	古代以前

Tab.8 出土遺物観察表(土器)

法量()は復元値

遺物番号	出土地区・遺構	層位	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	色調 ①外面②内面	胎土	備考
1	SB1-Pit227		須恵器	坏	底部			①②灰白色	0.5～1.5mmの砂粒を少量含む	
2	SB1-Pit232		須恵器	坏	口縁部			①②灰白色	0.5～1.0mmの砂粒を少量含む	
3	SB1-Pit234		須恵器	坏	口縁部			①②灰白色	0.5～3.0mmの砂粒を少量含む	
4	SB2-Pit373		土師器	坏	口縁部			①②黄橙色	0.5mmの砂粒を少量含む	
5	SB2-Pit371		須恵器	坏蓋	口縁部			①②青灰色	0.5～1.5mmの砂粒を少量含む	
6	SB2-Pit370		須恵器	坏	口縁部			①②灰色	精良	
7	SD1-1区	下層	弥生土器	壺	胴部			①橙色 ②黄褐色	0.5～3.0mmの砂粒を多く含む	
8	SD1-1区	下層	弥生土器	甕	底部	(6.9)		①橙色 ②灰白色	0.5～6.0mmの砂粒を多く含む	
9	SD1-1区	下層	弥生土器	甕	底部	(6.6)		①にぶい黄褐色 ②橙色	0.5～5.0mmの砂粒を多く含む	
10	SD1-3区	下層	弥生土器	甕	底部	(7.7)		①にぶい黄色 ②橙色	0.5～5.0mmの砂粒を多く含む	
11	SD1-3区	下層	須恵器	坏蓋	天井部			①②青灰色	0.5～2.5mmの砂粒を少量含む	つまみ径3.1cm
12	SD1-4区	下層	須恵器	坏蓋	天井部			①②オリーブ灰色	精良	つまみ径3.1cm
13	SD1-2区	下層	須恵器	高台付坏	胴～底部	(5.8)		①②灰色	0.5～1.0mmの砂粒を少量含む	
14	SD1-2・3区	下層	須恵器	高台付坏	口縁～底部	12.6	(6.8)	4.7 ①②暗青灰色	0.5～2.0mmの砂粒をやや多く含む	
15	SD1-3区	下層	須恵器	高台付坏	胴～底部	6.7		①明青灰色 ②灰色	0.5～3.0mmの砂粒をやや多く含む	
16	SD1-3区	下層	須恵器	高台付坏	胴～底部	(7.4)		①②青灰色	0.5～2.0mmの砂粒を少量含む	
17	SD1-3区	下層	須恵器	高台付坏	胴～底部	(7.8)		①②青灰色	0.5～2.0mmの砂粒を少量含む	
18	SD1-3区	下層	須恵器	高台付坏	胴～底部	(8.1)		①②灰黄色	0.5～2.0mmの砂粒を少量含む	
19	SD1-1区	下層	須恵器	高台付坏	胴～底部	(9.2)		①②灰色	0.5～2.0mmの砂粒を少量含む	
20	SD1-1区	下層	須恵器	高台付坏	胴～底部	(9.5)		①②灰色	精良	

出土遺物観察表

遺物番号	出土地区・遺構	層位	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	色調	胎土	備考	
								①外面②内面			
21	SD1-3区	下層	須恵器	高台付 壺	胴～底部		(9.4)	①②灰色	精良		
22	SD1-3区	下層	須恵器	高台付 壺	胴～底部		(6.8)	①②青灰色	0.5～3.0mmの砂粒を やや多く含む		
23	SD1-3区	下層	須恵器	高台付 壺	胴～底部		(7.5)	①灰色 ②青灰色	0.5～2.5mmの砂粒を 少量含む		
24	SD1-1区	下層	須恵器	壺	胴～底部		(8.8)	①②灰白色	0.5～1.0mmの砂粒を 少量含む		
25	SD1-4区	下層	須恵器	壺	胴～底部		(8.6)	①浅黄色 ②淡黄色	0.5～1.0mmの砂粒少 量含む		
26	SD1-3区	下層	須恵器	高台付 壺	胴～底部			①②灰色	0.5～1.0mmの砂粒を 少量含む		
27	SD1-2区	下層	須恵器	高台付 壺	胴～底部			①②灰白色	0.5～1.0mmの砂粒少 量含む		
28	SD1-3区	下層	須恵器	高台付 壺	胴～底部			①灰色 ②灰白色	0.5～1.0mmの砂粒を 少量含む		
29	SD1-1区	下層	須恵器	高台付 壺	胴～底部			①②灰白色	0.5～1.0mmの砂粒を 少量含む		
30	SD1-3区	下層	須恵器	高台付 壺	胴～底部			①②灰色	0.5～1.0mmの砂粒を 少量含む		
31	SD1-1区	下層	須恵器	壺	胴～底部			①②灰色	0.5～1.0mmの砂粒を 少量含む		
32	SD1-3区	下層	須恵器	壺	口縁部			①②灰色	精良		
33	SD1-2区	下層	須恵器	壺	口縁部			①②灰白色	0.5～1.0mmの砂粒を 少量含む		
34	SD1-4区	下層	須恵器	壺	底部	(12.0)		①②青灰色	0.5～2.0mmの砂粒を 少量含む		
35	SD1-4区	下層	須恵器	壺	胴～底部			①②灰色	精良		
36	SD1-4区	下層	須恵器	壺	底部			①②灰色	0.5～1.0mmの砂粒を 少量含む		
37	SD1-4区	下層	須恵器	甕	口縁部			①②灰黄色	0.5～1.0mmの砂粒を 少量含む		
38	SD1-3区	下・中層	須恵器	高台付 壺	胴～底部	(6.5)		①②灰白色	0.5～3.0mmの砂粒を 少量含む		
39	SD1-2・3・4区	下・中層	須恵器	高台付 壺	口縁部～底部	(12.7)	(7.2)	5.5	①②青灰色	0.5～1.5mmの砂粒を 多く含む	
40	SD1-2・3区	下・中層	須恵器	高台付 壺	口縁部～底部	(11.3)	6.9	4.65	①灰白色 ②青灰色	0.5～2.0mmの砂粒を 少量含む	
41	SD1-3・4区	下・中層	須恵器	高台付 壺	胴～底部		(7.0)	①②灰色	0.5～3.0mmの砂粒を 少量含む		
42	SD1-3区	中層	弥生土器	甕	底部		5.0	①黒褐色 ②にぶい黄橙色	0.5～3.0mmの砂粒を 多く含む		
43	SD1-2区	中層	土師器	壺	胴～底部		(6.2)	①②灰白色	0.5～3.0mmの砂粒を やや多く含む		
44	SD1-2区	中層	土師器	壺	胴～底部		(6.6)	①にぶい褐色 ②浅黄橙色	0.5～1.0mmの砂粒を 少量含む		
45	SD1-1区	中層	土師器	壺	胴～底部		(6.3)	①灰黃褐色 ②褐色	0.5～2.0mmの砂粒を やや多く含む		
46	SD1-4区	中層	土師器	壺	胴～底部		(8.6)	①浅黄色 ②灰白色	0.5～1.0mmの砂粒を 少量含む		
47	SD1-3区	中層	土師器	皿	胴～底部		(5.4)	①にぶい黄橙色 ②灰黄色	0.5～3.0mmの砂粒を 少量含む	SD1埋没後の遺構に 伴う可能性が高い	
48	SD1-1区	中層	土師器	甕	口縁部			①にぶい黄橙色 ②浅黄色	0.5～2.0mmの砂粒を 多く含む	49と同一か	
49	SD1-1区	中層	土師器	甕	胴部			①にぶい黄橙色 ②浅黄色	0.5～2.0mmの砂粒を 多く含む	48と同一か	
50	SD1-3区	中層	須恵器	壺蓋	天井部			①②灰白色	0.5～1.0mmの砂粒を 少量含む	つまみ径2.2cm	
51	SD1-3区	中層	須恵器	高台付 壺	胴～底部		(7.8)	①②灰色	0.5～2.0mmの砂粒を 少量含む		
52	SD1-3区	中層	須恵器	高台付 壺	胴～底部		(6.0)	①②灰色	0.5～1.0mmの砂粒を 少量含む		
53	SD1-3・4区	中層	須恵器	高台付 壺	口縁部～底部	(13.3)	(6.9)	5.3	①②青灰色	0.5～2.0mmの砂粒を 少量含む	
54	SD1-3区	中層	須恵器	高台付 壺	胴～底部		(9.9)	①②青灰色	0.5～2.0mmの砂粒を 少量含む		

第2学生食堂の増築及び改修工事に伴う発掘調査

遺物番号	出土地区・遺構	層位	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	色調 ①外面②内面	胎土	備考
55	SD1-3区	中層	須恵器	高台付壺	胴～底部		(10.4)	①②灰色	0.5～1.0mmの砂粒を少々含む	
56	SD1-3区	中層	須恵器	高台付壺	胴～底部		(9.9)	①②灰色	0.5～1.0mmの砂粒を少々含む	
57	SD1-2区	中層	須恵器	壺	胴～底部		(8.4)	①②灰色	精良	
58	SD1-1区	中層	須恵器	壺	胴～底部			①②明オリーブ灰色	0.5～1.5mmの砂粒を少々含む	
59	SD1-3区	中層	須恵器	壺	口縁部	(15.4)		①②灰色	0.5～2.0mmの砂粒を少々含む	
60	SD1-1区	中層	須恵器	壺	口縁部			①②灰色	0.5～1.0mmの砂粒を少々含む	
61	SD1-3区	中層	須恵器	長頸壺	胴部			①②青灰色	0.5～2.0mmの砂粒を少々含む	
62	SD1-3区	中層	須恵器	壺	底部			①青灰色 ②明青灰色	0.5～1.0mmの砂粒を少々含む	
63	SD1-3区	中層	須恵器	甕	口縁部			①②灰色	0.5～1.0mmの砂粒を少々含む	
65	SD1-3区	上層	弥生土器	壺もしくは鉢	底部		(11.0)	①②にぶい黄色	0.5～4.0mmの砂粒を多く含む	
66	SD1-1区	上層	弥生土器	甕	底部		(10.5)	①②にぶい橙色	0.5～3.0mmの砂粒を多く含む	
67	SD1	上層	土師器	高台付壺	底部			①②灰オリーブ色	0.5～2.0mmの砂粒を少々含む	
68	SD1-2区	上層	土師器	壺	底部		(6.5)	①②灰白色	0.5～2.0mmの砂粒を少々含む	
69	SD1-4区	上層	土師器	壺もししくは皿	底部		4.2	①②にぶい黄橙色	0.5～2.0mmの砂粒を少々含む	
70	SD1-1区	上層	土師器	壺	口縁部			①②浅黄橙色	0.5～1.0mmの砂粒を少々含む	
71	SD1-1区	上層	土師器	甕	口縁部～胴部	(25.2)		①②にぶい淡黄色	0.5～2.0mmの砂粒を少々含む	
72	SD1-1区	上層	須恵器	壺蓋	天井部			①灰黄色 ②青灰色	0.5～2.0mmの砂粒を少々含む	つまみ径2.5cm
73	SD1-2区	上層	須恵器	壺蓋	天井部～口縁部	(12.4)		①青灰色 ②赤灰色	0.5～2.5mmの砂粒を少々含む	
74	SD1-2区	上層	須恵器	壺蓋	天井部～口縁部	(12.9)		①②灰白色	0.5～2.0mmの砂粒を少々含む	
75	SD1-1区	上層	須恵器	壺蓋	天井部～口縁部			①明オリーブ灰色 ②灰色	精良	
76	SD1-2区	上層	須恵器	壺蓋	天井部～口縁部			①暗青灰色 ②灰色	0.5～1.0mmの砂粒を少々含む	
77	SD1-2区	上層	須恵器	高台付壺	胴部～底部	(8.0)		①②にぶい黄橙色	0.5～2.0mmの砂粒を少々含む	
78	SD1-1区	上層	須恵器	高台付壺	胴部～底部			①灰白色 ②にぶい黄色	0.5～1.0mmの砂粒を少々含む	
79	SD1-2区	上層	須恵器	皿	口縁部～底部	(13.9)	(5.4)	1.7 ①黄灰色 ②灰色	0.5～2.5mmの砂粒を少々含む	
80	SD1-1区	上層	須恵器	甕か	頸部か			①灰色 ②灰白色	精良	
81	Pit15		土師器	高壺	脚部			①②橙色	0.5～4.0mmの砂粒を多く含む	
82	Pit273		須恵器	壺蓋	口縁部			①灰色 ②明青灰色	0.5～1.5mmの砂粒を少々含む	
83	SK13		弥生土器	甕	口縁部			①黄橙色 ②淡黄色	0.5～2.5mmの砂粒を多く含む	
84	SX1		弥生土器	壺	口縁部	(16.0)		①にぶい黄色 ②黒色	0.5～3.0mmの砂粒を多く含む	
85	SX1		弥生土器	壺	口縁部～頸部	(17.0)		①にぶい黄橙色 ②灰白色	0.5～4.0mmの砂粒を多く含む	
86	SX1		弥生土器	壺	口縁部～頸部	(18.6)		①にぶい黄橙色 ②浅黄橙色	0.5～3.0mmの砂粒を多く含む	
87	SX1		弥生土器	壺	口縁部			①②橙色	0.5～4.0mmの砂粒を多く含む	
88	SX1		弥生土器	壺	頸部～胴部			①にぶい黄褐色 ②灰オリーブ色	0.5～3.0mmの砂粒を多く含む	
89	SX1		弥生土器	壺	胴部			①にぶい黄橙色 ②浅黄橙色	0.5～3.0mmの砂粒を多く含む	

出土遺物観察表

遺物番号	出土地区・遺構	層位	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	色調 ①外面②内面	胎土	備考
90	SX1		弥生土器 壺	頸部～胴部				①にぶい黄橙色②褐灰色	0.5～5.0mmの砂粒を多く含む	
91	SX1		弥生土器 壺	胴部				①にぶい黄橙色②浅黄橙色	0.5～3.0mmの砂粒を多く含む	92と同一個体か
92	SX1		弥生土器 壺	胴部				①にぶい褐色②にぶい橙色	0.5～3.0mmの砂粒を多く含む	91と同一個体か
93	SX1		弥生土器 壺	胴部				①にぶい橙色②淡黄色	0.5～10mmの砂粒を多く含む	
94	SX1		弥生土器 壺	胴部				①橙色②にぶい橙色	0.5～5.0mmの砂粒を多く含む	
95	SX1		弥生土器 館もしくは鉢	口縁部				①灰白色②黄橙色	0.5～5.0mmの砂粒を多く含む	96・97と同一か
96	SX1		弥生土器 館	口縁部～胴部				①黄褐色②黒褐色	0.5～5.0mmの砂粒を多く含む	95・97と同一か
97	SX1		弥生土器 館	底部		(7.7)		①にぶい黄褐色②にぶい褐色	0.5～3.0mmの砂粒を多く含む	95・96と同一か
98	SX1		弥生土器 蓋	口縁部	(18.1)			①②黄灰色	0.5～4.0mmの砂粒を多く含む	紐孔あり
99	SX1-Pit1		弥生土器 壺もしくは鉢	底部	(4.6)			①淡黄色②灰黄色	0.5～3.0mmの砂粒を多く含む	
100	SB4-Pit192		須恵器 高台付壺	胴部～底部		(7.8)		①②灰白色	0.5～2.0mmの砂粒を多く含む	本来はSD1埋土包含遺物か
101	SB4-Pit193		土師器 盆	口縁部～底部	8.2	4.75	1.75	①②橙色	0.5～1.5mmの砂粒を少量含む	
102	SB5-Pit159		土師器 盆	底部		(6.1)		①②橙色	0.5～1.5mmの砂粒を少量含む	
103	Pit18		土師器 塹	口縁部～底部	(12.6)			①②にぶい黄橙色	0.5～2.0mmの砂粒を少量含む	
104	Pit18		土師器 塹	口縁部～底部				①②にぶい黄橙色	0.5～3.0mmの砂粒を少量含む	
105	Pit18		土師器 盆	底部		(4.1)		①にぶい黄橙色②灰白色	0.5～3.0mmの砂粒を少量含む	
106	Pit18		土師器 鍋	口縁部～胴部				①黄灰色②黄橙色	0.5～3.0mmの砂粒を少量含む	
107	Pit36		土師器 盆	口縁部～胴部				①②浅黄橙・灰白色	0.5～1.5mmの砂粒を少量含む	
108	Pit62		土師器 塹もしくは皿	底部		(6.6)		①②灰白・橙色	0.5～2.0mmの砂粒を少量含む	
109	Pit10		土師器 塹	口縁部～胴部				①橙色②浅黄橙色	0.5～2.0mmの砂粒を少量含む	
110	Pit76		陶器 碗	底部		(4.5)		素地：にぶい黄色 釉：浅黄色	精良	萩焼
111	西部	第V-1層(SX1検出時)	土師器 塹	底部		(6.8)		①②灰白色	0.5～2.5mmの砂粒を少量含む	
112	西部	第V-1層	土師器 塹	底部		(6.0)		①②黄橙色	0.5～1.5mmの砂粒を少量含む	
113	西部	第V-1層	土師器 塹	口縁部				①②灰白色	0.5～2.0mmの砂粒を多く含む	
114	西部	第V-1層	須恵器 坏蓋	天井部				①②青灰色	0.5～3.5mmの砂粒を少量含む	つまみ径1.8cm
115	西部	第V-1層	須恵器 高台付壺	底部				①②灰色	0.5～2.0mmの砂粒を少量含む	
116	西部	第V-1層	青磁 碗	口縁部				素地：灰白色 釉：オリーブ灰色	精良	龍泉窯系
117	西部	第V-1層	青磁 碗	口縁部				素地：灰色 釉：オリーブ灰色	精良	龍泉窯系
118	西部	第V-1層(SD1検出時)	青磁 碗	胴部				素地：灰白色 釉：オリーブ黄色	精良	龍泉窯系
119	西部	第V-1層	青磁 碗	胴部				素地：灰色 釉：灰オリーブ色	精良	龍泉窯系
120	西部	第V-1層	白磁 碗	底部				素地：淡黄色 釉：オリーブ黄色	精良	
121	東部	第V-2層下部	土師器 壺	底部		(7.7)		①②浅黄橙色	0.5～3.0mmの砂粒を少量含む	須恵器焼成不良品の可能性あり
122	東部	第V-2層下部	須恵器 壺蓋	口縁部	(15.2)			①②青灰色	0.5～2.0mmの砂粒を少量含む	
123	東部	第V-2層下部	須恵器 壺蓋	口縁部				①②明青灰色	0.5～2.0mmの砂粒を少量含む	

第2学生食堂の増築及び改修工事に伴う発掘調査

遺物番号	出土地区・遺構	層位	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	色調 ①外面②内面	胎土	備考
124	東部	第V-2層下部	須恵器 坂蓋	口縁部				①②灰白色	0.5~3.0mmの砂粒を少量化む	
125	東部	第V-2層下部	須恵器 高台付壺	底部	(8.6)			①浅黄橙色 ②にぶい橙色	0.5~2.5mmの砂粒を少量化む	焼成不良
126	東部	第V-2層下部	須恵器 高台付壺	底部				①②青灰色	0.5~2.0mmの砂粒を少量化む	
127	東部	第V-2層下部	須恵器 壺	口縁部				①②灰白色	0.5~2.0mmの砂粒を少量化む	
128	東部	第V-2層下部	須恵器 壺	口縁部				①②緑灰色	0.5~2.0mmの砂粒を少量化む	
129	東部	第V-2層下部	須恵器 壺	口縁部				①②明青灰色	0.5~3.5mmの砂粒を少量化む	
130	東部	第V-2層下部	須恵器 壺	口縁部				①②明青灰色	0.5~2.5mmの砂粒を少量化む	
131	東部	第V-2層下部	須恵器 皿か	口縁部				①緑灰色 ②明青灰色	0.5~1.5mmの砂粒を少量化む	
132	東部	第V-2層下部	須恵器 壺	口縁部				①②灰白色	精良	
133	東部	第V-2層下部	須恵器 高壺	脚部				①②青灰色	0.5~2.0mmの砂粒を少量化む	
134	東部	第V-2層下部	須恵器 高壺か	杯部				①灰色 ②青灰色	0.5~2.0mmの砂粒を少量化む	
135	東部	第V-2層上部	土師器 坯もしくは塊	底部	(6.8)			①②橙色	0.5~2.0mmの砂粒を多く含む	
136	東部	第V-2層上部	須恵器 坂蓋	天井部				①②明青灰色	0.5~2.0mmの砂粒を少量化む	つまみ径2.3cm
137	東部	第V-2層上部	須恵器 坂蓋	天井部				①②青灰色	0.5~2.0mmの砂粒を少量化む	つまみ径2.7cm
138	東部	第V-2層上部	須恵器 坂蓋	天井部				①②青灰色	0.5~2.0mmの砂粒を少量化む	
139	東部	第V-2層上部	須恵器 坂蓋	天井部~口縁部	(15.9)			①②明青灰色	0.5~3.0mmの砂粒を少量化む	
140	東部	第V-2層上部	須恵器 坂蓋	天井部~口縁部	(14.7)			①②灰白色	0.5~2.0mmの砂粒を少量化む	
141	東部	第V-2層上部	須恵器 坂蓋	天井部~口縁部	(14.2)			①②青灰色	0.5~2.0mmの砂粒を少量化む	
142	東部	第V-2層上部	須恵器 坂蓋	天井部~口縁部				①②灰白色	0.5~2.0mmの砂粒を少量化む	
143	東部	第V-2層上部	須恵器 坂蓋	天井部~口縁部				①②明青灰色	0.5~2.0mmの砂粒を少量化む	
144	東部	第V-2層上部	須恵器 坂蓋	天井部~口縁部				①②灰白色	0.5~1.5mmの砂粒を少量化む	
145	東部	第V-2層上部	須恵器 坂蓋	天井部~口縁部				①②青灰色	0.5~2.0mmの砂粒を少量化む	
146	東部	第V-2層上部	須恵器 坂蓋	天井部~口縁部				①②青灰色	0.5~1.0mmの砂粒を少量化む	
147	東部	第V-2層上部	須恵器 坂蓋	天井部~口縁部				①②青灰色	0.5~3.0mmの砂粒を少量化む	
148	東部	第V-2層上部	須恵器 坂蓋	天井部~口縁部				①②青灰色	0.5~2.0mmの砂粒を少量化む	
149	東部	第V-2層上部	須恵器 坂蓋	天井部~口縁部				①②青灰色	0.5~2.0mmの砂粒を少量化む	
150	東部	第V-2層上部	須恵器 坂蓋	天井部~口縁部				①青灰色 ②明青灰色	0.5~2.0mmの砂粒を少量化む	
151	東部	第V-2層上部	須恵器 坂蓋	天井部~口縁部				①②青灰色	0.5~1.0mmの砂粒を少量化む	
152	東部	第V-2層上部	須恵器 坂蓋	天井部~口縁部				①②灰色	0.5~2.0mmの砂粒を少量化む	
153	東部	第V-2層上部	須恵器 坂蓋	天井部~口縁部				①灰白色 ②灰黄色	0.5~2.0mmの砂粒を少量化む	
154	東部	第V-2層上部	須恵器 坂蓋	天井部~口縁部				①褐灰色 ②青灰色	0.5~2.0mmの砂粒を少量化む	
155	東部	第V-2層上部	須恵器 坂蓋	天井部~口縁部				①②青灰色	0.5~2.0mmの砂粒を少量化む	
156	東部	第V-2層上部	須恵器 坂蓋	天井部~口縁部				①②灰白色	0.5~1.5mmの砂粒を少量化む	
157	東部	第V-2層上部	須恵器 坂蓋	天井部~口縁部				①オリーブ灰色 ②緑灰色	0.5~2.0mmの砂粒を少量化む	

出土遺物観察表

遺物番号	出土地区・遺構	層位	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	色調 ①外面②内面	胎土	備考
158	東部	第V-2層上部	須恵器	壺蓋	天井部～口縁部			①②青灰色	0.5～4.0mmの砂粒を少量含む	
159	東部	第V-2層上部	須恵器	壺蓋	天井部～口縁部			①②青灰色	0.5～1.5mmの砂粒を少量含む	
160	東部	第V-2層上部	須恵器	壺蓋	天井部～口縁部			①②青灰色	0.5～1.5mmの砂粒を少量含む	
161	東部	第V-2層上部	須恵器	壺蓋	天井部～口縁部			①②灰色	0.5～2.0mmの砂粒を少量含む	
162	東部	第V-2層上部	須恵器	壺蓋	天井部～口縁部			①灰白色 ②明青灰色	0.5～3.0mmの砂粒を少量含む	
163	東部	第V-2層上部	須恵器	壺蓋	天井部～口縁部			①②青灰色	0.5～1.5mmの砂粒を少量含む	
164	東部	第V-2層上部	須恵器	壺蓋	口縁部			①②緑灰色	0.5～2.0mmの砂粒を少量含む	
165	東部	第V-2層上部	須恵器	壺蓋	口縁部			①②青灰色	0.5～2.0mmの砂粒を少量含む	
166	東部	第V-2層上部	須恵器	高台付壺	底部	(7.5)		①②灰白色	0.5～2.0mmの砂粒を少量含む	
167	東部	第V-2層上部	須恵器	高台付壺	底部	(9.1)		①②青灰色	0.5～1.5mmの砂粒を少量含む	
168	東部	第V-2層上部	須恵器	高台付壺	底部	(8.3)		①②灰白色	0.5～2.0mmの砂粒を少量含む	
169	東部	第V-2層上部	須恵器	高台付壺	底部	(9.1)		①②青灰色	0.5～2.0mmの砂粒を少量含む	
170	東部	第V-2層上部	須恵器	高台付壺	底部	(8.6)		①②灰白色	0.5～1.0mmの砂粒を少量含む	
171	東部	第V-2層上部	須恵器	高台付壺	底部	(7.1)		①②青灰色	0.5～2.0mmの砂粒を少量含む	
172	東部	第V-2層上部	須恵器	高台付壺	底部	(7.1)		①②青灰色	0.5～3.0mmの砂粒を少量含む	
173	東部	第V-2層上部	須恵器	高台付壺	底部	(8.2)		①②灰色	0.5～2.0mmの砂粒を少量含む	
174	東部	第V-2層上部	須恵器	高台付壺	底部	(8.1)		①②明オリー ブ灰色	0.5～2.0mmの砂粒を少量含む	
175	東部	第V-2層上部	須恵器	高台付壺	底部	(8.9)		①②青灰色	0.5～1.5mmの砂粒を少量含む	
176	東部	第V-2層上部	須恵器	高台付壺	底部	(8.4)		①②緑灰色	0.5～2.0mmの砂粒を少量含む	
177	東部	第V-2層上部	須恵器	高台付壺	底部	(8.5)		①②青灰色	0.5～2.0mmの砂粒を少量含む	
178	東部	第V-2層上部	須恵器	高台付壺	底部			①②明青灰色	0.5～2.0mmの砂粒を少量含む	
179	東部	第V-2層上部	須恵器	高台付壺	底部			①②灰白色	0.5～1.5mmの砂粒を少量含む	
180	東部	第V-2層上部	須恵器	高台付壺	底部			①②明青灰色	0.5～1.5mmの砂粒を少量含む	
181	東部	第V-2層上部	須恵器	高台付壺	底部			①②灰色	0.5～2.0mmの砂粒を少量含む	
182	東部	第V-2層上部	須恵器	高台付壺	底部			①②青灰色	0.5～2.0mmの砂粒を少量含む	
183	東部	第V-2層上部	須恵器	高台付壺	底部			①②灰色	0.5～3.0mmの砂粒を少量含む	
184	東部	第V-2層上部	須恵器	高台付壺	底部			①②青灰色	0.5～2.0mmの砂粒を少量含む	
185	東部	第V-2層上部	須恵器	壺	底部			①②青灰色	0.5～2.0mmの砂粒を少量含む	
186	東部	第V-2層上部	須恵器	壺	口縁部			①②灰白色	0.5～1.5mmの砂粒を少量含む	
187	東部	第V-2層上部	須恵器	壺	口縁部			①②灰白色	0.5～2.0mmの砂粒を少量含む	
188	東部	第V-2層上部	須恵器	壺	口縁部			①②オリーブ 灰色	0.5～2.0mmの砂粒を少量含む	
189	東部	第V-2層上部	須恵器	壺	口縁部			①②灰色	0.5～1.0mmの砂粒を少量含む	
190	東部	第V-2層上部	須恵器	壺	口縁部			①②明青灰色	0.5～3.0mmの砂粒を少量含む	
191	東部	第V-2層上部	須恵器	壺	口縁部			①青灰色 ②灰白色	0.5～1.0mmの砂粒を少量含む	

第2学生食堂の増築及び改修工事に伴う発掘調査

遺物番号	出土地区・遺構	層位	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	色調 ①外面②内面	胎土	備考
192	東部	第V-2層上部	須恵器 坏	口縁部				①②オリーブ灰色	0.5~1.5mmの砂粒を少量含む	
193	東部	第V-2層上部	須恵器 坏	口縁部				①②明青灰色	0.5~2.0mmの砂粒を少量含む	
194	東部	第V-2層上部	須恵器 坏	口縁部				①青灰色 ②緑灰色	0.5~2.0mmの砂粒を少量含む	
195	東部	第V-2層上部	須恵器 坏	口縁部				①②灰色	0.5~2.0mmの砂粒を少量含む	
196	東部	第V-2層上部	須恵器 坏	口縁部				①②灰白色	0.5~1.0mmの砂粒を少量含む	
197	東部	第V-2層上部	須恵器 坏	口縁部				①②浅黄橙色	0.5~2.0mmの砂粒を少量含む	焼成不良
198	東部	第V-2層上部	須恵器 坏	口縁部				①②青灰色	0.5~2.0mmの砂粒を少量含む	
199	東部	第V-2層上部	須恵器 坏	口縁部				①②青灰色	0.5~1.5mmの砂粒を少量含む	
200	東部	第V-2層上部	須恵器 皿か	底部				①②青灰色	0.5~2.0mmの砂粒を少量含む	
201	東部	第V-2層上部	須恵器 膜か	口縁部				①暗青灰色 ②灰白色	精良	
202	東部	第V-2層上部	須恵器 器種不明	脚部				①②明青灰色	0.5~2.0mmの砂粒を少量含む	
203	東部	第V-2層上部	須恵器 長頸壺か	胴部				①②灰色	0.5~1.0mmの砂粒を少量含む	
204	東部	第V-2層上部	須恵器 長頸壺か	胴部				①灰色 ②灰白色	0.5~1.0mmの砂粒を少量含む	
205	東部	第V-2層上部	須恵器 瓢	頸部				①②灰白色	0.5~1.0mmの砂粒を少量含む	
206	東部	第V-2層上部	須恵器 高坏	脚部				①②緑灰色	0.5~1.5mmの砂粒を少量含む	
207	東部	第V-2層上部	須恵器 高坏	坏部				①②灰白色	0.5~1.0mmの砂粒を少量含む	
208	東部	第V-2層上部	須恵器 高坏か	坏部				①②明オリーブ色	0.5~1.0mmの砂粒を少量含む	
209	東部	第V-2層上部	陶器 不明	口縁部				①②褐灰色	精良	
210	東部	第V-2層	縄文土器 深鉢	胴部				①浅黄色 ②淡黄色	0.5~7.0mmの砂粒を少量含む	
211	東部	第V-2層	土師器 坏もしくは塊	底部	(6.85)			①②浅黄色	0.5~7.0mmの砂粒を多く含む	
212	東部	第V-2層	土師器 塊	底部	(5.3)			①②灰白色	0.5~3.0mmの砂粒を少量含む	
213	東部	第V-2層	土師器 塊	底部				①②灰白色	0.5~2.0mmの砂粒を少量含む	
214	東部	第V-2層	土師器 瓢	口縁部				①②橙色	0.5~3.0mmの砂粒を少量含む	
215	東部	第V-2層	須恵器 坏蓋	天井部				①②明青灰色	0.5~2.0mmの砂粒を少量含む	つまみ径2.4cm
216	東部	第V-2層	須恵器 坏蓋	口縁部	(14.3)			①②灰色	0.5mmの砂粒を少量含む	
217	東部	第V-2層	須恵器 坏蓋	天井部				①灰色 ②灰黃褐色	0.5mmの砂粒を微量に含む	
218	東部	第V-2層	須恵器 坏蓋	天井部~口縁部				①②灰色	0.5~2.0mmの砂粒を少量含む	
219	東部	第V-2層	須恵器 坏蓋	口縁部				①灰白色 ②青灰色	0.5~2.0mmの砂粒を少量含む	
220	東部	第V-2層	須恵器 坏蓋	天井部~口縁部				①暗青灰色 ②青灰色	0.5~1.5mmの砂粒を少量含む	
221	東部	第V-2層	須恵器 坏蓋	天井部~口縁部				①灰色 ②灰白色	0.5~1.0mmの砂粒を少量含む	
222	東部	第V-2層	須恵器 高台付坏	底部	(7.8)			①②青灰色	0.5~2.0mmの砂粒を少量含む	
223	東部	第V-2層	須恵器 高台付坏	底部	(8.0)			①②灰色	0.5~2.0mmの砂粒を少量含む	
224	東部	第V-2層	須恵器 坏	底部	(5.2)			①淡黄色 ②灰白色	0.5~1.0mmの砂粒を少量含む	焼成不良 他器種である可能性あり
225	東部	第V-2層	須恵器 坏	底部	(8.2)			①②灰白色	0.5~3.0mmの砂粒を少量含む	焼成不良

出土遺物観察表

遺物番号	出土地区・遺構	層位	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	色調 ①外面②内面	胎土	備考
226	東部	第V-2層	須恵器	壺	底部		(7.6)	①②灰白色	0.5~1.5mmの砂粒を少量含む	焼成不良
227	東部	第V-2層	須恵器	壺	底部		(7.7)	①②灰色	0.5~1.5mmの砂粒を少量含む	
228	東部	第V-2層	須恵器	壺	底部		(6.0)	①②灰白色	0.5mmの砂粒を少量含む	焼成不良
229	東部	第V-2層	須恵器	高台付壺	底部			①②青灰色	0.5~2.5mmの砂粒を少量含む	
230	東部	第V-2層	須恵器	高台付壺	底部			①②緑灰色	0.5~1.5mmの砂粒を少量含む	
231	東部	第V-2層	須恵器	高台付壺	底部			①②灰黄色	0.5~2.0mmの砂粒を少量含む	焼成不良
232	東部	第V-2層	須恵器	高台付壺	底部			①②青灰色	0.5~1.5mmの砂粒を少量含む	
233	東部	第V-2層	須恵器	高台付壺	底部			①②灰色	0.5~1.0mmの砂粒を少量含む	
234	東部	第V-2層	須恵器	高台付壺	底部			①暗青灰色 ②青灰色	0.5~2.0mmの砂粒を少量含む	
235	東部	第V-2層	須恵器	壺	底部			①②青灰色	0.5~1.5mmの砂粒を少量含む	
236	東部	第V-2層	須恵器	壺	底部			①②青灰色	0.5~2.0mmの砂粒を少量含む	
237	東部	第V-2層	須恵器	壺	底部			①②灰白色	0.5~2.0mmの砂粒を少量含む	
238	東部	第V-2層	須恵器	壺	口縁部			①②青灰色	0.5~2.0mmの砂粒を少量含む	
239	東部	第V-2層	須恵器	壺	口縁部			①②青灰色	0.5~2.0mmの砂粒を少量含む	
240	東部	第V-2層	須恵器	壺か	底部		(8.3)	①②灰白色	0.5~2.0mmの砂粒を少量含む	
241	東部	第V-2層	須恵器	甕	口縁部			①②灰白色	0.5mmの砂粒を少量含む	
242	東部	第V-2層	須恵器	高杯	口縁部			①②灰色	0.5~1.0mmの砂粒を少量含む	
243	東部	第V-2層	須恵器	高杯	口縁部			①②明青灰色	0.5~1.5mmの砂粒を少量含む	
244	東部	第V-2層 後清掃時	須恵器	壺蓋	天井部~口縁部	(15.0)		①暗青灰色 ②青灰色	0.5~3.0mmの砂粒を少量含む	
245	南東部	床面清掃時	須恵器	壺蓋	天井部			①②緑灰色	0.5~1.5mmの砂粒を少量含む	つまみ径1.3cm
246	南東部	床面清掃時	須恵器	壺蓋	天井部			①②緑灰色	精良	つまみ径2.3cm
247	南東部	床面清掃時	須恵器	壺蓋	口縁部			①②青灰色	0.5~1.5mmの砂粒を少量含む	
248	南東部	造成土	須恵器	高台付壺	底部		(6.9)	①②灰白色	0.5~1.5mmの砂粒を少量含む	
249	南東部	造成土	須恵器	壺	口縁部			①②灰白色	0.5~1.0mmの砂粒を少量含む	
250	北東部	造成土	須恵器	壺蓋	天井部~口縁部			①②灰色	0.5mmの砂粒を微量に含む	つまみ径2.45cm
251	南東部	攪乱埋土	須恵器	高台付壺	底部		(8.6)	①②青灰色	0.5~2.0mmの砂粒を少量含む	
252	機械掘削時		須恵器	高台付壺	底部			①青灰色 ②暗青灰色	0.5~2.0mmの砂粒を少量含む	
253	機械掘削時		須恵器	壺	口縁部			①②青灰色	0.5~2.0mmの砂粒を少量含む	
254	機械掘削時		磁器	碗	口縁部~胴部			素地 灰白色 釉 灰白色	精良	肥前系
255	東部	第V-2層 表採	須恵器	高杯	口縁部			①②灰白色	0.5~1.0mmの砂粒を少量含む	
256	排土表採		須恵器	高台付壺	底部		(10.8)	①②褐灰色	0.5~3.0mmの砂粒を少量含む	

Tab.9 出土遺物観察表(土製品)

遺物番号	出土地区・遺構	層位	器種	法量(cm, g)	色調	胎土	備考
64	SD1-3区	中層	管状土錐	最大長6.2、最大幅2.15、孔径0.6、重量21.59	浅橙色	0.5~2.5mmの砂粒を少量含む	

Tab.10 出土遺物観察表(石器・石製品)

遺物番号	出土地区・遺構	層位	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石質	備考
257	SB2-Pit370		砥石	8.85	7.4	6.86	682.2	花崗斑岩	被熱
258	SD1-4区	下層	石鏸	1.14	1.13	0.3	0.39	流紋岩	
259	SD1-3区	下層	石鏸	1.5	1.47	0.25	0.46	流紋岩	
260	SD1-2区	下層	石鏸	1.64	1.47	0.36	0.6	流紋岩	
261	SD1-4区	下層	石鏸	1.9	1.05	0.28	0.53	安山岩	
262	SD1-3区	下層	石鏸	2.12	1.55	0.3	1.32	流紋岩	
263	SD1-2区	下層	石鏸	3.17	1.76	0.67	3.14	流紋岩	
264	SD1-2区	下層	石鏸	1.11	1.0	0.15	0.17	流紋岩	
265	SD1-2区	下層	石鏸	1.74	1.49	0.32	0.63	流紋岩	
266	SD1-2区	下層	石鏸もしくは石錐	1.3	1.21	0.38	0.54	安山岩	
267	SD1-2区	下層	石鏸もしくは石錐	1.46	1.26	0.35	0.71	安山岩	
268	SD1-2区	下層	石錐	1.66	1.22	0.3	0.57	流紋岩	
269	SD1-4区	下層	敲石	13.8	6.7	3.77	374.49	石英斑岩	
270	SD1-4区	下層	敲石	6.1	6.1	5.5	308.2	流紋岩	正面を中心に全面を使用
271	SD1-2区	下層	砥石	6.75	5.95	4.26	290.42	石英斑岩	被熱
272	SD1-3区	下層	砥石	12.93	9.75	4.2	629.0	珪長岩	
273	SD1-3区	下層	石鏸	11.42	4.79	1.1	92.82	緑色片岩	
274	SD1-3区	中層	石鏸	1.72	1.51	0.51	0.89	安山岩	
275	SD1-2区	中層	石鏸	1.8	1.61	0.27	0.65	流紋岩	
276	SD1-3区	中層	石鏸	1.74	1.49	0.32	0.63	流紋岩	
277	SD1-4区	中層	石鏸	1.8	1.5	1.28	0.77	流紋岩	
278	SD1-3区	中層	石鏸	1.12	1.39	0.27	0.38	流紋岩か	
279	SD1-2区	中層	石鏸	1.45	1.1	0.42	0.58	黒曜石	姫島産
280	SD1-4区	中層	石鏸	2.15	1.75	0.37	1.22	流紋岩	未製品
281	SD1-1区	中層	敲石	6.2	6.2	5.25	217.02	石英斑岩	
282	SD1-2区	中層	台石	13.85	7.2	9.05	1171.8	石英斑岩	
283	SD1-2区	中層	石庖丁	4.1	3.1	0.46	5.69	緑色片岩	
284	SD1-4区	上層	石鏸	1.08	1.04	0.13	0.18	流紋岩	
285	SD1	上層	石鏸	1.68	1.12	0.29	0.36	流紋岩	
286	SD1-2区	上層	石鏸	1.86	1.56	0.47	0.86	流紋岩	
287	SD1-1区	上層	石鏸	1.23	1.18	0.22	0.37	流紋岩	
288	SD1-4区	上層	石鏸	13.0	6.03	2.85	249.68	雲母片岩	

出土遺物観察表

遺物番号	出土地区・遺構	層位	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石質	備考
289	SD1-2区	上層	石庖丁	3.18	3.25	0.4	5.3	輝緑岩か	
290	SD1 南側	清掃時	石鏟	1.46	1.0	0.29	0.27	流紋岩	
291	SK13		石錐	1.55	1.25	0.31	0.49	流紋岩	
292	SX1		砥石	12.2	6.55	2.65	350.0	玢岩	敲打痕あり
293	SX2		石鏟	1.68	1.58	0.26	0.58	流紋岩	
294	SK12		石鏟	1.45	1.19	0.2	0.39	流紋岩	
295	SK12		石錐	1.25	0.98	0.28	0.26	安山岩	
296	西部	第V-1層	石鏟	1.91	1.9	0.66	2.04	流紋岩	
297	東部	第V-2層 下部	石鏟	1.58	1.45	0.22	0.34	流紋岩	
298	東部	第V-2層 下部	石鏟	1.68	1.33	0.31	0.62	黒曜石	姫島産
299	東部	第V-2層 上部	石鏟	1.32	0.81	0.27	0.32	安山岩	
300	東部	第V-2層 上部	石鏟	1.33	1.28	0.23	0.32	流紋岩	
301	東部	第V-2層 上部	石鏟	1.65	1.16	0.32	0.46	黒曜石	姫島産
302	東部	第V-2層 上部	石鏟	2.43	1.88	0.3	0.95	流紋岩	
303	東部	第V-2層 上部	石鏟	1.8	1.7	2.27	0.75	流紋岩	
304	東部	第V-2層 上部	石鏟	1.93	1.65	0.28	0.72	流紋岩	未製品
305	東部	第V-2層 上部	石核	3.85	2.80	2.21	17.12	黒曜石	姫島産
306	東部	第V-2層	石鏟	1.89	1.38	0.43	0.9	流紋岩	
307	東部	第V-2層	砥石もしく は石皿	13.22	11.05	4.44	995.6	黒雲母花崗岩	被熱
308	東部	第V-2層	石斧	9.35	4.62	2.98	135.18	砂岩・泥岩の 互層	
309	西部	遺構 検出時	石鏟	1.47	1.06	0.22	0.27	安山岩	
310	東部	床面 清掃時	石鏟	1.35	1.47	0.27	0.44	流紋岩	
311	南東部	遺構 検出時	石鏟	1.35	1.6	0.22	0.42	安山岩	
312	西部	床面 清掃時	用途不明 石製品	2.25	3.15	0.49	3.29	砂岩	
313	東部	第V-2層 表採	石鏟	1.6	1.35	0.24	0.5	流紋岩	

Tab.11 出土遺物観察表(鉄製品・鉄滓)

遺物番号	出土地区・遺構	層位	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
314	SD1-3区	下層	鉄釘	7.7	0.92	0.8	6.96	保存処理済
315	SD1-1区	下層	鉄斧	7.5	4.6	2.41	125.42	保存処理済
316	SD1-1区	下層	鉄滓	4.53	3.07	2.34	47.34	保存処理済
317	東部	第V-2層	不明	3.25	0.78	0.34	1.99	保存処理済

第2節 立会調査

調査地区 吉田構内 N・O-15

調査期間 平成11年5月6・11日

調査面積 約250.9m²



Fig.69 調査区位置図

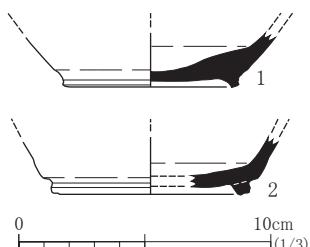


Fig.70 出土遺物実測図 (土器)

調査結果

平成11年5月の追加調査中に行われた掘削工事に伴い、立会調査を行った。A・B地点は排水管接続箇所である。A地点では現地表下58cmまで掘削したが、水田耕土を検出するにとどまった。B地点では現地表下30cmまで掘削したが、全て造成土の範囲内であった。

C地点は擁壁構築箇所で、北から南へ法面をつけて掘削された。ほとんどの箇所は削平を受けていたが、北東隅で第V-2層を検出し、土器片1点、弥生土器底部片1点、須恵器坏底部片2点 (Fig. 70-1・2)、石核1点が出土した。

Tab.12 出土遺物観察表(土器)

法量()は復元値

遺物番号	出土地区・遺構	層位	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	色調 ①外側②内面	胎土	備考
1	C地点 北東端	第V-2層	須恵器	坏	胴部～底部		(7.0)	①②灰白色	0.5～1.0mmの砂粒を 少量含む	
2	C地点 北東端	第V-2層	須恵器	坏	胴部～底部		(7.9)	①②灰黄色	0.5～2.0mmの砂粒を 少量含む	

第5章 平成10年度山口大学構内の試掘調査

第1節 吉田構内の試掘調査

1 教育学部附属養護学校給食室改修工事に伴う試掘調査

(1) 調査の経過

教育学部附属養護学校（現：特別支援学校）給食室改修工事に伴い、既設の給食室改修工事と増築工事が行われることになった。附属養護学校の敷地は、従前は水田であり、同校校舎新営時に山口市教育委員会の試掘調査を経て、北西縁の排水溝・擁護壁設置予定箇所を対象に同教育委員会・山口大学埋蔵文化財資料館が事前調査を実施している。事前調査では縄文時代晚期の土壙2基、弥生時代の溝7条などが検出され、縄文土器、弥生土器、磨製石斧、剥片等が出土した。¹⁾ 今回増築予定地付近は過去に調査が行われておらず、地下の状況が不明であることから、埋蔵文化財資料館運営委員会が審議した結果、試掘調査が必要との判断が下された。上記を受け、埋蔵文化財資料館が平成10年7月8～15日に試掘調査を実施した。調査面積は12.3m²である。

(2) 基本層序・遺構・遺物 (Fig. 73, PL. 64・65)

基本層序は第I層：表土（花壇基礎・アスファルト 層厚：5～9cm）、第II層：造成土（層厚62～83cm）、第III層：水田耕土（褐色土・オリーブ黒色土 層厚12～17cm）、第IV層：水

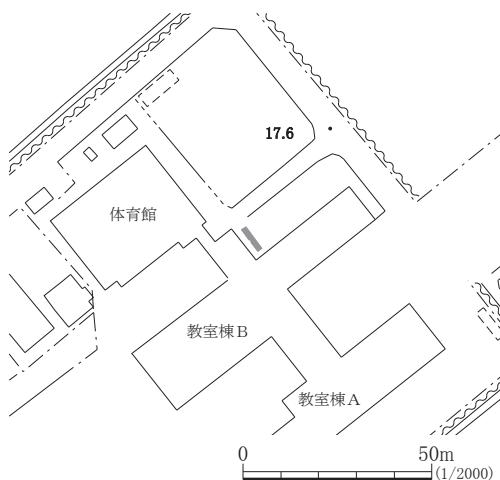


Fig.71 調査区位置図

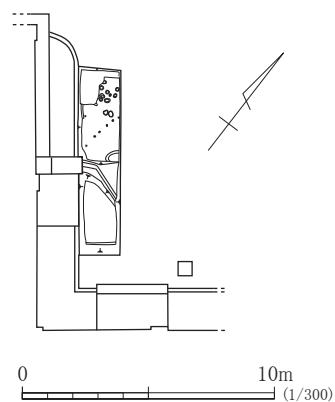


Fig.72 調査区設定図

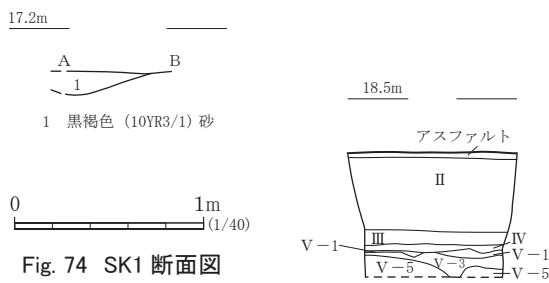


Fig. 74 SK1 断面図

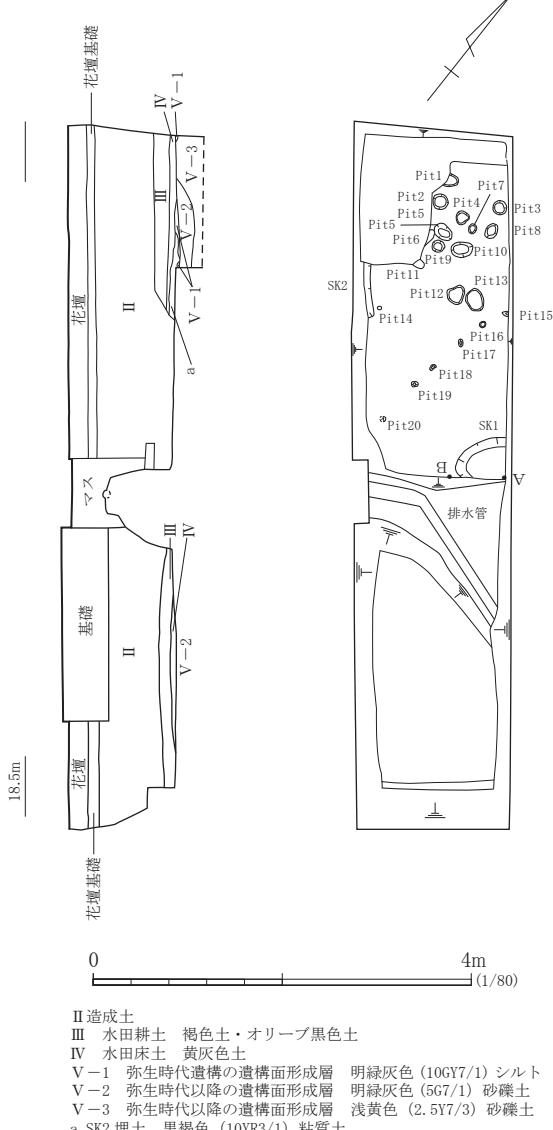


Fig. 73 調査区平面図・断面図

田床土（黄灰色土 層厚 2～6 cm）、第V層：弥生時代以降の遺構面形成層である。第V層は第V-1層：明緑灰色 (10GY7/1) シルト、第V-2層：明緑灰色 (5G7/1) 砂礫土、第V-3層：浅黄色 (2.5Y7/3) 砂礫土に細分される。

第V-1層上面は遺構検出面である。調査区北端部で第V層の堆積状況を確認するために確認トレンチを設定して調査を行った結果、第V-2・3層から摩滅した縄文土器片が出土した。

遺構は調査区北部の第V-1層上面で、土坑2基、ピット20基を検出した。このうち、埋土が黒褐色系のSK1・2、Pit2・12が弥生～古墳時代で、その他は埋土が水田耕土もしくは床土と近似するため、近世以降と考えられる。いずれも深さ10cm未満で、一部については検出後に上層からの染みこみと判断した。Pit15～20は水田耕作に伴う杭列であろう。以下では弥生～古墳時代の遺構について報告する。

SK1 (Fig.73, PL.65 (3))

一部が調査区外であるほか、排水管埋設により破壊されているため、全形は不明である。調査区内で検出した縦軸50cm、横軸44cmである。埋土

は黒褐色（10YR3/1）砂で、弥生土器片、土師器片が出土した。

SK2 (Fig.73, PL.64 (3))

一部を検出したのみで、調査区外へ広がるため、詳細は不明である。検出した一辺は94cmである。埋土は黒褐色（10YR3/1）粘質土で、出土遺物はない。

Pit2・4 (Fig.73, PL.65 (1))

Pit2は直径17cm、深さ約6cm、Pit4は直径15cm、深さ約2cmである。埋土はいずれも黒褐色（10YR3/1）粘質土で、出土遺物はない。

出土遺物には、第V-2・3層から出土した縄文土器、SK1から出土した弥生土器・土師器、水田耕土から出土した弥生土器、土師器、陶磁器、造成土から出土した須恵器などがあるが、いずれも小片で図化困難である。

(3) 小結

今回の調査では、弥生時代以降の遺構面形成層である第V-2・3層から縄文土器片が出土した。また、第V-1層上面で弥生～古墳時代とみられる土坑2基・ピット2基を検出したほか、近世以降の水田に関連するとみられるピット、杭列を検出した。弥生～古墳時代とみられる遺構の分布は希薄で、深さも浅い。遺物包含層が残存していないことから、これらの遺構は水田造成時に削平を受けたと考えられる。しかし、掘り込みの深い遺構については、残存している可能性が高いため、引き続き埋蔵文化財の保護に注意が必要であろう。

[注]

- 1) 河村吉行「付篇 I 吉田構内教育学部附属養護学校新館に伴う発掘調査」(『山口大学構内遺跡調査研究年報IX』、1991年)

第2節 白石構内の試掘調査

1 教育学部附属山口小学校給食室改修工事に伴う試掘・立会調査

試掘調査

教育学部附属山口小学校給食室改修工事に伴い、既設の給食室改修工事と増築工事が行われることになった。平成元年度に実施された汚水管布設に伴う発掘調査¹⁾の結果から、埋蔵文化財の分布は希薄であることが予想されたが、予定地内の地下の状況が不明であるため、埋蔵文化財資料館運営委員会が審議した結果、試掘調査が必要との判断が下された。上記を受け、埋蔵文化財資料館が平成10年7月1～7日に試掘調査を実施した。調査面積は5.9m²である。

調査の結果、調査区内は搅乱が著しく、現地表下48～62cmまでが造成土で、以下で弥生時代以降の遺構面である浅黄色シルトが検出され、遺構・遺物はなかった。

立会調査

平成10年7月28日に既設給食室の西側について立会調査を実施した。調査面積は9.9m²である。現地表下約145cmまで掘削が行われたが、現地表下75cmまでが造成土で、以下で浅黄色シルトが検出され、試掘調査同様、遺構・遺物はなかった。

[注]

1) 山口大学埋蔵文化財資料館「亀山構内教育学部附属幼稚園・山口小学校汚水管布設に伴う発掘調査」(『山口大学構内遺跡調査研究年報IX』、1991年)

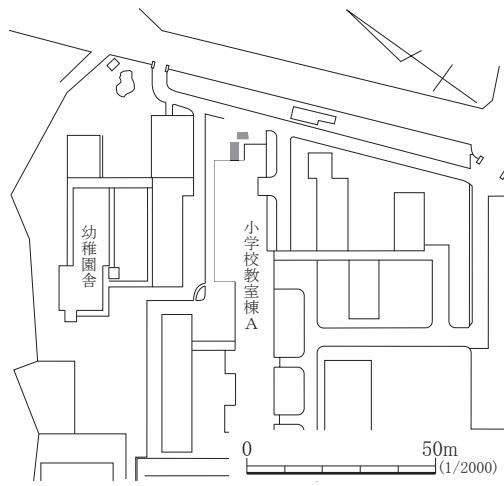


Fig.75 調査区位置図

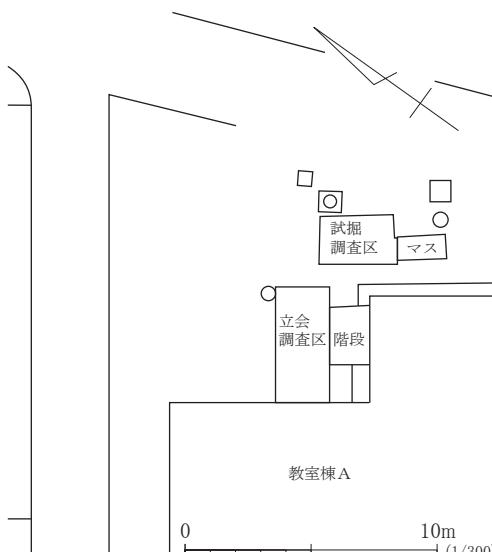


Fig.76 調査区設定図

第6章 平成10年度山口大学構内の立会調査

第1節 吉田構内の立会調査

1 九田川河川局部改良工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 E・F-14、
F-13

調査期間 平成10年10月6・15日

調査面積 約180m²

調査結果 平成10年分の工事として、長さ約30mについて、現地表下約6mまで掘削が行われた。調査の結果、現地表下約2mまでが造成土で、以下で地山（弥生時代以降の遺構面形成層）及び河川堆積土を確認した。地山の直下、現地表下約2.5mでは、平成9年度¹⁾の調査で地山の一部と考えられている黒褐色粘土が検出された。黒褐色粘土の層厚は約60cmで、色調には濃淡があり、数層に分層できる。しかし、今回の調査でも明確な遺構は検出されず、遺物も出土しなかった。

九田川河川局部改良工事は、工法上、詳細な調査が困難である。今回の調査時でも、法面の一部が崩落するなどしたため、土層を詳細に確認できたわけではない。このため、今後とも周辺の埋蔵文化財の保護には慎重な対応が求められる。

[注]

- 1) 山口大学埋蔵文化財資料館「九田川河川局部改良工事に伴う立会調査」（『山口大学構内遺跡調査研究年報XVI・XVII』、2004年）

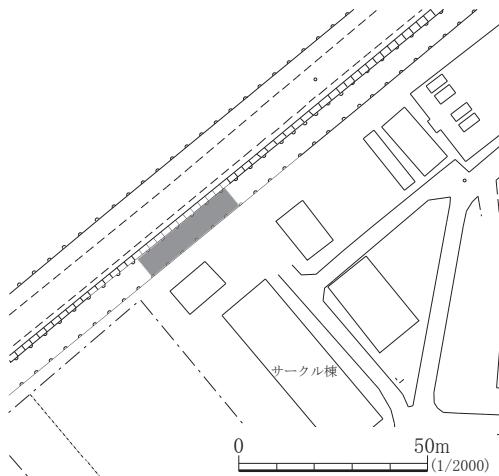


Fig.77 調査区位置図

2 基幹環境整備工事（バリカー新設）に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 H-15、I・J-20、

O-16・18、L-22

調査期間 平成10年11月20・24日、平成11年3月15日

調査面積 約3.4m²



Fig.78 調査区位置図1

調査結果

工事は吉田構内の9箇所に車止めのバリカーナを設置するもので、現地表下約30～60cmまで掘り下げるものである。いずれも造成土を検出するにとどまり、埋蔵文化財に支障はなかった。



Fig.79 調査区位置図2

3 農学部動物用焼却炉改修工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 Q-18

調査期間 平成 11 年 1 月 18 日

調査面積 約 53 m²

調査結果 農学部動物用焼却炉改修工事に伴い立会調査を実施した。対象となった掘削工事は、ガス管新設箇所で、最大で現地表下約 160 cm まで掘削が行われた。調査区と牧草地（現：総合研究棟敷地）の間は法面となっており、統合移転時に大規模に削平されたとみられる。調査の結果、掘削深度はいずれも造成土及び地山の範囲内で、埋蔵文化財に支障はなかった。

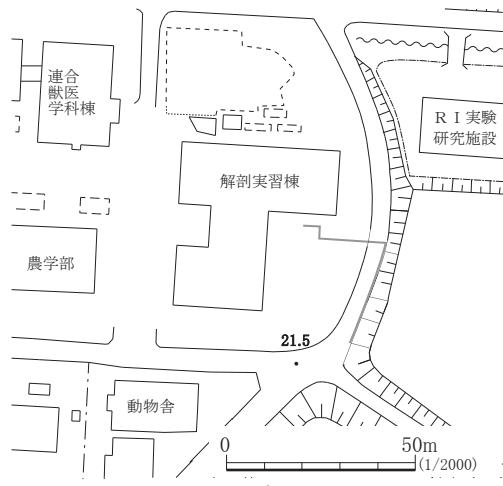


Fig.80 調査区位置図

4 基幹環境整備工事（外灯新設）に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 L-17～19、M・N-18

調査期間 平成 11 年 2 月 26 日

調査面積 約 4 m²

調査結果 吉田構内で基幹環境整備の一環として、6 箇所で外灯が新設されることになり、立会調査を行った。掘削深度は現地表下約 100 ～ 145 cm であったが、搅乱が著しく、多くの地点では底面付近で地山を確認するにとどまったため、埋蔵文化財に支障はなかった。

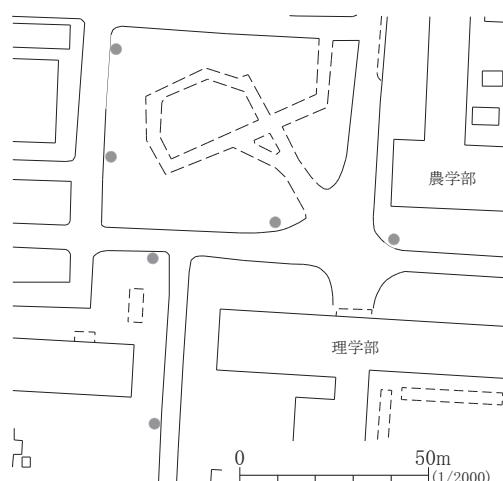


Fig.81 調査区位置図

5 理学部スロープ新設工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 M-18

調査期間 平成11年3月2日

調査面積 約16m²

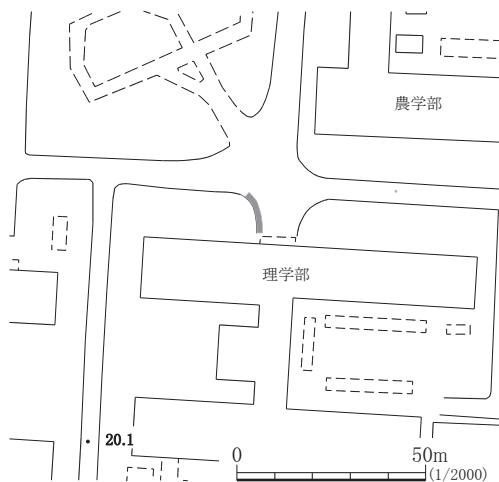


Fig.82 調査区位置図

調査結果 工事は理学部玄関前にスロープを新設するものである。工事による掘削はアスファルト舗装下の造成土内にとどまり、埋蔵文化財に支障はなかった。

6 ステンレス回転モニュメント新設工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 M-13・14

調査期間 平成11年4月6・12日

調査面積 約27.6m²

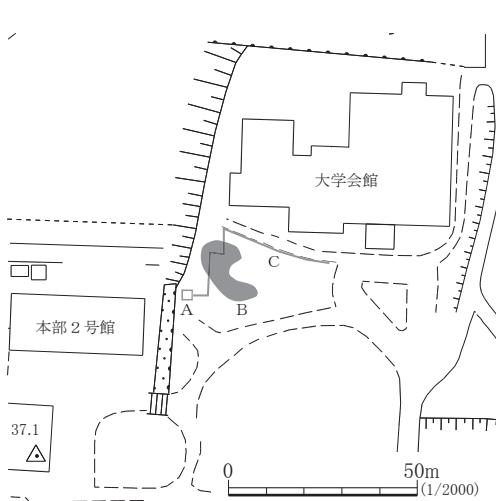


Fig.83 調査区位置図

調査結果 大学会館南西側の空閑地に教育学部の川口政宏教授が寄贈したステンレス回転モニュメントを設置することになり、機械室（A地点）、モニュメント本体（B地点内7箇所）、電気ケーブル（C地点）新設工事が実施された。掘削範囲は広範囲であったが、工事掘削深度は最大でも現地表下約40cmであったため、全て造成土の範囲内にとどまり、埋蔵文化財に支障はなかった。

第2節 光構内の立会調査

1 教育学部附属光学校給食室改修工事に伴う立会調査

調査地区 光構内

調査期間 平成10年7月31日

調査面積 約5.2m²

調査結果 教育学部附属光学校給食室改修工事に伴い、立会調査を実施した。対象となった掘削工事は階段・スロープ新設箇所で、掘削深度は現地表下約50～81cmである。調査の結果、掘削箇所はいずれも造成土の範囲内で、埋蔵文化財に支障はなかった。

調査区周辺は大正年間から師範学校等の校舎が存在した箇所であり、その後の調査でも撹乱が著しいことが確認されている¹⁾。このため、古墳時代・近世を中心とする遺構については破壊を受けており、埋蔵文化財が存在する可能性は低い。しかし、地点によっては遺構が残存しているほか、造成土内に遺物が含まれている可能性があることから、掘削工事に際しては、埋蔵文化財の保護に慎重な対応が求められる。

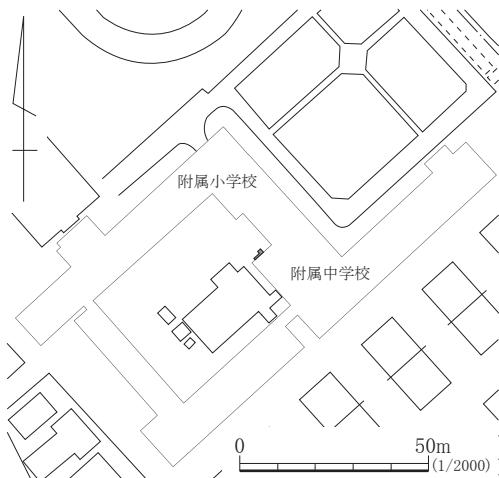


Fig.84 調査区位置図

[注]

- 1) 山口大学埋蔵文化財資料館「教育学部附属光学校下水道接続工事に伴う本発掘調査・立会調査」『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成24年度－』、2016年)

付篇

吉田遺跡第 I 地区 E 区の未報告図面及び写真について

田畠 直彦

1 はじめに

当館は平成 4 年度に、吉田構内への統合移転時に発掘調査が行われた吉田遺跡第 I 地区 E 区の報告を行った。¹⁾その際、試掘調査に関しては、調査日誌が残されていたものの、図面が所在不明であったため、概要については文章でのみ報告を行った。また、写真類についても一部の写真しか残されていなかったため、調査前全景、第 2 号竪穴住居跡の写真を掲載するにとどまった。²⁾その後、平成 7・9 年に教育学部地理学準備室で統合移転時の発掘調査の記録類が発見された際、その中に吉田遺跡第 I 地区 E 区の試掘調査の平面図・写真等が含まれていることが判明した。

一方、平成 10 年度に実施した第 2 学生食堂の増築及び改修工事に伴う発掘調査区（本書第 3 章 以下「第 2 学生食堂調査区」）では、上記の試掘調査区の一部が検出された。また、第 I 地区 E 区の平面図に記載された電柱が 2 本存在し、そのうち 1 本の位置を記録することができたため、第 I 地区 E 区とのおよその位置関係が判明した。以下では、未報告図面及び写真の報告と第 2 学生食堂調査区との位置関係について報告を行いたい。なお、写真の一部についてはすでに公表している。³⁾

2 図面類

「山口大学学生食堂付近実測図（縮尺 1/1200）」、「食堂建設予定地ボーリング調査図（縮尺 1/250）」は、昭和 46 年 8 月 24 日に実施されたボーリング調査の範囲等について記されている。両図によると、調査対象範囲は食堂敷地から構内道路までを含む範囲となっている。また、後者の図では、溝状遺構付近で「須恵器片多数散布」の記載があるほか、黒曜石片が複数箇所で採集され、包含層ないし遺構の一部が露出していたことの記載がある。また、小野忠熙氏によるとみられるボーリング調査・試掘調査に関する指示が記載されている。

試掘調査の平面図（縮尺 1/100）は「吉田第 I 遺跡 E 地区 S. 46. 9. 12.」と記載されている。平板測量図で、現状で 3 分割されている。図にはトレンチの位置のほか、遺構ないし包含層が検出された箇所は茶色が塗られていた。3 枚の図を合成しているため、合成箇所で若干

のズレがある。また、この平面図にはトレンチの名称や検出された遺構に関する記載がほとんどないが、これらについては調査日誌に記載がある。また、2本の電柱の位置が記録されているが、前述のように平成10年度段階でも存在した。Fig. 85・86の試掘調査の平面図は3枚の図を合成し、トレンチ名称や遺構に関する情報を加えたものである。

Fig. 85は試掘調査の平面図と平成4年度報告の事前調査区及び地形図を合成したものである。試掘調査区は東西方向のトレンチについて、a～gトレンチの名称が付されている。南北方向にもトレンチがあり、一部のトレンチに①～⑩の番号が付されているが、図が煩雑となるので記載は割愛する。fトレンチは12箇所のトレンチの総称とみられる。第2学生食堂調査区でその一部が検出されたため、今回説明の都合上、1～12の番号を付した。なお、fトレンチの西側にもトレンチが2箇所あるが名称は付されていない。

Fig. 85を見ると、試掘調査と事前調査区の平面図には若干のズレがあるが、事前調査区で検出された溝状遺構や竪穴住居跡については試掘段階で確認されていたことが確認できる。一方、東北部では、柱穴群と方形の遺構1基が記録されている。これらについて平面図には記載がないが、昭和46年9月9日の調査日誌には「柱穴群（中世のものか？）」との記載がある。南東部は追加調査箇所である。追加調査の平面図とはズレがあるが、この付近には不整形の遺構が2箇所（竪穴住居跡と土坑か？）が記録されている。その他、溝状遺構の西側には遺構もしくは包含層が散在する。一部に「包含層か？」、「包含層」の記載があるが、詳細は不明である。

次に第2学生食堂調査区との位置関係について述べる。同調査区では第I地区E区試掘調査fトレンチの一部を検出した。特にf6～f9については等間隔に配置されている状況が確認できた。また、第I地区E区で記録された電柱と位置とf6～f9の方向を合わせたところ、f2・3・11・12についても、対応する箇所でトレンチ跡が存在することを確認できた。Fig. 86は平成10年度以前の全調査区の合成図、Fig. 87は第I地区E区の主要遺構と第2学生食堂調査区の合成図で、『山口大学構内遺跡調査研究年報XVI・XVII⁴⁾』Fig. 80の改訂版である。なお、上記を根拠に図を合成すると第I地区E区の偏角にズレが生じるが、Fig. 85～87では原図の方針を図示した。実際の方針はFig. 86・87の構内座標を参照されたい。

3 写真

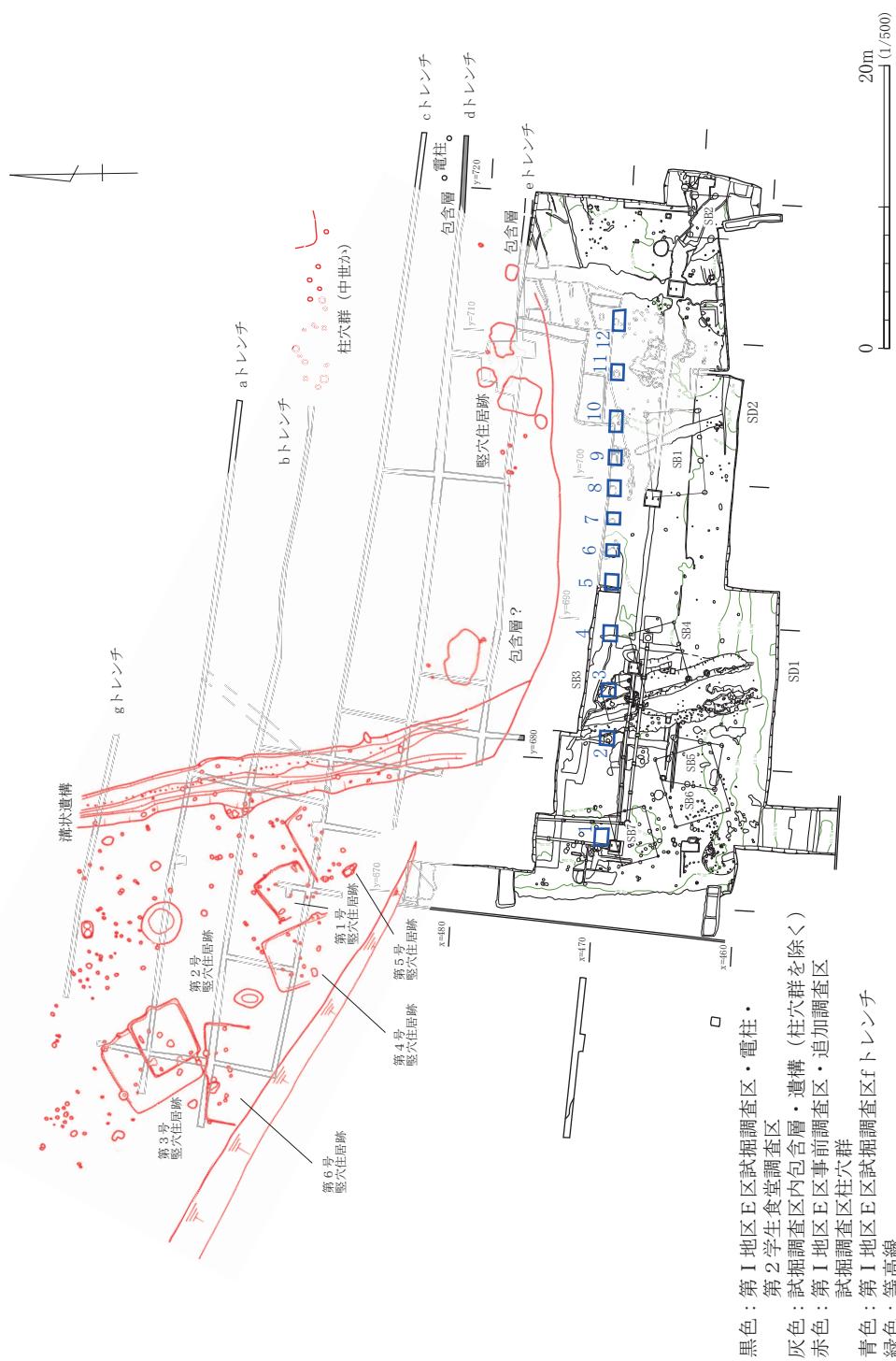
PL. 66 (1) は調査前の写真である。写真右側に見える2本の電柱が平面図に記載されたもので、同じ電柱は平成10年度段階でも第2学生食堂建物東側に存在した(PL. 24)。PL. 66 (2)・

吉田遺跡第I地区E区の未報告図面及び写真について



Fig.85 第I地区E区平面図

平面図



吉田遺跡第Ⅰ地区E区の未報告図面及び写真について

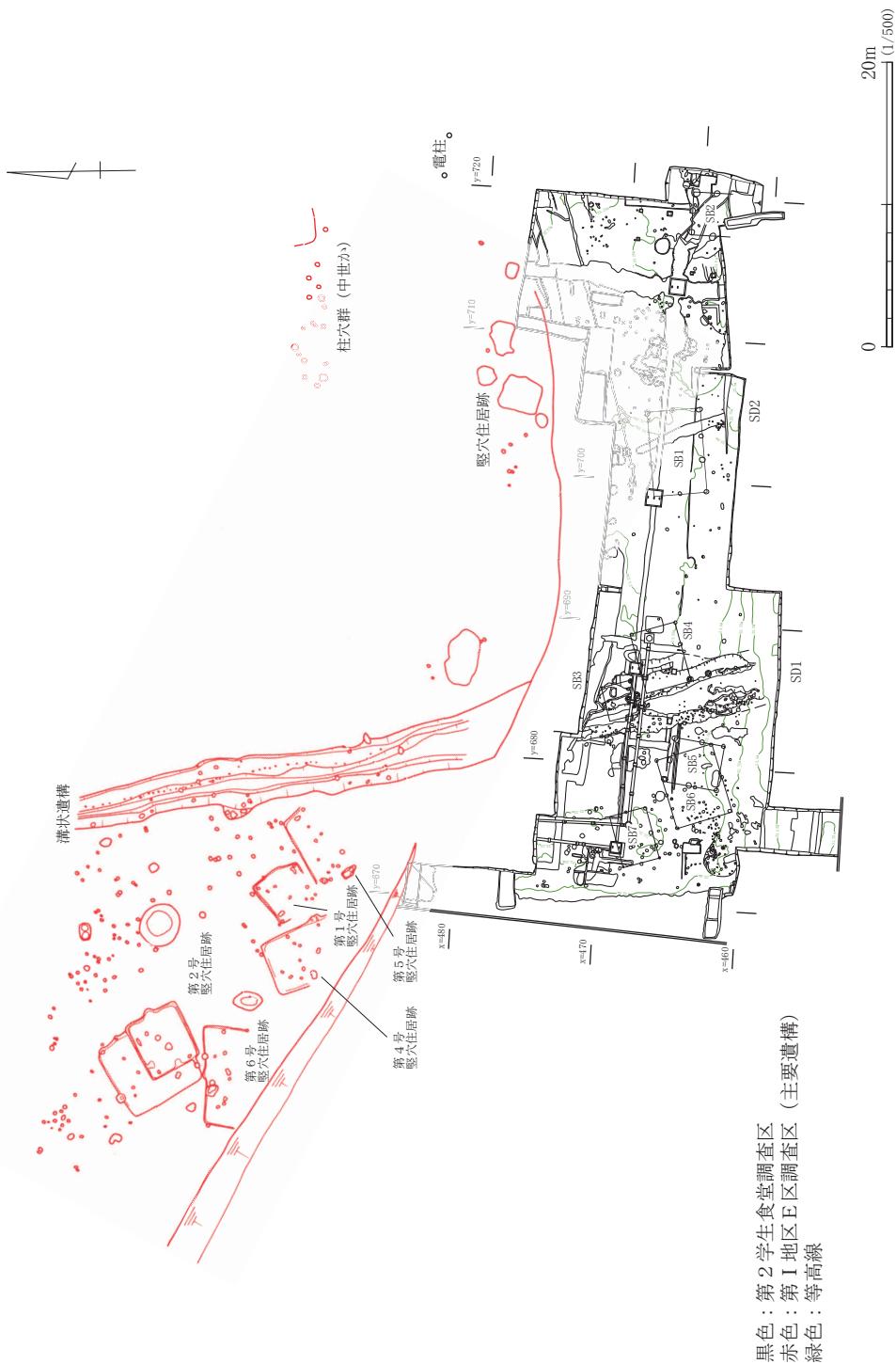


Fig.87 第Ⅰ地区E区・第2学生食堂発掘調査区平面図2

(3)は試掘調査時の写真である。両写真は「第 I 区-E」と記載された袋に収納されていた。両写真のトレンチ上方に見えるのは第 2 学生食堂北側の丘陵部と道路とみられるので、道路に近接している PL. 66(2) を g トレンチ、やや南側にある PL. 66(3) を a トレンチと推測する。PL. 67(1) は事前調査区のほぼ全景を西から撮影したものである。中央に第 2・3 号竪穴住居跡などの主要遺構、東側に溝状遺構が見える。また、試掘調査 b・c トレンチの一部が見える。PL. 67(2) は第 2・3 号竪穴住居跡、PL. 68(1) は第 1 号竪穴住居跡、PL. 68(2) は第 6 号竪穴住居跡、PL. 68(3)・(4) は第 4 号竪穴住居跡の写真である。第 2・3 号竪穴住居跡以外は残存状況が悪かったことがうかがえる。PL. 68(5)～(7) は溝状遺構の写真である。PL. 68(5)・(7) は北部を撮影したものである。深さは約 20cm と報告されているように、断面形は浅い逆台形を呈していることがわかる。また、概報⁵⁾で「柵か垣の跡」とされた柱穴が見える。PL. 68(6) は南部を撮影したものである。北部よりやや深くなっていること、北部よりも柱穴の分布が疎らである。

4 考察

今回の検討により、第 I 地区 E 区は食堂敷地とその東側の構内道路を対象に試掘調査を行い、遺構の分布が密であった箇所について事前調査・追加調査を実施したことがうかがえる。また掘立柱建物等の施設を区画するための溝であったとみられる溝状遺構・SD1 の全長は図上で 49.2m であることが判明した。溝状遺構の北端は未調査であり、SD1 の南端は削平されていたので、全長は 50m を超えていたと推測される。上記と関連して注目されるのは試掘調査 b トレンチ東側で検出された柱穴群である。中世かとの記載があるのみで詳細は不明であるが、古代の柱穴も含まれていた可能性があるほか、調査範囲を広げれば掘立柱建物跡等を確認できた可能性もある。

一方、第 2 学生食堂調査区の調査成果を踏まえると、第 I 地区 E 区の溝状遺構埋没後も中世の柱穴等の掘り込みがあった可能性が高い。上記のように溝状遺構の深度は浅いので、溝状遺構床面まで後世の柱穴の掘削が及んだ可能性もある。溝状遺構からは高台を持つ土師器塊が報告されている。⁷⁾ 上記のうち、Fig. 82-38 は混入であることが指摘されている。このほか、「高台の幅が狭く、突出がきわめて高いもの」とされた Fig. 82-31・32 についても、埋没後に掘り込まれたピットに含まれていたか、窪地となった最終段階に廃棄された可能性が高い。以上を踏まえ、第 I 地区 E 区の溝状遺構は第 2 学生食堂調査区で考察したように、9 世紀代のうちにほぼ埋没したものと推測する。

5 おわりに

以上、第I地区E区の未報告図面と写真について報告を行い、若干の考察を行った。第I地区E区・第2学生食堂調査区の埋蔵文化財は記録保存され、遺構は現存しないが、古墳時代の竪穴住居跡はさらに西方の遺跡保存公園にかけて分布する可能性が高い。⁶⁾また、古代の遺構に関しては、第2学生食堂敷地東側の農学部実験畑にかけて分布し、耕土下に保存されている。今後は上記地域の埋蔵文化財の保護に、第I地区E区・第2学生食堂調査区の調査成果が活用されることが望まれる。

[注]

- 1) 豆谷和之「付篇I 第1章 吉田遺跡第I地区E区の調査」「同第2章 吉田遺跡第I地区E区の追加調査」（『山口大学構内遺跡調査研究年報XII』、1994年）
- 2) 昭和60年度に実施した大学会館環境整備に伴う試掘調査の報告では、森田孝一氏が撮影した第I地区E区の全景、溝状遺構、大形土壙（第1号土壙）の写真を掲載している（山口大学埋蔵文化財資料館「吉田構内大学会館環境整備に伴う試掘調査」（『山口大学構内遺跡調査研究年報V』、1986年））。
- 3) 山口大学埋蔵文化財資料館『学内発掘20年の歩み』、1998年
- 4) 山口大学埋蔵文化財資料館「平成7・10~14年度山口大学構内遺跡調査の概要」（『山口大学構内遺跡調査研究年報XVI・XVII』、2004年）
- 5) 山口大学吉田遺跡調査団『山口大学構内第I地区E区発掘調査概報』、1972年
- 6) 山口大学埋蔵文化財資料館「大学会館新営予定地M-14・15区の試掘調査」（『山口大学構内遺跡調査研究年報II』、1985年）。この調査区では平面形一辺約5mの竪穴住居跡が検出され、検出時に上面から弥生時代後期の遺物が出土したとされる。しかし、同調査区一帯は弥生時代を通して遺構・遺物が分布する地域である。また、第I地区E区第6号竪穴住居跡から弥生時代終末期の高杯口縁部片が出土していることを踏まえると、上記の竪穴住居跡は古墳時代中期に帰属する可能性がある。
- 7) 前掲注1) 第1章

山口大学構内遺跡調査要項

山口大学埋蔵文化財資料館規則

(設置)

第1条 山口大学に山口大学埋蔵文化財資料館（以下「資料館」という。）を置く。

(資料館の業務)

第2条 資料館は、学内の共同利用施設として、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 山口大学構内等から出土した埋蔵文化財の収蔵・展示及び調査研究
- (2) 山口大学構内における埋蔵文化財の発掘調査並びに報告書の刊行
- (3) その他の埋蔵文化財に関する必要な業務

(運営委員会)

第3条 資料館に関する事項を審議するため、山口大学埋蔵文化財資料館運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会に関する規則は、別に定める。

(館長)

第4条 資料館に館長を置く。館長は委員会の議を経て学長が委嘱する。

- 2 館長の任期は2年とし、再任を妨げない。
- 3 館長は、資料館の業務を掌理する。

(調査員)

第5条 資料館に調査員若干名を置く。

- 2 調査員は、委員会の議を経て館長が委嘱する。
- 3 調査員は、資料館の業務を処理する。

(特別調査員)

第6条 埋蔵文化財に関する特別な分野の調査研究を行うため、資料館に特別調査員若干名を置くことができる。

- 2 特別調査員は、委員会の議を経て館長が委嘱する。

(雑則)

第7条 この規則に定めるもののほか、資料館に必要な事項は別に定める。

山口大学埋蔵文化財資料館運営委員会規則

(趣旨)

第1条 この規則は、山口大学埋蔵文化財資料館規則（昭和53年規則第39号。以下「資料館規則」という。）第3条第2項の規定に基づき、山口大学埋蔵文化財資料館運営委員会（以下「委員会」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 山口大学埋蔵文化財資料館（以下「資料館」という。）に関する基本的なこと。
- (2) 資料館の管理運営に関すること。
- (3) 資料館の整備充実に関すること。
- (4) 資料館の運営に要する経費に関すること。
- (5) その他必要な事項

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 資料館規則第4条第1項の館長
- (2) 各学部の教官各1名
- (3) 事務局長

2 前項第2号の委員は、それぞれの部局の推薦に基づいて学長が委嘱する。

(任期)

第4条 前条第1項第2号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、委員の互選とする。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

(幹事)

第6条 委員会に幹事を置き、庶務部長、経理部長及び施設部長をもって充てる。

(委員以外の出席)

第7条 委員会が必要と認めたときは、委員以外の者を委員会に出席させることができる。

(事務)

第8条 委員会の事務は、庶務部庶務課において処理する。

(雑則)

第9条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が定める。

Tab.13 山口大学埋蔵文化財資料館運営委員会委員
(平成10年度)

部局名	氏名	官職	任期	備考
人文学部	中村友博	教授	平9. 4. 1 ~ 平11. 3. 31	資料館長
人文学部	橋本義則	助教授	平9. 4. 1 ~ 平11. 3. 31	
教育学部	末島浩	教授	平10. 4. 1 ~ 平12. 3. 31	委員長
経済学部	及川順	教授	平9. 4. 1 ~ 平11. 3. 31	
理学部	小国信樹	教授	平9. 4. 1 ~ 平11. 3. 31	
医学部	福本哲夫	教授	平10. 4. 1 ~ 平12. 3. 31	
工学部	中園眞人	教授	平9. 4. 1 ~ 平11. 3. 31	
農学部	高橋肇	助教授	平10. 4. 1 ~ 平12. 3. 31	
事務局	高石道明	事務局長	平10. 4. 1 ~ 平12. 3. 31	

山口大学構内の主な調査

Tab.14 山口大学構内の主な調査一覧表

吉田構内

調査年度	調査名	構内地区割	地点	面積(m ²)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和41年	第I地区A・B区	L～N-15	1	30?	土壙・柱穴	弥生土器、土師器、須恵器	事前	調査担当 小野忠熙	年報 XII-XIII
	第II地区家畜病院新營	R-20・21 S・T-19・20	2	2,000	溝、柱穴	弥生土器、土師器、瓦質土器、須恵器	"	"	年報 3
	第II地区		3			弥生土器、土師器	試掘	"	
	第IV地区牛舎新營	S・T-10・11	4	300	弥生溝・土壙、古墳堅穴住居、中世住居跡・溝	弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、陶磁器	事前	"	年報 14
	第IV地区		5				試掘	"	
昭和42年	第III地区杭列区 および陸上競技場	D-19・20 E-17・19～21 F-17・18	6	1,600	杭列、弥生堅穴住居	弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、矢板状木杭	事前	"	①
	第III地区南区	G-21～23 H-22	7		河川跡、柱穴	縄文土器、弥生土器、木器、石器	"	"	
	第III地区北区	H-20 I-19～21 J-20・21	8	1,400	堅穴住居、溝、土壙、柱穴		"	"	
	第III地区東南区	G-23 H-23・24 I・J-24 K-23・24 L-23	9		弥生堅穴住居	弥生土器	"	"	
	第III地区野球場		10		中世柱穴	瓦質土器	試掘	"	
	第V地区学生食堂	J-20	11		弥生溝、古墳土壙	弥生土器、土師器	事前	"	
	第V地区		12		河川跡、柱穴、土壙	弥生土器、土師器	試掘	調査担当 山口大学吉田 遺跡調査団	
	第I地区C区 大学本部新營	K・L-14	13	600	堅穴住居、溝、土壙	土師器、須恵器、瓦質土器	事前	"	
	第V地区教育学部				河川跡	弥生土器、土師器、須恵器	試掘	"	
昭和46年	第I地区D区第1地点	L-13	14		近世大溝	弥生土器、木炭屑	"	"	年報 XIII
	第I地区D区第2地点	L-13	15			弥生土器、土師器、瓦質土器、石鍋	"	"	
	第I地区D区第3地点	M-13・14	16		土壙、柱穴	弥生土器、瓦質土器	"	"	
	第I地区D区第4地点	M・N-14	17		土壙、柱穴	弥生土器、土師器、瓦質土器、石器	"	"	
	第I地区D区第5地点	L-12・13	18		弥生溝	弥生土器、土師器	"	"	
	第I地区D区第6地点	M-13	19		柱穴	弥生土器、土師器、石器	"	"	
	第I地区D区第7地点	M・N-13	20			須恵器	"	"	
	第I地区E区 第2学生食堂新營	M・N-14・15 O-15	21	900	古墳堅穴住居、土壙 溝、柱穴	弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、石器、鐵製品	事前	"	年報 XII-XIII
昭和50年	第II地区					弥生土器	試掘	"	①
昭和51年	第III地区				堅穴住居	弥生土器、土師器、須恵器	"	"	
昭和53年	人文学部校舎新營	M・N-21	22	160			"	調査担当 近藤喬一	年報 X

調査年度	調査名	構内地区割	地点	面積(m ²)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和54年	教育学部附属養護学校新營	A-20・21 B-19・20 C-19	23	410	溝、土壤	縄文土器、弥生土器	試掘	山口大学埋蔵文化財資料館 山口市教育委員会	年報IX
	理学部校舎新營	N・O-19・20	24	250			〃		年報X
	農学部動物舎新營	P-19	25	380			〃		
	本部管理棟新營	L-14	26	740	溝、土壤、柱穴、 中世井戸、土壤墓、 住居跡	弥生土器、土師器、 石製品	事前		年報VIII
昭和55年	経済学部校舎新營	K-21	27	66			試掘		年報X
	農学部農業測定実験施設新營	P・Q-15	28	50	溝、土壤		事前		
	本部環境整備	E-14～16 F-15・16	29				立会		
	農学部環境整備	N-11 O-10・11 P-9・10	30				〃		
昭和56年	教育学部校舎新營	H-19	31		弥生堅穴住居 土壤、溝、柱穴	弥生土器、石製品	事前		年報I
	教育学部音楽棟新營	H-16	32		溝		〃		
	教育学部美術科・ 技術科実験実習棟新營	J・K-19・20	33		旧河川、溝、柱穴	縄文土器、弥生土器、 須恵器、土師器	〃		
	正門橋脚新營	I-11	34				立会		
	時計塔埋設	I-14	35				〃		
	本部構内擁壁取設	K・L-13・14	36				〃		
	教養部構内擁壁取設	I-15～17 J-17	37				〃	工法等変更	
	構内循環道路舗装	J～M-15 M・N-16	38				〃		
	農学部中庭整備	N・O-17	39				〃		
	暖房施設改修	O-16	40				〃	工法等変更	
	学生部文化会車庫新營	M-8・9	41				〃	工法等変更	
	学生部馬場整備	M・N-8・9	42				〃		
昭和57年	附属図書館建築	L・M-16	43	600	弥生～古墳溝、 土壤、柱穴、杭列	弥生土器、土師器、 須恵器、石器	事前		年報II
	大学会館新營	M・N-14・15	44	130	弥生堅穴住居、溝	弥生土器	試掘		
	教育学部附属養護 学校プール新營	A・B-21	45	880			立会		
	放射性同位元素総合実験室 排水溝新營	O-18	46	2			〃		
	教養部自転車置場 昇降口新營	L-17	47	10			〃		
	教養部中庭環境整備	J・K-16	48	150			〃		
昭和58年	大学会館新營	M・N-12・13	49	2,000	古墳井戸、土壤、 柱穴、中世井戸、 掘立柱建物	弥生土器、土師器、 須恵器、輸入陶磁器 国産陶器、瓦質土器 綠釉陶器、木簡、石器	事前		年報III
	ラグビー場防球ネット新營	G-18・19 H-19・20	50	114	弥生溝、弥生～古墳 堅穴住居、土壤	弥生土器、土師器、 石製品	〃	堅穴住居は工法 変更により現地 保存	
	理学部大学院校舎新營	M・N-20	51	409			立会		
	正門・南門二輪車置場 および正門花壇新營	I・J-12・13 H-23	52	183			〃		
	学生部アーチェリー場 的台・電柱設置	N-8・9	53	33			〃		
	学生部厩舎整備	M-7・8	54	1.6			〃		

調査年度	調査名	構内地区割	地点	面積 (m ²)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和58年	学生部野球場散水栓取設	I-21 K-22	55	1			立会		年報 III
	教養部環境整備	I-15・16 J-15 K-17・18 L-18	56	81			"		
	学生部テニスコート改修	C-18 D-17 E-15・16 F-16	57	12			"		
昭和59年	大学会館ケーブル布設	N-12	58	160	弥生土壇、柱穴	弥生土器	事前		年報 IV
	大学会館排水管布設	J～L-13	59	180	弥生～中世遺物包含層、古墳土壇、古代～中世土壇、溝、柱穴	弥生土器、土師器、須恵器、青磁、白磁、瓦質土器	"		
	学生部テニスコートフェンス改修	B-17 C-16・17 D-16 E-15	60	25	古墳以降の遺物包含層	土師器	試掘		
	経済学部樹木移植	K-19・21	61	8			立会		
昭和60年	大学会館環境整備	L-14・15 M・N-15	62	592	弥生～中世遺物包含層、弥生堅穴住居、貯蔵穴、土壇、古代～近世土壇、溝、柱穴	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、輸入磁器、国産陶磁器、土製品、石斧、原石、鉄器、窯壁	試掘		年報 V
	経済学部環境整備(樹木移植)	K・L-20	63	5			立会		
	農学部附属農場飼料園排水溝修復整備	R-17～19	64	30	古代末～中世河川跡	須恵器、土師器、輸入陶磁器、轍口、石器、鉄滓	"		
	農学部附属農場農道改修	V-15～17	65	325			"		
	教育学部前庭環境整備(樹木移植)	I・J-19	66	430			"		
	中央ボイラー棟車止設置	O・P-16	67	2.5		須恵器	"		
	大学会館環境整備(樹木移植)	M-15	68	9		弥生土器、土師器、須恵器、石鍋、砥石、鉄滓	"		
	交通標識設置	J-20 N-14 P-18	69	3			"		
	農学部解剖実習棟周辺環境整備(実験動物運動場設置)	Q-18	70	16			"		
	理学部環境整備(藤棚設置)	N-21	71	4			"		
昭和61年	農学部附属家畜病院舗装	S・T-19	72	270			"		年報 VI
	国際交流会館新嘗	M-22・23 N-22	73	70	弥生～古墳河川跡 中世～近世溝	弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、須恵質土器、陶磁器、鉄砲玉、加工痕のある剥片	試掘		
	山口銀行現金自動支払機設置(電線路埋設)	J-19	74	11	包含層(河川跡か)	弥生土器	立会		
	農学部附属農場農道整備	S-20 T・U-19	75	165	中世溝、柱穴	土師器、瓦質土器	"	工法変更	
	農学部附属農場農道交通規制(施錠ボール設置)	M-10 P-15 Q-15～17	76	12			"		
	正門横(水田内)境界杭設置	J-10	77	0.25	包含層か		"		
	経済学部環境整備(樹木移植・記念碑建立)	L-20	78	3			"		

調査年度	調査名	構内地区割	地点	面積(m ²)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和61年	吉田構内交通標識設置	G-23 K-9 O-22 S-20 V-17	79	3		須恵器	立会		年報VI
	市道神郷1号線および間田神郷線の送水管埋設	B-17・18 C-18・19 D-19・20 E-20・21 F-21・22 G-22・23 H-23・24 I・J・K-24 L-23・24 M・N-23 O-22・23 P・Q-22 R-21・22 S-21 T-20・21 U-19・20 V-18・19 W・X-18	80	2,100	古墳・弥生溝、古代河川跡、弥生包含層	弥生土器、土師器、須恵器(墨書きのあるもの含む)瓦質土器、製塩土器、石斧、板石	立会	山口市教育委員会 山口大学埋蔵文化財資料館	
	教養部自動販売機埋設(屋根設置および観覧席移動)	K・L-18	81	3.5			"		
	教養部身体障害者用スロープ取設	L-15・16	81	3			"		
	経済学部散水線取設	L-20	83	4			"		
	吉田構内水泳プール改修等	E-15 F-15・16 H-15	84	26.5	包含層		"		
	農学部附属農場水道管理設	S-12	85	3			"		
	吉田構内污水排水管等総改修	M-18 O-15	86	15.5		土師質土器	"		
	本部身体障害者用スロープ取設	L-14	87	12			"		
	経済学部身体障害者用スロープ取設	K-18～20 L-18	88	78			"	工法等変更	
	附属図書館荷物運搬用スロープ取設	L-16	89	8		弥生土器	"		
	教養部37番教室改修	K-16	90	1			"		
昭和62年	教育学部附属教育実践研究指導センター新営	J・K-18・19	91	240		プランク、削器、植物遺体	事前		年報VII
	教養部複合棟新営	J・K-17	92	35	埋甕土壙、溝、柱穴	土師器、須恵器、土師質土器、石斧	試掘		
	教養部複合棟新営	I・J-16	93	30	溝状遺構	弥生土器	立会		
	教養部複合棟新営	J・K-17・18	94	900	落し穴、河川跡、豎穴住居、土壙、溝、井戸、埋甕土壙、掘立柱建物跡、谷状遺構、柱穴	繩文土器、土師器、須恵器、土師質土器、須恵質土器、陶磁器石鱗、石斧、木製品	事前		
	九田川局部改修	B-16・17 C-16	95	20			立会	山口県教育委員会 山口大学埋蔵文化財資料館	
	国際交流会館新営	M・N-22・23	96	195			"		
	教育学部附属養護学校自転車置場移設	B-20	97	1			"		
	農学部附属農場E7圃場排水管理設及びE6圃場進入路拡幅	L～N-12	98	55	中世土壙墓か	弥生土器、土師器、須恵器、輸入白磁国産磁器、敲石	"		
	農学部植栽	N-17	99	3			"		
	経済学部集水樹取設	J-20	100	0.5			"		

調査年度	調査名	構内地区割	地点	面積(m ²)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和63年	教養部複合棟新嘗に伴う自転車置場移設	I-16	101	1	包含層か		立会		年報VIII
	国際交流会館新嘗に伴う排水管理設	N・O-22	102	35	河川跡(溝か)、包含層	弥生土器、須恵器	"		
	教養部複合棟新嘗に伴うケーブル埋設	J-18	103	1			"		
	サッカー・ラグビー場改修	F-19・21 G-18	104	25	性格不明	弥生土器	"		
	消防用水設置	K～M-22	105	7.5			"		
平成元年	水銀灯新嘗	J・L-15	106	4	古墳溝状遺構柱穴	弥生土器、土師器、須恵器、六連式製塙土器	事前		年報IX
	椹野寮ボイラー設備改修	O-20・21	107	25			立会		
	野球場防球ネット新嘗	H-22 I-21・22 J・K-21	108	7	包含層	弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、陶器	"		
	防火水槽配管布設	K-21・22	109	15	柱穴		"		
	吉田寮ボイラー設備改修	M-8	110	4			"		
	体育施設系給水管改修	G・H-16	111	50		陶器	"	工法等変更	
	大学会館前記念植樹	M-13	112	6			"		
	吉田寮ボイラー棟地下貯油槽設備改修	M-8	113	45	包含層	土師器、須恵器、土師質土器、陶器、剥片、二次加工のある剥片	"		
	第2武道場排水溝新嘗	G-15	114	2	溝		"		
	案内標識設置	I-14 L-18	115	0.5			"		
	本部車庫給水管改修	L-13	116	6.5		弥生土器	"		
	大学会館前庭環境整備	N-14・15	117	35	中世溝		"		
平成2年	大学会館前庭環境整備	M-15	118	2			"		年報X
	第1学生食堂設備改修	I・J-19	119	7			"		
	教育学部附属養護学校案内板設置	E-20	120	1			"		
平成3年	農学部連合獣医学科棟新嘗	O・P-17	121	76	縄文河川	縄文土器、石器	試掘		年報XI
	農学部仮設プレハブ倉庫設置	P-17	122	6		須恵器	立会		
	農学部微生物実験室その他模様替機械設備改修	P-17	123	8			"		
	大学会館前庭記念植樹	L・M-15	124	2			"		
	サークル棟新嘗	F-14	125	1			"		
平成4年	農学部連合獣医学科棟新嘗	O・P-17	126	980	縄文河川	縄文土器、石器	事前		年報XII
	交通規制標識及びバリカーセット	H-22 M-10 O-22 R-19 S-20	127				立会		
	吉田構内道路(南門ロータリー)取設	H-23	128	40			"		
	ボイラー室給水管漏水補修	O-16	129	4			"		
	農学部附属農場ガラス室新嘗	S-14	130	3.5			"		
	大学会館前庭記念植樹	L・M-15	131	3			"		
	泉町平川線緊急地方道路整備工事及び山口大学吉田団地環境整備(正門周辺)	E-11・12	132				"		
	泉町平川線緊急地方道路整備(信号機設置)	I-11	133	7			"		

調査年度	調査名	構内地区割	地点	面積 (m ²)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成5年	本部裏給水管埋設	K～M-13	134	70	溝、柱穴	弥生土器、土師器 滑石製模造品	事前		年報 XIII
	人文学部・理学部 講義棟新嘗	M-20	135	4			試掘		
	第2屋内運動場氏寧	G・H-16	136	144	溝	弥生土器、須恵器 砥石	"		
	農学部給水管埋設	N～P-18	137	9			"		
	基幹整備 (屋外他給水管改修)	L-15 M-17・18	138	16			立会		
	農学部連合獣医学科棟新嘗 電気設備	O-16	139	4			"		
	大学会館前庭バリカ一設置	N-14	140	1			"		
	大学会館前庭記念植樹	L-15	141	1.6			"		
	九田川河川局部改良	C-16 D-15・16	142	40			"		
	農学部電柱立替	V-17	143	0.2			"		
	農学部ガラス室設置	S-14	144	10			"		
	教育学部給水管埋設	H・J-19	145	15			"		
	環境整備(大学会館前庭)	L-14 M-13～15 N-14・15	146	140.9			"		
	環境整備(遺跡保存地区)	H-20 I-19～21 J-20・21	147	361			"		
	環境整備(正門周辺)	G-13 H-12	148	350			"		
平成6年	グランド屋外照明施設新設	E-20 F-21 G-18・22 H-19・20 I-21	149	600	縄文河川、弥生住居、 溝、土坑、弥生～古 墳河川、近世溝	縄文土器、弥生土器、土 師器、ガラス小玉、砥石、 磨石、敲石	事前	工法等変更	年報 XIV
	第2屋内運動場新嘗	G・I-15・16	150	726	弥生～古代溝、貯蔵 穴、土坑、近世溝、 土坑	弥生土器、土師器、須 恵器、砥石、磨石、敲石、 剥片、須恵器、瓦質土 器、土師質土器、陶器、 磁器、瓦、下駄	"		
	グランド屋外照明施設 配線埋設	F-21 G-20・21 H-19・20	151	200	縄文河川、弥生住居、 溝、土坑、弥生～古 墳河川、近世溝	縄文土器、弥生土器、土 師器、ガラス小玉、砥石、 磨石、敲石	"	工法等変更	
	経済学部商品資料館新嘗	K・L-21	152	87.5	河川	陶器、磁器	試掘		
	実験廃液処理施設棟新嘗	H-12・13	153	2	河川		"		
	体育器具庫及び便所新嘗	G・H-17	154	60	河川		"	工法等変更	
	経済学部商品資料館 仮設電柱設置	L-22 M-22・23	155	5			立会		
	人文学部前駐車場整備	K-23 L-22・23	156	6			"		
	教育学部附属養護学校 生活排水管改修	F-19	157	2			"		
	テニスコート改修	B-17 C-16・18 D-15～17 E-15・16	158	15			"		
	教育学部附属養護学校 生活訓練施設棟新嘗	B-20～22 C-20	159	16			"		
	陸上競技場整備 (透水管埋設)	C-18 D-18・19	160	200			"		
	ハンドボール場改修 (プレハブ設置)	K-22	161	30			"		

調査年度	調査名	構内地区割	地点	面積 (m ²)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成6年	野球場フェンス改修	H-22 I-21・22	162	3			立会		年報XIV
	基幹環境整備 (ボイラー室配電盤設置)	O-16	163	4	河川か		"		
	九田川河川局部改良	D-15 E-14・15	164	100			"		
	第2屋内運動場電柱仮設	G-14・15	165	0.5			"		
	教養部水道管破裂修理	I-16	166	2			"		
	グランド屋外照明施設配線埋設	E-20 F-20～21 G-18・19・22 H-19・20 I-20・21	167	150			"		
	公共下水道接続 (教育学部附属養護学校プール排水施設設置)	A-21	168	4			"		
	サークル棟給水管埋設	F-14	169	1			"		
	プール新管給水管埋設	E-15 F-15・16	170	10			"		
	公共下水道接続 (汚水管雨水排水施設設置)	C-18	171	6	河川	土師器	"		
平成7年	教育学部スロープ設置 (音楽棟)	H-17	172	10			"		年報XV
	農学部RI実験研究施設新嘗	Q・R-17	173	75	近世溝	磁器	試掘		
	農学部RI実験研究施設新嘗	Q・R-17	174	520	中世井戸・近世溝	石斧、須恵器、磁器、瓦器	事前		
	公共下水道接続	C-18 E-16 G-14	175	70	溝、土坑、河川跡、柱穴	弥生土器、土師器	試掘		
	公共下水道接続	C・D-18 D・E-17 E・F-16	176	240	土坑、河川跡、柱穴	弥生土器、石器、骨角器	事前		
	農学部附属農場牛舎新嘗	T-10	177	22			試掘		
	独身宿舎改修	N・O-22	178	25.5	河川		試掘		
	第2学生食堂増築	N・O-15	179	48	柱穴、包含層	石鏃	試掘		
	第2屋内運動場外周照明施設新設	G-15・16	180				立会		
	機器分析センター新嘗工事用電柱仮設	O-19～21 P-22	181				"		
	農学部附属家畜病院バリカ一新設	S-20	182				"		
	吉田寮可燃ゴミ置場新設	N-10	183				"		
	農学部RI実験研究施設電気・情報ケーブル及びガス・給排水管布設	Q・R-17	184				"		
	情報処理センタースロープ新設	O-19	185				"		
	基幹環境整備(ATMネットワークケーブル布設)	E-19・20 F-18・19 G-18	186				"		
	基幹環境整備(外灯新設)	I-15・16 J-20 K-19 M-10・11 N-12 O-16～18・20 P-18・19 Q-17・18	187				"		
平成8年	基幹環境整備(独身宿舎・国際交流会館排水管布設)	M-23 O-22	188	22.5	河川		試掘		年報XVI

調査年度	調査名	構内地区割	地点	面積 (㎡)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成8年	基幹環境整備(外灯新設)	H・I-21・22	189	306	河川	縄文土器、弥生土器、土師器、石器	試掘		年報XVI
	農学部附属農場排水管布設	S-10・11	190	93	包含層、ピット	土師器、須恵器	試掘		
	陸上競技場鉄棒取設	G-18	191	5.5	包含層		立会		
	農学部附属農場排水溝改修	R-11	192	2.2			"		
	椹野寮バリカー新設	O-20・21	193	7			"		
	サッカー場給水管取替	H-19・20 I-19	194	12	包含層		"		
	基幹環境整備(共通教育センター・スロープ・テラス新設)	J・K-17	195	14.3	河川	縄文土器、須恵器	"		
	九田川河川局部改良	E-14	196	18			"		
	農学部附属農場道路舗装	K-12・13 L-12 M-11	197	27.6	近世用水路、溝状遺構	弥生土器、土師器、須恵器、陶器、磁器	"		
	本部裏排水管取替	K-14	198	2			"		
平成9年	農学部附属農場堆肥舍新営	S-10	200	41.5			試掘		年報XVII
	農学部バイオ環境制御施設新営	Q-15・16	201	140	河川、溝	土師器、須恵器、製塩土器、石鎌	試掘		
	カーブミラー新設	M-11 N-21	202	0.8			立会		
	基幹環境整備(外灯新設)	J・K-21 K・L-22 L-23	203	23.5	包含層		"		
	共通教育棟エレベーター新設	K-16	204	42			"		
	九田川河川局部改良	E-14	205	48			"		
	本部2号館西側バリカー新設	L-13	206	0.5			"		
	教育学部附属養護学校時計塔新設	D-21	207	1.4	包含層	土師器	"		
	基幹環境整備(教育学部附属養護学校排水管取替)	C・D-21	208	17	河川		"		
	基幹環境整備(焼却場裏表土すきとり)	O-16	209	40			"		
平成10年	第2学生食堂の増築及び改修	N・O-15	210	967.2	掘立柱建物、溝、土坑、柱穴	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、陶器、磁器、石鎌、鉄製品	事前立会		年報XVIII
	教育学部附属養護学校給食室改修	C-21	211	12.3	縄文河川、土坑、柱穴	縄文土器、弥生土器	試掘		
	九田川河川局部改良	E・F-14 F-13	212	180			立会		
	基幹環境整備(バリカー新設)	H-15 I・J-20 O-16・18 L-22	213	3.4			"		
	農学部動物用焼却炉改修	Q-18	214	53			"		
	基幹環境整備(外灯新設)	L-17～19 M・N-18	215	4			"		
	理学部スロープ新設	M-18	216	16			"		
	ステンレス回転モニュメント新設	M-13・14	217	27.6			"		
平成11年	第2学生食堂増築その他に伴う屋外電力線路施設整備	O-14～16	218		包含層、柱穴、河川	土師器、須恵器	"		
	九田川河川局部改良	F・G-13 G・H-12	219				"		
	第2学生食堂北西擁壁新設	N-14	220				"		
	サッカー場南側防球ネット新設	G・H-22	221				"		

調査年度	調査名	構内地区割	地点	面積(m ²)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成11年	第1体育館・共通教育本館 スロープ新設	H-15 K-16	222				"		
	基幹環境整備(外灯新設)	I-12 K・L-18 L-15 M・N-17	223				"		
平成12年	総合研究棟新營	Q-18 R-17~19	224	270	埋没谷	土師器、須恵器	試掘		
	総合研究棟新營	Q・R-18 R-19 S-20	225	808	埋没谷、土壤	縄文土器、土師器、須恵器、製塙土器、瓦質土器、石器	事前立会		
	厩舎及び周辺施設改修	M-8	226	3.6			立会		年報XX
	架空電線取り外し埋設	O-15 P-15・16 Q-14・15・18・19 R-13・14 R・S-19 S-14	227	268	包含層	土師器、須恵器	"		
	九田川河川局部改良	H-11・12 I-10・11 J-9・10 K・L-9	228	616			"		
	山口合同ガスガバナー室新設 及びガス配管布設	O-19~22 P-18・19・22	229	313			"		
	基幹環境整備 (パリカー新設)	N-22 V-17	230	0.4			"		
	あずまや新設	L-18	231	5			"		
	共通教育センター空調設備新設	J-16	232	1.4			"		
	基幹環境整備(外灯新設)	J・K-21 M-10	233	2	包含層	土師器	"		
	経済学部校舎改修 (プレハブ校舎新營)	K-21	234	40	河川	縄文土器、土師器、須恵器	試掘		
	九田川河川局部改良 (平成12年度工事追加分)	L-8・9	235	42	河川		立会		年報XXI
	総合研究棟新營屋外配管布設	Q-18	236	60			"		
	理学部改修1期工事 屋外配管布設	M-18・19 M・N-20 N-19	237	76			"		
	九田川河川局部改良	L-8・9	238	96			"		
	基幹環境整備(外灯新設)	I-14・15 J-15 K・L・M-15 N-16 Q~T・V-17	239	15.4	河川		"		
	理学部校舎改修2期工事 ボンプ室配管布設	M-19	240	11			"		
	理学部校舎改修2期工事 自転車置場新設	N-20	241	196			"		
	第1学生食堂トイレ改修	I・J-19	242	6			"		
	経済学部校舎改修(プレハブ 校舎新營配管布設)	L-21	243	6			"		
	農学部校舎改修(解剖実習 棟プレハブ校舎新營)	R・S-19	244	520	掘立柱建物、柱穴、 土坑、包含層、河川	土師器、須恵器(墨書き 土器)、製塙土器、縄釉 陶器、瓦、輪口、鉈尾、 銅鉱石	事前		
平成14年	農学部附属農場実験圃場整地	O-14	245				立会		
	農学部校舍他改修	N~Q-17・18	246		河川	縄文土器	"		
	理学部改修3期工事(薬品庫 掲示板・自転車置場新設)	N-19・ M-19・20	247				"		

調査年度	調査名	構内地区割	地点	面積 (m ²)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成14年	東アジア研究科プレハブ校舎新營	N-21	248				"		
	農学部校舎改修(解剖実習棟プレハブ校舎新營)	R・S-19	249		河川、包含層		"		
	教育学部トイレ改修	I-18	250				"		

小串構内

調査年度	調査名	構内地区割	地点	面積 (m ²)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和58年	医学部体育館新營		1	260		土師器、瓦質土器、石器	試掘		年報 III
	医学部図書館増築		2	4			立会		
	医学部体育館新營		3	1			"		
昭和59年	医学部浄化槽新營		4	44	近世溝	土師器、瓦質土器、磁器	事前		年報 IV
	医学部体育館新營		5	65		土師器、瓦質土器、磁器	"		
	医学部基幹整備(特高受電設備)		6	28		動物遺体(貝殻)	試掘		
	医学部臨床講義棟病理解剖棟新營		7	38			"		
昭和60年	医学部附属病院外来診療棟新營		8	390		土師質土器、瓦質土器、陶磁器	"		年報 V
	医学部基礎研究棟新營		9	10		近世陶器	"		
	医学部看護婦宿舎改修		10	25.5		近世陶磁器	立会		
	医学部看護婦宿舎改修		11	20			"		
	医学部環境整備(樹木移植)		12	40			"		
昭和61年	医学部附属病院外来診療棟新營		13	5			"		年報 VI
	医学部附属病院周辺環境整備等(雨水井埋設)		14	18			"		
昭和62年	医学部附属病院東駐車場改修		15	6			"		年報 VII
	医学部附属病院病棟新營		16	104		削器、ナイフ形石器 細石刃核	試掘		
昭和63年	医学部附属病院病棟新營		17	300		二次加工のある剥片、使用痕のある剥片、剥片、敲石、礫、原石、土師器、土師質土器、瓦質土器、陶磁器	立会		年報 VIII
	医学部附属病院運動場整備		18	220			"		
平成元年	医学部附属病院MRI棟新營		19	45		削器、細石刃、二次加工のある剥片、剥片、石核	試掘		年報 IX
平成2年	医学部附属病院動物・RI実験棟新營		20	40		剥片	"		年報 X
平成3年	医学部臨床実験施設新營電気工事		21	0.5			立会		年報 XI
平成4年	焼却棟地盤調査		22				"		年報 XII
平成5年	医学部臨床実験施設新營その他		23	9			"		年報 XIII
	医学部附属病院基幹設備(焼却棟新營)		24	6			"		

調査年度	調査名	構内地区割	地点	面積 (m ²)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成6年	医学部附属病院MRI-CT装置棟新営		25	300			"		年報XIV
平成7年	医学部附属病院看護婦宿舎新営		26	40			試掘		
平成8年	医療技術短期大学部屋外排水管布設		27	6			立会		年報XVI
平成9年	医学部慰憲碑・納骨堂新営		28	15.2			試掘		年報XVII
	基幹環境整備(看護婦宿舎浄化槽撤去)		29	4			立会		
	医学部剖検棟移設		30	10			"		
平成10年	宇都宮市土地区画整理事業(柳ヶ瀬丸河内線)		31	253.1	包含層、近世～近代用水路	剥片、繩文土器、弥生土器、土師器、陶器、磁器	事前	宇都宮市教育委員会と合同調査	年報XVIII
	宇都宮市土地区画整理事業(柳ヶ瀬丸河内線・医学部敷地西側特殊道路)		32	381.1	包含層、近世～近代溝	剥片、繩文土器、弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、陶器、磁器	"	宇都宮市教育委員会と合同調査	
平成11年	宇都宮市土地区画整理事業(柳ヶ瀬丸河内線)		33	792	近世～近代用水路、土坑	陶器、磁器、鉄製品	"	宇都宮市教育委員会と合同調査	
平成13年	医学部附属病院立体駐車場新営		34	229	包含層	繩文土器、弥生土器、土師器、陶器、磁器、鐵釘	試掘		年報XXI
平成14年	医学部附属病院高エネルギー棟新営		35	13.25			"		
	総合研究棟新営		36	382	包含層	繩文土器、土師器、須恵器、瓦質土器、陶器、磁器	"		

常盤構内

調査年度	調査名	構内地区割	地点	面積 (m ²)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和58年	工学部校舎新営		1	70		須恵器	試掘		年報III
	工学部図書館増築		2	70			"		
昭和59年	工学部尾山宿舎排水管布設			20			立会		年報IV
昭和60年	工学部尾山宿舎擁壁取設等			65			"		年報V
	工学部受水槽改修		3	1.5			"		
昭和61年	工学部尾山宿舎排水管改修			6			"		年報VI
	工学部身体障害者用スロープ取設		4	29			"		
	情報処理センター(常盤センター) 空調設備取設		5	30			"		
昭和63年	工学部焼却炉上屋新営		6	225			"		年報VII
平成元年	工学部夜間照明装置及び防球ネット設置		7	2			"		年報IX
	工学部記念植樹		8	2.5			"		
平成2年	工学部ガス管改修		9	45			"		年報X
平成3年	大学祭展示物設置		10	7			"		年報XI
平成4年	工学部プレハブ研究・実験棟新営		11	6			試掘		年報XII

調査年度	調査名	構内地区割	地点	面積(m ²)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成4年	工学部・工業短期大学部の改組再編・博士課程設置に伴う建築物等の新営		12	40			〃		年報XII
	工学部および工業短期大学部 職員宿舎取壟		13	9			立会		年報XII
	大学祭展示物設置		14	7			〃		
平成5年	工学部プレハブ研究・実験棟新営		15	12			試掘		年報XIII
	工学部地域共同研究開発センター新営		16	16			〃		
平成7年	工学部国際交流会館新営		17	8		石鏃	〃		
平成8年	工学部国際交流会館新営		18	352	段状遺構	ナイフ形石器、剥片	事前		年報XVI
平成12年	工学部福利厚生棟新営		19	38.5			試掘		年報XX
平成13年	工学部インキュベーションセンター新営		20	60			〃		年報XXI
平成14年	総合研究棟新営		21	13.5			〃		

白石構内

調査年度	調査名	構内地区割	地点	面積(m ²)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和58年	教育学部附属山口小学校・幼稚園運動場整備		1	60	古墳堅穴住居、溝状遺構	土師器、須恵器、瓦質土器、瓦、石製品、木製品	試掘		年報III
昭和60年	教育学部附属山口小学校散水栓改修		2	1			立会		年報V
	教育学部附属山口中学校球技コート整備		3	2			〃		
	教育学部附属幼稚園環境整備(樹木植樹)		4	1			〃		
昭和61年	教育学部山口附属学校汚水排水管布設	幼稚園・小学校部分	5	57	中世土壙か	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、土師質土器	試掘		年報VI
		中学校部分		20	河川跡か杭列	陶磁器、不明鉄製品、石鏃、剥片、植物遺体			
	教育学部附属山口小学校電柱移設		6				立会		
昭和62年	教育学部附属幼稚園遊戲室拡張		7	40			〃		年報VII
昭和63年	教育学部附属山口中学校屋内消火栓設備改修		8	35	包含層	土師器、磁器、剥片	〃		年報VIII
平成元年	教育学部附属幼稚園・山口小学校汚水排水管布設		9	260	弥生～古墳堅穴住居、土壙、溝、柱穴、河川跡	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、須恵質陶器、黒色土器、搔器、二次加工のある剥片、使用痕のある剥片、剥片、石核、砥石	事前		年報IX
			10	0.3			立会		
	教育学部附属幼稚園バレーコート支柱設置		11	170	弥生溝状遺構	弥生土器、土師器、打製石斧、削器、剥片、石核	〃		

調査年度	調査名	構内地区割	地点	面積 (m²)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成2年	教育学部附属山口中学校 污水排水管布設		12	70	溝状遺構	縄文土器、弥生土器、土師器、瓦質土器、不明鉄製品、石鏃、敲石、扁平打製石斧、砥石、剥片	事前		年報X
			13	130		弥生土器、土師器、須恵器、土師質土器、瓦質土器、国産陶磁器、扁平打製石斧、砥石	立会		
平成6年	教育学部附属山口小学校 プール新営給水管埋設		14	3			"		年報XIV
	教育学部附属山口中学校 プール新営給水管埋設		15	7			"		
平成7年	教育学部附属山口中学校 自転車置場新設		16				"		
平成10年	教育学部附属山口小学校 給食室改修		17	15.8			試掘立会		年報XVII
平成12年	教育学部附属山口中学校 防球ネット新設		18	4.4			立会		年報XX
平成14年	教育学部附属山口中学校 給水設備改修		19				"		
	教育学部附属幼稚園 運動場整備		20		河川、柱穴	土師器	"		

光構内

調査年度	調査名	構内地区割	地点	面積 (m²)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和58年	教育学部附属光小学校 自転車置場設置		1	6	近世～近代石垣	瓦質土器、陶磁器、瓦	試掘		年報III
昭和59年	教育学部附属光小・中学校 焼却炉新営		2				立会		年報IV
昭和60年	教育学部附属光中学校 外灯改修		3	1		土師器	"		年報V
昭和61年	教育学部附属光小学校創立 記念事業(ブロンズ像建立)		4	2.5		土師器、須恵器	"		年報VI
昭和62年	教育学部附属光中学校 グラウンド防球ネット設置		5	2		弥生土器、土師器、瓦質土器、土師質土器、瓦	"	御手洗湾採集	年報VII
昭和63年	教育学部附属光小学校 遊具移設		6	10		土師器、土師質土器、陶磁器	"		年報VIII
	教育学部附属光小学校 屋外スピーカー設置		7	0.5		土師器、土師質土器、須恵器、瓦器、瓦質土器、陶磁器、土鍤	"	御手洗湾採集	
平成2年	教育学部附属光小学校 運動場改修		8	15		縄文土器、土師器、須恵器、瓦質土器、施釉陶器、磁器、土鍤、剥片、鉱滓	試掘	御手洗湾採集 遺物含む	年報X
	教育学部附属光小学校 運動場改修		9	23	土壤	土師器、須恵器、須恵器模倣土師器	事前		
平成3年	教育学部附属光中学校 武道館新営		10	38	土壤、溝状遺構	土師器、磁器、陶器	試掘		年報XI
	教育学部附属光小学校 屋外施設設置		11	18		土師器、石鍤	立会		

調査年度	調査名	構内地区割	地点	面積 (m²)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成3年	教育学部附属光中学校 バックネット新設		12	0.5		土師器	〃		年報 XI
平成4年	教育学部附属光中学校 武道館新營		13	500	土壤、柱穴	縄文土器、須恵器、 土師器、瓦器	事前		年報 XII
	教育学部附属光中学校 武道館地盤調査		14				立会		
平成5年	教育学部附属光中学校 武道館新營その他		15	6			〃		年報 XIII
平成6年	教育学部附属光小中学校 プール新營給排水管理設		16	19			〃		年報 XIV
平成8年	教育学部附属光小・中学校 囲障(外周フェンス・防球ネット) 取設		17	7		陶磁器	〃		年報 XVI
平成10年	教育学部附属光小学校給食室 改修		18	5.2			〃		年報 XVII
平成11年	教育学部附属光小・中学校 上水道(給水管)改修		19	132	古墳包含層、柱穴、 近世～近代土壤	土師器、須恵器、韓式系 土器、竈形土器、 陶器、磁器	試掘 立会		
平成12年	教育学部附属光小・中学校 護岸石積改修		20	173	石垣	土師質土器(蛸壺)、 磁器、瓦	立会		年報 XX
	教育学部附属光小・中学校 上水道(給水管)改修		21	23	包含層	土師器、須恵器、磁器 石錘	〃		

その他構内

調査年度	調査名	構内地区割	地点	面積 (m²)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和59年	学生部ボート艇庫 合宿研修所整備		宇部市大字小野宇土井	0.5			立会		年報 IV
	学生部ヨット艇庫 合宿研修所整備		吉敷郡秋穂町東宇中道				〃		
昭和60年	熊野荘給湯機器取設		山口市熊野町3-21	7			〃		年報 V
昭和61年	湯田宿舎給水管改修 経済学部職員宿舎 公共下水道切替		山口市湯田温泉6丁目 8-29	35	杭		〃		年報 VI
			山口市旭通り2丁目3-32	1		土師質土器	〃	6号宿舎	
			山口市水の上町6-1	7		瓦	〃	2号宿舎	
昭和63年	経済学部職員宿舎 公共下水道切替		山口市白石二丁目8-7	1		須恵器、土師器、土師 質土器、瓦質土器、 陶磁器	〃	7号宿舎採集	年報 VII
平成元年	本部職員宿舎 公共下水道切替		山口市水の上町6-1	1			〃	1号宿舎	年報 IX
平成2年	人文・理学部職員宿舎 公共下水道切替		山口市石観音町1-25	1.2		陶磁器	〃	7号宿舎	年報 X
	経済学部職員宿舎 公共下水道切替		山口市香山町3-1	0.5			〃	3号宿舎	
平成3年	湯田宿舎A棟給配水 その他改修		山口市湯田温泉6丁目	30			〃		年報 XI
	経済学部6号職員宿舎 電柱設置		山口市旭通り2丁目3-32	0.5			〃		
	人文・理学部職員宿舎 公共下水道切替		山口市天花932-2	1			〃		

調査年度	調査名	構内地区割 地点	面積 (m ²)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成4年	上堅小路共同下水管布設	山口市上堅小路宇久保 7-4	7			立会		年報 XII
平成6年	湯田宿舎公共下水道接続 及び排水施設改修	山口市湯田温泉6丁目 8-29	44			//		年報 XIV

※文献① 山口大学吉田遺跡調査団『吉田遺跡発掘調査概報』(山口大学、1976年)

※昭和41年以降、吉田構内においては、工事に際し隨時継続的に調査を実施しているが、昭和52年以前の吉田遺跡調査団の関与した調査については、調査名をすべて把握しているわけでなく注意が必要である。

※平成12年度調査区の一部を修正した。

※平成10年度の調査区、記載内容の一部を修正した。

※平成15年度以降については既刊の『山口大学埋蔵文化財資料館年報』を参照されたい。

Summary

Ch. I: Summary of the archaeological excavations on the Yamaguchi University campuses in the 1998 fiscal year

Salvage excavations were carried out twice jointly by Ube City Board of Education and Yamaguchi University Archaeological Museum on Kogushi Campus. A salvage excavation was carried out on Yoshida Campus. Test excavations were carried out once each on Yoshida and Shiraishi Campuses. On-site inspections were carried out seven times on Yoshida Campus and once each on Shiraishi and Hikari Campuses.

Ch. II: Excavations to accompany the Ube City land readjustment project (Yanagase-Marugouchi line)

In trenches A to C, remains related to paddy fields from the early modern to modern period were discovered. Also, in trench A, a small number of Jomon pottery items and a large number of pottery items from the end of Yayoi to early Kofun period were discovered from the layer about 1.3 m below the ground surface.

Ch. III: Excavations to accompany the Ube City land readjustment project (Yanagase-Marugouchi line and the special road on the west side of the Faculty of Medicine)

In trench E, one Jomon pottery (Kanezaki-type) deep bowl was found in the layer about 1.3 m below the ground surface. In trench F, a ditch related to paddy fields from the early modern to modern period were discovered. Also, as a result of expanding the above-mentioned trench A, a small number of Jomon pottery items, Sue ware items, and vessels made of tile-clay, and a large number of pottery items from the end of the Yayoi to early Kofun period were discovered. These were thought to have been deposited secondarily due to the inflow of rivers, etc., increasing the likelihood that settlement ruins from the end of the Yayoi to early Kofun period existed on the hill to the north of Koguchi Campus.

Ch. IV: Excavations to accompany the extension and renovation of Cafeteria 2 on Yoshida Campus

In the excavation area, structural remains from the Yayoi to early modern period were discovered. The breakdown is as follows: 7 embedded-pillar buildings, 12 ditches,

16 earthen pits, 4 unknown structural remains, 383 pillar holes, and a large number of relics from the Yayoi period and ancient times were discovered. This was the first time embedded-pillar buildings from the ancient and medieval periods were discovered on Yoshida Campus. In addition, an extension of the ancient ditch in Area I E was discovered, and as a result, the length of the ditch was determined to be about 49.2 m. The purpose of this ditch seems to have been to separate the embedded-pillar buildings and other facilities, and it is speculated that it was almost entirely buried in the 9th century. This ditch and two of the embedded-pillar buildings may indicate the existence of some kind of local government office.

During the on-site inspection, layers containing artifacts were discovered in the northeast corner of spot C.

Ch. V: Test excavations on the Yamaguchi University campuses in the 1998 fiscal year

In the test excavation for the renovation of the handicapped children's school kitchen on Yoshida Campus, layers containing Jomon pottery were discovered. Two earthen pits and pillar holes from the Yayoi to Kofun period were also discovered.

In the test excavation for the renovation of the elementary school kitchen on Shiraishi Campus, no archaeological remains were found.

Ch. VI: On-site inspections on the Yamaguchi University campuses in the 1998 fiscal year

No archaeological remains were found on Hikari, Shiraishi, or Yoshida Campuses except for at the Cafeteria 2 site.

Appendix

I This is a summary report of newly discovered drawings and photographs related to an excavation carried out in 1971 in Area I E of the Yoshida site. As a result of examining of drawings, the positional relationship with Cafeteria 2 was determined. From the results of the excavation at Cafeteria, the ancient ditch in Area I E is thought to have been almost entirely buried in the 9th century. It is to be hoped that in the future, the results of the excavations in Area I E and at Cafeteria 2 will be used to protect the buried cultural properties around Cafeteria 2.



Fig.88 山口大学吉田構内地区割及び主な調査区位置図(昭和41年度～平成14年度)



Fig.89 山口大学小串構内調査区位置図（昭和 58 年度～平成 14 年度）

—·— 構内旧境界線
—·— 構内境界線
□ 平成6年度以前と平成8・9・12・13年度調査区
□ 平成7年度・平成14年度調査区



Fig.90 山口大学常盤構内調査区位置図（昭和 58 年度～平成 14 年度）

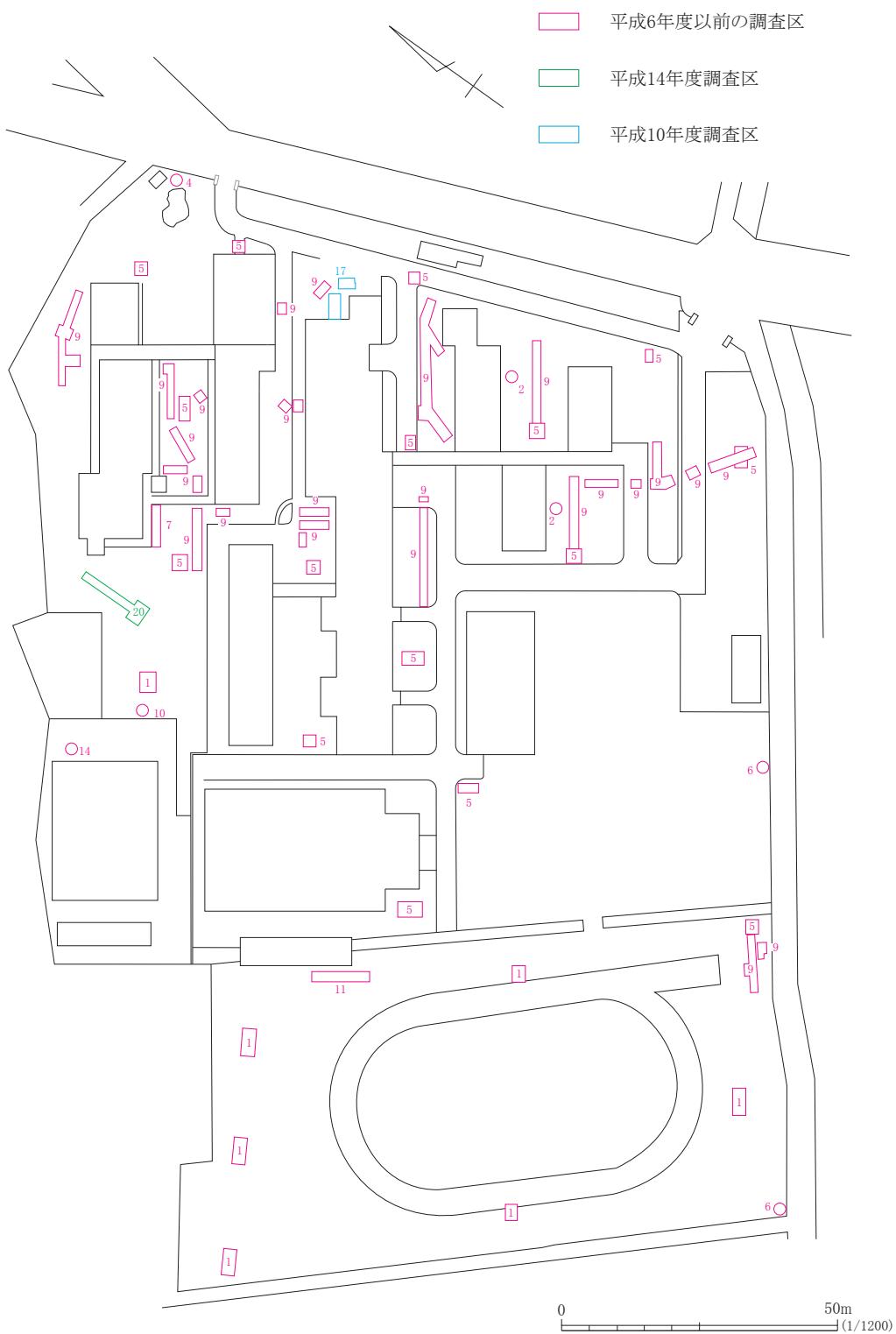


Fig91 山口大学白石構内（幼稚園・小学校）調査区位置図（昭和 58 年度～平成 14 年度）

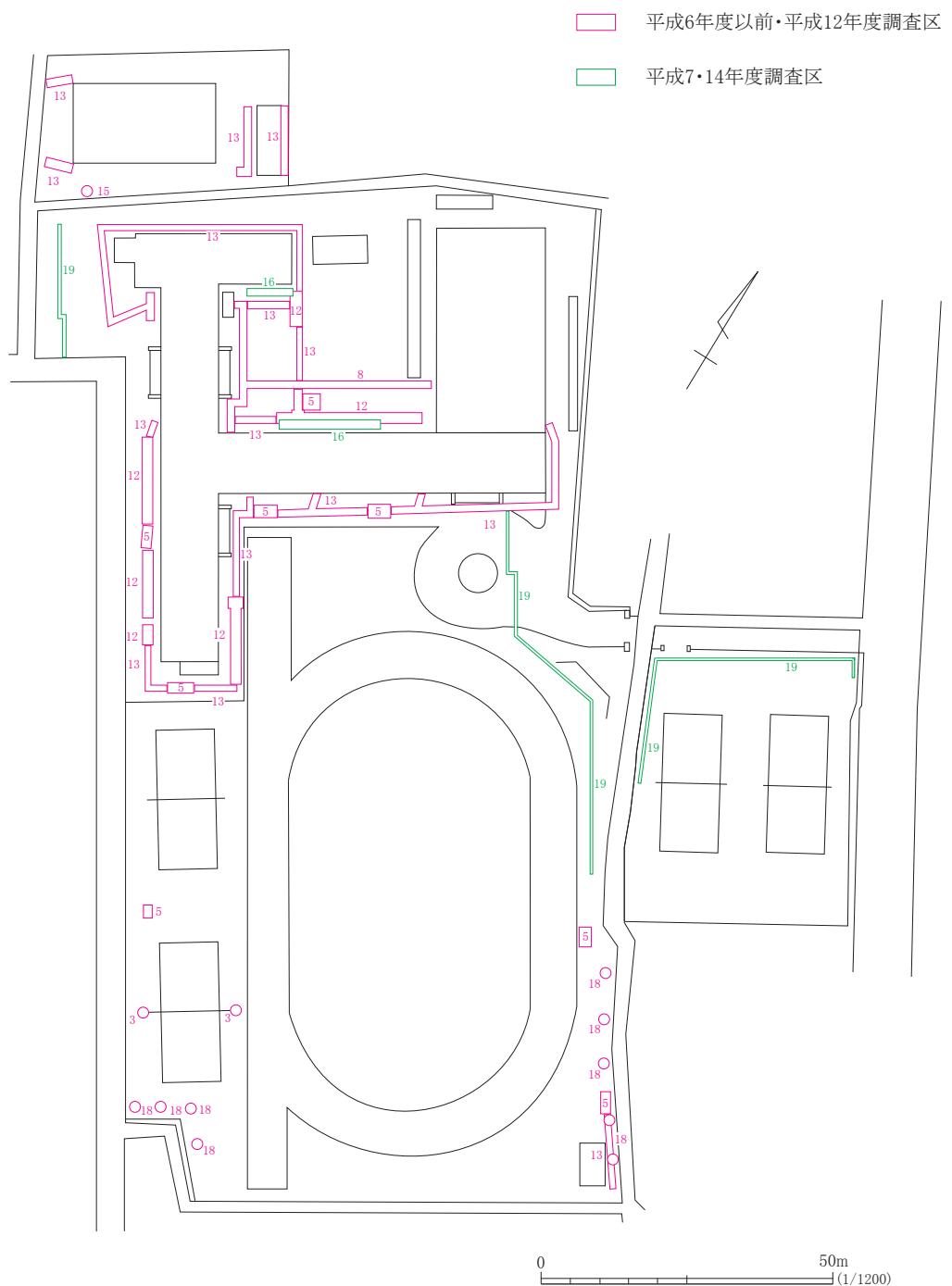


Fig.92 山口大学白石構内（中学校）調査区位置図（昭和 60 年度～平成 14 年度）

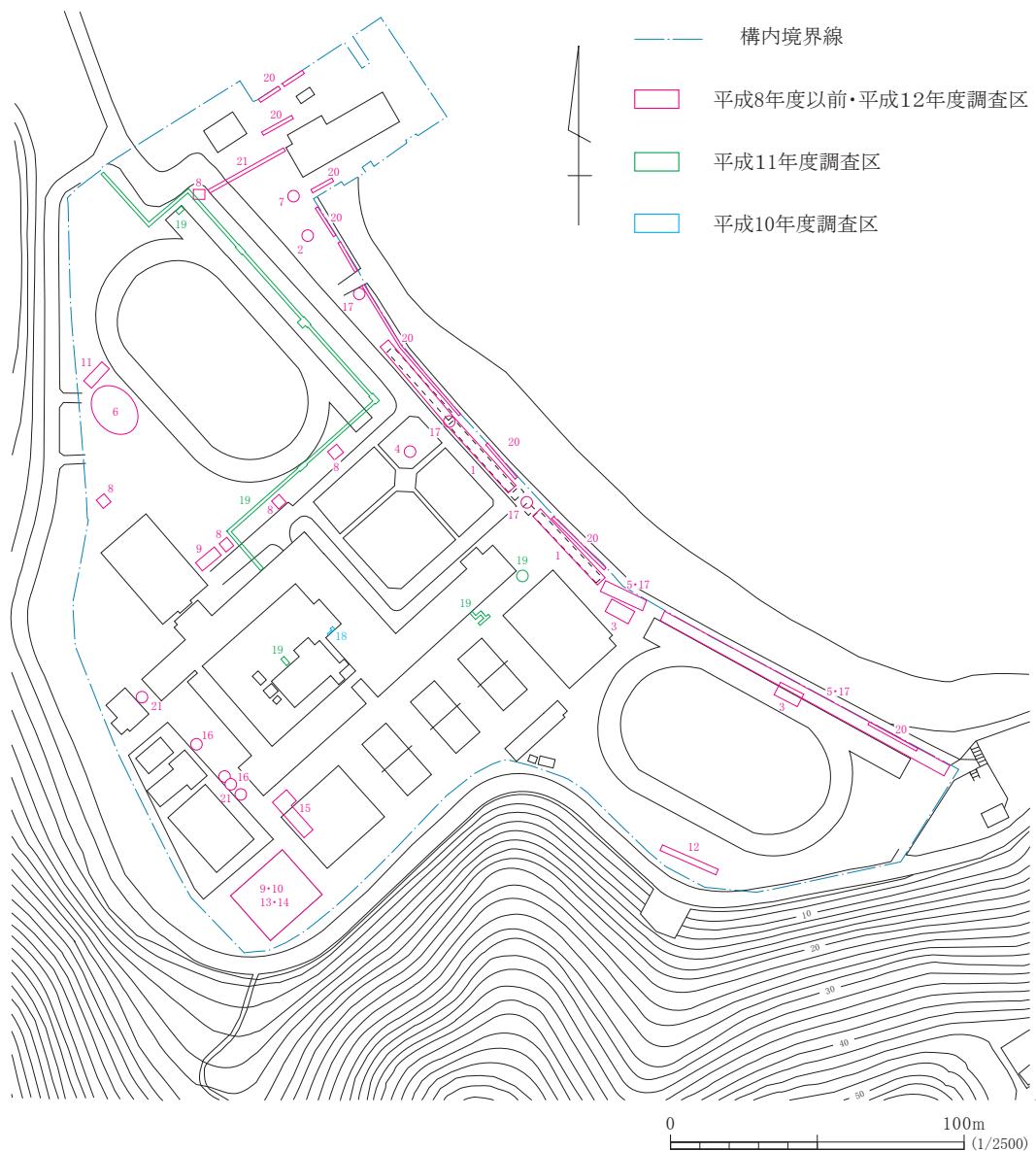
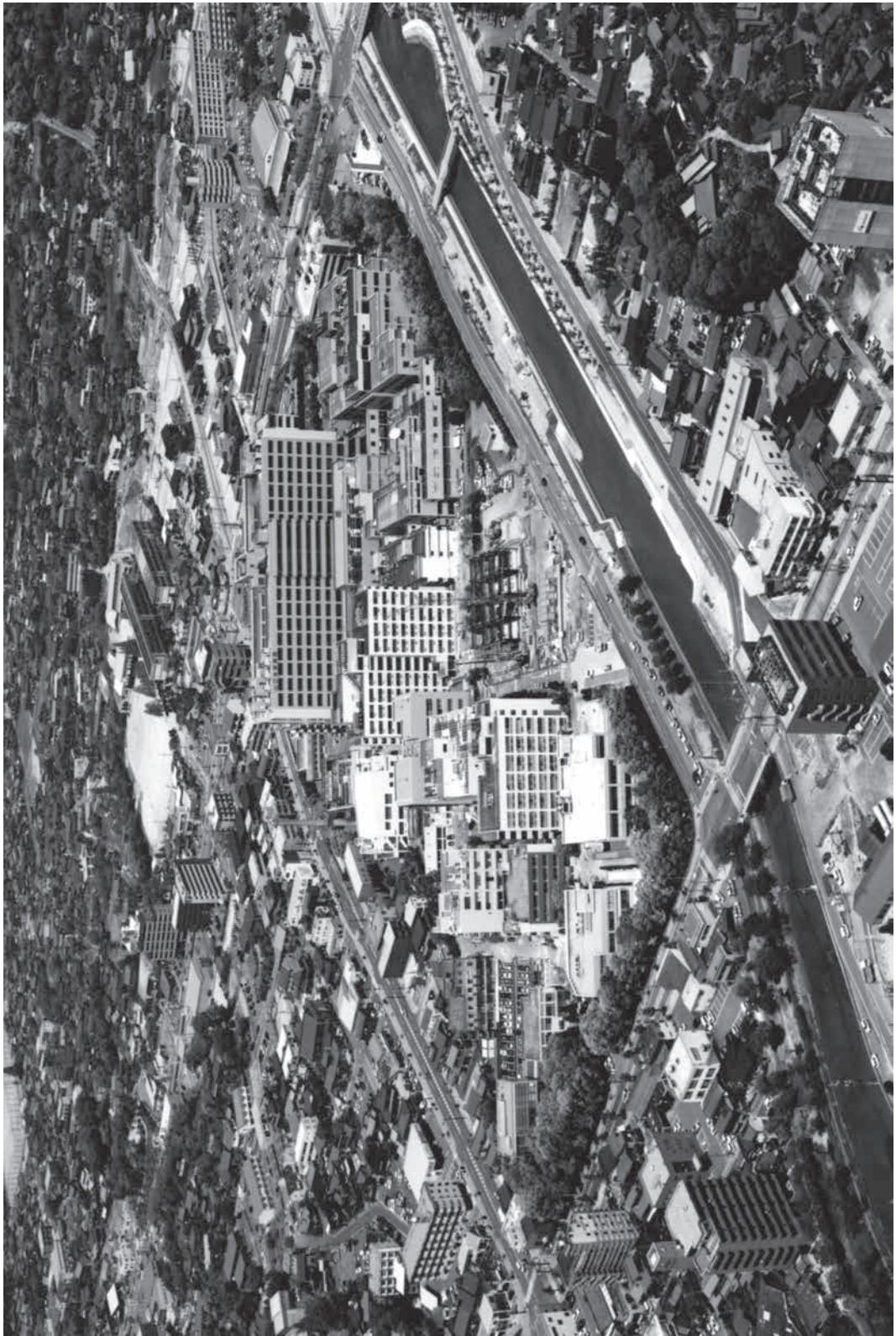


Fig.93 山口大学光構内調査区位置図(昭和 58 年度～平成 12 年度)

図 版



小串構内全景(座右)



(1) Aトレーニチ調査前全景(南から)



(2) Aトレーニチ北西壁土層断面(南から)



(1) Aトレーニチ南西壁土層断面(北から)



(2) Aトレーニチ小溝1検出状況(南東から)



(3) Aトレーニチ土器集中部(北東から)



(1) B・Cトレンチ調査前全景（西から）



(2) Bトレンチ北西壁土層断面（南から）



(1) Bトレンチ北部北西壁土層断面(東から)



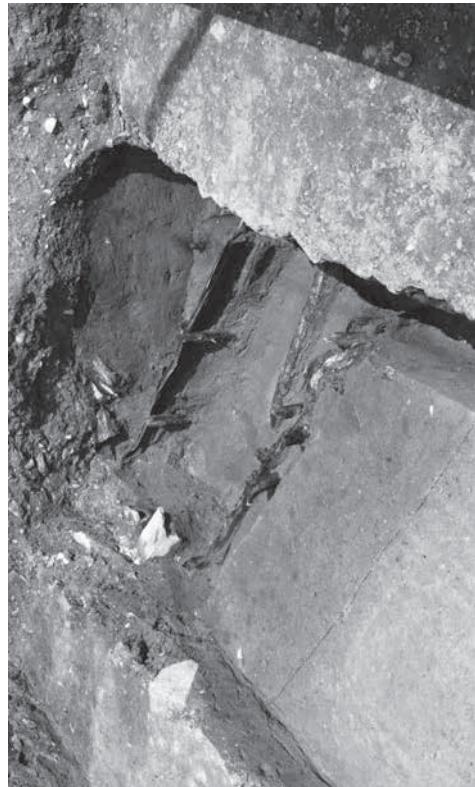
(2) Bトレンチ南部(南東から)



(1) Bトレーンチ遺構検出状況（南西から）



(2) Bトレーンチ遺構完掘状況（南西から）



(3) Bトレーンチ用水路（西から）



(4) Bトレーンチ用水路断面（南西から）



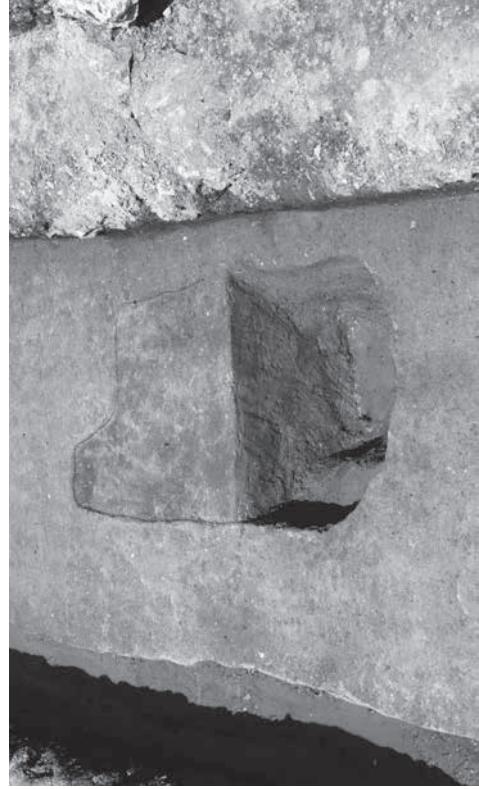
(1) Cトレーニチ南西部（北東から）



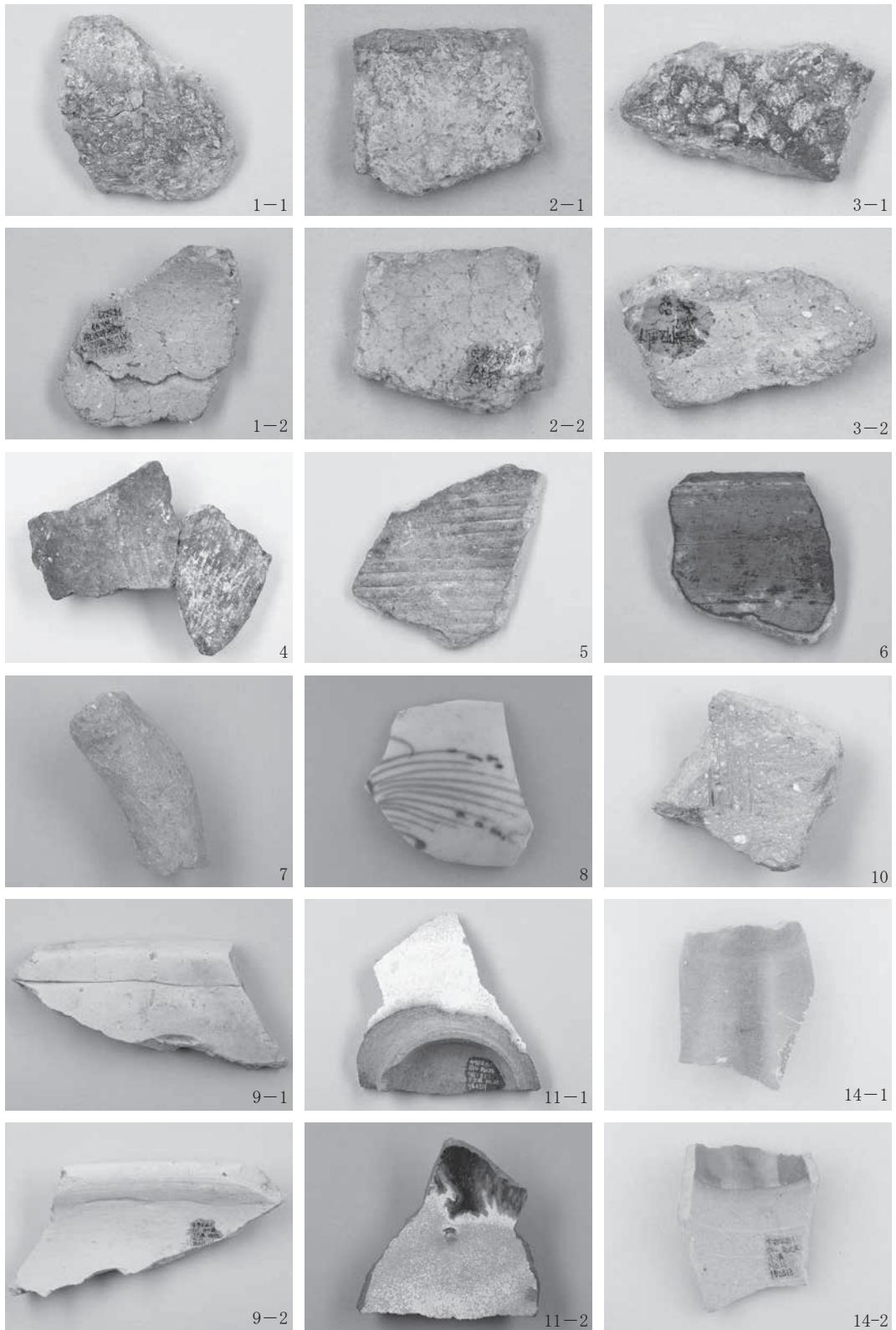
(2) Cトレーニチ北西壁土層断面（東から）



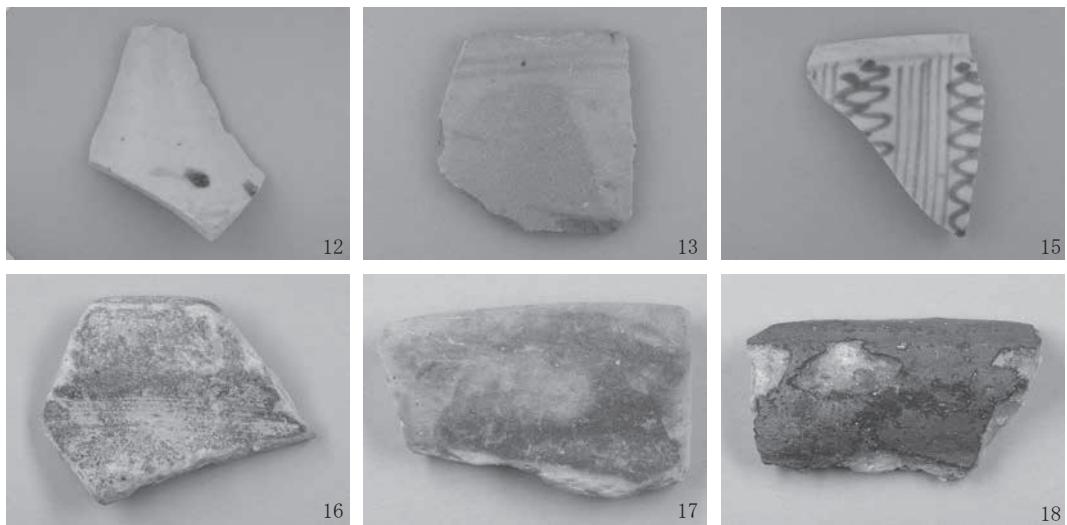
(3) Cトレーニチ北部北西壁土層断面（東から）



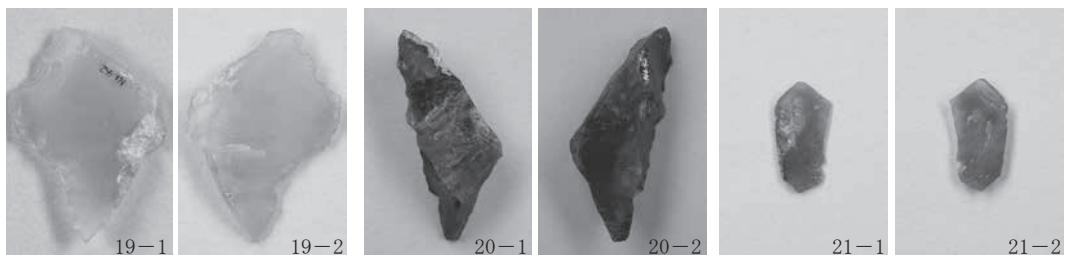
(4) Cトレーニチ土坑（南西から）



出土遺物①(土器)



(1) 出土遺物②(土器)



(2) 出土遺物③(石器)



(1) D トレンチ全景(南西から)



(2) D トレンチ南東壁土層断面(南から)



(1) Eトレーニチ全景(北東から)



(2) Eトレーニチ北西壁土層断面(南東から)



(1) Eトレーナチ北東壁土層断面（南西から）



(2) Eトレーナチ縄文土器出土状況（西から）



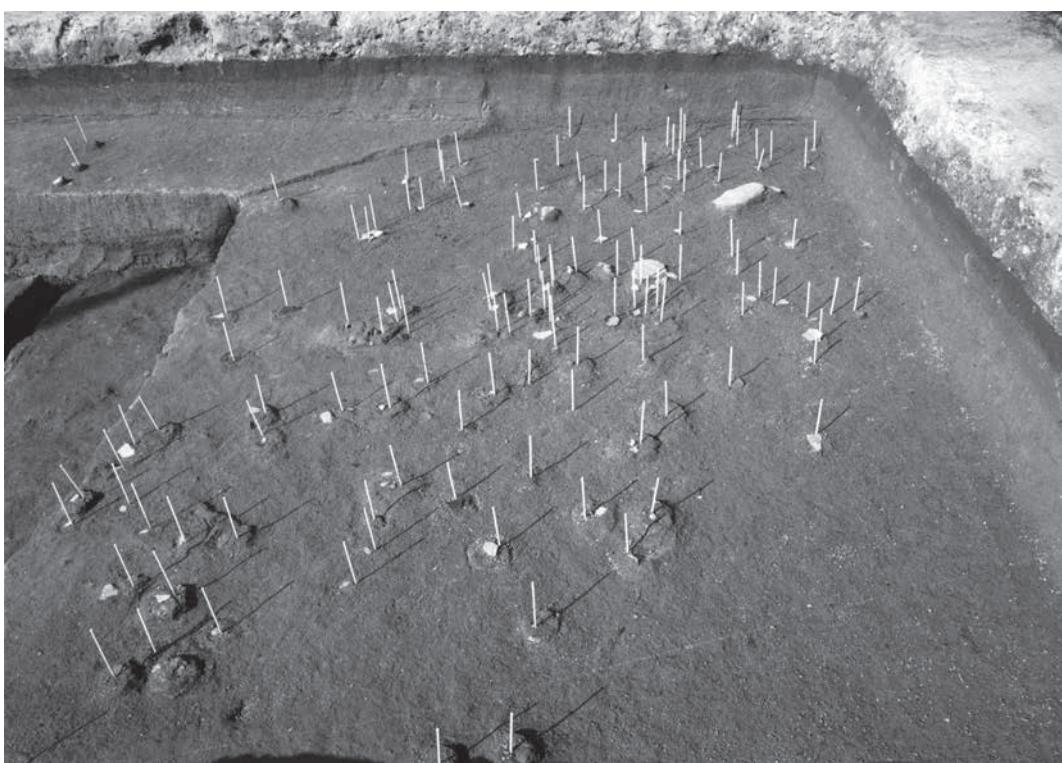
(1) Fトレーナー小溝 5 検出状況(北西から)



(2) Fトレーナー小溝 5 完掘状況(北西から)



(1) Fトレーナー遺物出土状況（北西から）



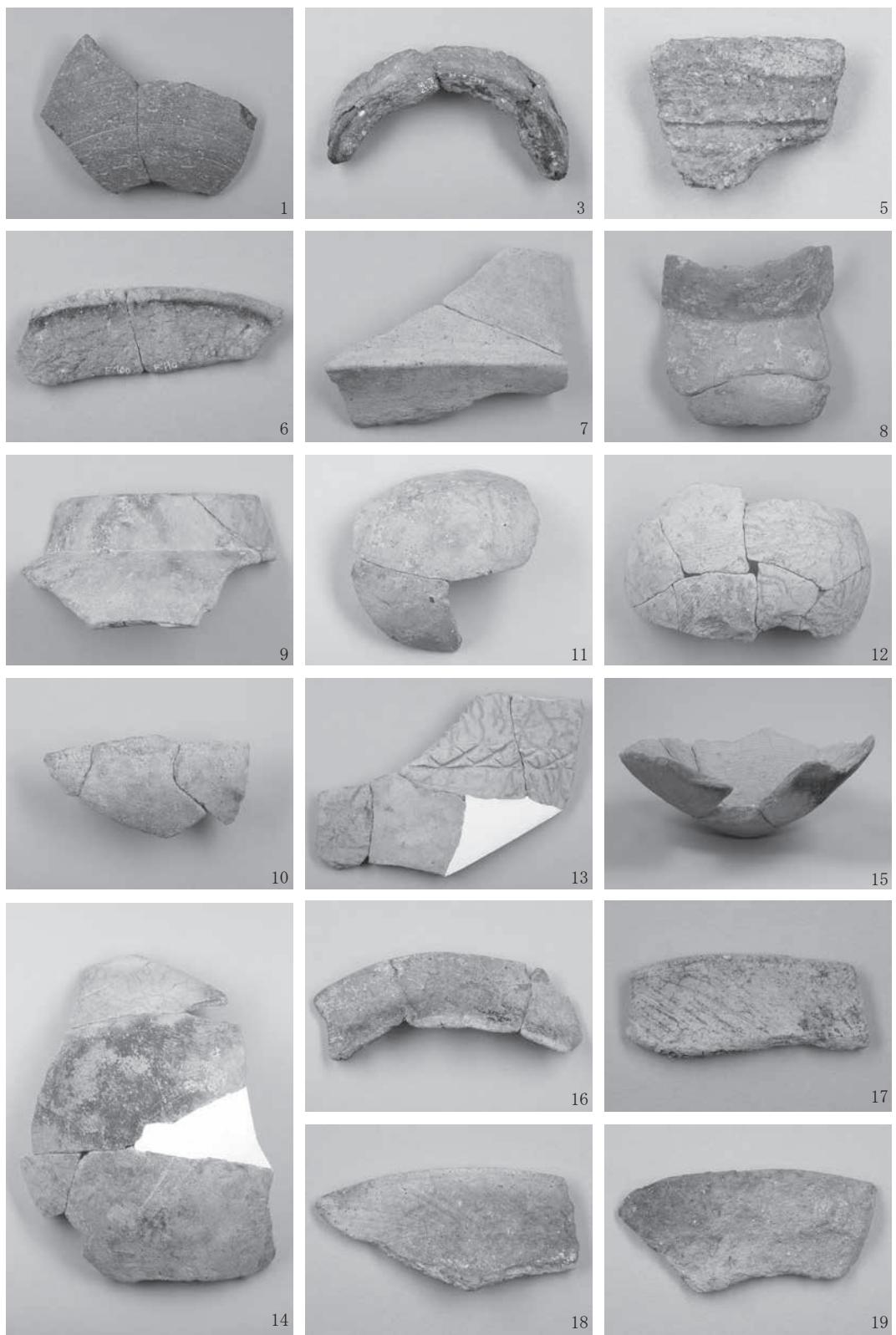
(2) Fトレーナー東部遺物出土状況（南西から）



(1) Fトレーナー西部遺物出土状況(南から)



(2) Fトレーナー西部土器出土状況(俯瞰)



出土遺物①(土器)



2-1

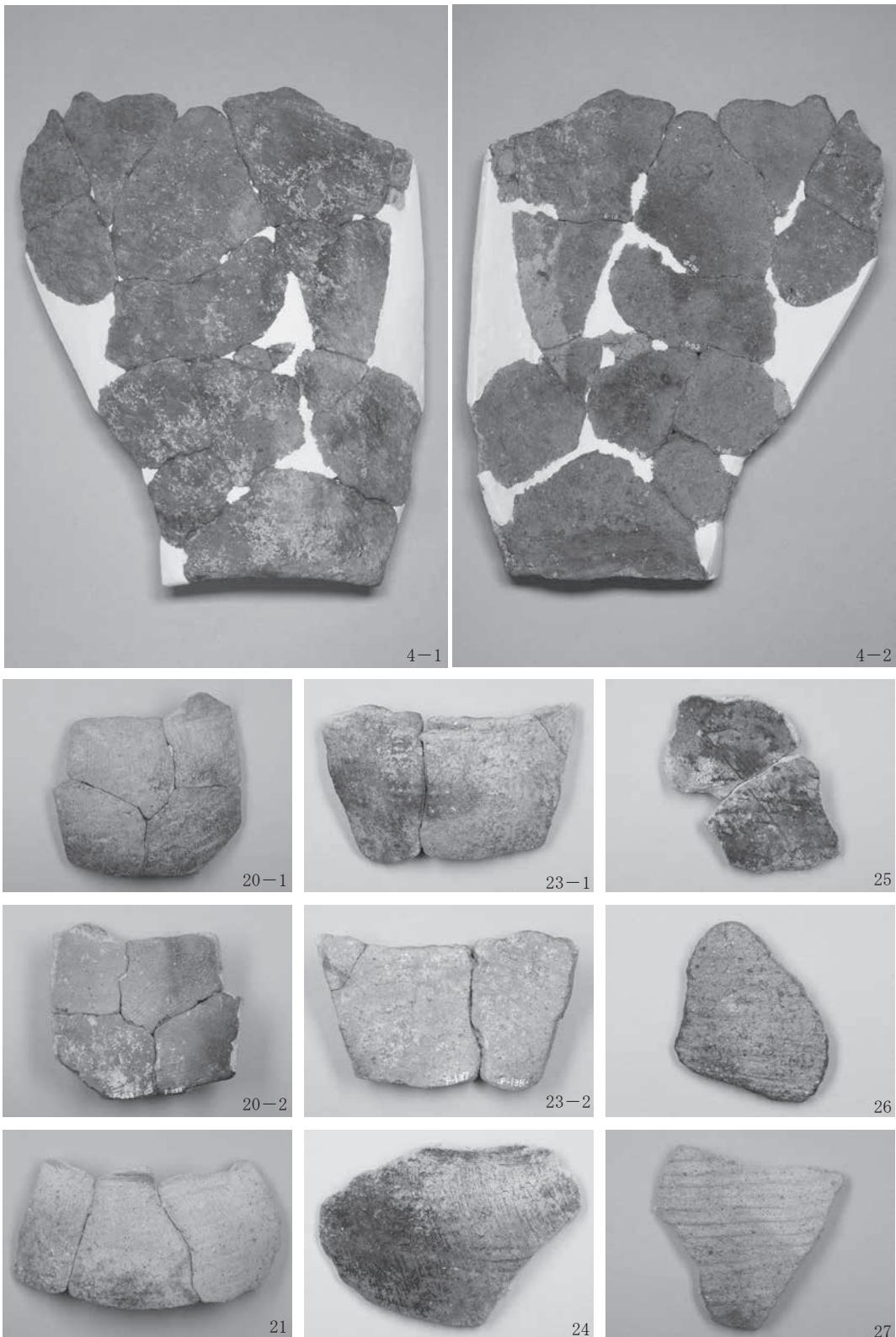


2-2 (文様拡大)



2-3 (口縁部内面)

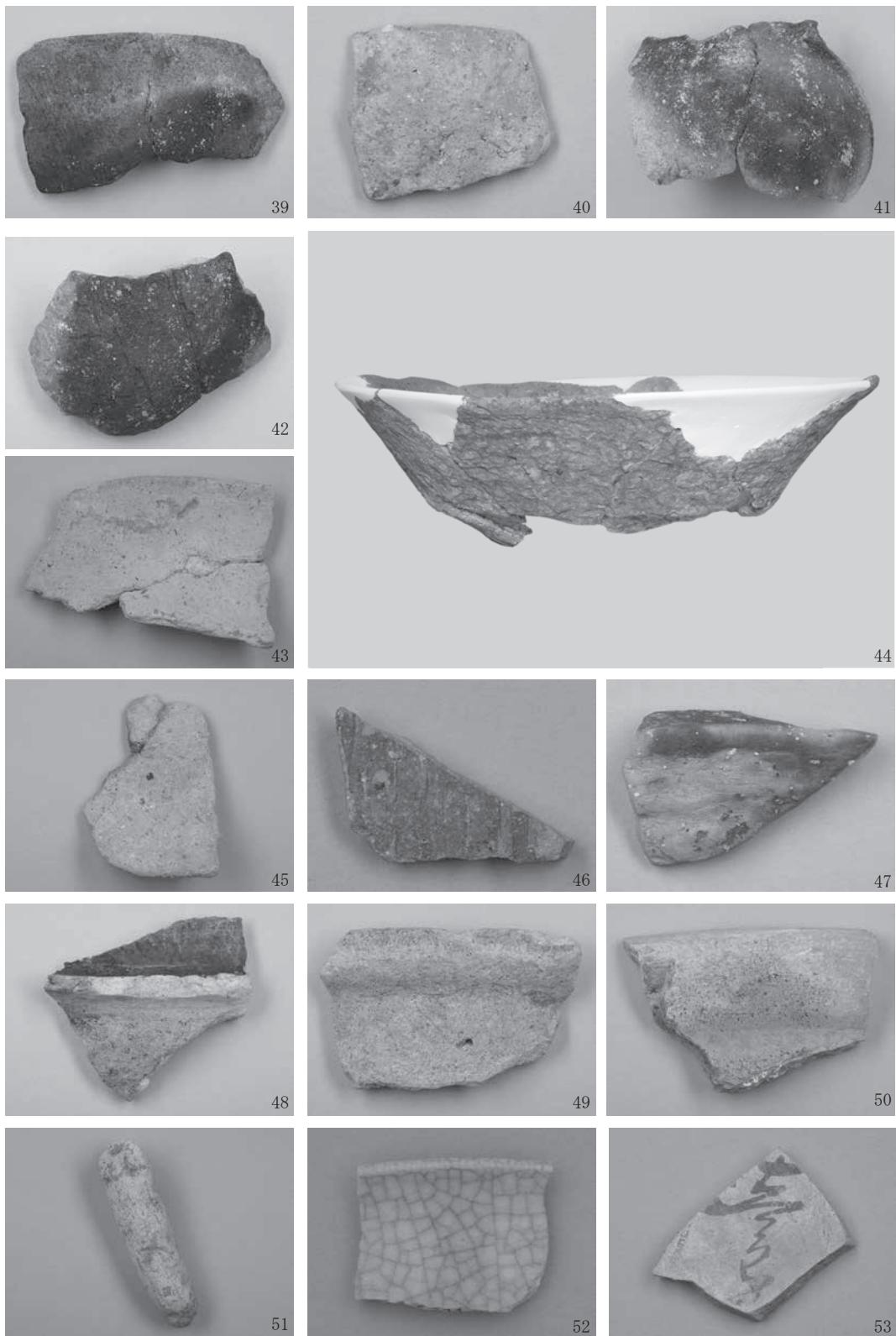
出土遺物②(土器)



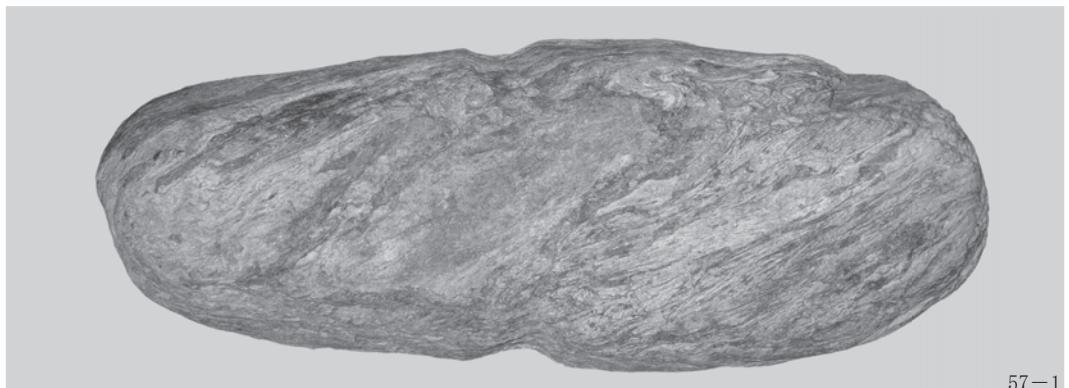
出土遺物③(土器)



出土遺物④(土器)



出土遺物⑤(土器)



出土遺物⑥(石器・錢貨)



吉田構内全景(拡大)



(1) 調査前の状況 1(東から)



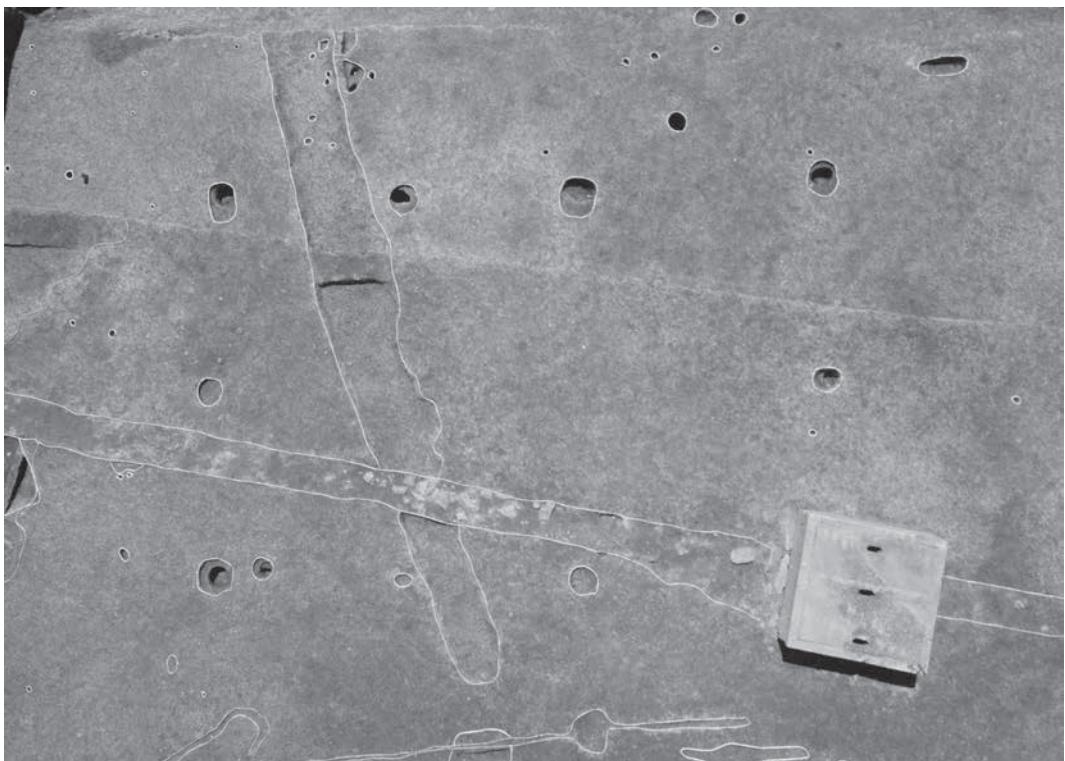
(2) 調査前の状況 2(南から)



事前調査区全景（南から）



(1) 調査区西部（北から）



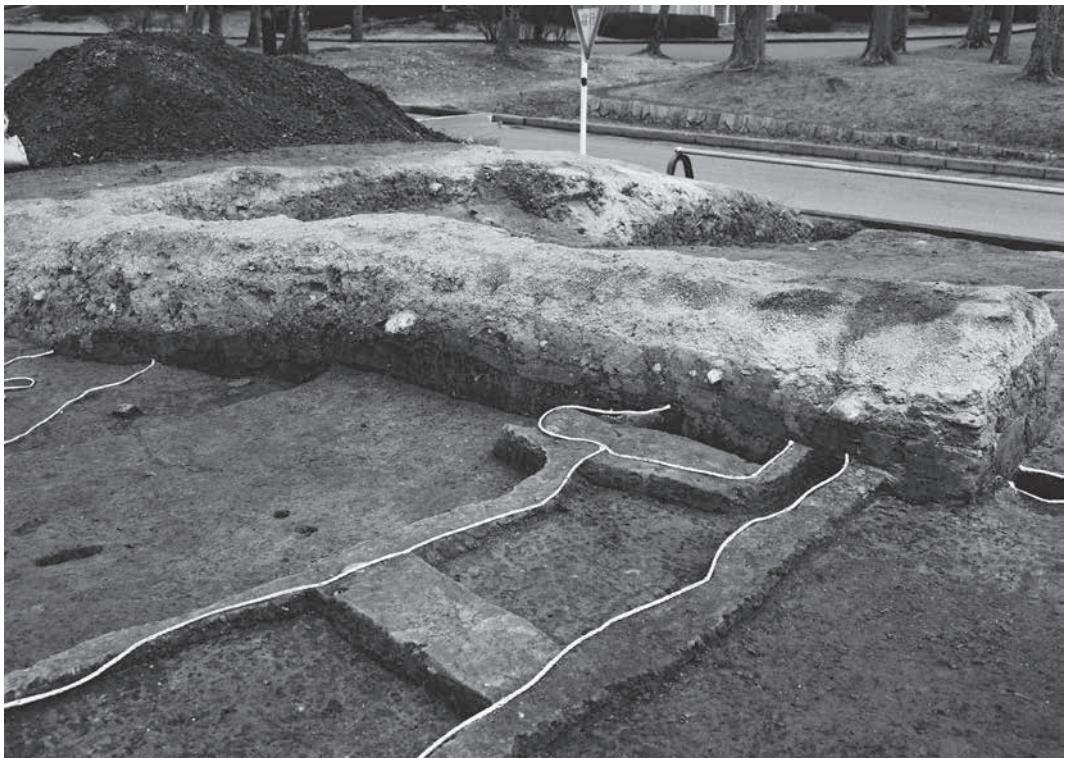
(2) SB1 及び周辺遺構（北から）



(1) 調査区東部（西から）



(2) 調査区南東隅（西から）



(1) F地点周辺土層断面（北東から）



(2) M地点土層断面（水田暗渠 東から）



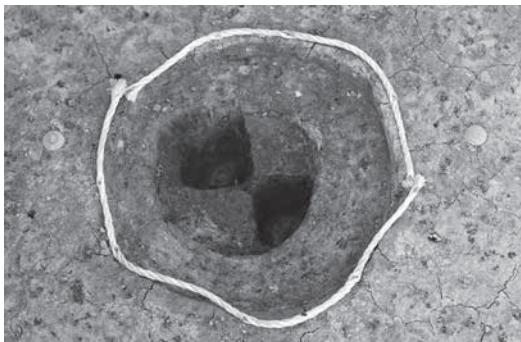
(1) J地点周辺土層断面（西から）



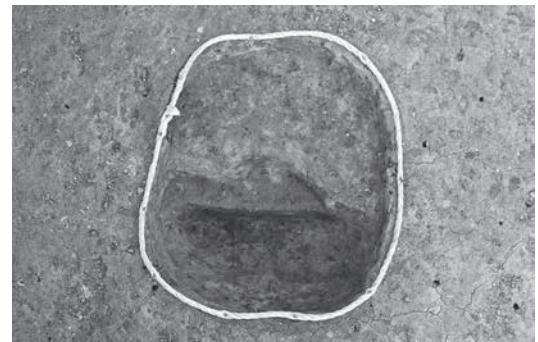
(2) 調査区南東隅東壁土層断面（西から）



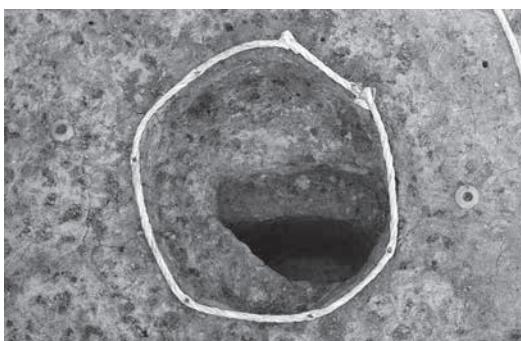
(1) SB1・SD2 検出状況(北から)



(2) SB1-Pit232 柱痕断面(南から)



(3) SB1-Pit233 柱痕断面(南から)



(4) SB1-Pit234 柱痕断面(南から)



(5) SB1-Pit236 柱痕断面(南から)



(1) SB2 完掘状況(北から)



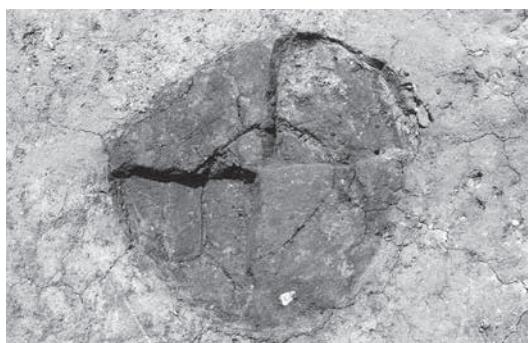
(2) SB2-Pit369 柱痕検出状況(南から)



(3) SB2-Pit370 土層断面(南西から)



(4) SB2-Pit371 土層断面(北東から)



(5) SB2-Pit373 柱痕検出状況(東から)



(1) SD1 検出状況（北から）



(2) SD1 1区床面遺物出土状況（北から）



(1) SD1 C—D間土層断面・3区床面遺物出土状況（南西から）



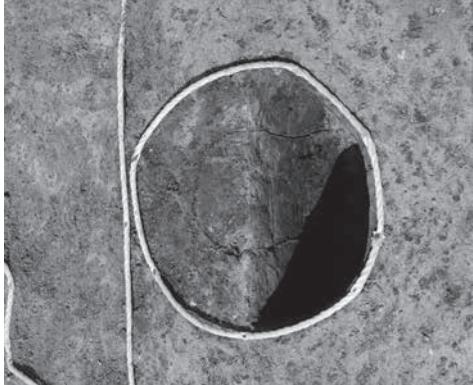
(2) SD1 3区床面遺物出土状況（南東から）



(1) SD1 3区ピット群半裁状況（南東から）



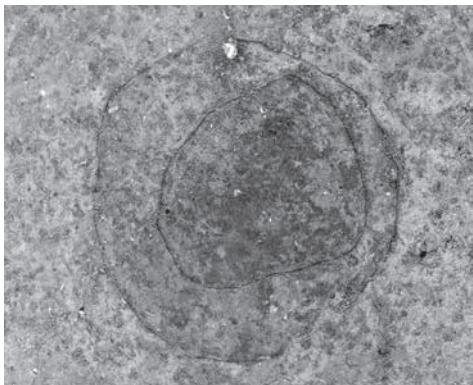
(2) SD1 E—F間土層断面・4区床面遺物出土状況（南東から）



(1) Pit15 土器出土状況（東から）



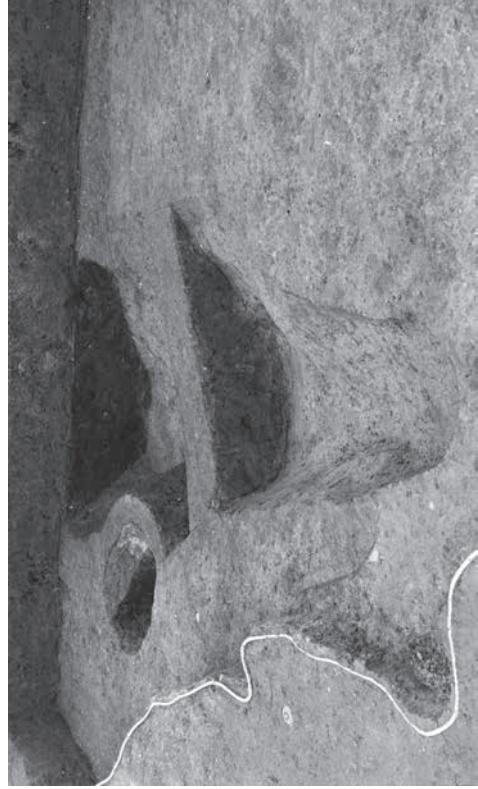
(2) Pit273 検出状況（南から）



(3) Pit284 土層断面（南から）



(4) Pit365 土層断面（南から）



(5) SK1 土層断面（南から）



(6) SK12 土層断面（北西から）



(1) SK13 土層断面（南東から）



(2) SK13 完掘状況（南西から）



(3) SX1 検出状況（北西から）



(4) SX1遺物出土状況（南から）

図1 岩盤剥離率の半面開削による壁面改修及び築堤の壁面生産第一構造物



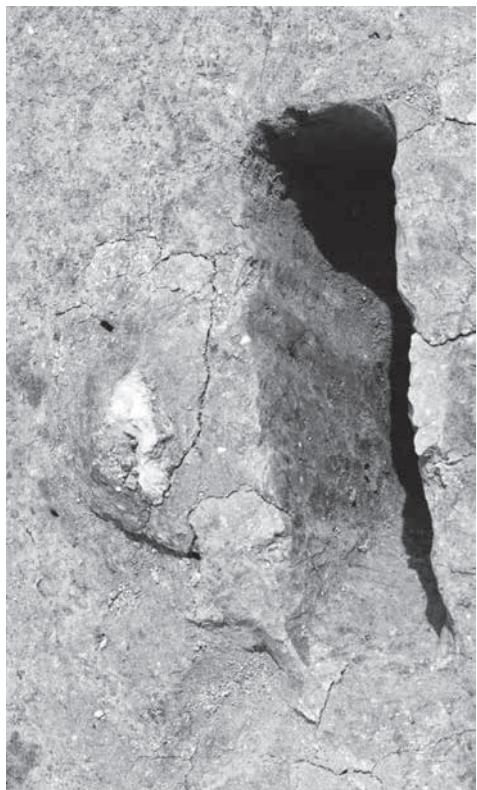
(1) SX1 ピット検出状況（南から）



(2) SX1-Pit1 半裁状況（南から）



(4) SX2 西部・SK9 検出状況（北西から）



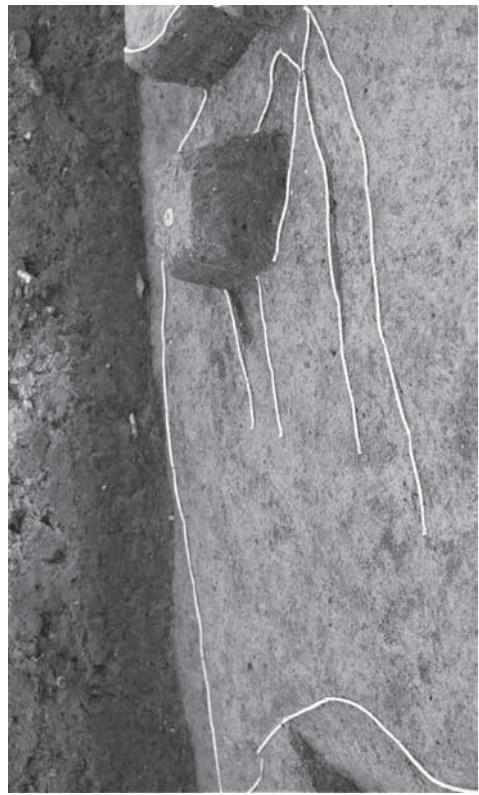
(3) SX1-Pit2半裁状況（南から）



(1) SX2 西部・SK9 土層断面（北から）



(2) SX2 東部検出状況（北西から）



(4) SD9～11 完掘状況（北から）



(3) SD9～11 検出状況（北から）



(1) SX3 検出状況（南から）



(2) Pit379 完掘状況・SX4 土層断面（南から）



(3) SX4 填土検出状況（東から）



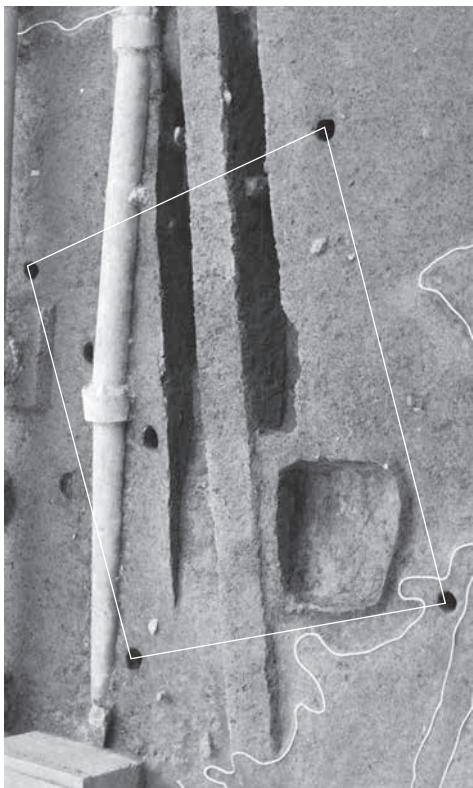
(4) SX4 填土断面（南西から）



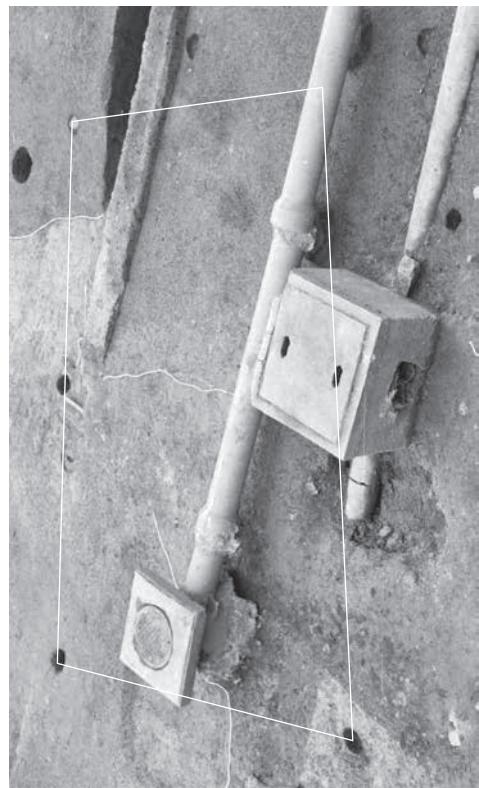
(2) SB3-Pit189 土層断面（南から）



(4) SB4-Pit193 柱痕・土器検出状況（北から）



(1) SB3(東から)



(3) SB4(北西から)



(1) 調査区西部遺物包含層検出状況 1 (北から)



(2) 調査区西部遺物包含層検出状況 2 (北東から)

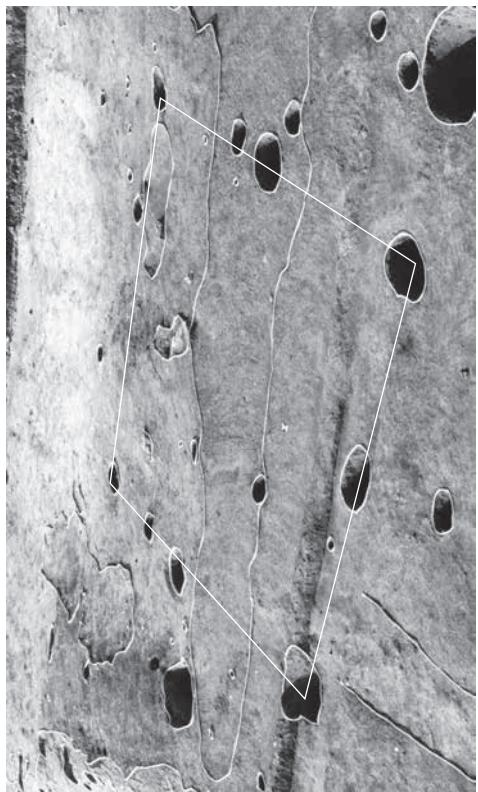


(1) 調査区西部第VI層上面遺構検出状況（東から）

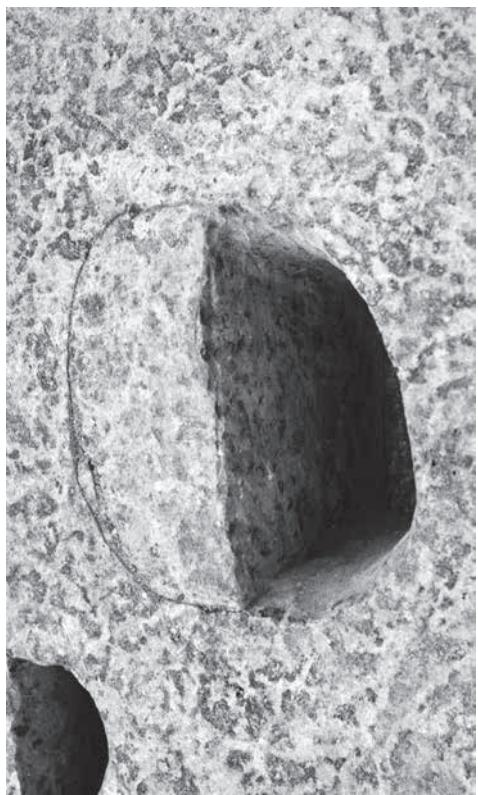


(2) SB5 ~ 7(北から)

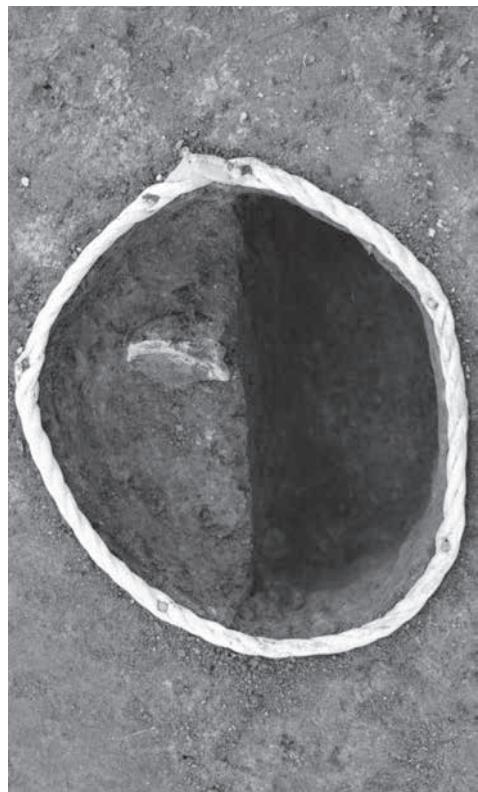
○II 墓園調査(平成11年)第1回発生の壁面改修及び築堤内構造



(3) Pit62 土層断面(南から)



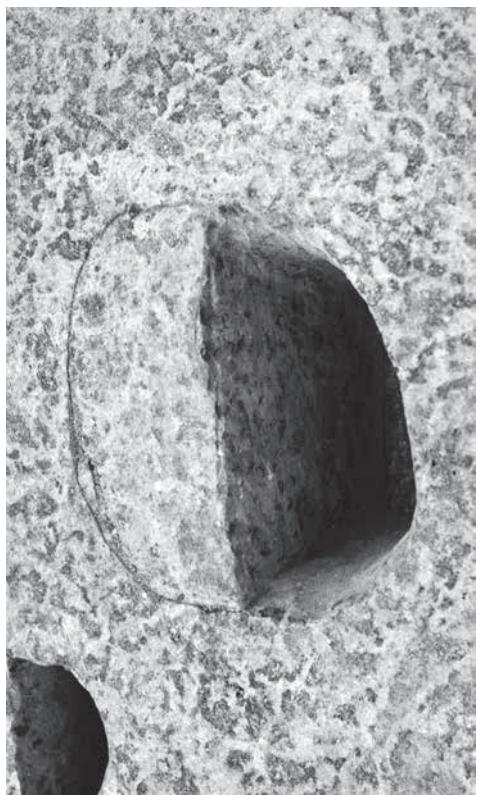
(2) SB5-Pit145 土層断面(南から)



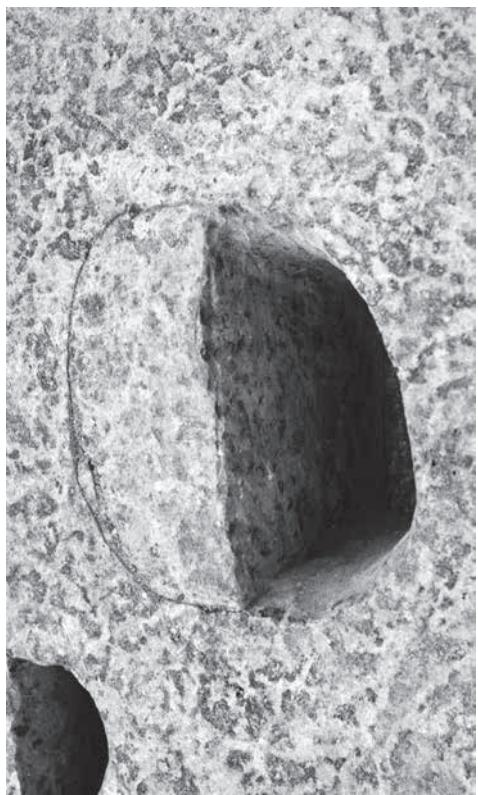
(3) Pit62 土層断面(南から)



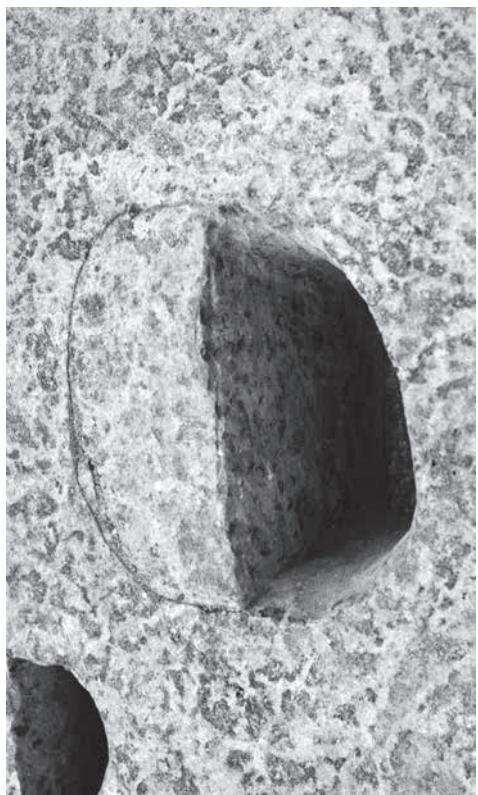
(4) SK2・3・遺物包含層検出状況(東から)



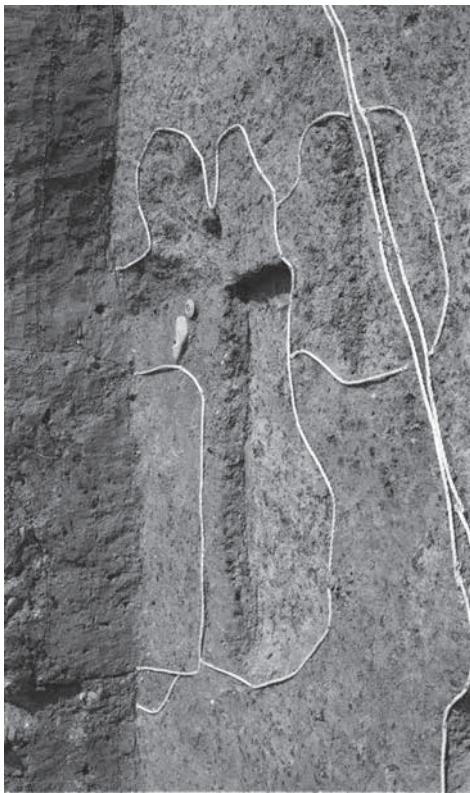
(2) SB5-Pit145 土層断面(南から)



(2) SB5-Pit145 土層断面(南から)



(2) SB5-Pit145 土層断面(南から)



(1) SK2・3 土層断面(東から)



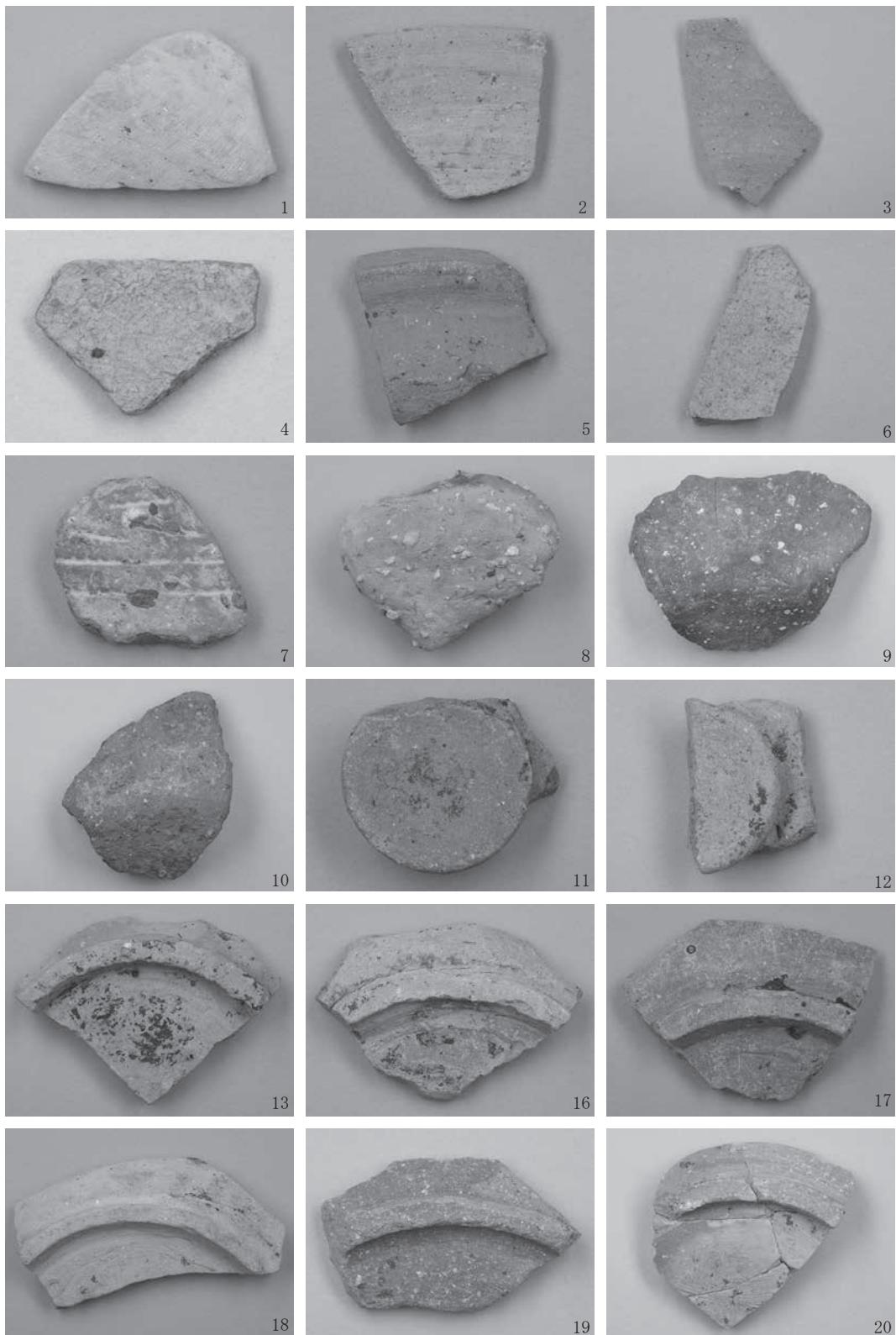
(2) SK7・8 土層断面(南東から)



(3) Pit18 遺物出土状況(東から)



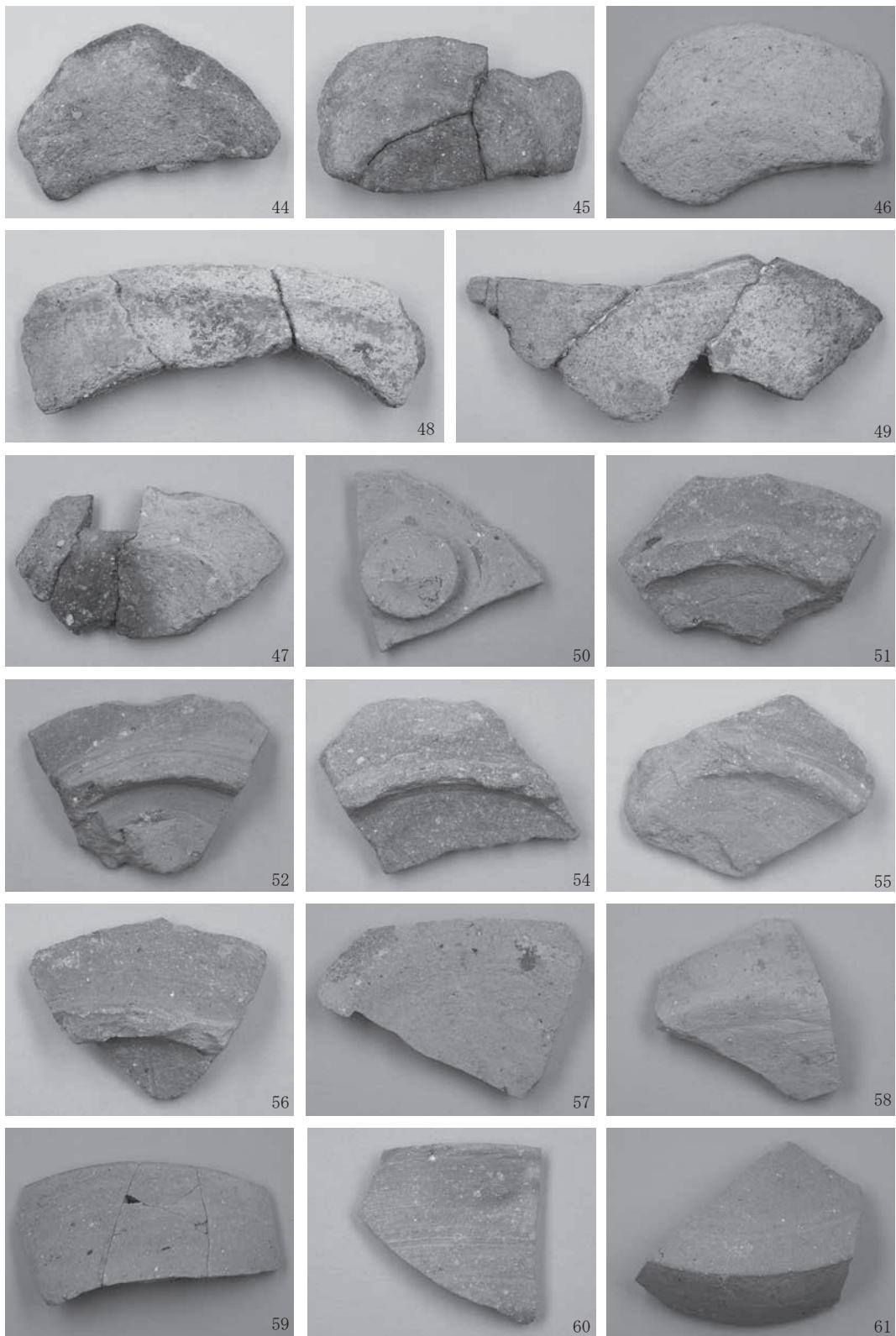
(4) Pit18 完掘状況(東から)



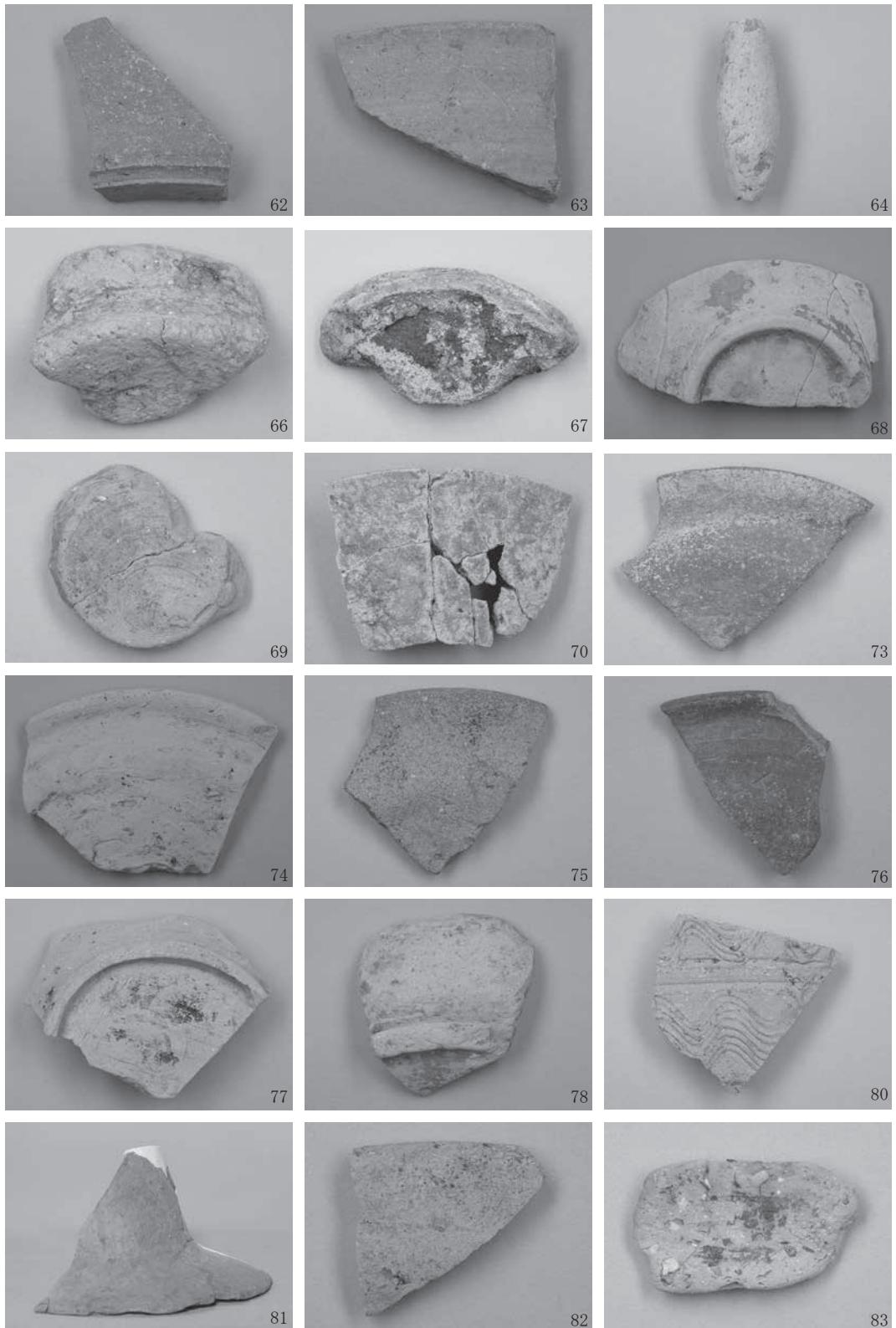
出土遺物①(土器)



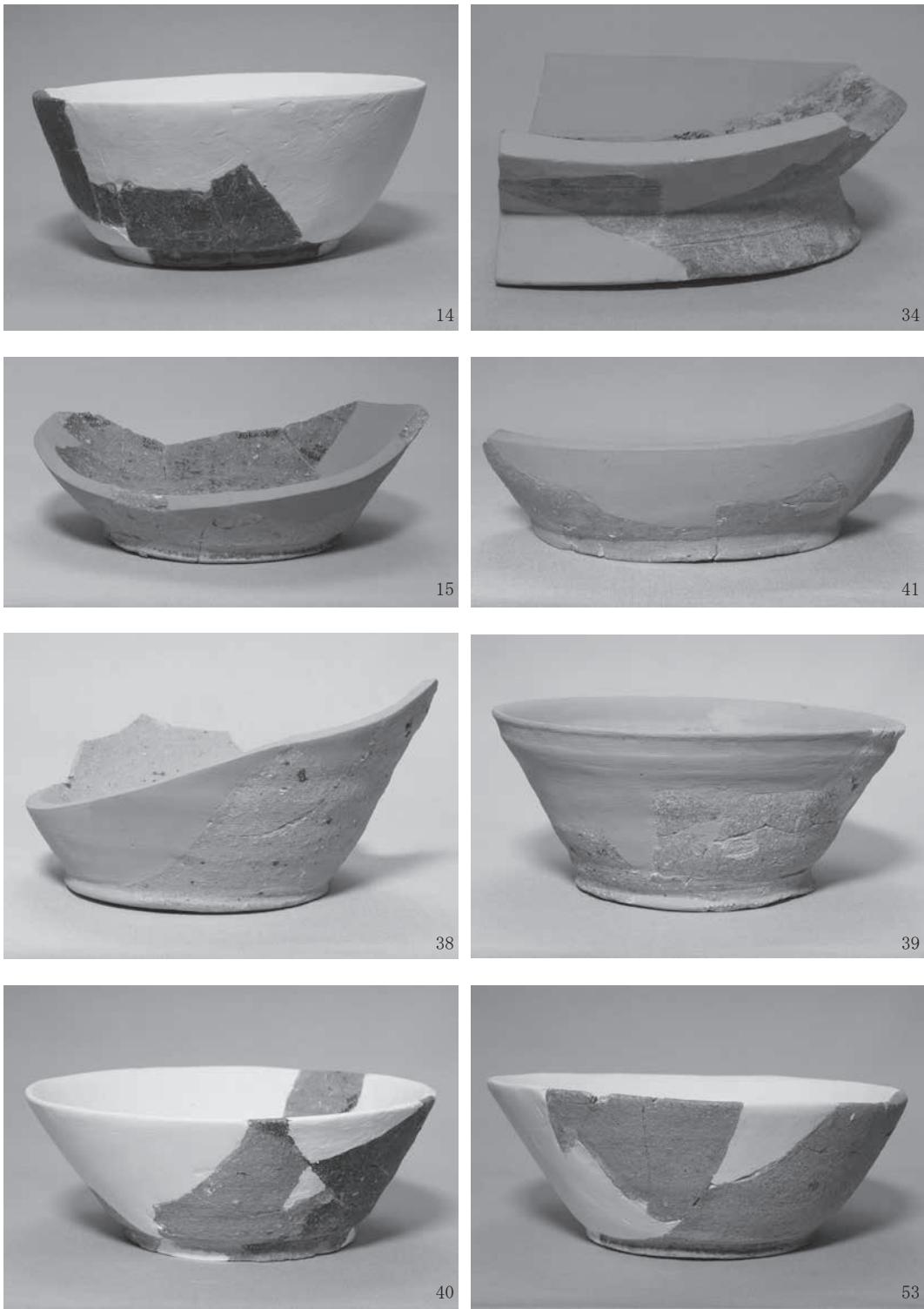
出土遺物②(土器)



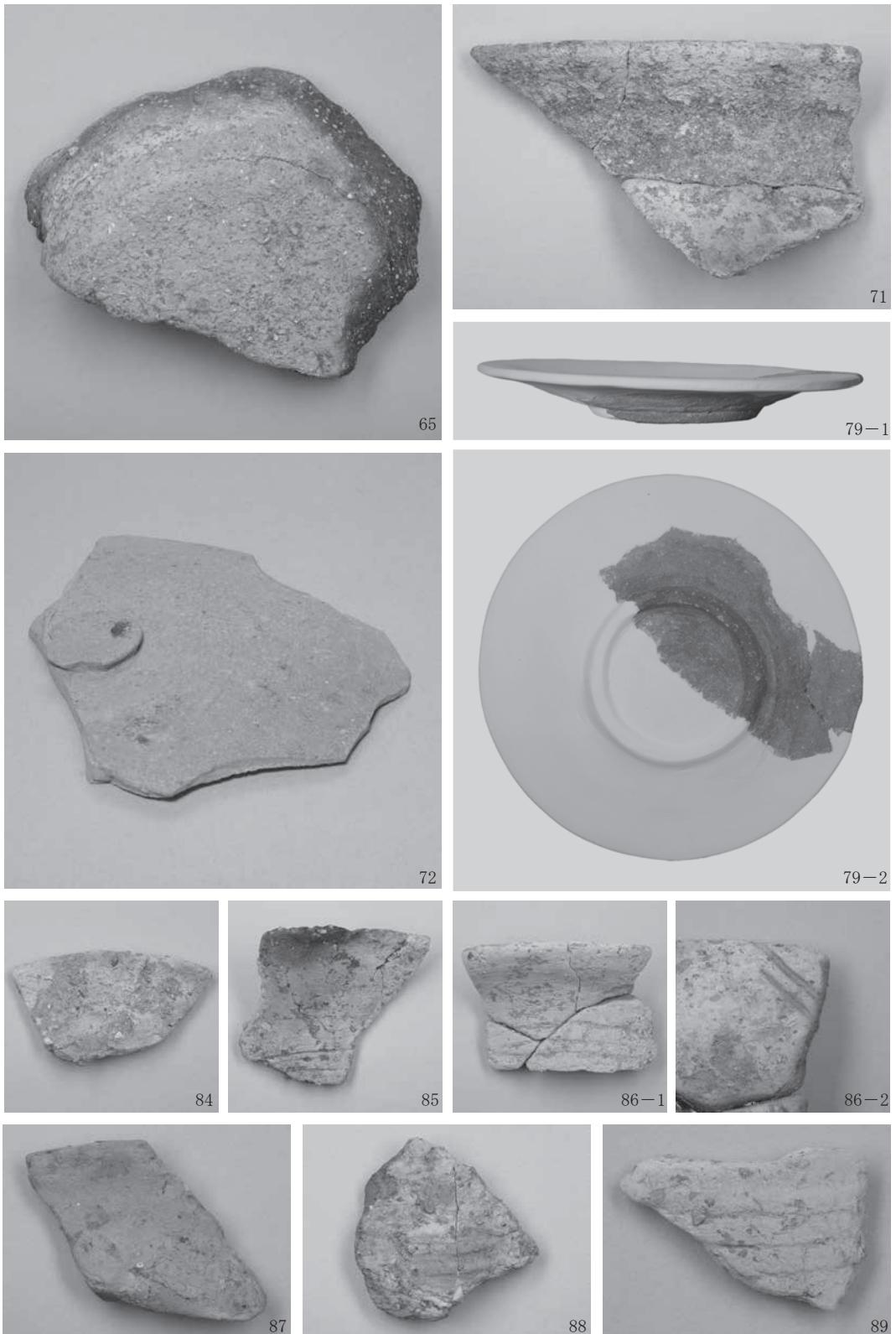
出土遺物③(土器)



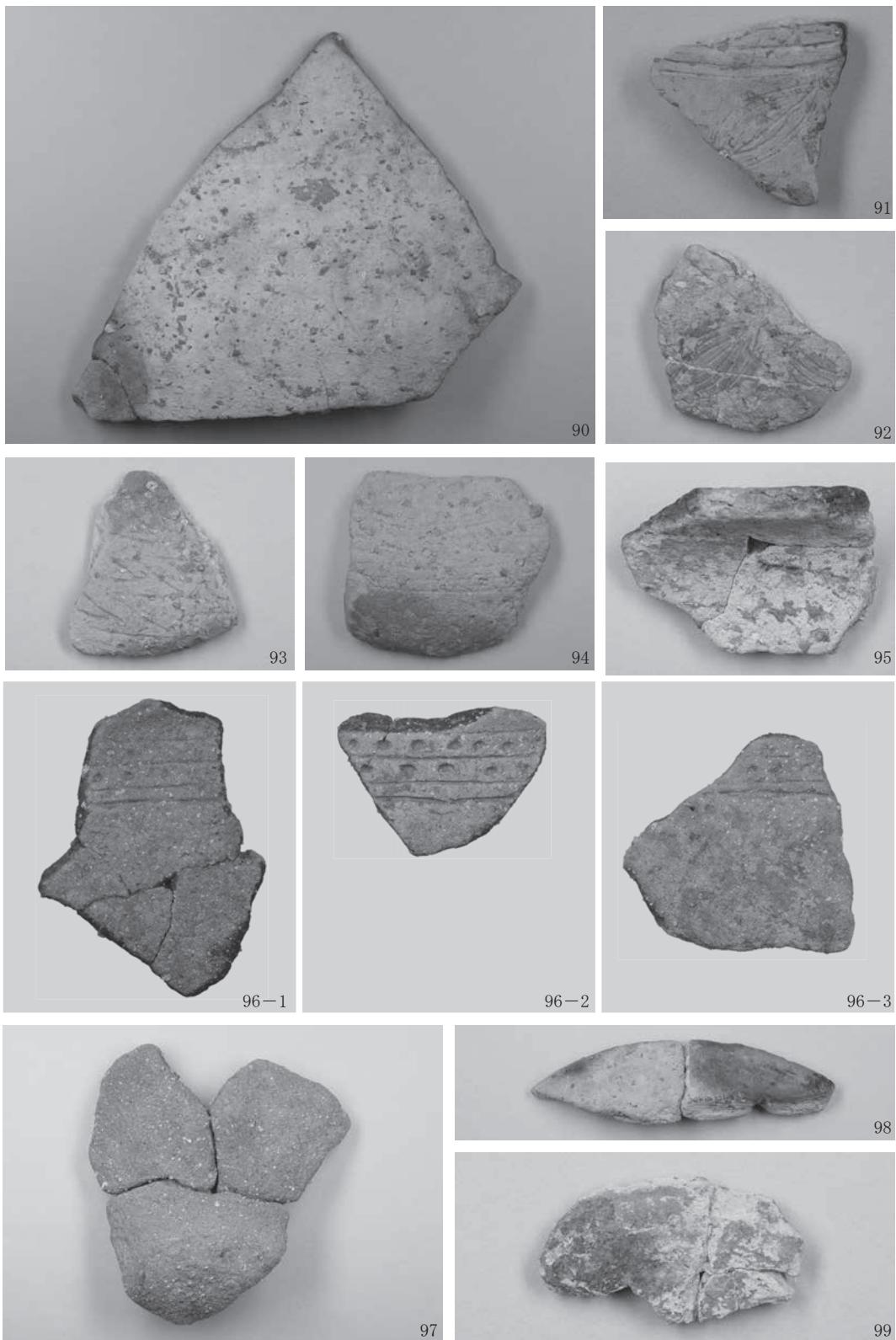
出土遺物④(土器)



出土遺物⑤(土器)



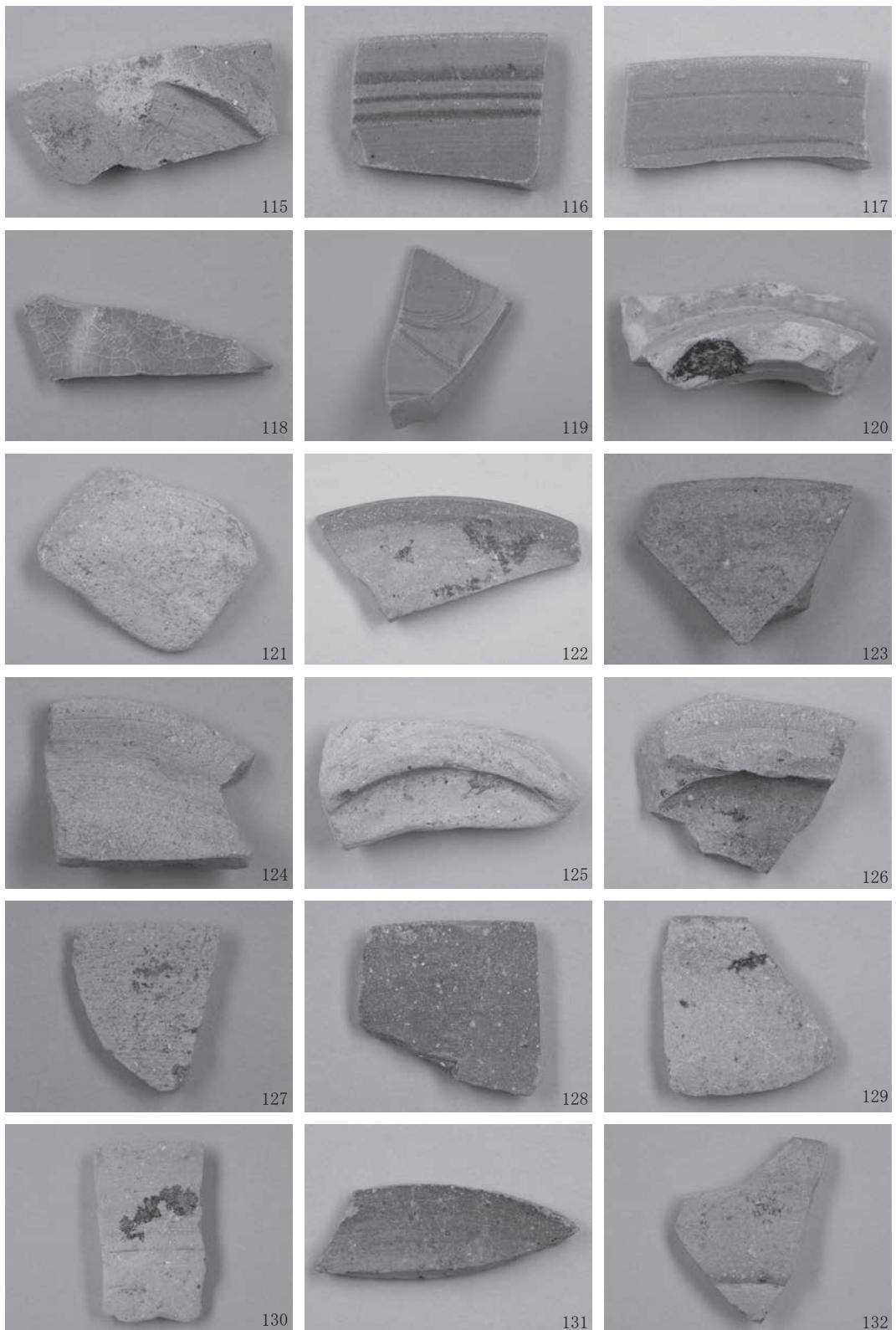
出土遺物⑥(土器)



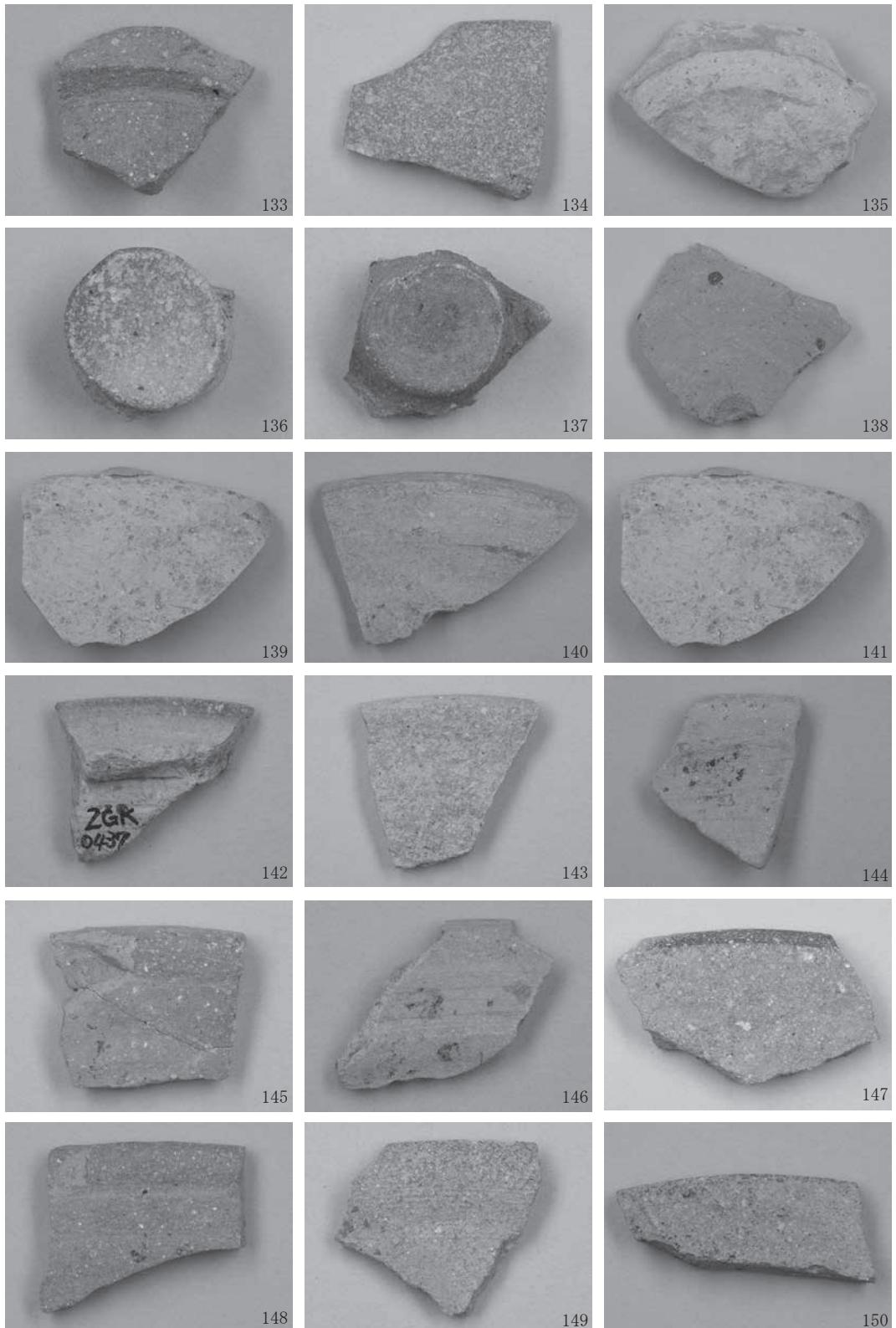
出土遺物⑦(土器)



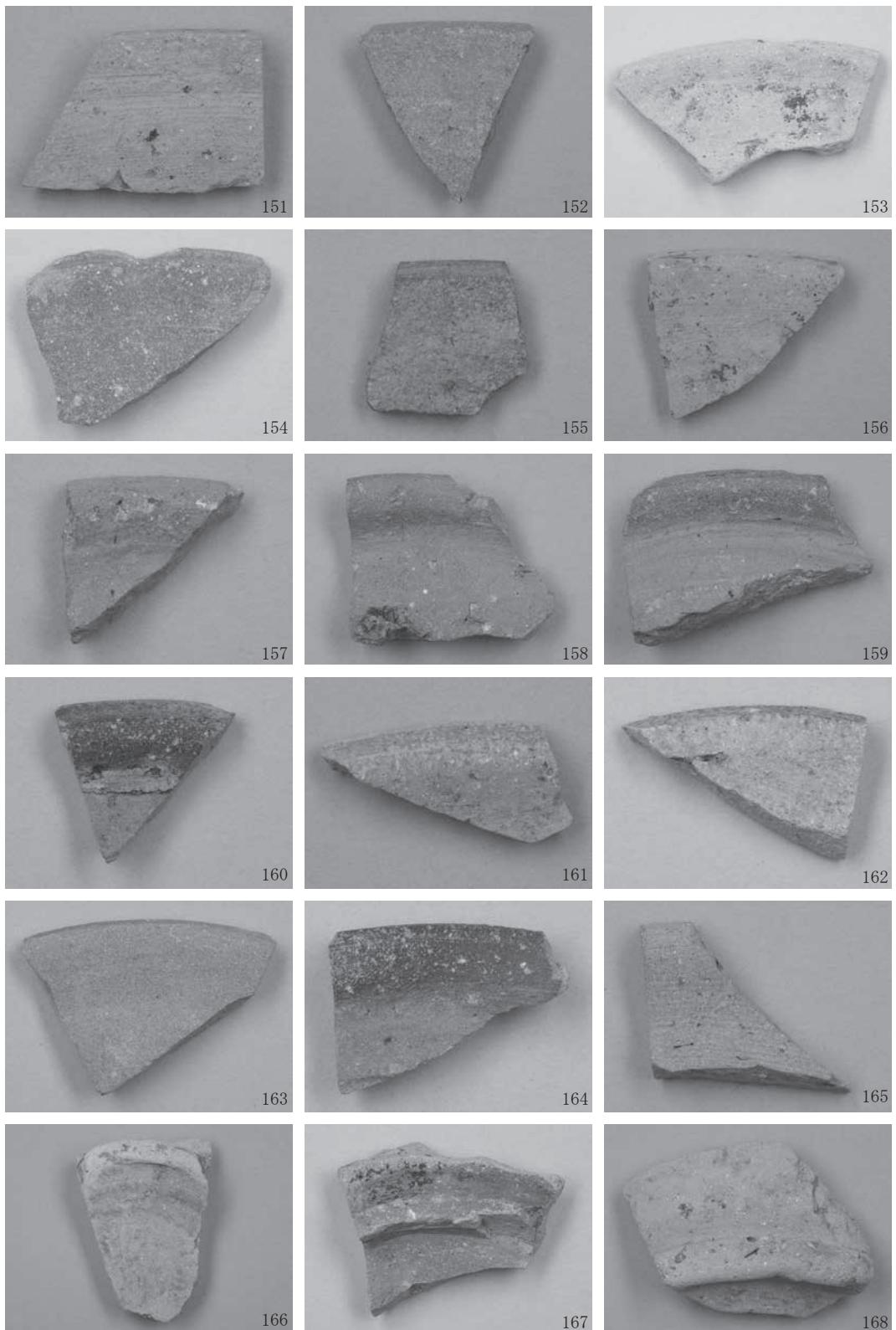
出土遺物⑧(土器)



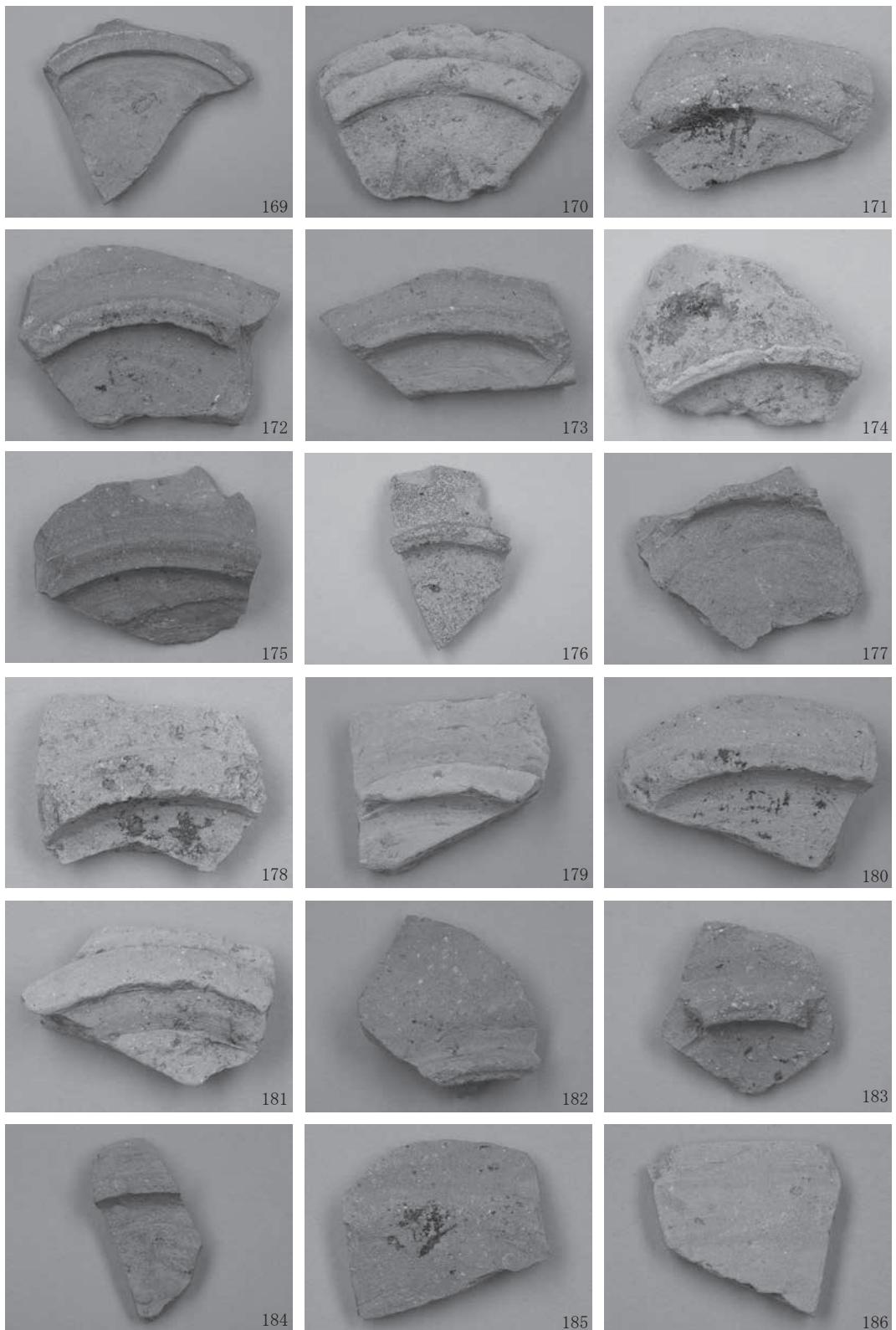
出土遺物⑨(土器)



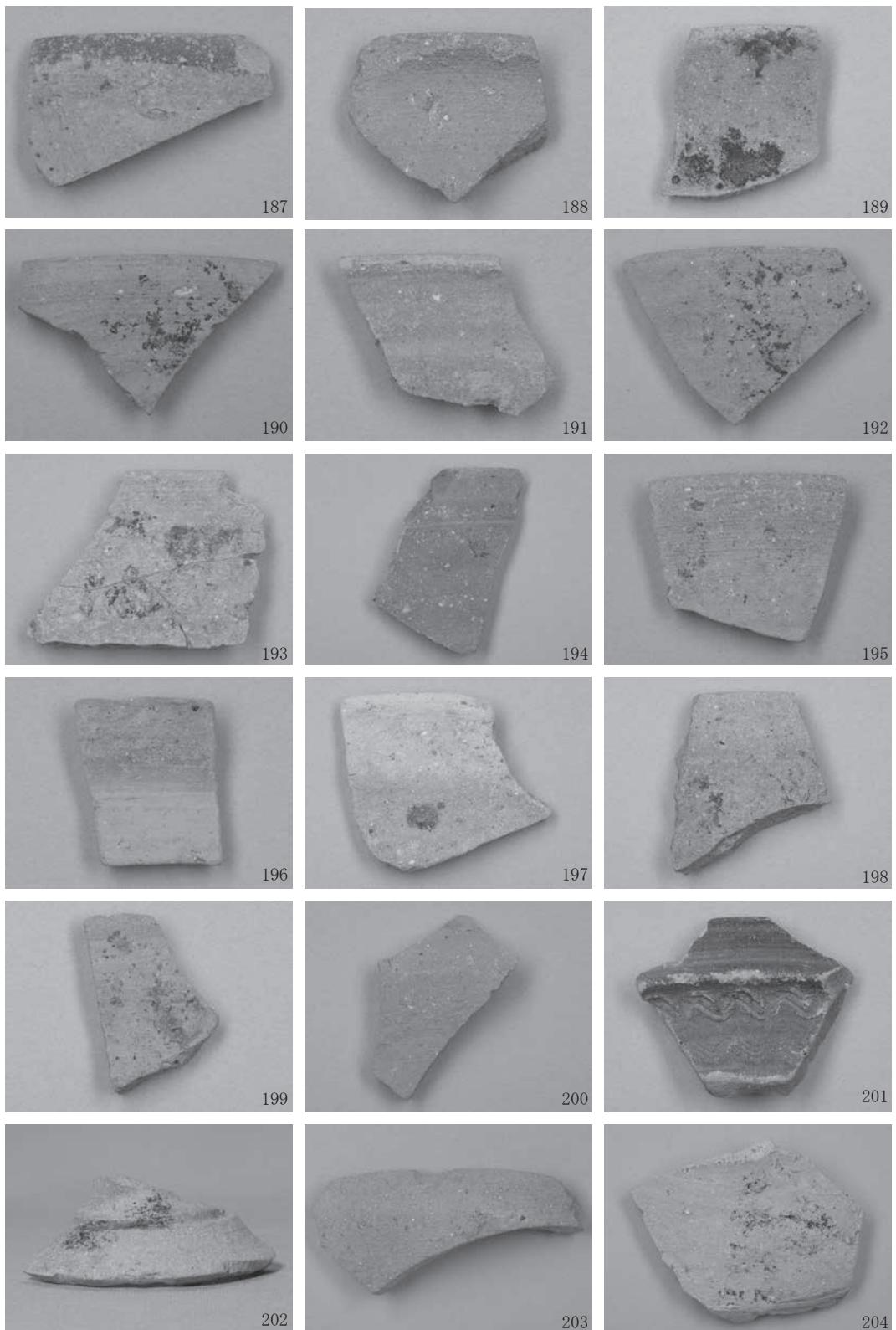
出土遺物⑩(土器)



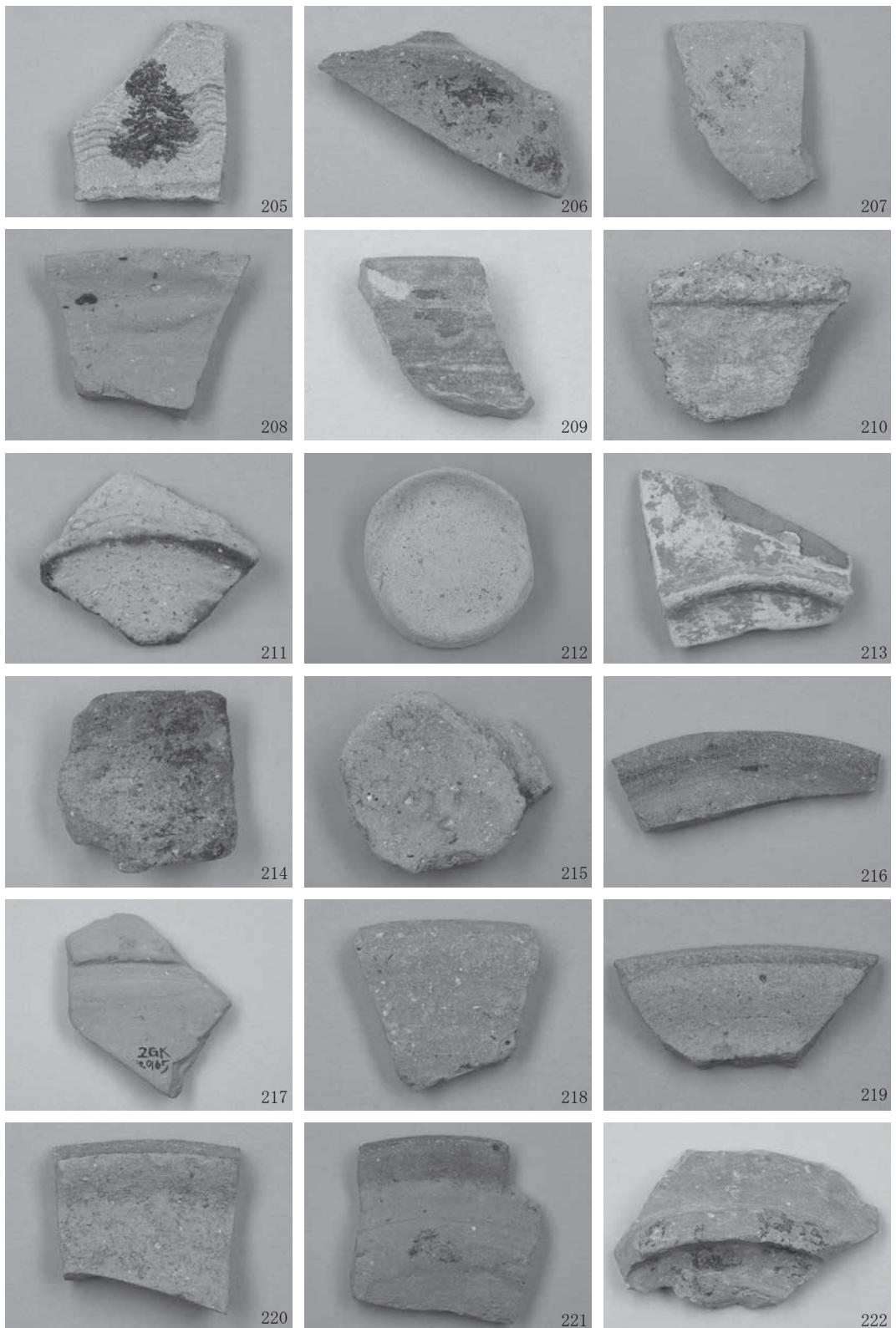
出土遺物⑪(土器)



出土遺物⑫(土器)



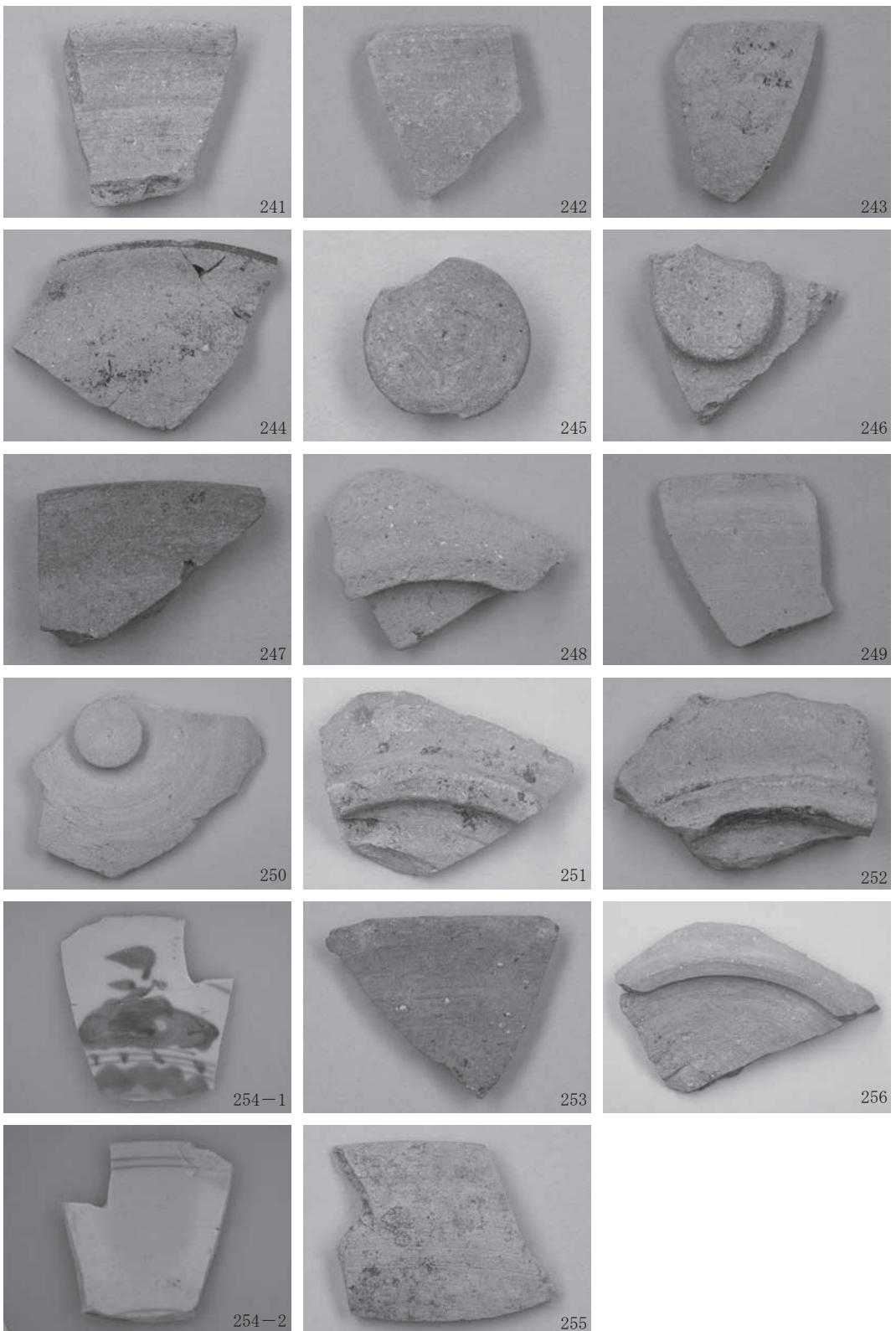
出土遺物⑬(土器)



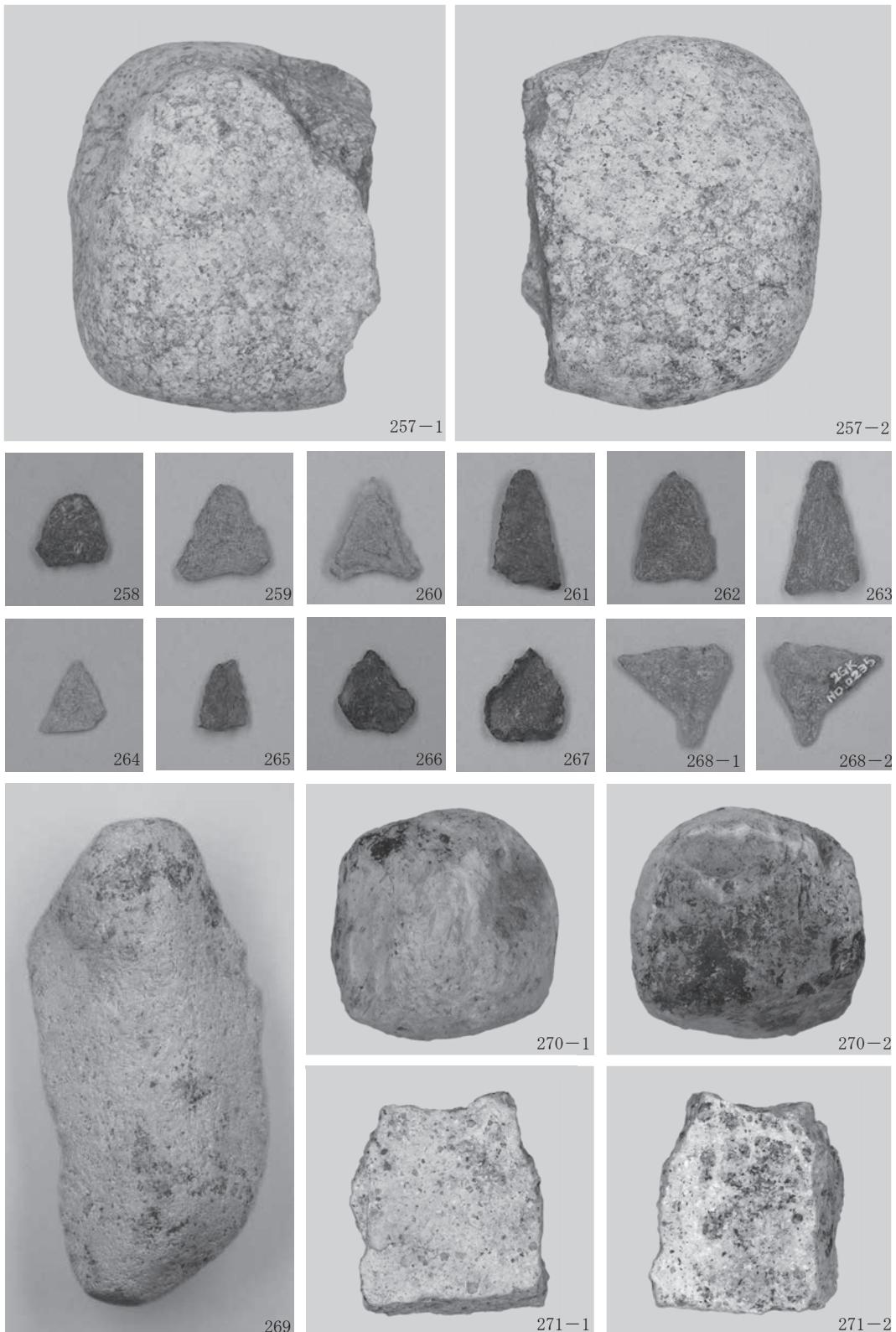
出土遺物⑭(土器)



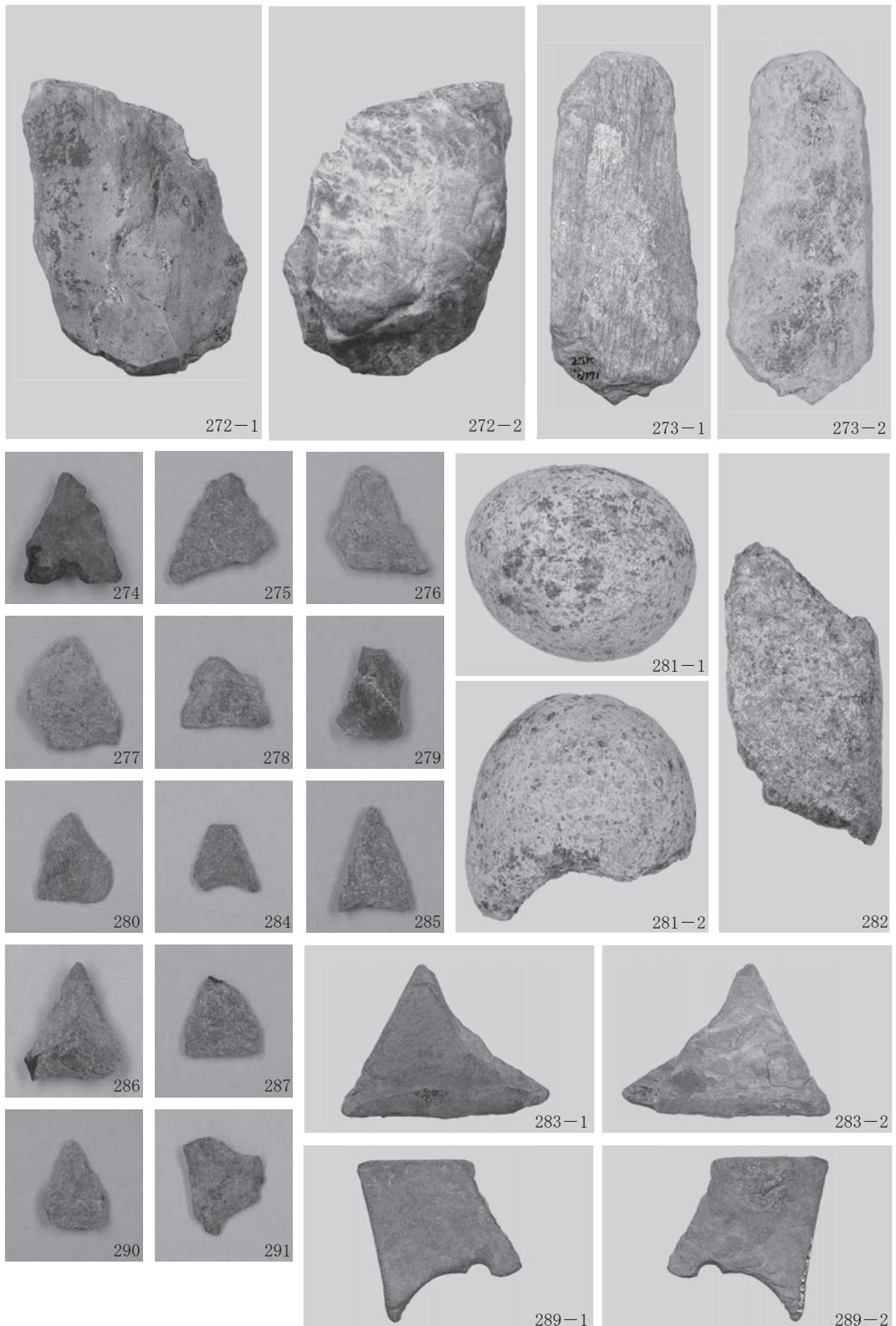
出土遺物⑯(土器)



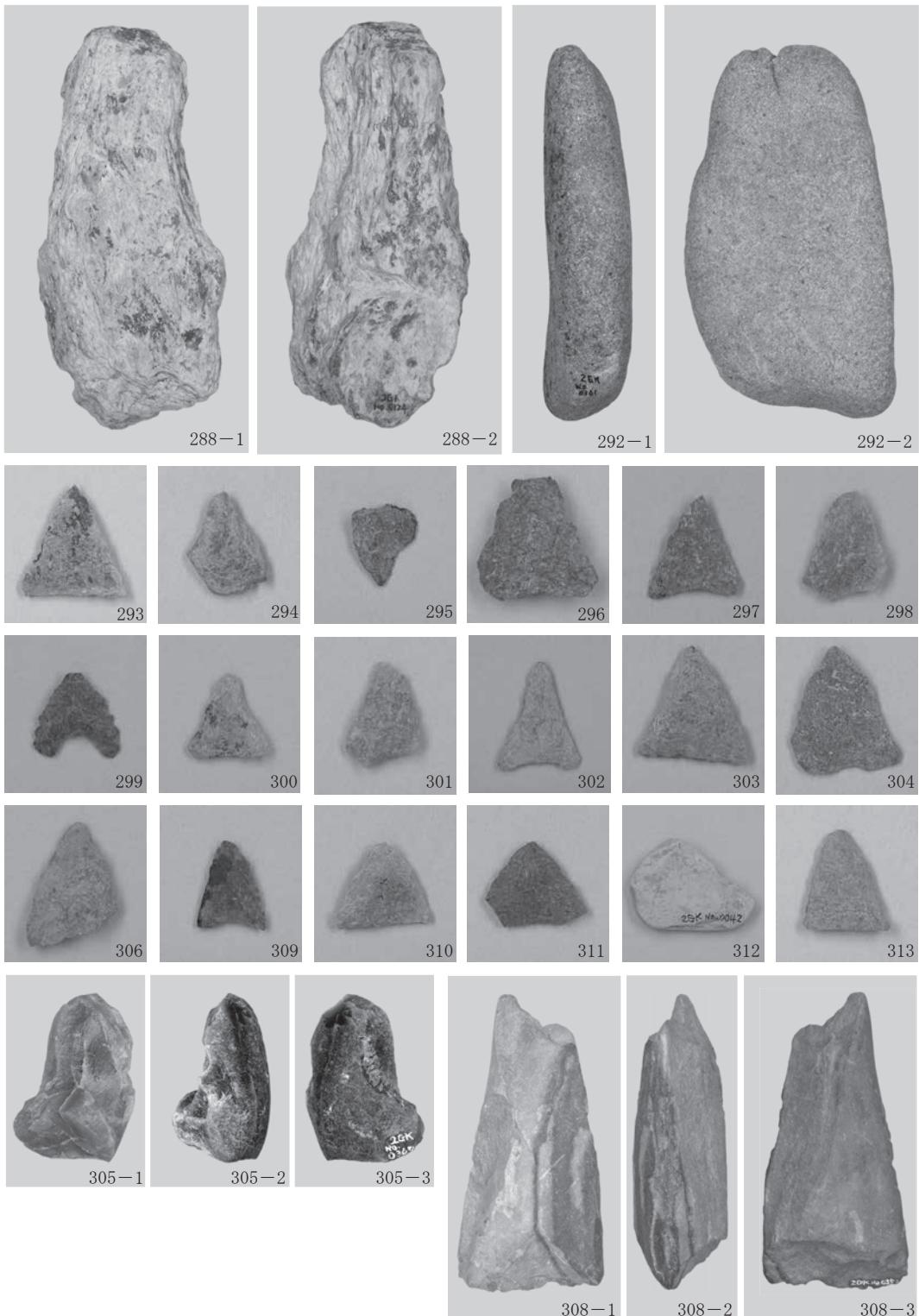
出土遺物⑯(土器)



出土遺物⑪(石器)



出土遺物⑯(石器)



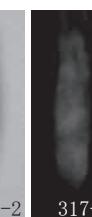
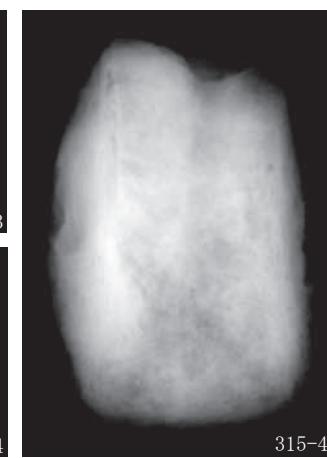
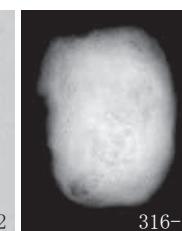
出土遺物⑯(石器)



(1) 出土遺物⑩(石器)



(3) 立会調査出土遺物



(2) 出土遺物⑪(鉄製品・鉄滓・同X線写真)



(1) 調査前全景(北西から)



(2) 調査区全景(北西から)



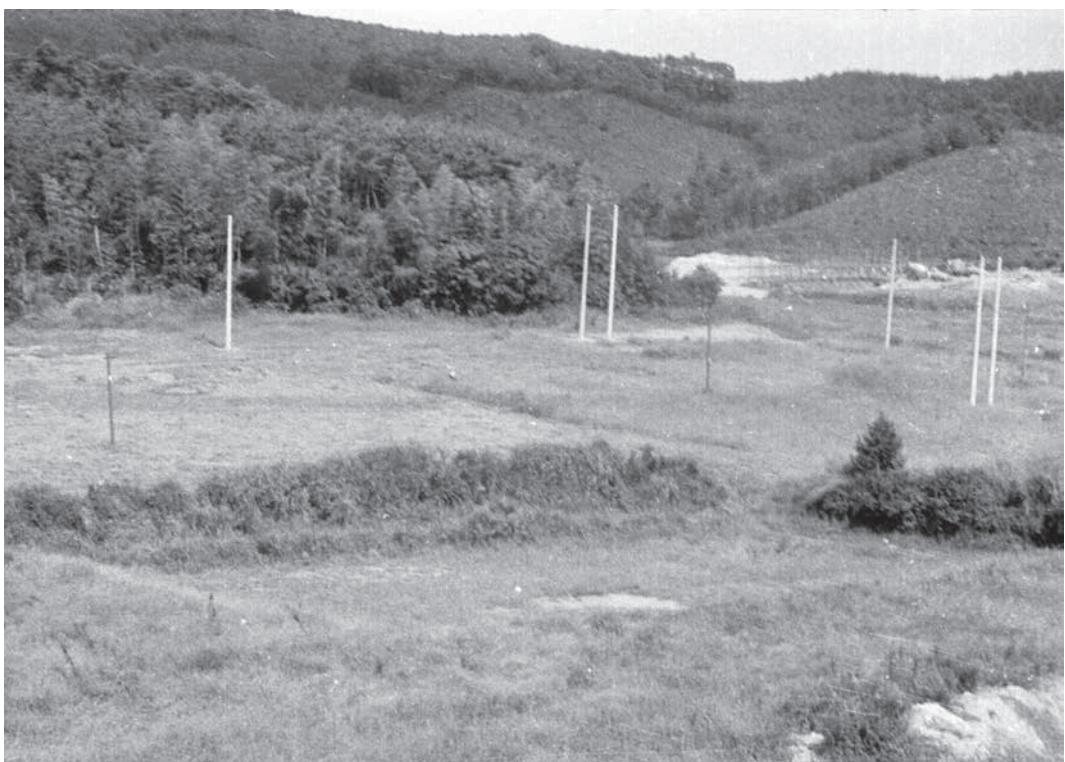
(3) 調査区北西隅南西壁土層断面(北東から)



(1) ピット検出状況(北西から)



(2) SK1(西から)



(1) 調査前全景(南西から)



(2) 試掘調査gトレンチ(西から)



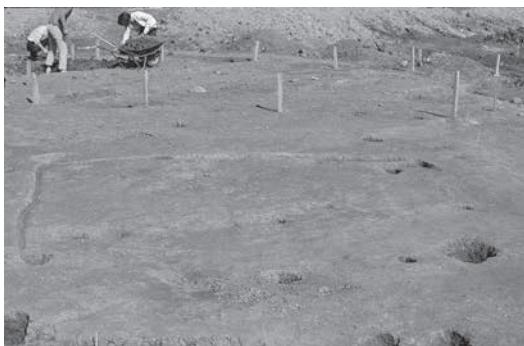
(3) 試掘調査aトレンチ(西から)



(1) 本調査区(西から)



(2) 第2・3号竪穴住居跡(北西から)



(1) 第1号竪穴住居跡(南西から)



(2) 第6号竪穴住居跡(東から)



(3) 第4号竪穴住居跡炭化材出土状況(南から)



(4) 第4号竪穴住居跡(南から)



(5) 溝状遺構(南東から)



(6) 溝状遺構(北西から)



(7) 溝状遺構北端部土層断面(南東から)

報告書抄録

ふりがな	やまぐちだいがくこうないいせきちょうさけんきゅうねんぽう
書名	山口大学構内遺跡調査研究年報
副書名	
巻次	XVII
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	田畠直彦
編集機関	山口大学埋蔵文化財資料館
所在地	〒753-8511 山口県山口市大字吉田1677-1 TEL 083-933-5035
発行年月日	西暦2021年（令和3年）3月31日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡					
山口大学医学部構内遺跡	山口県宇部市南小串1丁目1-1	35202		33度57分41秒	131度15分00秒	19980423～19980707	253.1m ²	宇部市土地区画整理事業（柳ヶ瀬丸河内線）
山口大学医学部構内遺跡	山口県宇部市南小串1丁目1-1	35202		33度57分42秒	131度14分59秒	19990301～19990525	381.1m ²	宇部市土地区画整理事業（柳ヶ瀬丸河内線・医学部西側敷地特殊道路）
吉田遺跡 N・O-15区	山口県山口市吉田1677-1	35203		34度08分54秒	131度28分10秒	19990118～19990128 19990209～19990520	716.3m ²	第2学生食堂の増築及び改修工事
吉田遺跡 C-21区	山口県山口市吉田3003	35203		34度08分44秒	131度27分47秒	19980708～19980715	12.3m ²	教育学部附属養護学校給食室改修工事
白石遺跡	山口県山口市白石三丁目1-1	35203		34度10分50秒	131度28分13秒	19980701～19980707	5.9m ²	教育学部附属山口小学校給食室改修工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
山口大学医学部構内遺跡	散布地	縄文～近代	近世～近代用水路	剥片、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、陶器、磁器	
山口大学医学部構内遺跡	散布地	縄文～近代	近世～近代溝	剥片、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、陶器、磁器、砥石、碇石	
吉田遺跡 N・O-15区	集落跡	縄文～近世	掘立柱建物7、溝12、土坑16、不明遺構4、ピット383	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、陶器、磁器、石斧、石包丁、砥石、石鏃、剥片、鉄斧、鉄釘、鉄滓	
吉田遺跡 C-21区	集落跡	縄文～古墳	河川、土坑2、柱穴2	縄文土器、弥生土器、土師器	
白石遺跡	集落跡				

山口大学構内遺跡調査研究年報 XIII

令和3年3月31日

編集 山口大学埋蔵文化財資料館

発行 山口大学

〒753-8511 山口市吉田1677-1

印刷 有限会社 三共印刷

〒759-0204 宇部市市大字妻崎開作1953-8

ARCHAEOLOGICAL RESEARCHES AND STUDIES AT YAMAGUCHI UNIVERSITY Vol.XVII

CONTENTS

Chapter

I	Summary of the archaeological excavations on the Yamaguchi University campuses in the 1998 fiscal year	1
II	Excavations to accompany the Ube City land readjustment project (Yanagase-Marugouchi line)	5
III	Excavations to accompany the Ube City land readjustment project (Yanagase-Marugouchi line and the special road on the west side of the Faculty of Medicine)	17
IV	Excavations to accompany the extension and renovation of Cafeteria 2 on Yoshida Campus	39
V	Test excavations on the Yamaguchi University campuses in the 1998 fiscal year	107
VI	On-site inspections on the Yamaguchi University campuses in the 1998 fiscal year	111

Appendix

Unreported drawings and photographs of an excavation in Area I E at the Yoshida site	116
Gist of the excavations on the Yamaguchi University campuses	123
List of excavations on the Yamaguchi University campuses	126
Summary	141

Published by
Yamaguchi University Archaeological Museum
Yamaguchi, 2021